

新居道下遺跡

一般国道52号改築工事および中部横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998.3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

新居道下遺跡

一般国道52号改築工事および中部横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998.3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京第二建設局

口絵



46号住居跡出土土器



45号住居跡出土土器

序

新居道下遺跡は、甲府盆地西部の山梨県中巨摩郡若草町十日市場に所在し、すぐ西には櫛形山を望む御勅使川の大扇状地に位置しております。

本遺跡の発掘調査は、一般国道52号（甲西バイパス）建設工事に伴い、平成3年度から平成5年度の3年間にわたって実施されました。もっとも古い段階の遺構・遺物としては、弥生時代後期の溝跡と土器片が確認されております。量的には多くはありませんが、本遺跡の北に展開する村前東遺跡および十五所遺跡からは同期の遺構遺物が豊富に出土しており、当該地での弥生時代遺跡の拡がりを示す資料となるであります。さらに古墳時代の良好な資料として数基の住居跡と多量の一括土器が確認され、甲府盆地の他地域の資料との比較検討が可能となる貴重なものであります。そして本遺跡の主体をなすものが奈良時代の遺構・遺物で、その質・量とともに他の時代のそれを圧倒しております。峡西地域における奈良時代の指標となるものであります。奈良時代のものに次いで多いのが平安時代の遺構・遺物で、奈良のものに劣らぬ資料的価値を有するものであります。

この報告書が多くの方々の研究の一助になれば幸甚であります。末筆ながら、種々ご協力を賜りました関係機関各位、地元の方々並びに直接に調査整理に従事していただいた方々に厚くお礼申し上げます。

1998年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

例　言

1. 本報告書は、山梨県中巨摩郡若草町十日市場に所在する新居道下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、一般国道52号（甲西バイパス）および中部横断自動車道建設に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が建設省より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3. 本書の編集は米田明訓が行った。
4. 本報告書に係わる出土品および写真、記録図面等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡　例

1. 挿図の縮尺は原則として次の通りである。
地形図-1/3000 全体図-1/300・1/600 住居跡-1/60 据立柱建物跡1/60 土坑-1/40 粘土採掘坑-1/90 土器-1/3 石器-2/3 鉄器-1/4
2. 遺構断面図のレベル表示は標高を示している。
3. 同一挿図内の水糸レベルはすべて同一である。
4. 土器の中で須恵器および陶器については、土器実測図中の断面を黒色で表現してある。
5. 土器の中で黒色塗彩のものについては、土器実測図中でその範囲にスクリーンを貼付してある。

目 次

序	
例言	
第1章 調査の経緯と概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の概要	1
第2章 地理的環境	3
第1節 遺跡の立地	3
第2節 周辺の遺跡	3
第3章 遺跡の概要と時代変遷	4
第4章 発見された遺構と遺物	8
第1節 住居跡と出土遺物	8
第2節 掘立柱建物跡	87
第3節 土坑と出土遺物	114
第4節 溝状遺構と出土遺物	116
第5節 粘土採掘坑と出土遺物	117
第6節 その他の遺構と出土遺物	121
第5章 まとめ	125
第1節 遺構について	125
第2節 土器について	125
住居跡出土土器一覧表	131
土坑出土土器一覧表	143
溝状遺構出土土器一覧表	144
土器集中区出土土器一覧表	145
グリッド出土土器一覧表	146
土坑一覧表	147

第1章 調査の経緯と概要

第1節 調査に至る経緯

一般国道52号は、静岡県清水市から山梨県韮崎市まで、太平洋側と長野・新潟方面を結ぶ重要な幹線道路である。しかし甲府盆地より南側の富士川に沿って進む箇所は、カーブがきわめて多い上に高低差も激しい。その上降雨量も多いために土砂崩れの危険箇所が数多く存在し、実際に通行止めとなることも少なくはない。また輸送の幹線道路であるにもかかわらず甲府盆地に入ると商店街や住宅地の中心を走ることが多く、大型自動車等の頻繁な通行は周辺住民の生活にも少なからず影響を与えている。そのため商店街や住宅地を避けてスムーズな通行を確保するバイパス建設が計画された。

まず、中巨摩郡白根町在家塚から南巨摩郡増穂町大門間の全長約8kmにわたる建設工事が着工されることになり、この区間内の試掘調査を平成元年度から実施して10箇所の遺跡を確認した。この新居道下遺跡では奈良時代・平安時代の集落跡の存在が予想された。調査は平成3年度に開始され、平成5年度まで3年間実施された。

第2節 発掘調査の概要

(1) 発掘調査の経過（第1図・第2図）

遺跡は東西に走る町道を境に南側を1区（3,000m²）、北側を2区（9,600m²）とし、平成3年7月22日～同年12月27日までの間1区のほぼ全域と2区の南側の一部を、平成4年4月17日～9月18日までの間2区の南側半分を調査した。この後一時調査を中断し、施主の強い要望により甲西町の向河原遺跡の調査を実施することになった。新居道下遺跡の調査に復帰するのは向河原遺跡の調査が完全に終了した後の平成5年9月1日からで、同年12月27日まで調査を続け予定範囲の発掘を終了した。

本遺跡周辺は通常の配水施設が一切存在しないため、雨量が多い場合雨水が調査区内に大量に流入して調査に支障をきたすことが予想された。そのため調査区周辺の所々に排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設けざるを得なかった。

表土の剥ぎ取りについては、遺構面の直上まで重機を利用し、以下は人力で掘り下げた。排土は1区の南半分へ送り出した。グリッドの配置はすべて5m×5mである。

(2) 調査機関・協力者等

平成3年度調査

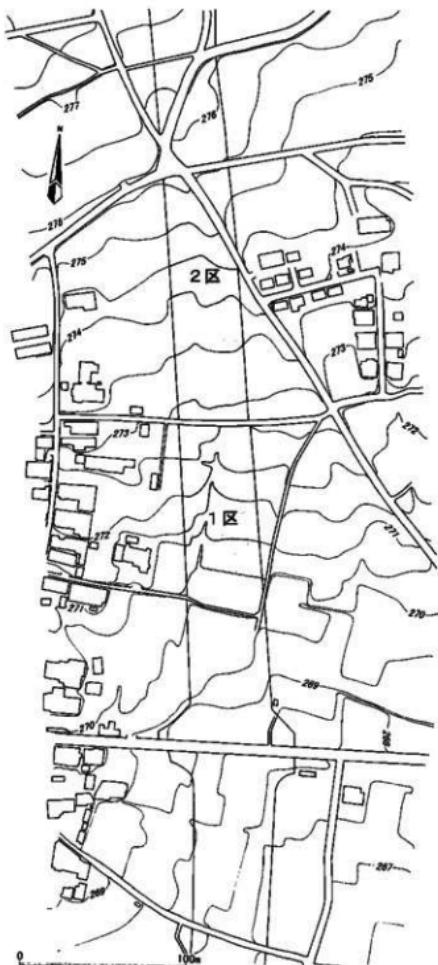
調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 米田明訓（山梨県埋蔵文化財センター・副主査文化財主事）
一瀬新一郎（山梨県埋蔵文化財センター・副主査文化財主事）

平成4年度調査

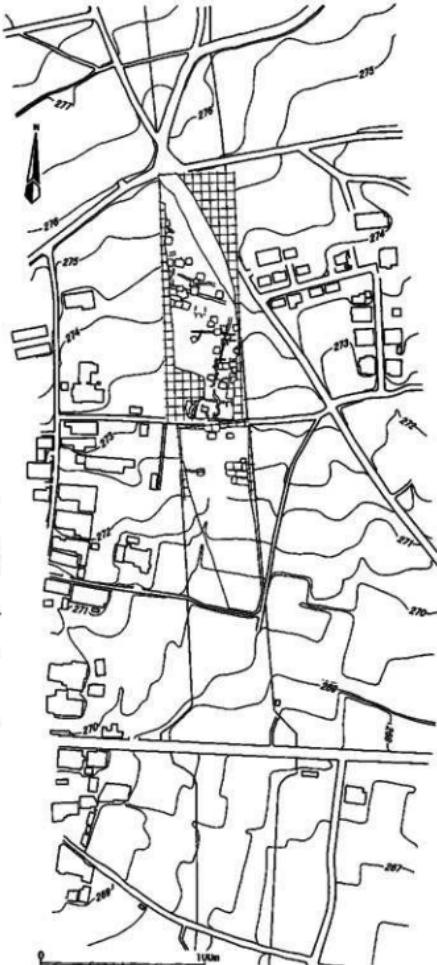
調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 米田明訓（山梨県埋蔵文化財センター・副主査文化財主事）
澤登正仁（山梨県埋蔵文化財センター・主任文化財主事）

平成5年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 米田明訓（山梨県埋蔵文化財センター・副主査文化財主事）
高野政文（山梨県埋蔵文化財センター・副主査文化財主事）



第1図 発掘区域図(1) ($S=1/3000$)



第2図 発掘区域図(2) ($S=1/3000$)

発掘作業員

秋山松義・有泉誠子・雨宮高文・雨宮みつ枝・石原敬子・井上千恵子・遠藤正美・大法ひろ子・大法正悟・小野一光・木下和子・功刀とよ子・功刀正彦・斎藤玲子・坂井美代子・佐久間春江・佐久間等・沢登郁江・沢登五恵・沢登よね・塩沢由樹子・塩島博夫・鶴田とみ子・鶴津志づ枝・鶴津忠義・清水正宏・志村住子・志村むつみ・田中市平・田中親之・塚田ひろ子・都築いつみ・時田わか・中込ともゑ・中込久子・中込二三子・二宮明雄・花輪壽枝・花輪操・原伊津子・北條貴人・望月祐子・由井恭子

整理作業員

遠藤正美・河野節子・坂井美代子・平重藏・中込久子・中込二三子・望月祐子

第2章 地理的環境

第1節 遺跡の立地（第3図）

新居道下遺跡は、山梨県中巨摩郡若草町十日市場に位置する。本遺跡は、甲府盆地の西縁を南北に走る国道52号の東側にあり、西方には櫛形山を前衛として北岳が主峰の白峰三山や鳳凰三山などの南アルプスの山塊を仰ぎ見ることができる。標高は約270mを測る。

南アルプスの唐松峠・ドノコヤ峠付近を源とする御動使川が形成する扇状地は、県の陝西地域の北部を飲み込み、南は甲西町田島にまで達している。この扇状地は国内でも屈指の巨大な扇状地である。遺跡は扇状地扇端部に形成された西北から南東方向へのびる微高地に展開する。この扇端部にあたる地域には水量の豊富な湧水帯が存在している。過去に実施されたこの周辺の試掘調査の結果では、本遺跡北側の区域では御動使川の氾濫で運ばれた礫層が厚く堆積しており、南側の区域では泥炭層が堆積していることが明らかになっている。湧水帯の存在を証明するように遺跡より南側に東西に走る県道を境に、その南側の地域には広大な水田地帯が広がっている。

第2節 周辺の遺跡（第3図）

新居道下遺跡が存在する若草町地内では、今日までに遺跡の全体像を把握できるような規模の発掘調査は実施されたことはない。平成2年刊行の『若草町誌』においても遺跡の分布は町内全域にわたっているものの、実態は不明瞭なものばかりである。新居道下遺跡もその名称と共に位置も指定されているが、時代については発掘調査の結果もっとも多かった奈良時代については把握できていなかった。組織的な調査が開始されるようになるのは、甲西バイパス建設に伴う発掘調査が実施されるようになってからのことである。

この陝西地域での時代別の遺跡分布の状況は、旧石器時代のものについては明確なものの存在が把握されていないが、縄文時代になると西部の丘陵地帯や山地の傾斜面の所々に見られる平坦地に集落が営まれるようになる。これに対して弥生時代になると扇状地上や氾濫原に接する湧水地帯に集落遺跡や水田跡が広く展開するようになる。この傾向は以後の時代も長く継続するようであり、甲西バイパスに連なる遺跡群は、まさにこのような湧水地帯に展開しているわけである。

- 1 七ツ打C遺跡（近世、溝跡：甲西バイパス関連）
- 2 十五所遺跡I・II区（弥生・古墳・住居跡・方形周溝墓等：甲西バイパス関連）
- 3 十五所遺跡III・IV区（弥生・古墳・平安・住居跡・方形周溝墓等：甲西バイパス関連）
- 4 村前東遺跡II・V区（弥生・古墳・平安・住居跡等：甲西バイパス関連）
- 5 村前東遺跡I・III・IV区（弥生・古墳・平安・住居跡・水田跡・掘立柱建物跡等：甲西バイパス関連）
- 6 新居道下遺跡
- 7 二本柳遺跡（中世、水田跡・墓跡：甲西バイパス関連）
- 8 向河原遺跡（弥生・中世・近世・水田跡・杭列・溝跡等：甲西バイパス関連）
- 9 油田遺跡（弥生・古墳・平安・祭祀場跡・水田跡等：甲西バイパス関連）
- 10 中川田遺跡（弥生・古墳・平安・中世・水田跡・溝跡：甲西バイパス関連）
- 11 住吉遺跡（弥生・方形周溝墓？）
- 12 大師東丹保遺跡（弥生・古墳・中世・水田跡・円墳・建物跡・水路跡・杭列跡等：甲西バイパス関連）
- 13 宮沢中村遺跡（中世・近世・近代・民家跡・寺跡・水田跡等：甲西バイパス関連）
- 14 鋸物師屋遺跡（縄文・住居跡）
- 15 ノ木遺跡（縄文・奈良・平安・住居跡・掘立柱建物跡等）
- 16 六科丘遺跡（旧石器・古墳・円墳・住居跡・土坑・集石遺構）
- 17 長田口遺跡（旧石器・縄文・弥生・古墳・中世・住居跡・土坑・集石遺構等）
- 18 上の山遺跡（縄文）

- 19 上ノ東遺跡（縄文・弥生、住居跡等）
- 20 昇喰場遺跡（縄文）
- 21 御前山遺跡（弥生）
- 22 土居平遺跡（縄文、住居跡？）

第3章 遺跡の概要と時代変遷（第4図・第5図）

新居道下遺跡の主体を為す遺構は住居跡である。総数50基が確認されている。数の上で住居跡を上回るもの土坑群であり、総数は155基を数える。他に溝状遺構が15条、掘立柱建物跡が3基検出されている。発掘調査によって確認された遺構を時期別に表現したものが第4図と第5図である。奈良・平安時代の土器の時期分類表現（Ⅱ期～XⅢ期）は、坂本美夫他、1983に従っている。

時代的にはもっとも古い段階は、弥生時代後期に属するものであり、溝状遺構が1条確認されているのみである。住居跡等は発見されていない。

次の段階は古墳時代前期に属するものであり、溝状遺構が2条確認されている。やはり住居跡等は発見されていない。

次の段階は古墳時代後期に属するものであり、この段階になって初めて住居跡が出現してくる。この時代より古い段階のものについては、発見された数が限られているため、分布状態について論ずることはできないが、当該期の住居跡は発掘調査区域の北側に集中している傾向がある。

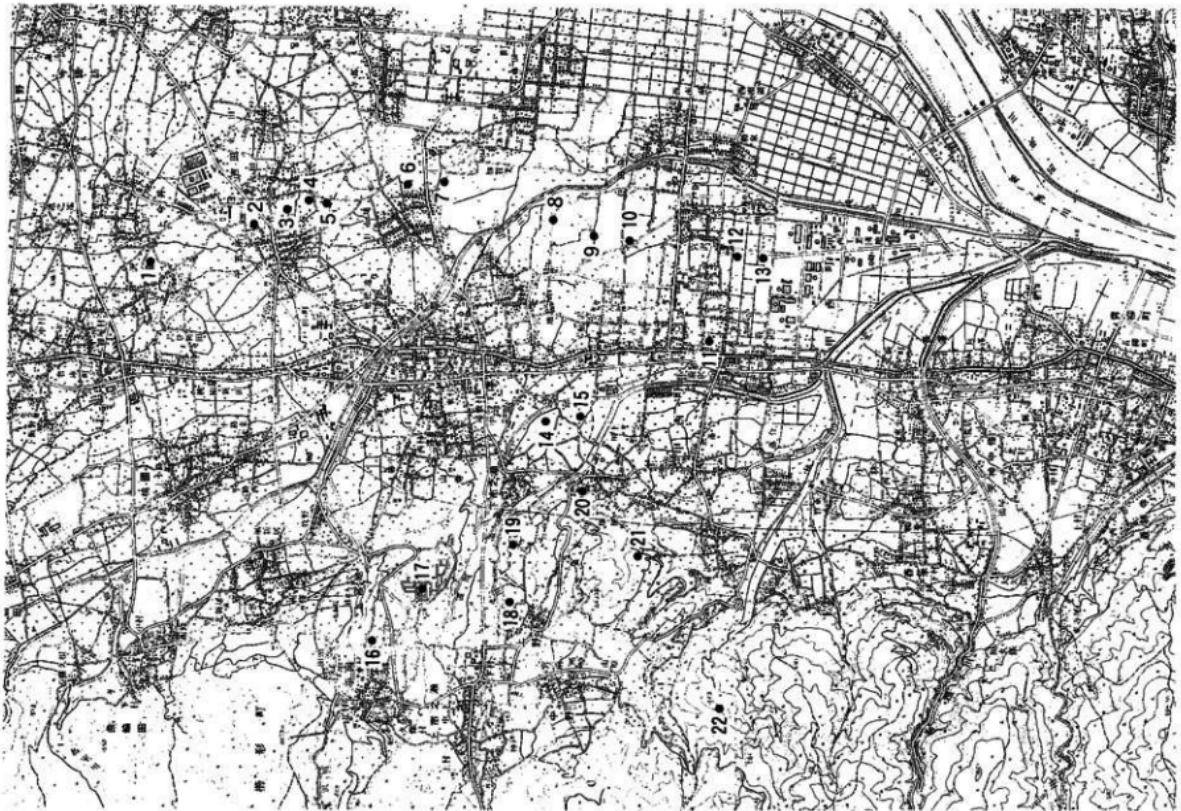
本遺跡の主体を為すものは、奈良時代（8世紀代）の遺構である。1区から2区にわたり24基の住居跡が満遍なく分布している。奈良時代の中でも8世紀第3四半期に住居跡の数はピークを迎えている。その後遺跡で住居跡の数が再び増加するのは平安時代の9世紀第4四半期である。それ以外の時期でとりわけ目立つことは、9世紀第1四半期に属する住居跡が皆無であることであろうか。そして11世紀前半の住居跡を最後に新居道下遺跡からは古代の遺構は姿を消す。

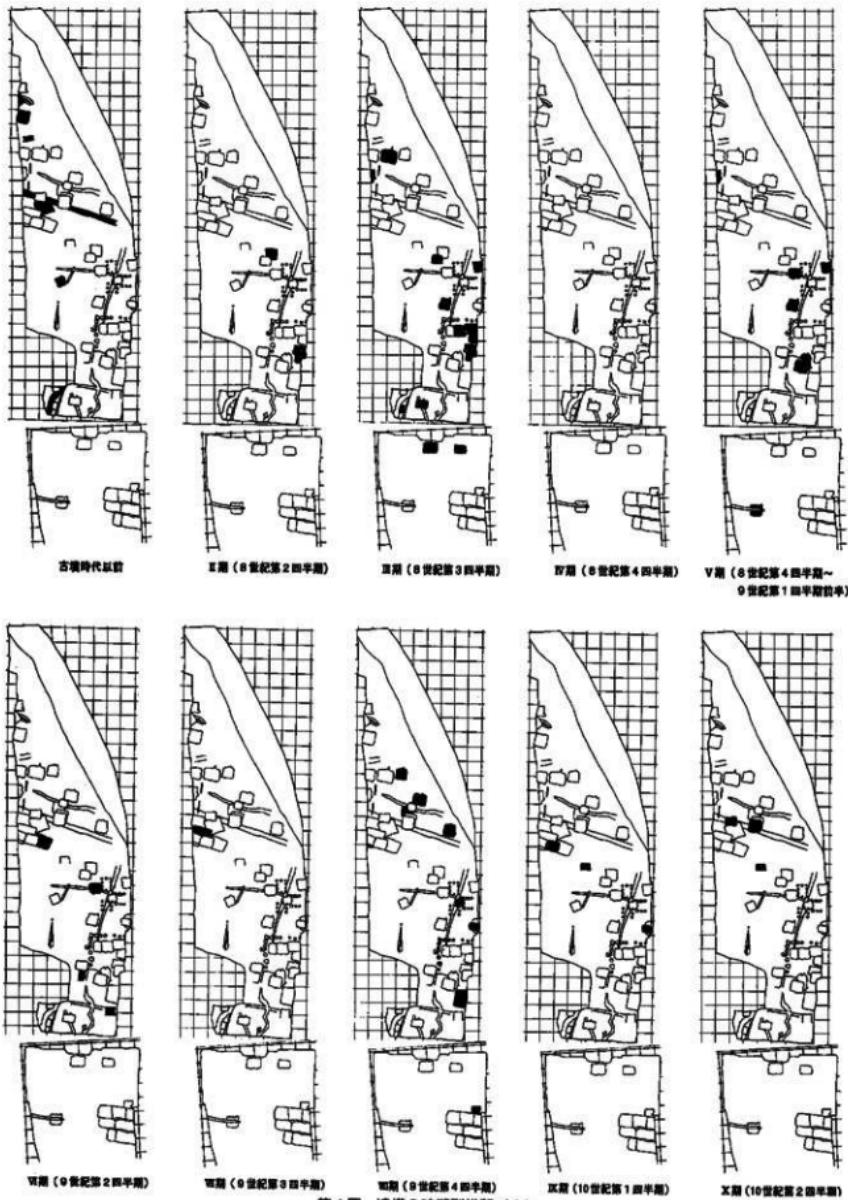
近代の遺構として、1区から粘土採掘坑と思われるものが3基確認された。その底面から唯一出土したジョン（錫鑑）によって、明治時代～大正時代の遺構であることが推測された。

掘立柱建物跡については3基確認されているが明確な時期決定ができない。縦穴内から遺物が全く出土していないからである。溝状遺構や住居跡と重複している箇所もあるが、新旧関係を把握できるデータは得ることができなかった。

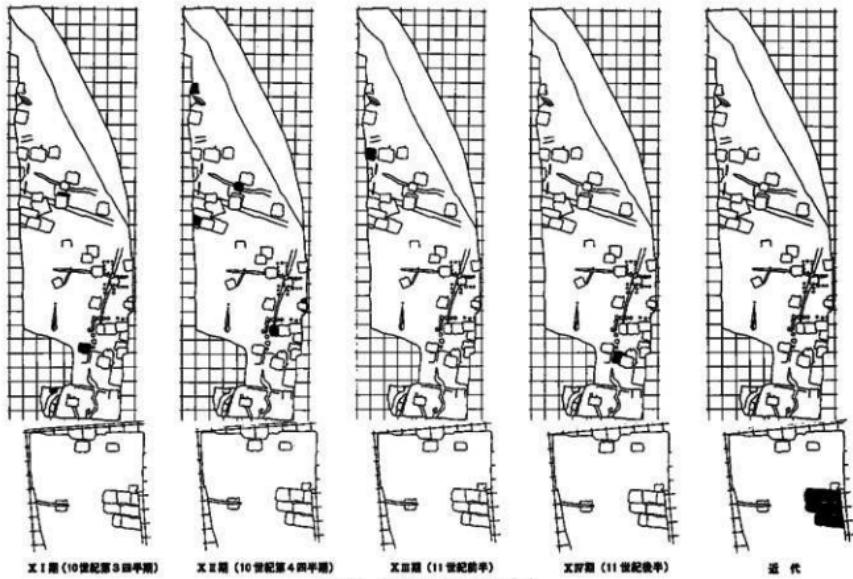
土坑についても、遺物を出土しているものはごく限られており、全般的な分布状況の傾向はとらえることはできない。ただ2区の南端に列を為して配置されたと思われる土坑群が存在し、これを一応横列跡と呼ぶことにした。

第3図 周辺道路分布図 (S=1/40000)





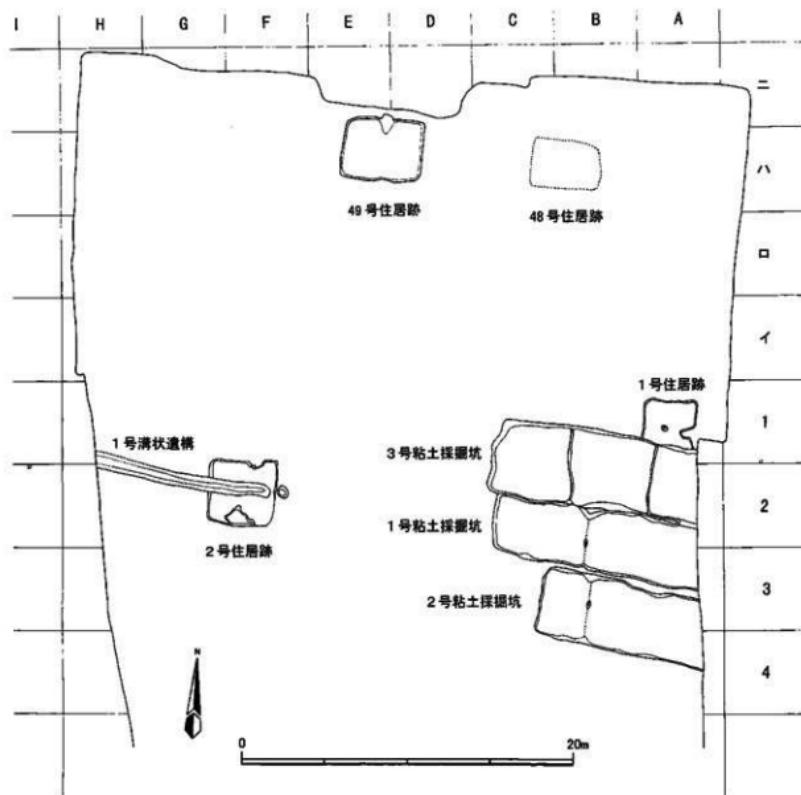
第4図 造構の時期別推移（1）



第5図 遺構の時期別推移 (2)

第4章 発見された遺構と遺物

第1節 住居跡と出土遺物



第6図 1区全体図 (S=1/300)

1号住居跡（第8・9図）

(形状) 南方向が一部未調査であるが正方形プランを呈する。

(規模) 東西320cm×南北290cmを測る。

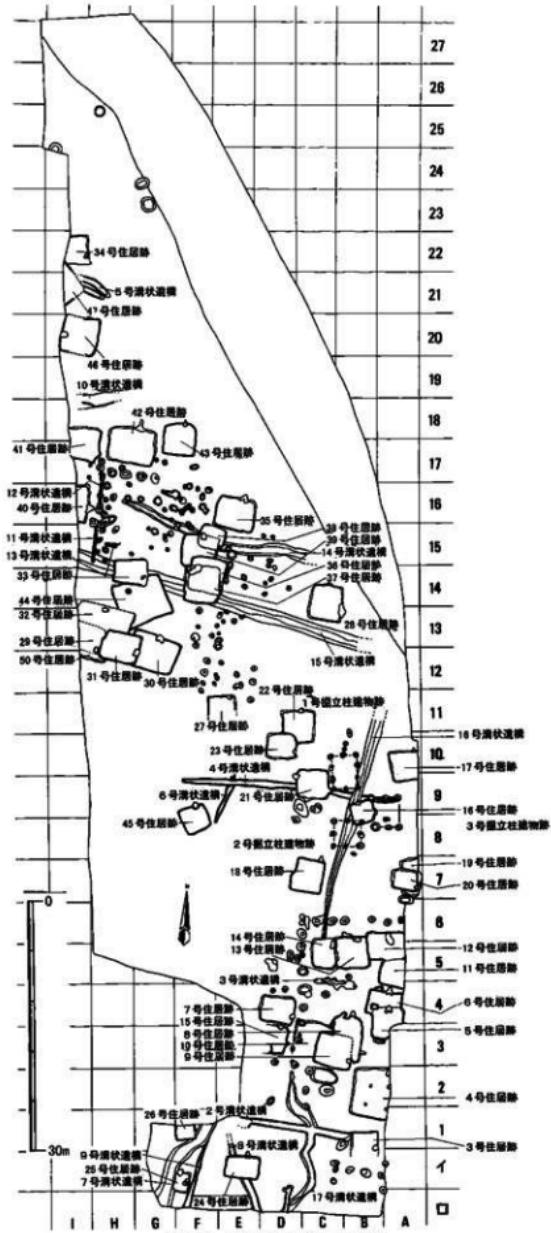
(主軸) N-93°-E

(床面) ほぼ平坦である。

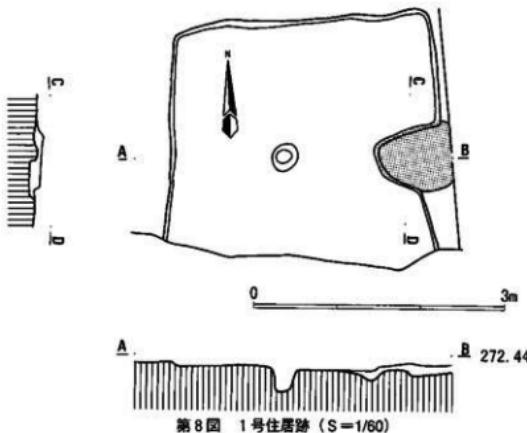
(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約7cmを測る。

(柱穴) 備考参照

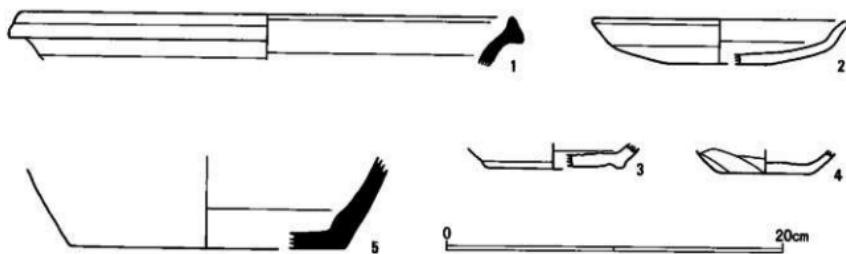
(周溝) なし



第7図 2区全体図 (S=1/600)



第8図 1号住居跡 ($S=1/60$)



第9図 1号住居跡出土土器 ($S=1/3$)

(カマド) 東壁の中央部に位置する。東西95cm×南北80cmの範囲で焼土が見られる。

(出土遺物) 土師器の皿形土器片・壺形土器片および須恵器片が出土している。

(備考) 住居跡中央部に土坑があり、柱穴の可能性もある。

2号住居跡（第10・11図）

(形状) 南東隅が搅乱を受けているが隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西390cm×南北400cmを測る。

(主軸) N-10°-E

(床面) ほぼ平坦だが西側がやや低い。

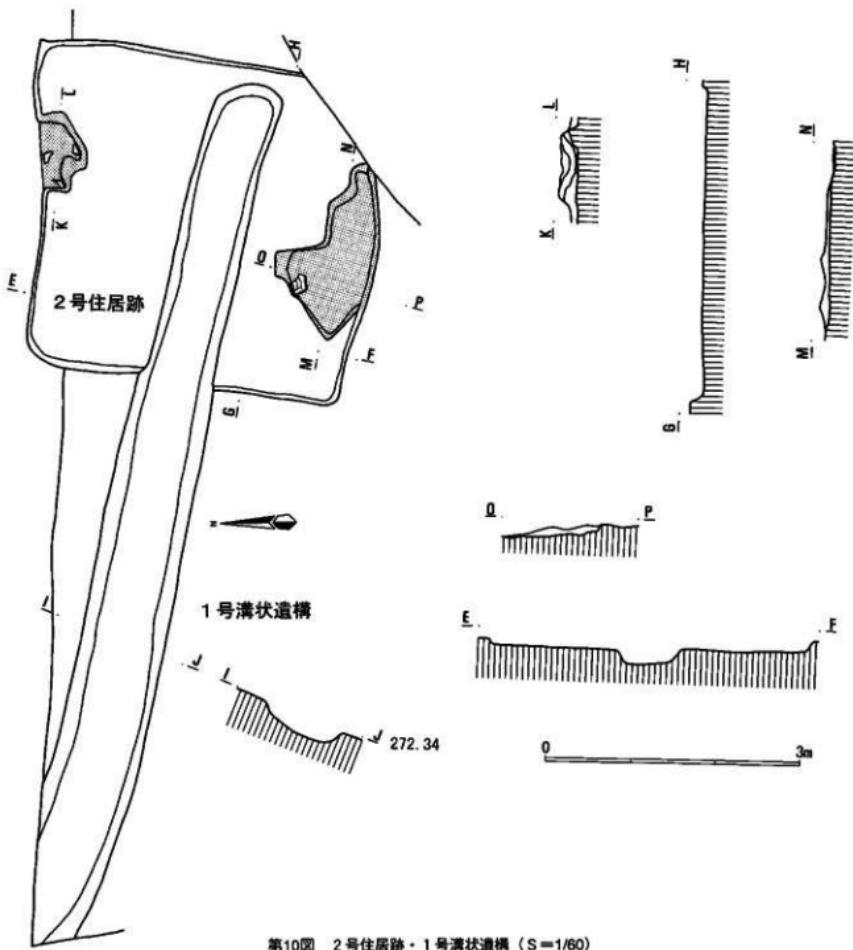
(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は7~13cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の東よりに位置する。東西100cm×南北55cmの範囲で焼土が見られる。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器および須恵器の壺形土器が出土している。



第10図 2号住居跡・1号溝状造構 (S=1/60)

(備考) 南壁中央部に東西220cm×南北120cmの焼土跡が存在する。

3号住居跡（第12～14図）

(形状) 東壁と南壁が欠損しているがおおよそ方形プランを呈する。

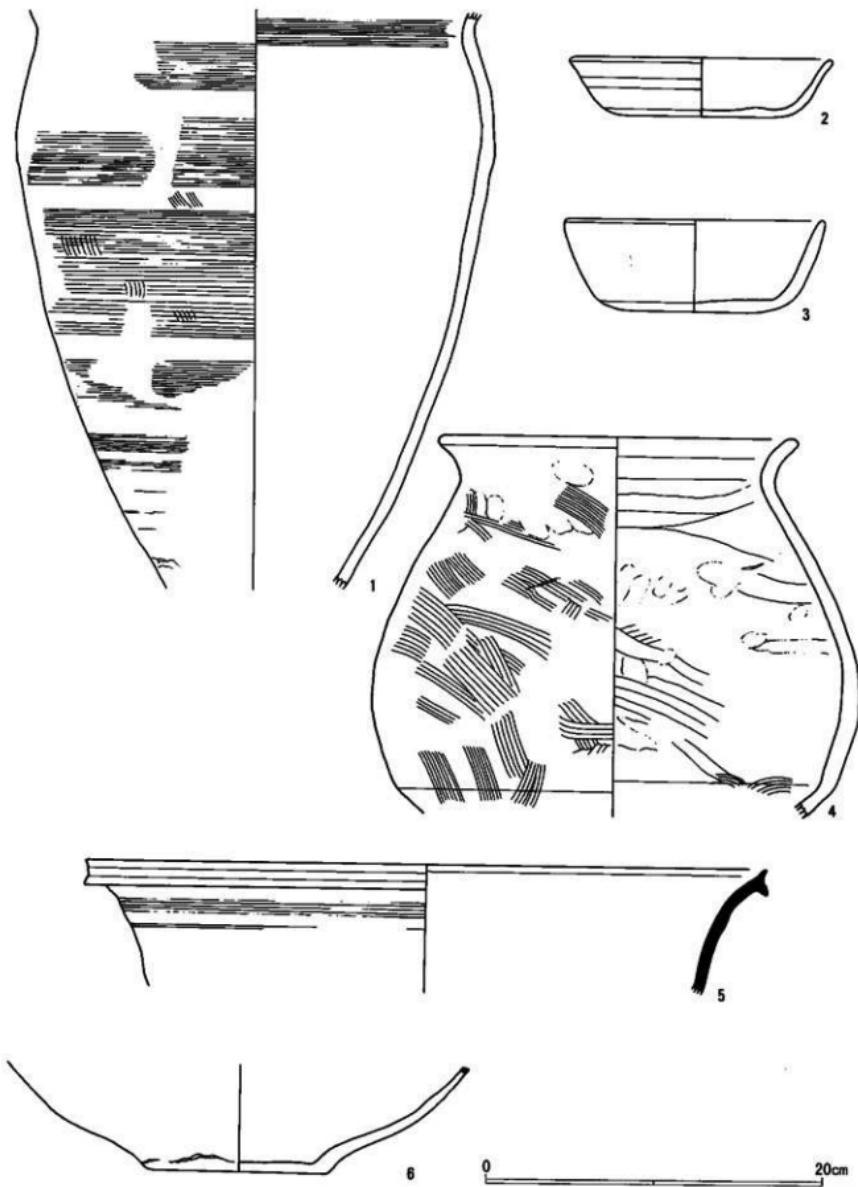
(規模) 推定で東西約360cm×南北約360cmを測る。

(主軸) N-94°-E

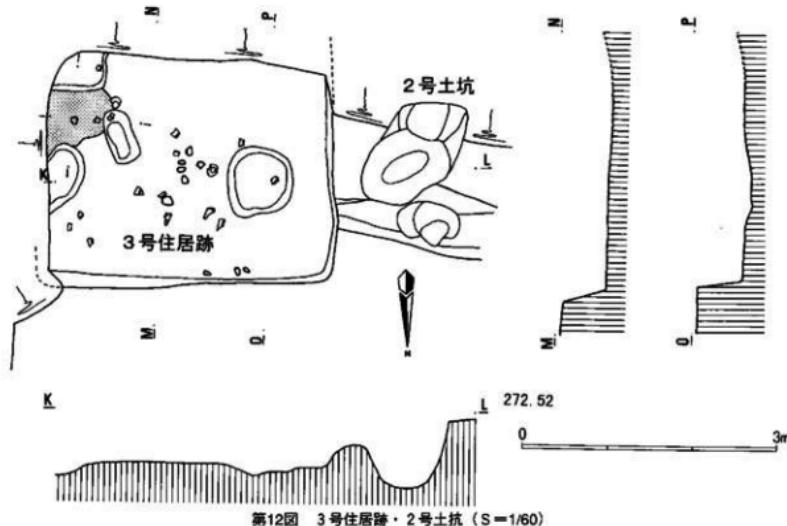
(床面) ほぼ平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約50cmを測る。

(柱穴) なし



第11図 2号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



第12図 3号住居跡・2号土坑 (S=1/60)

(周溝) なし

(カマド) 東壁の南よりに位置しカマドに隣接して北側、西側、南側に土坑が見られる。

(出土遺物) すべて須恵器であり壺形土器、蓋壺等が出土している。

(備考) 住居跡中央部より50cmほど西よりに東西80cm×南北82cmの円形の落ち込みが存在する。深さは10cmほどである。

4号住居跡（第15・16図）

(形状) 東側約四分の一を欠損しているが隅丸方形プランを呈すると思われる。

(規模) 西壁から判断して一辺約600cmを測る。

(主軸) N-99° -E

(床面) ほぼ平坦だが、東側へ約10cmほど低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約40cm前後を測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが4基確認されている。4基とも直径が50cm前後、深さ30cm前後のものである。

(周溝) なし

(カマド) 北東の隅に設けられている。東西62cm×南北105cmほどの範囲に焼土が見られる。

(出土遺物) 土師器の壺形土器と蓋壺が出土している。

(備考) 北壁と西壁に沿って合計6基の竪穴が掘られている。壁柱穴として掘られたものであろうか。

5号住居跡（第17・18・20図）

(形状) 隅丸方形プランを呈すると思われるが、南東隅は調査区域外で未発掘、北西隅は6号住居跡と重複しており正確なプランは把握できなかった。

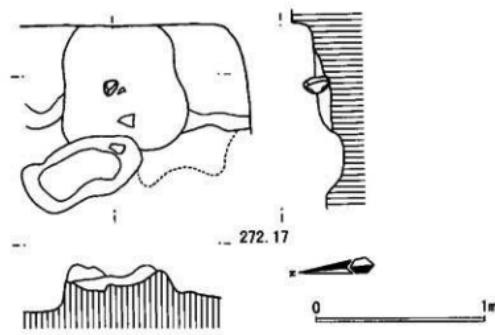
(規模) 東西約390cm×南北約390cmほどと推測される。

(主軸) N-10° -E

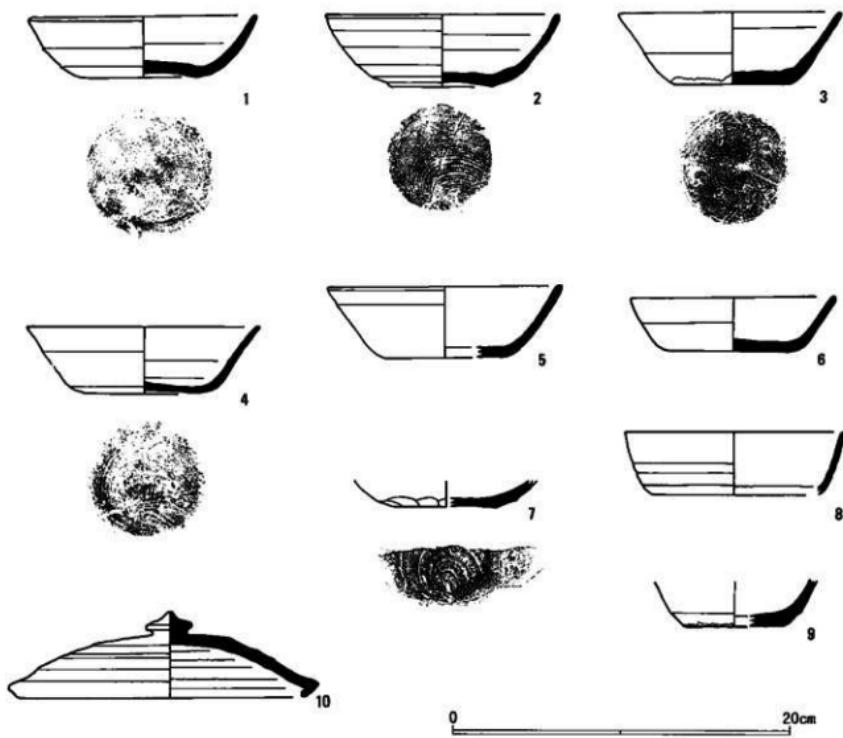
(床面) 若干の凹凸が見られ、西側へ向かって10cmほど低くなっている。

(壁) 西壁で壁高約60cm、東壁で壁高約35cmでほぼ垂直に立ち上がる。

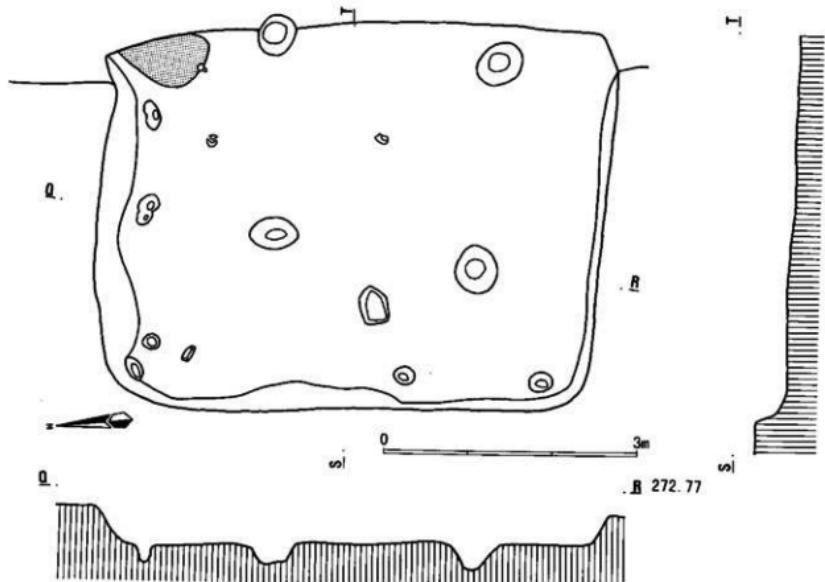
(柱穴) なし



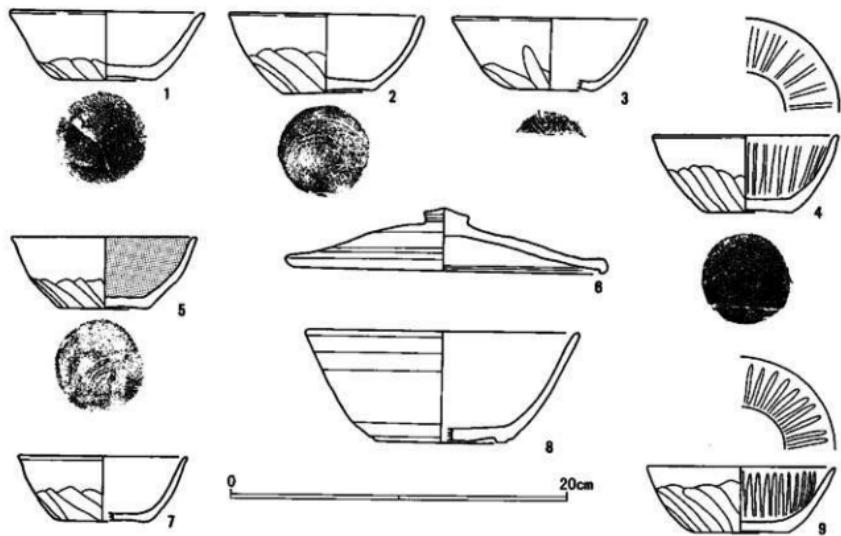
第13図 3号住居跡カマド (S=1/30)



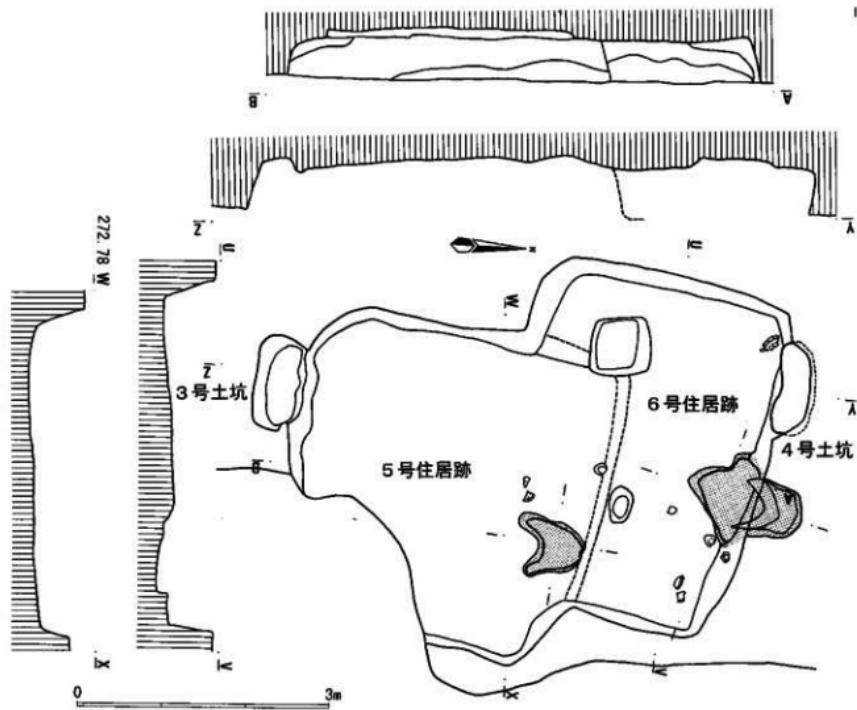
第14図 3号住居跡出土土器 (S=1/3)



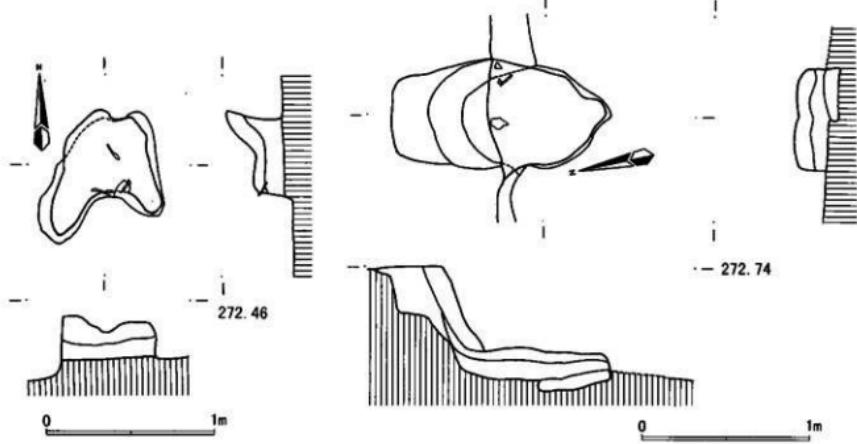
第15図 4号住居跡 (S=1/60)



第16図 4号住居跡出土土器 (S=1/3)

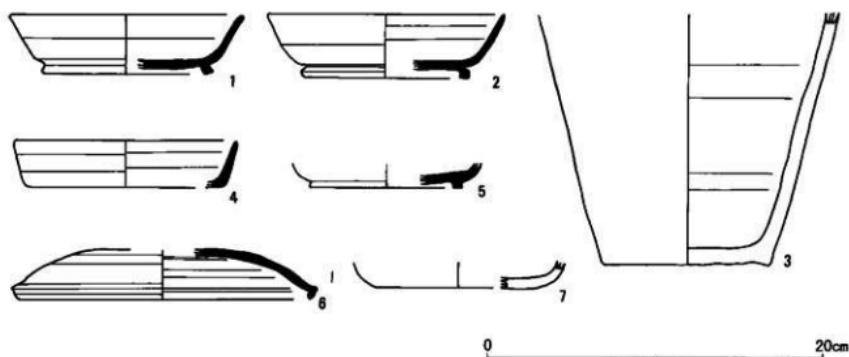


第17図 5・6号住居跡、3・4号土坑 ($S=1/60$)

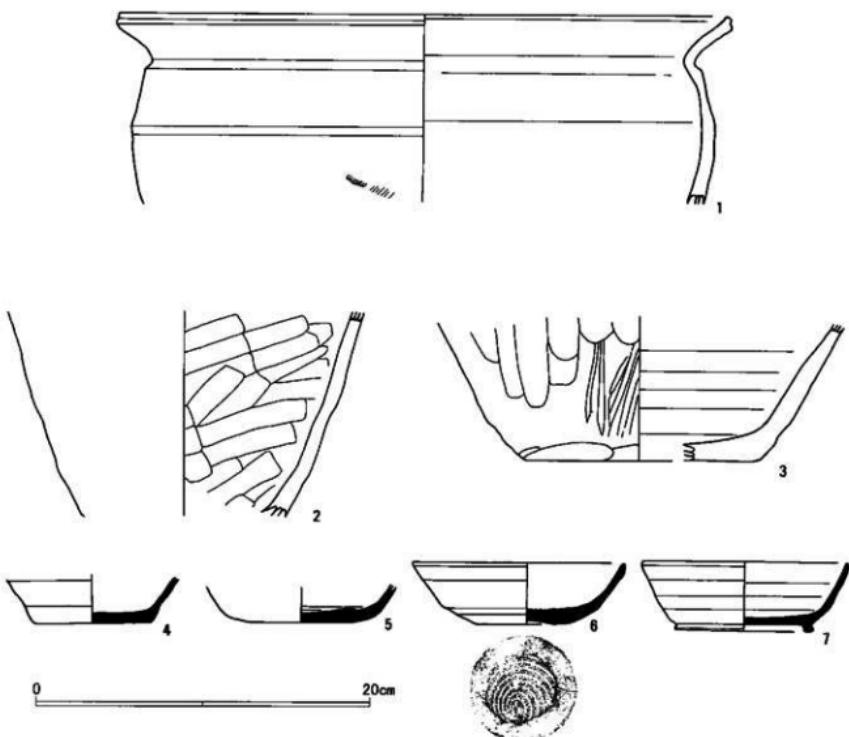


第18図 5号住居跡カマド ($S=1/30$)

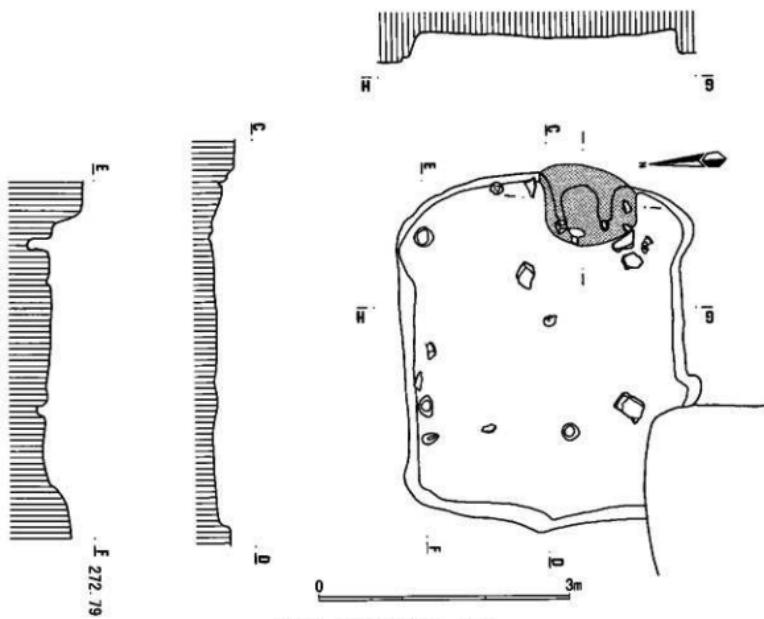
第19図 6号住居跡カマド ($S=1/30$)



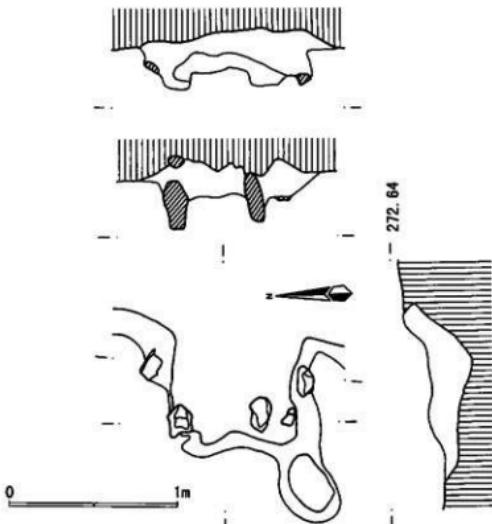
第20図 5号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



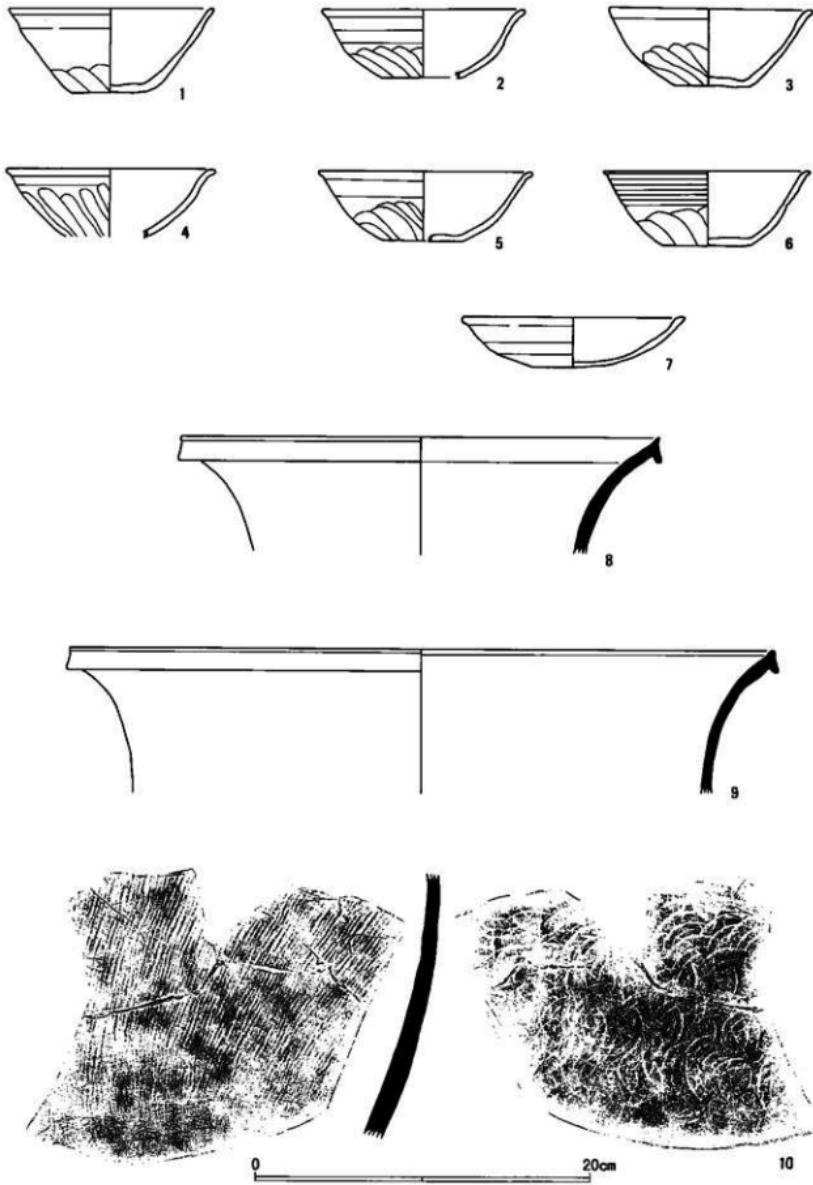
第21図 6号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



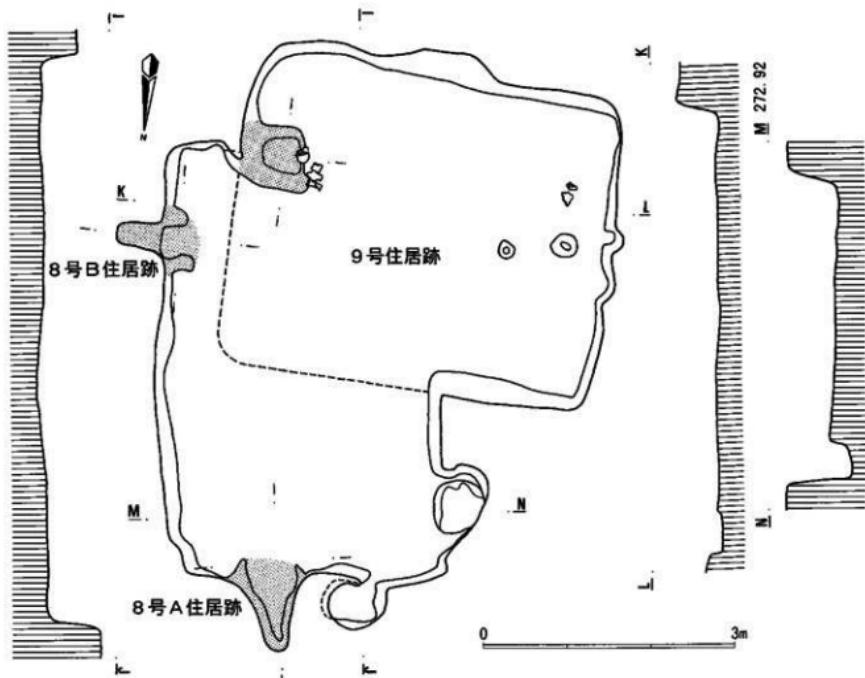
第22図 7号住居跡 (S=1/60)



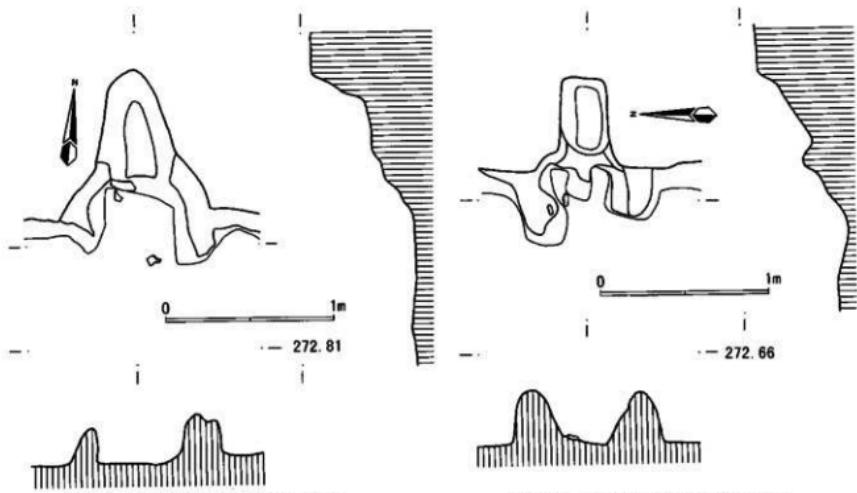
第23図 7号住居跡カマド (S=1/30)



第24図 7号住居跡出土土器 ($S=1/3$)

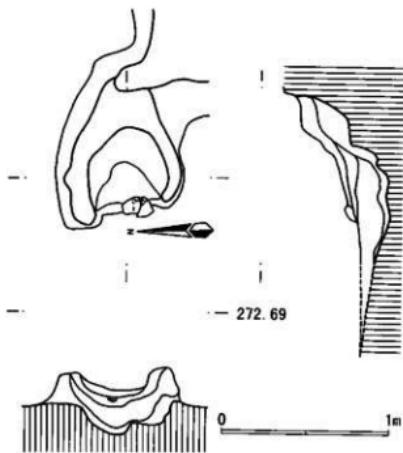


第25図 8号A・8号B・9号住居跡 (S=1/60)

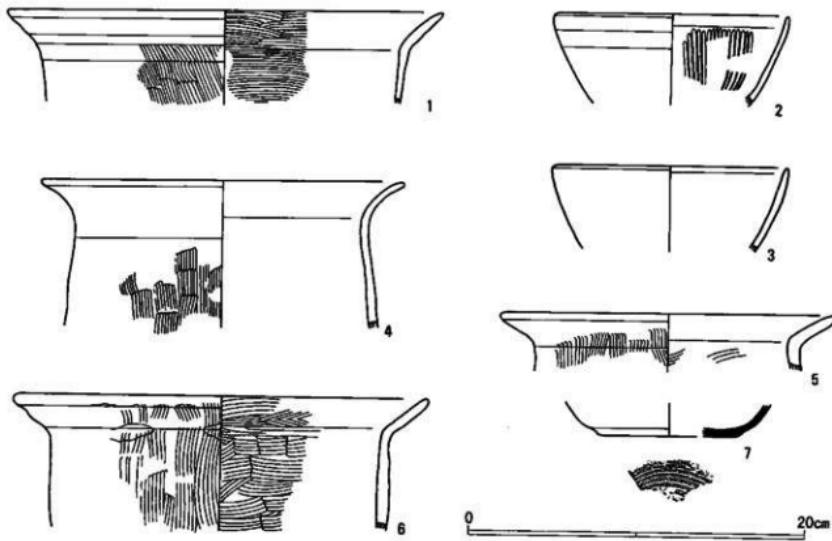


第26図 8号A住居跡カマド (S=1/30)

第27図 8号B住居跡カマド (S=1/30)



第28図 9号住居跡カマド (S=1/30)



第29図 8号住居跡出土土器 (S=1/3)

(周溝) なし

(カマド) 北壁中央よりやや東寄りに位置し、東西65cm×南北100cmの範囲で焼土がみられる。

(出土遺物) 須恵器の壺形土器・蓋壺、土師器の壺形土器が出土している。

(備考) 南壁中央より西寄りに東西120cm×南北60cmの長方形プランの土坑が存在している。この住居跡に伴うものであるかどうかは判明しなかった。

6号住居跡（第17・19・21図）

(形状) 隅丸方形プランを呈すると思われるが、南東隅が5号住居跡と広範囲に重複しており正確な形状は把握できない。

(規模) 東西420cm×南北320cmを測る。

(主軸) N-13° -E

(床面) 所々に凹凸が見られ、中央部分が周囲より約14cmほど高くなっている。

(壁) 壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は50cm~60cmを測る。

(柱穴) 住居跡の中心からやや東寄りに柱穴と思われる45cm×25cm深さ20cmの豊穴が確認された。

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央部分に位置しており、東西150cm×南北115cmの範囲で焼土が確認された。わずかに煙道の痕跡が残る。

(出土遺物) 須恵器の壺形土器・蓋壺、土師器の蓋壺・壺形土器が出土している。

(備考) 北壁沿いカマドの西側に東西115cm×南北65cmの楕円形プランの土坑が、住居跡南西隅寄りに東西70cm×南北72cmの方形プランの土坑が存在する。

7号住居跡（第22~24図）

(形状) 隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西430cm×南北350cmを測る。

(主軸) N-94° -E

(床面) ほぼ水平であるが全体に凹凸が見られる。

(壁) 壁は緩い傾斜で立ち上がり、壁高は17cm~40cmを測る。

(柱穴) 住居内に3箇所柱穴と思われる豊穴が存在する。

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央よりやや南寄りに設けられている。焚口の袖石と思われる石が立ったまま残存している。東西95cm×南北110cmの範囲に焼土が見られる。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器、須恵器の壺形土器が出土している。

8号住居跡（第25~27・29図）

調査中は一応1基の住居跡と理解していたが、2基の住居跡の重複と考えられるために、8号A住居跡と8号B住居跡の2基の住居跡として取り扱うこととする。

A住居跡

(形状) 方形プランを呈するものと思われるが、南壁は9号住居跡と8号B住居跡と重複しているため確認できなかった。

(規模) 推定で東西340cm×南北300cmを測る。

(主軸) N-11° -W

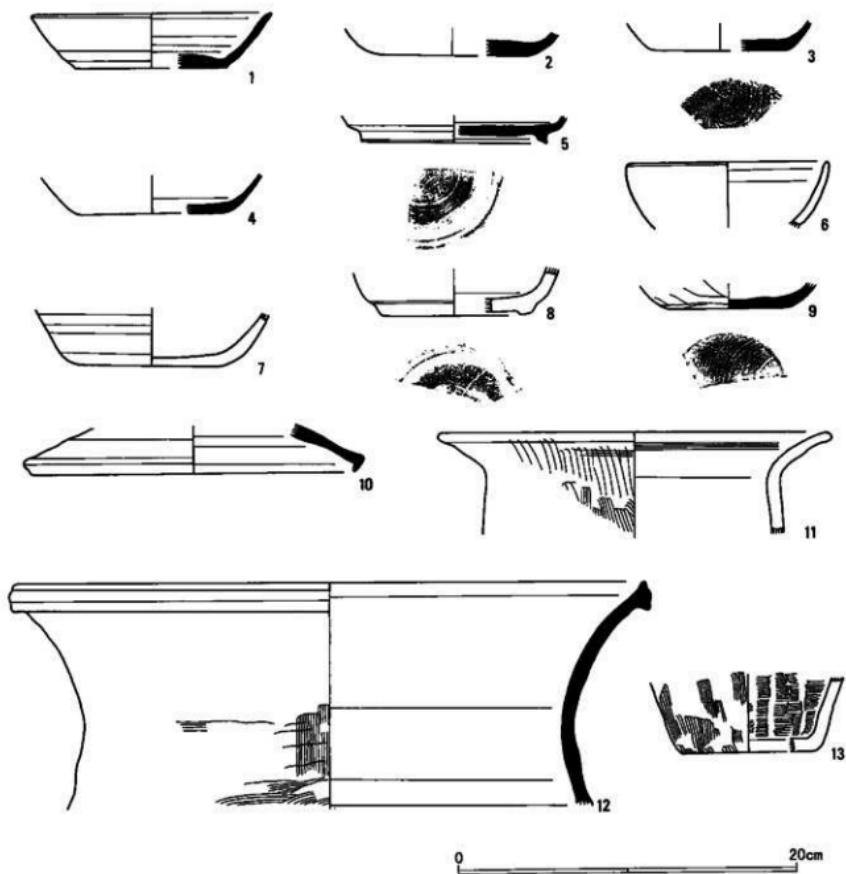
(床面) 南側が10cmほど低いがほぼ平坦である。

(壁) 壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約60cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央より東寄りに設けられ粘土で作られている。石組みの痕跡はなく、天井も落ちているが、両袖と煙道は残存状態が良い。



第30図 9号住居跡出土土器 (S=1/3)

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器が出土している。

(備考) 北西隅付近で壁に接して土坑が2基存在するが本住居跡に伴うものであるかどうかは不明である。

B住居跡

(形状) 方形プランを呈すると思われるが、東壁以外の大部分を9号住居跡と8号A住居跡と重複しているため、正確な形状は把握できない。

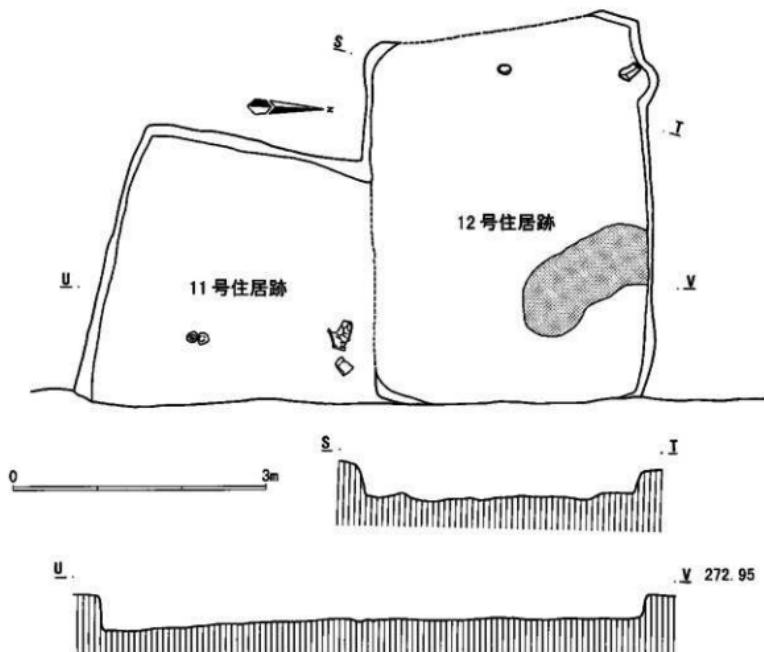
(規模) 唯一残っている東壁の長さは約350cmを測る。

(主軸) N-88°-E

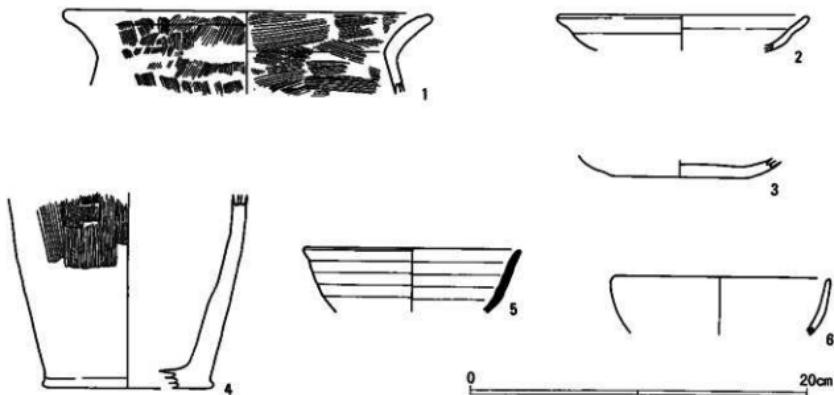
(床面) ほぼ水平である。

(壁) 壁はほぼ直立に立ち上がり、壁高は約60cmを測る。

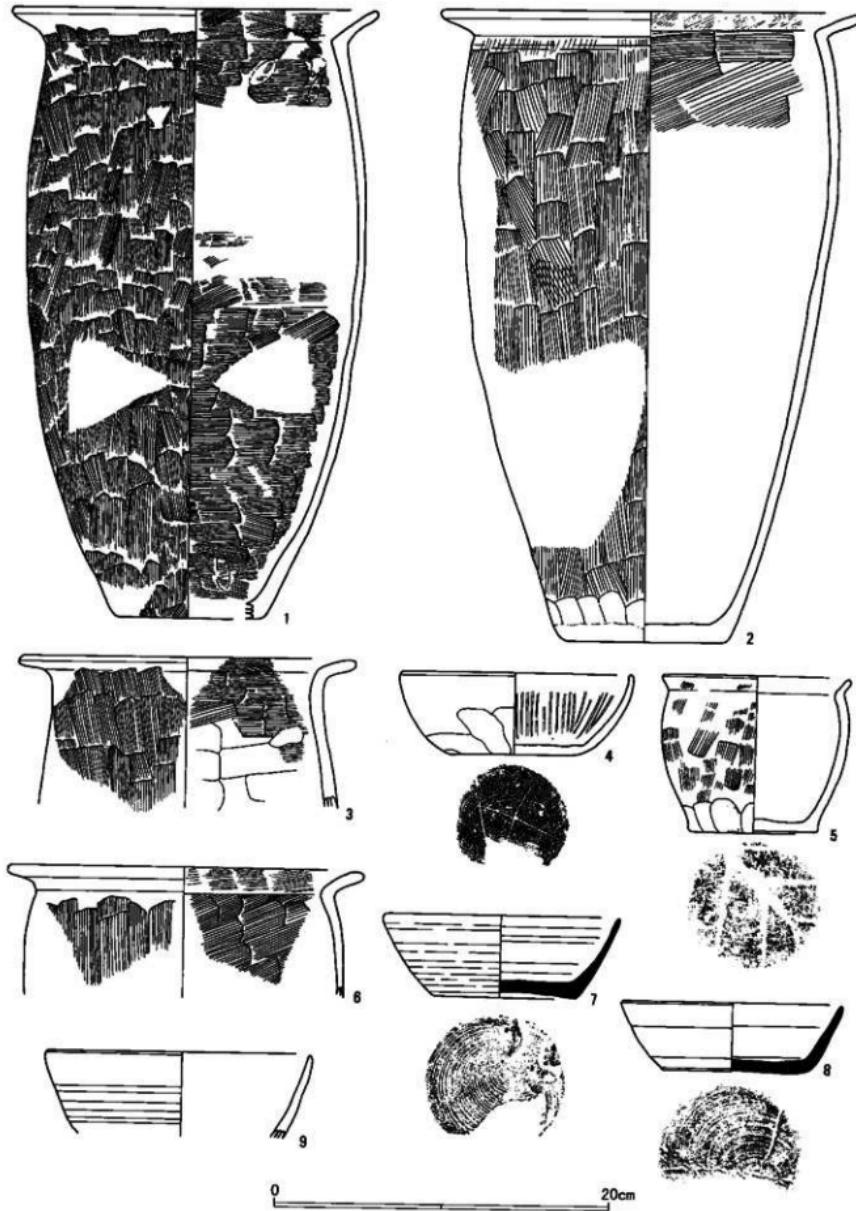
(柱穴) なし



第31図 11・12号住居跡 ($S = 1/60$)



第32図 12号住居跡出土土器 ($S = 1/3$)



第33図 11号住居跡出土土器 (S = 1/3)

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央より若干南寄りに粘土作りのカマドが設けられている。煙道および両袖は比較的良好な状態で残存している。

(出土遺物) 土師器片が僅かに出土したのみである。

(備考) 8号Aと8号B住居跡および9号住居跡の新旧関係は、9号が最も新しく、統いて層位的な根拠は得られなかつたが、カマドの設置状況から考えて、8号Aより8号Bの方が新しいと考えられる。

9号住居跡（第25・28・30図）

(形状) 北東隅の広い部分を8号B住居跡と重複しているものの、方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 東西460cm×南北390cmを測る。

(主軸) N-105°-E

(床面) ほぼ平坦であるが、中心部分がやや高い。

(壁) 壁高は20cm~60cmを測る。

(柱穴) 明確に柱穴と考えられるものは存在しない。

(周溝) なし

(カマド) 東壁中央よりやや南寄りに位置する。東西80cm×南北80cmの範囲で粘土によって設けられている。両袖は比較的の残りが良いが、煙道は不明瞭である。

(出土遺物) 須恵器の壺形土器・蓋壺・壺形土器、土師器の壺形土器・壺形土器が出土している。

(備考) なし

10号住居跡（第36・38図）

(形状) 残存状態が極めて悪く正確な形状は不明である。おそらくは方形プランを呈するものであろう。

(規模) 少なくとも東西400cm以上×南北400cm以上の規模であることは間違いないと思われる。

(主軸) N-96°-E

(床面) 凹凸はないが、南側へ約15cm程度傾斜している。

(壁) 壁高は5cm程度である。

(柱穴) 明確に柱穴と考えられるものは存在しない。

(周溝) なし

(カマド) 住居跡として確認できた範囲内では認められなかった。

(出土遺物) 土師器片が僅かに出土している。

(備考) なし

11号住居跡（第31・33図）

(形状) 東側は調査区域外で未発掘、北側は12号住居跡で切られており正確な形状は不明であるが、方形プランを呈するものであろう。

(規模) 東西340cm以上×南北340cm以上の規模である。

(主軸) N-10°-E

(床面) ほぼ平坦であるが、わずかに南側に傾斜している。

(壁) 壁高は約40cm前後である。

(柱穴) なし

(周溝) なし

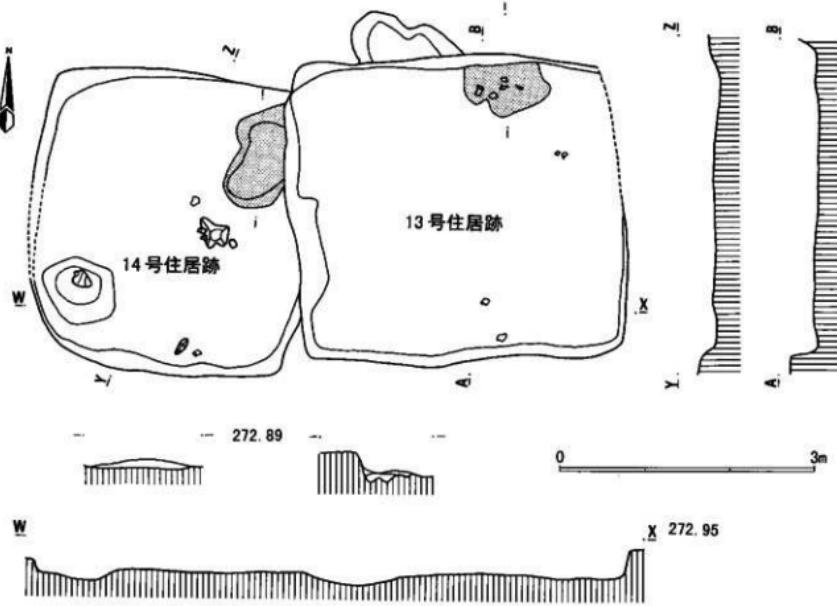
(カマド) 発掘した範囲では確認できなかった。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器が出土している。

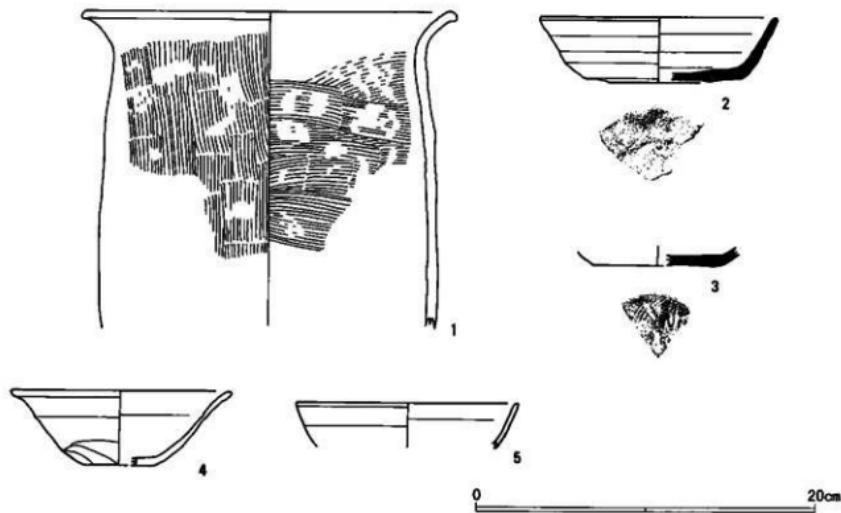
(備考) なし

12号住居跡（第31・32図）

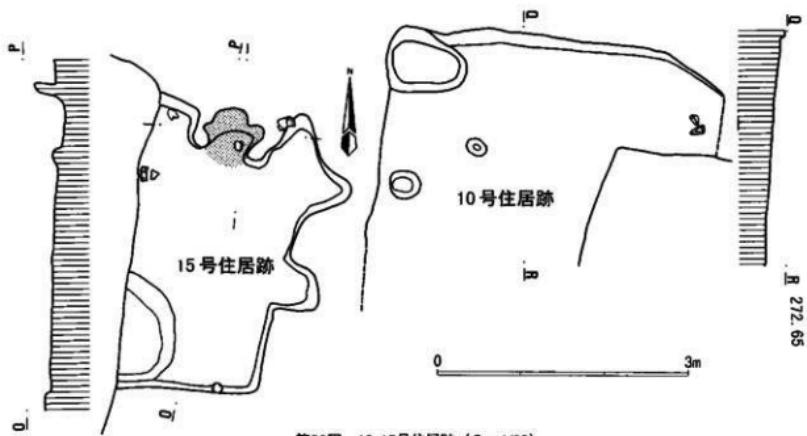
(形状) 東壁は発掘調査区域外、西壁は13号住居跡に切られているが、形状はおおよそ判断できる。隅丸方形



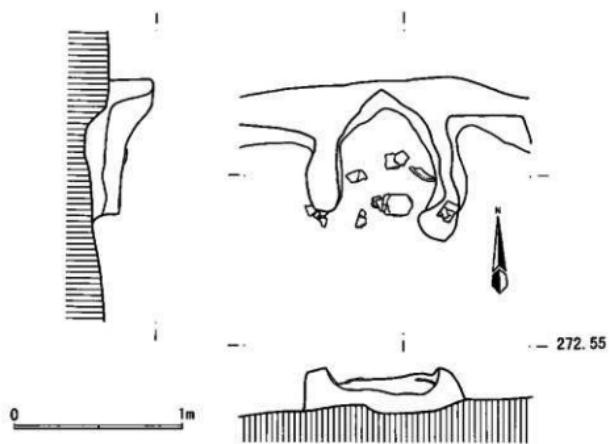
第34図 13・14号住居跡 ($S=1/60$)



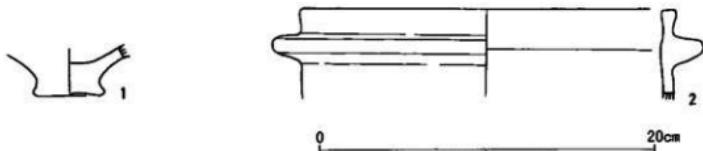
第35図 13・14号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



第36図 10・15号住居跡 ($S=1/60$)



第37図 15号住居跡カマド ($S=1/30$)



第38図 10号住居跡出土土器 ($S=1/3$)

プランを呈するものであろう。

(規模) 東西450cm×南北330cmを測る。

(主軸) N-10° -W

(床面) かなり凹凸があり若干南側へ傾斜している。

(壁) 壁高は約30cm前後を測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁中央よりやや東寄りに設けられているが、150cm×100cmの範囲に焼土が残るのみである。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器・坪形土器、須恵器の壺形土器が出土している。

(備考) なし

13号住居跡（第34・35図）

(形状) 東壁北側を切られているが隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西380cm×南北360cmを測る。

(主軸) N-6° -W

(床面) ほぼ平坦だが南西隅に浅い落ち込みがある。

(壁) 壁高は20cm～30cmではほぼ垂直に立ち上がる。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁中央よりやや東側に設けられているが、状態は良くない。袖や煙道の痕跡はなく100cm×60cmの範囲に焼土が残るのみである。

(出土遺物) 土師器の壺形土器および須恵器の壺形土器が出土している。

(備考) なし

14号住居跡（第34・35図）

(形状) 東側を13号住居跡に切られているが隅丸方形プランを呈すると思われる。

(規模) 東西350cm×南北350cmを測る。

(主軸) N-38° -E

(床面) ほぼ平坦であるが、南西隅に浅い落ち込みがある。

(壁) 壁高は15cm程度を測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 13号住居跡によって東側が破壊されているが、北東隅に設けられている。残存状態は悪く120cm×80cmの比較的広い範囲に焼土が残るのみである。

(出土遺物) 須恵器の壺形土器、土師器の壺形土器が出土しているのみである。

(備考) なし

15号住居跡（第36・37・39図）

(形状) 西側が調査区域外であるため正確な形状は把握できないが、隅丸方形プランと推測される。

(規模) 推定で一辺が約330cmほどの規模であると思われる。

(主軸) N-12° -E

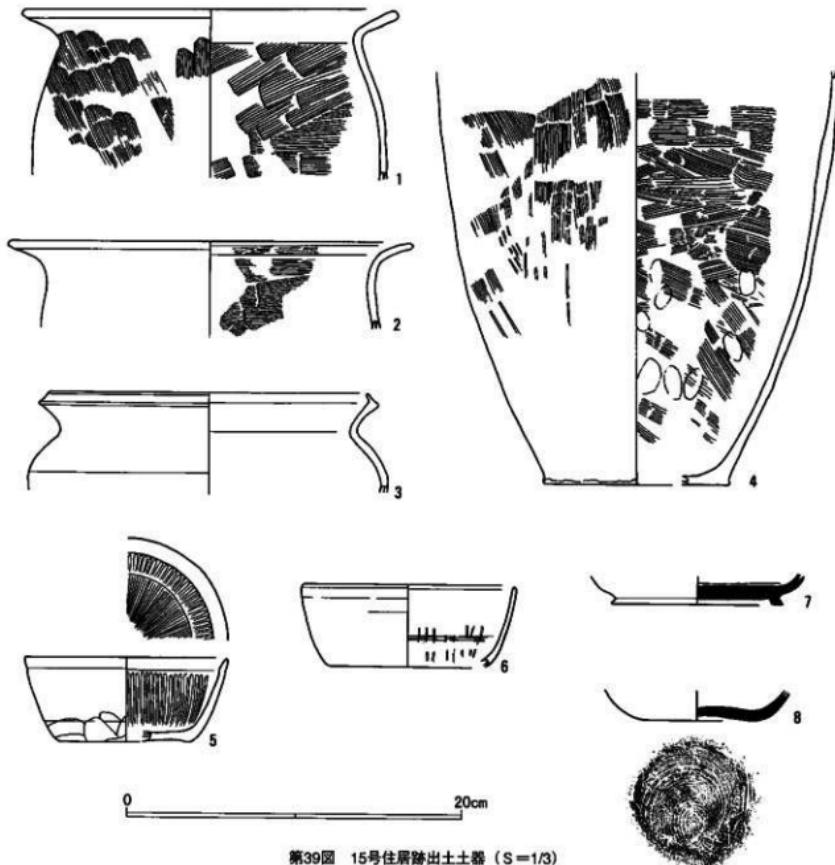
(床面) ほぼ平坦であるが北側へ向かって約10cm程度傾斜している。

(壁) 壁高は約10cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりやや東側に設けられている。焚口と両袖は比較的良好な状態で残っている。石組みの痕跡は全くみられない。煙道については、住居跡北側が削平されているため残っていない。



第39図 15号住居跡出土土器 (S=1/3)

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器、須恵器の高台壺形土器・壺形土器が出土している。

(備考) 東壁で2箇所土坑状に突出した張り出しが見られる。この住居跡に伴うものであるかは不明である。

16号住居跡（第40～42図）

(形状) 隅丸方形プランを呈する。東壁の中央よりやや南寄りに土坑状に突出した箇所を有し、発掘時の所見で住居跡に伴うものと考えられる。16号溝状遺構を切って構築されている住居跡である。

(規模) 東西270cm×南北275cmを測る。

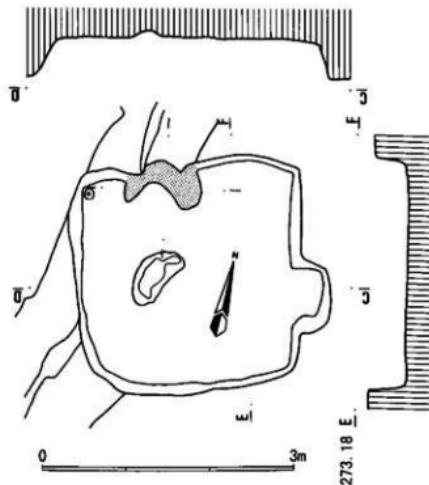
(主軸) N-12°-W

(床面) 全体的に平坦でよく踏み固められている。住居跡の中心よりやや西側に深さ10cmほどの浅い落ち込みが存在する。

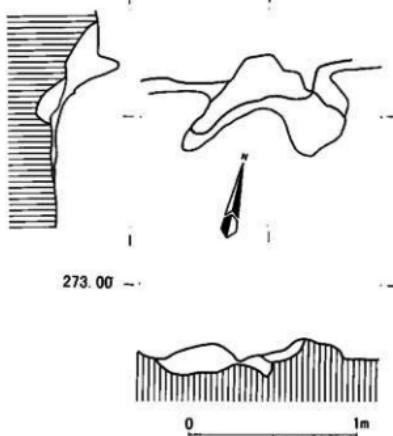
(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は50cm～60cmを測る。

(柱穴) なし

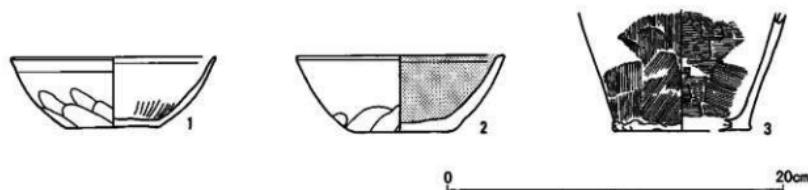
(周溝) なし



第40図 16号住居跡 (S=1/60)



第41図 16号住居跡カマド (S=1/30)



第42図 16号住居跡出土土器 (S=1/3)

(カマド) 北壁の中央よりやや西寄りに設けられている。煙道および両袖の痕跡が僅かに残っている。石が利用された痕はない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器が出土している。

(備考) なし

17号住居跡（第43～45図）

(形状) 東部分が発掘調査区域外のため未発掘である。そのため正確な形状は把握できないが隅丸方形プランと予想される。

(規模) 東西350cm以上×南北340cmを測る。

(主軸) N-17°-E

(床面) ほぼ平坦であるが南側へ向かって若干低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は50cm～60cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央か、あるいは中央よりやや東側寄りに設けられている。壁よりも住居跡内側には袖の痕跡はない。煙道は比較的の残りが良い方だと思われる。石が利用された形跡はない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器が出土している。

(備考) なし

18号住居跡（第46～48図）

- (形状) 不整形ではあるが隅丸方形プランを呈する。
- (規模) 東西400cm×南北400cmを測る。
- (主軸) N-6° -E
- (床面) ほぼ平坦であるが、北と南では北側の方が10cmあまり低くなっている。
- (壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約35cmを測る。
- (柱穴) なし
- (周溝) なし
- (カマド) 北壁の最も東寄りに設けられている。両袖および煙道も残り具合は良い方である。石組みの痕跡は認められない。
- (出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器、須恵器の壺形土器が出土している。
- (備考) なし

19号住居跡（第49・51図）

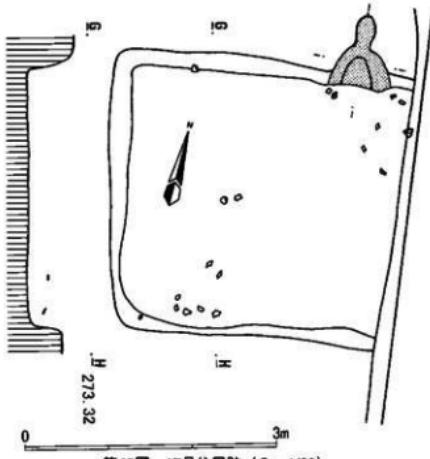
- (形状) 中央部分を20号住居跡に切られ、東半分は発掘調査区域外のために正確な形状は判断できないが、隅丸方形プランを呈すると思われる。
- (規模) 東西250cm以上×南北450cmを測る。
- (主軸) N-12° -W
- (床面) ほぼ平坦であるが、北西隅方向が一段やや低くなっている。
- (壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は50cmを測る。
- (柱穴) 主柱穴と考えられる小豎穴は確認できていない。
- (周溝) なし
- (カマド) 調査した範囲では確認できなかった。他の住居跡の例から推測して東寄りの北カマドか東カマドを有する住居跡と考えられる。
- (出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・皿形土器、須恵器の高台付壺形土器・壺形土器が出土している。
- (備考) なし

20号住居跡（第49・50・52図）

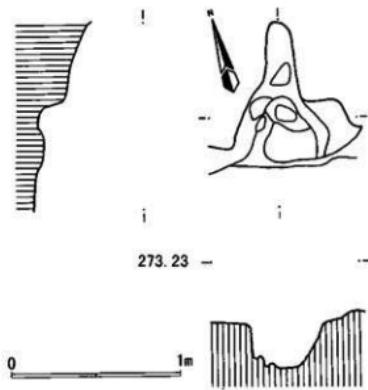
- (形状) 隅丸方形プランを呈する。
- (規模) 東西320cm×南北240cmを測る。
- (主軸) N-96° -E
- (床面) ほぼ平坦であるが、南側に僅かに傾斜している。
- (壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は50cm～60cmを測る。
- (柱穴) 主柱穴と思われるものは確認できていない。
- (周溝) なし
- (カマド) 東壁の中央よりやや南寄りに設けられている。状態は極めて悪く袖や煙道等の施設は痕跡もない。わずかに焼土が残るのみである。
- (出土遺物) 須恵器の壺形土器・高台付壺形土器、土師器の壺形土器が出土している。
- (備考) なし

21号住居跡（第53～56図）

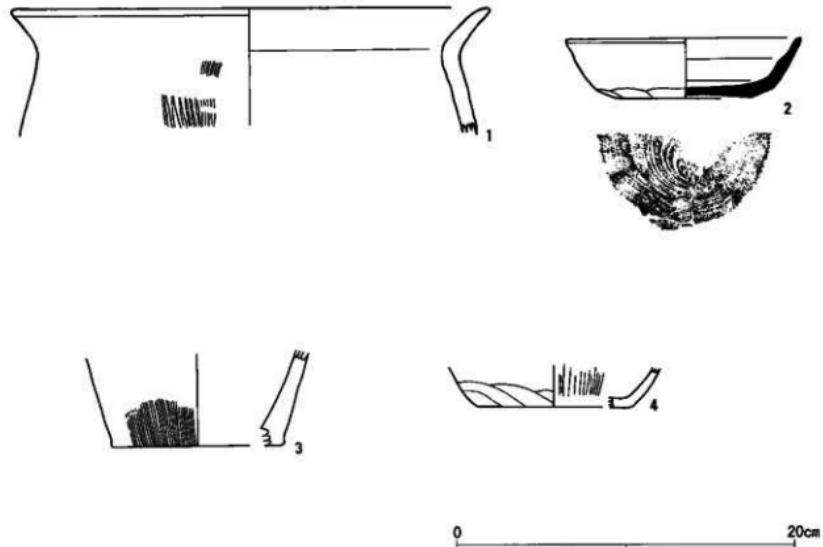
- (形状) 隅丸方形プランを呈する。
- (規模) 東西380cm×南北360cmを測る。
- (主軸) N-88° -E
- (床面) ほぼ平坦であるが東側がやや低くなっている。
- (壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm～40cmを測る。



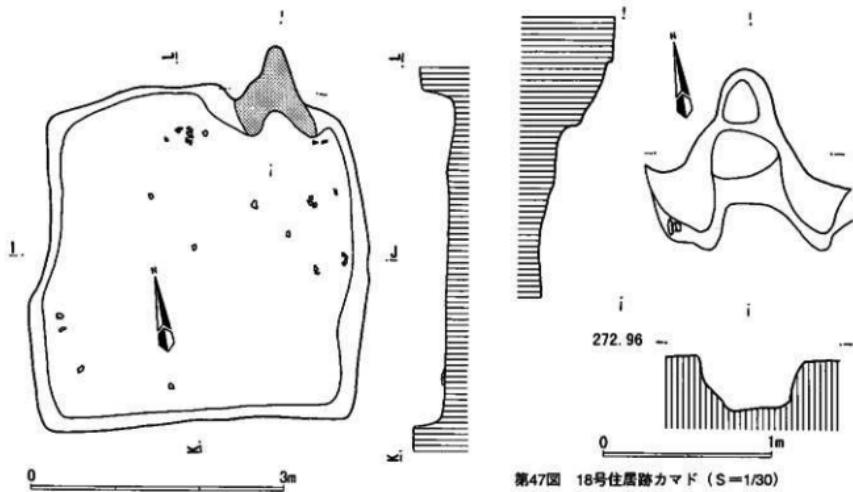
第43図 17号住居跡 ($S = 1/60$)



第44図 17号住居跡カマフ ($S = 1/30$)



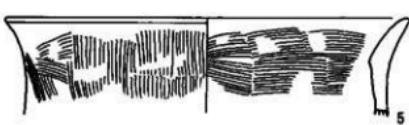
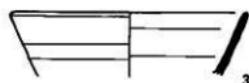
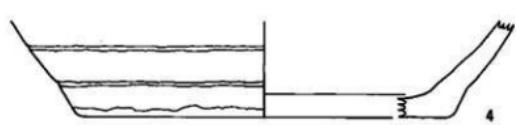
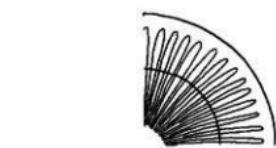
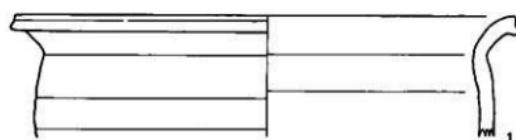
第45図 17号住居跡出土土器 ($S = 1/3$)



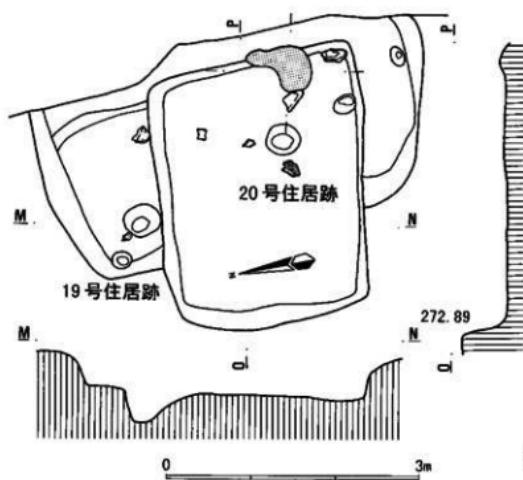
第47図 18号住居跡カマド (S=1/30)



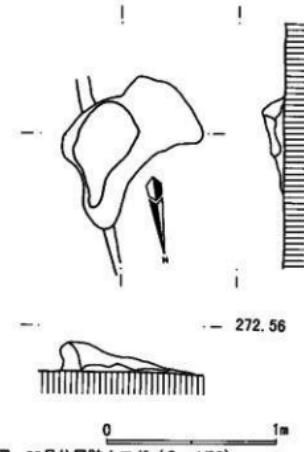
第46図 18号住居跡 (S=1/60)



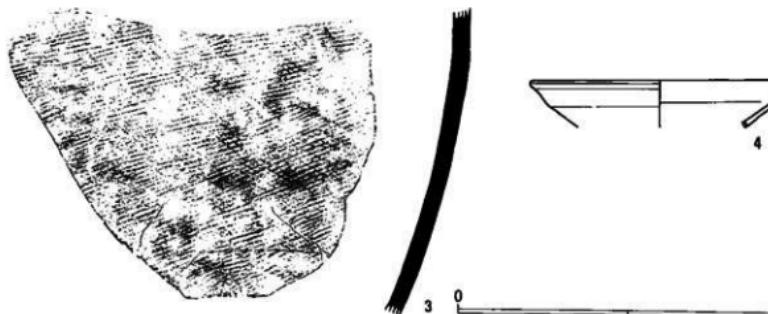
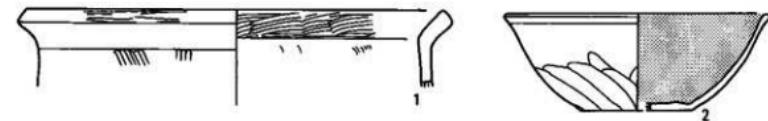
第48図 18号住居跡出土土器 (S=1/3)



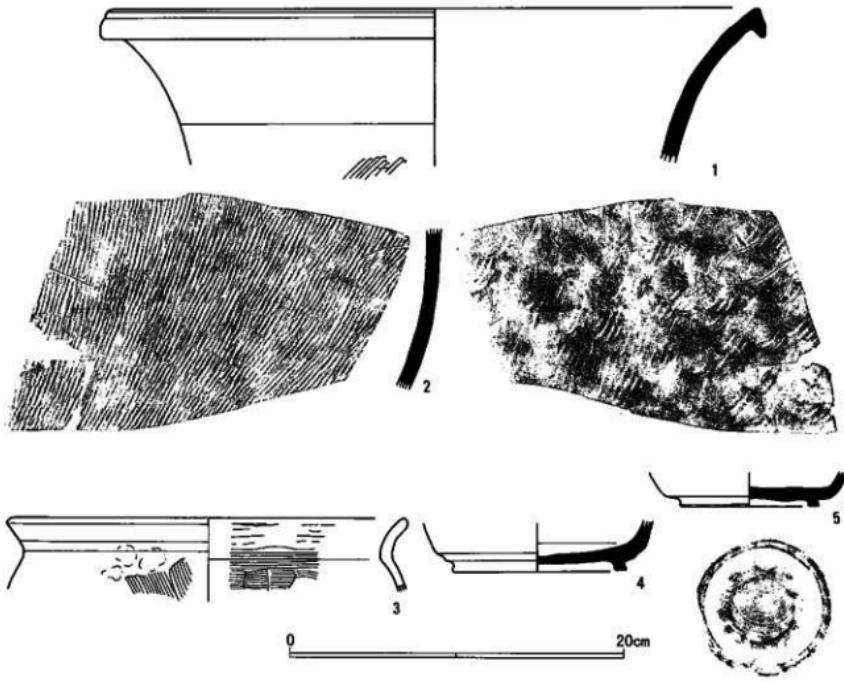
第49図 19・20号住居跡 (S=1/60)



第50図 20号住居跡カマド (S=1/30)



第51図 19号住居跡出土土器 (S=1/3)



第52図 20号住居跡出土土器 (S=1/3)

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央より南側に設けられている。袖および煙道の痕跡をわずかに残しており、支柱と思われる石も立てた状態で残存している。内部に土器片が多く散乱しているものの石組みが使用された痕跡はない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器・高台付壺形土器が出土している。

(備考) 北壁と西壁の一部が突出して土坑状になっているが、本住居跡に伴うものであるかどうかは不明である。

22号住居跡（第57・58・60図）

(形状) 南西隅を23号住居跡に切られているが、隅丸方形プランを呈するものと考えられる。

(規模) 東西410cm×南北400cmを測る。

(主軸) N-2° -W

(床面) ほぼ平坦であるが、西側がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は40cm~60cmを測る。

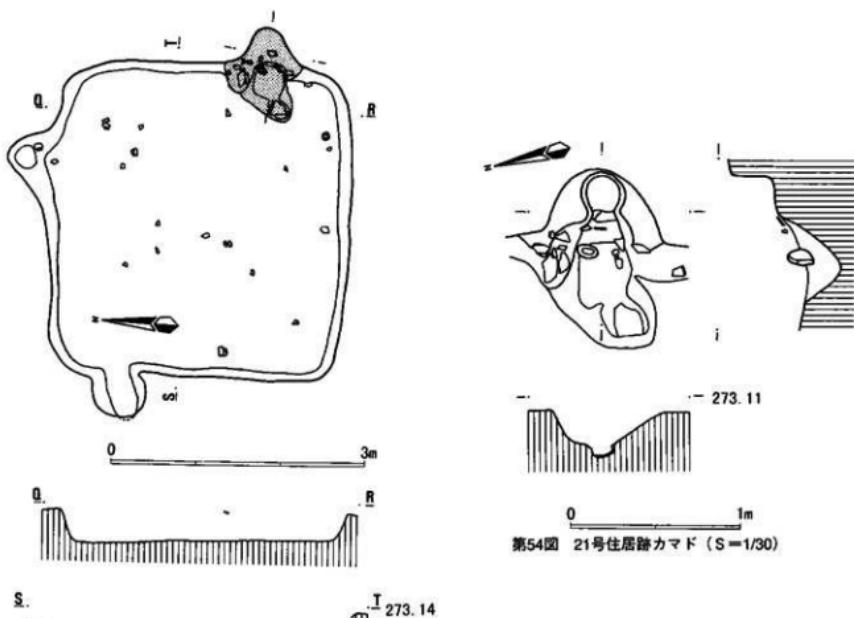
(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央に設けられている。両袖と煙道が確認できるが天井はない。石組みが利用された痕跡もない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器が出土している。

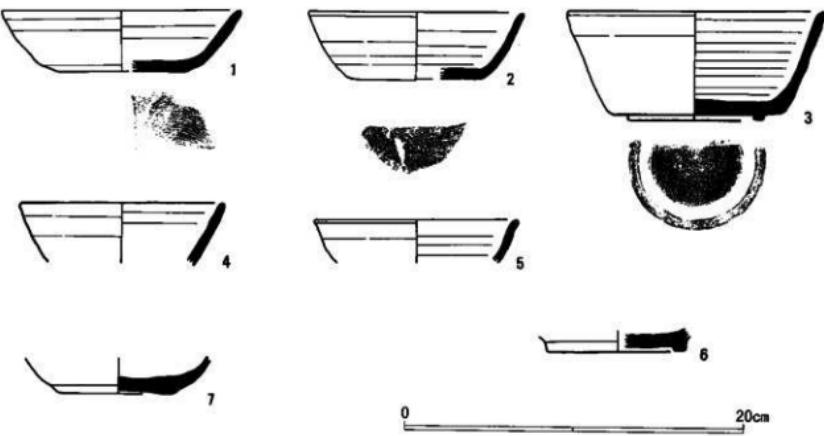
(備考) なし



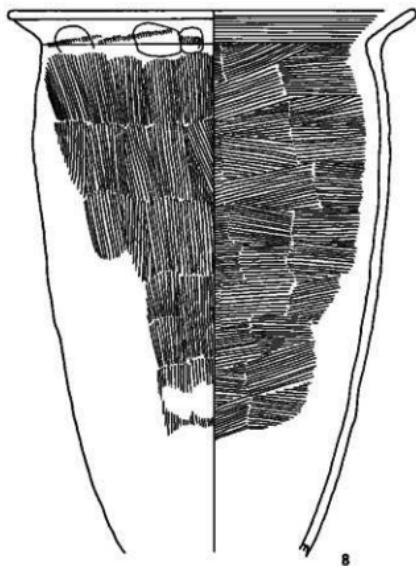
第54図 21号住居跡カマド (S=1/30)



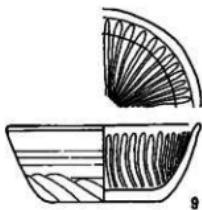
第53図 21号住居跡 (S=1/60)



第55図 21号住居跡出土土器 (1) (S=1/3)



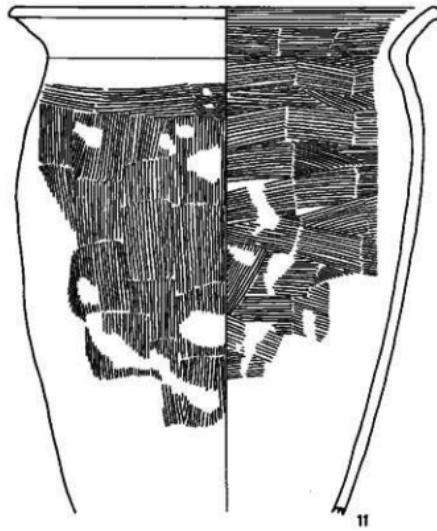
8



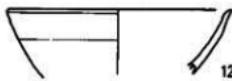
9



10



11



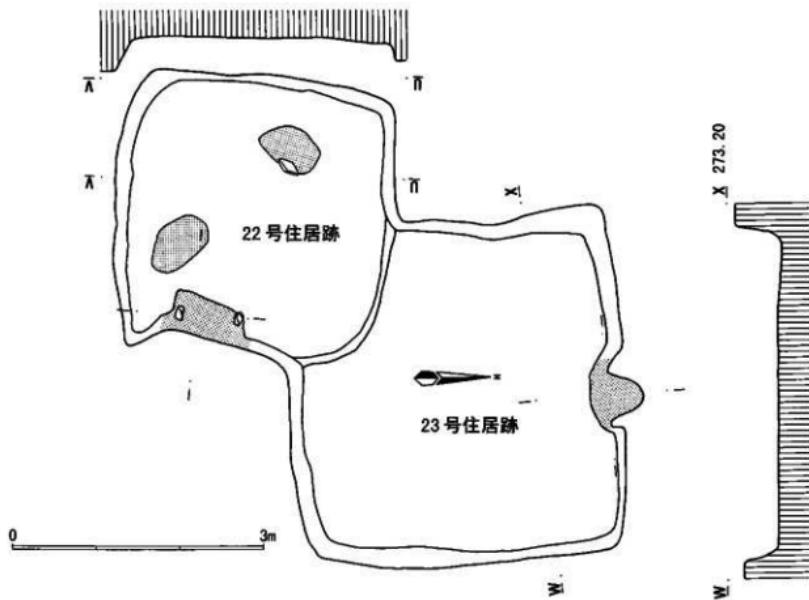
12



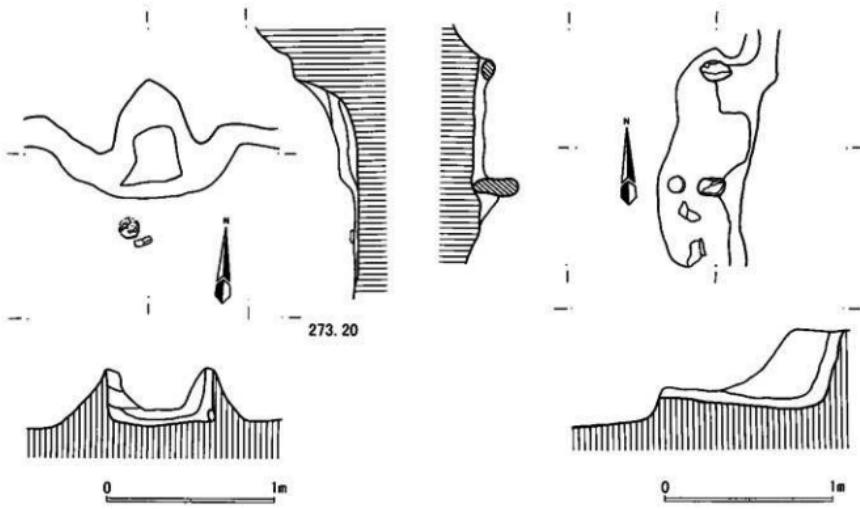
13

0 20cm

第56図 21号住居跡出土土器（2）（S=1/3）



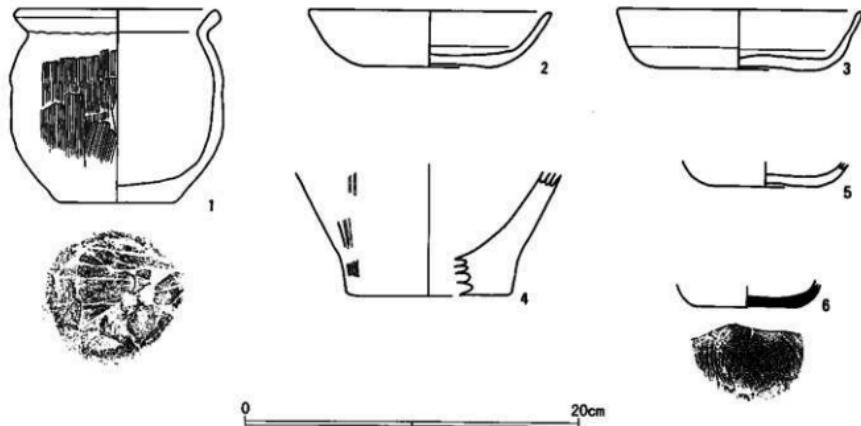
第57図 22・23号住居跡 ($S=1/60$)



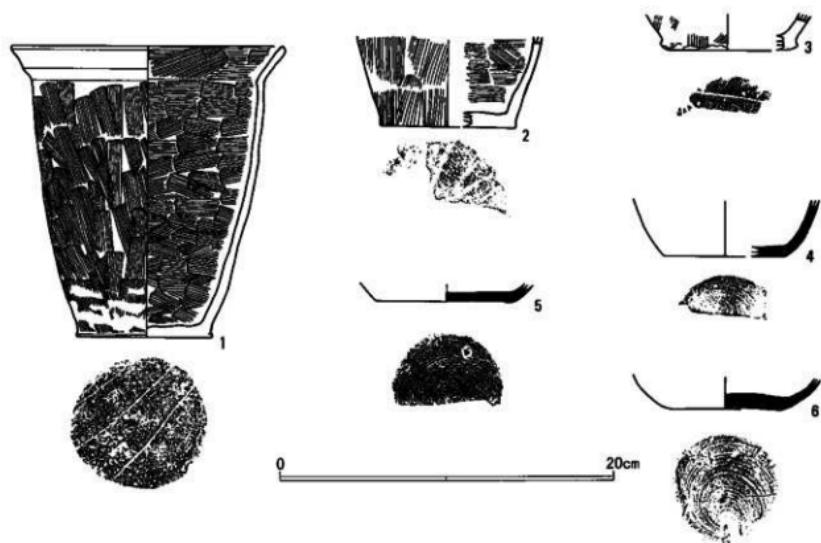
第58図 22号住居跡カマド ($S=1/30$)



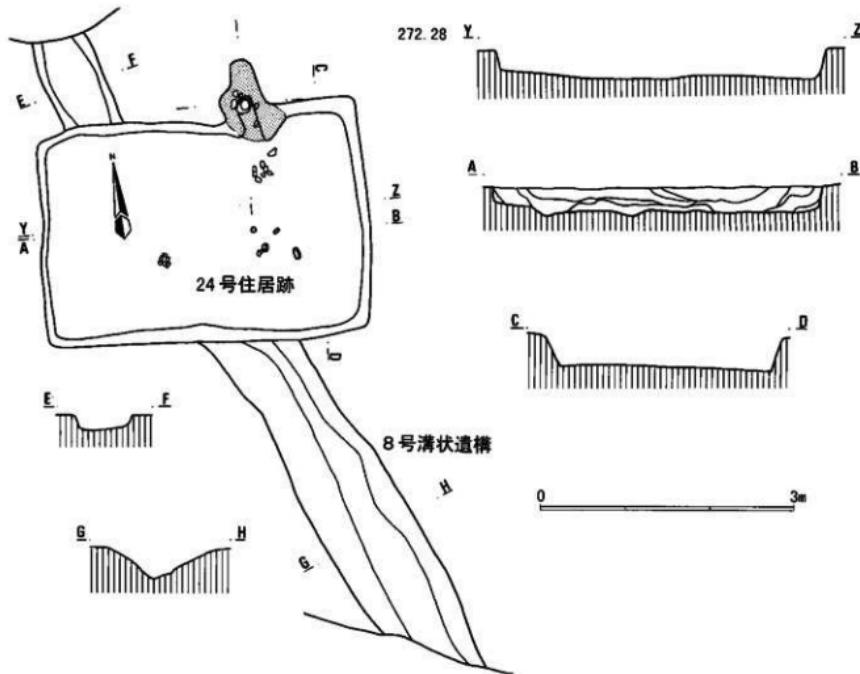
第59図 23号住居跡カマド ($S=1/30$)



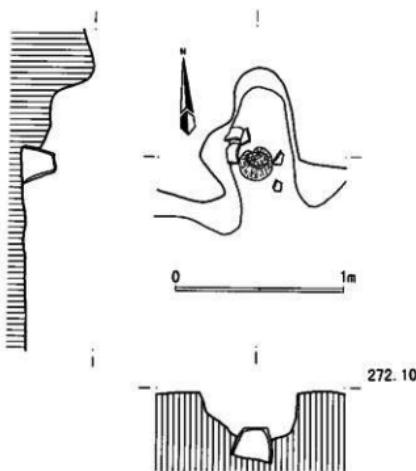
第60図 22号住居跡出土土器 (S=1/3)



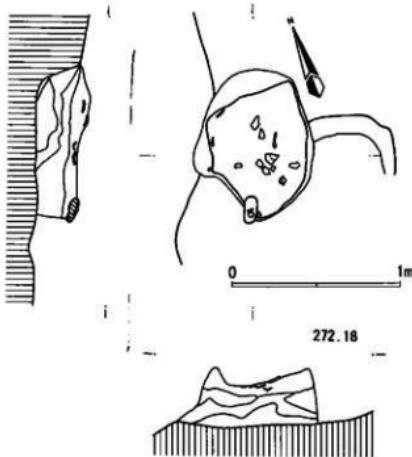
第61図 23号住居跡出土土器 (S=1/3)



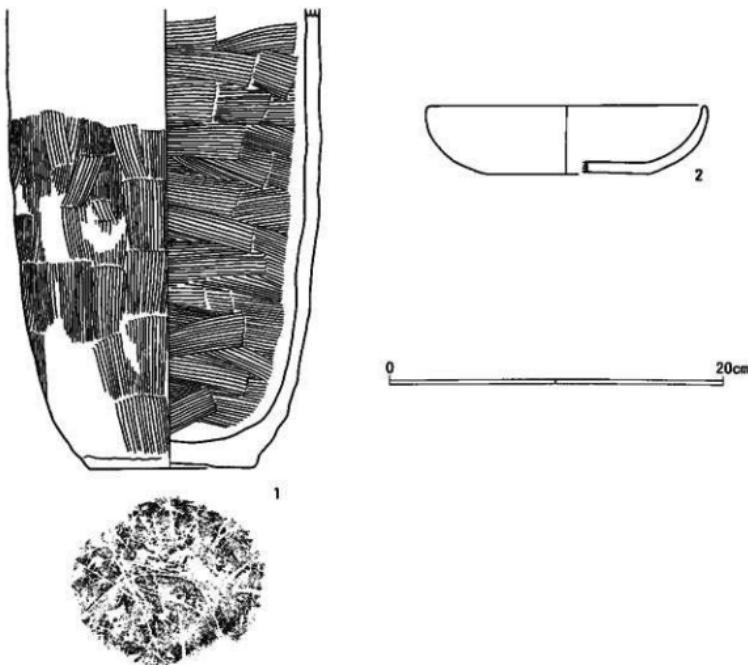
第62図 24号住居跡・8号溝状遺構 ($S=1/60$)



第63図 24号住居跡カマド ($S=1/30$)



第64図 25号住居跡カマド ($S=1/30$)



第65図 24号住居跡出土土器 (S=1/3)

23号住居跡 (第57・59・61図)

(形状) 隅丸方形プランを呈し、北東方向で22号住居跡を切っている。

(規模) 東西340cm×南北330cmを測る。

(主軸) N-95°-E

(床面) ほぼ平坦であるが南側がわずかに低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm~40cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央よりやや南寄りに設けられている。状態はあまり良くないが、両袖の一部として利用されたと思われる石が2個残されており、その間隔は80cmを測る。あとはその石の間80cm×70cmの範囲に焼土が残り、煙道の痕跡もわずかに見ることができるのみである。

(出土遺物) 土師器の菱形土器、須恵器の壺形土器が出土している。

(備考) なし

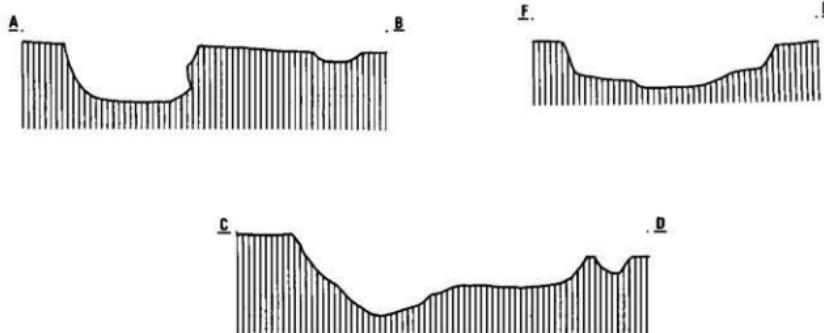
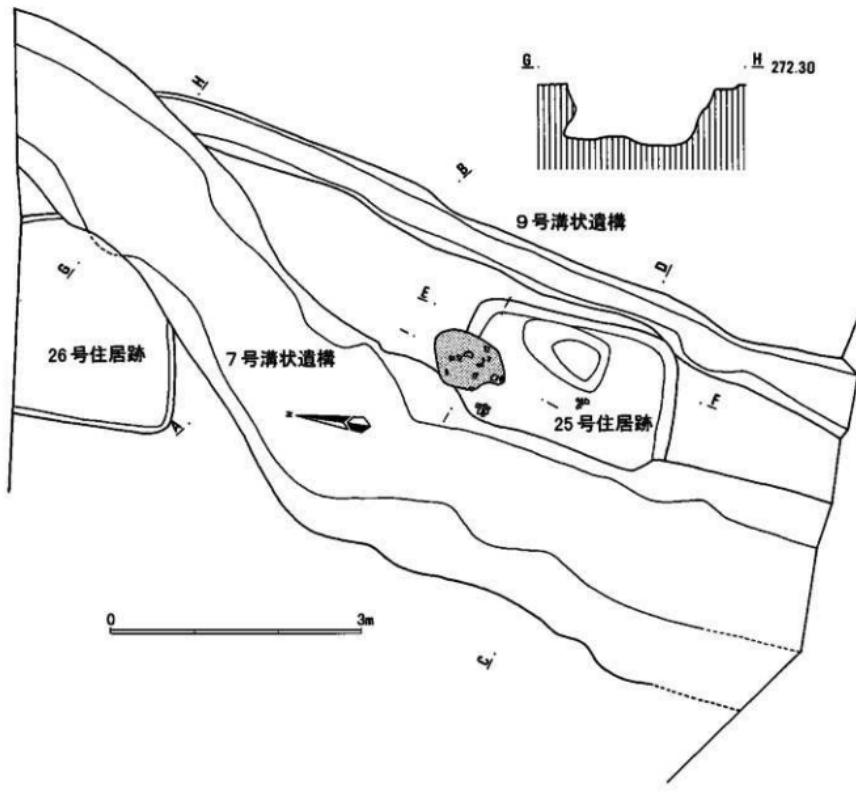
24号住居跡 (第62・63・65図)

(形状) 隅丸方形プランを呈し、8号溝状造構を切っている。

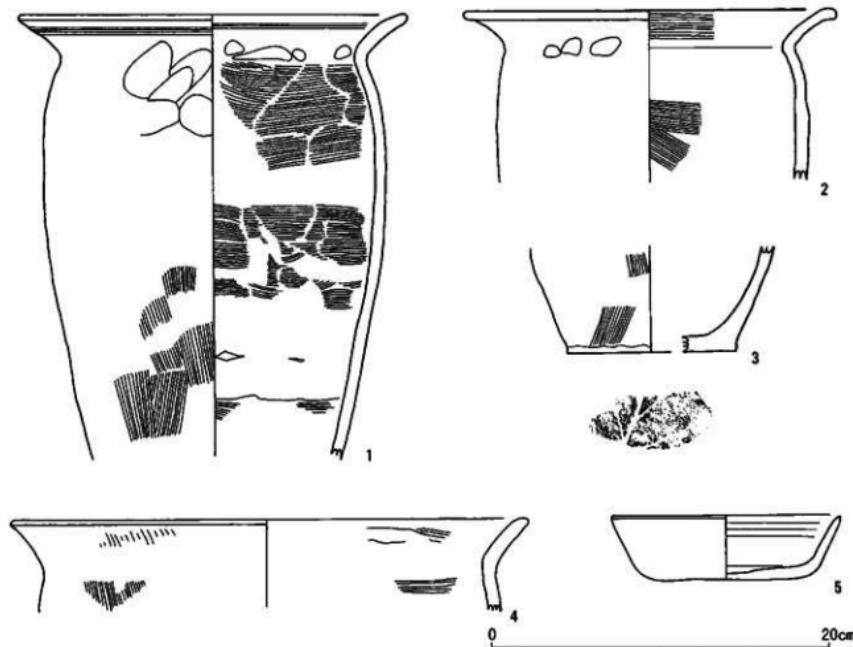
(規模) 東西400cm×南北270cmを測る。

(主軸) N-4°-E

(床面) ほぼ平坦だが、南東側がやや低くなっている。



第66図 25号住居跡、7・9号溝状遺構 ($S = 1/60$)



第67図 25号住居跡出土土器 (S=1/3)

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は25cm~40cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁中央よりやや東寄りに設けられている。両袖および煙道の残りは良い。また土師器の菱形土器の体部下半を逆に埋設して支柱として利用していた痕跡が残る。その他に石を利用した痕はない。

(出土遺物) カマドの支柱として利用していた土師器の菱形土器と他に壊形土器が出土している。

(備考) なし

25号住居跡(第64・66・67図)

(形状) 7号溝状遺構と重複しており西側半分の形状は不明である。しかし本来は7号溝状遺構の上に本住居跡が構築されていたことは出土土器の差から明白であった。(7号溝状遺構からは古墳時代前期のS字口縁土器片が出土していたが集中豪雨の際に流出してしまった。) 本来は隅丸方形プランを呈していたと思われる。

(規模) 東西160cm以上×南北270cmを測る。

(主軸) N-8°-E

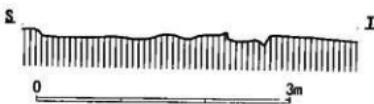
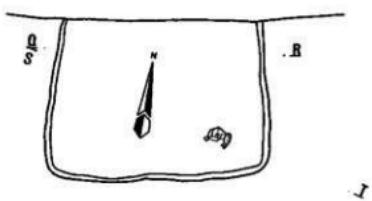
(床面) 中心部分が最も低くなっているがほぼ平坦である。東壁際に浅い落ち込みが存在する。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は30cm~40cmを測る。

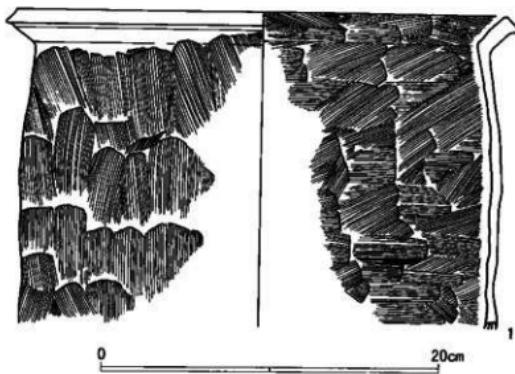
(柱穴) なし

(周溝) なし

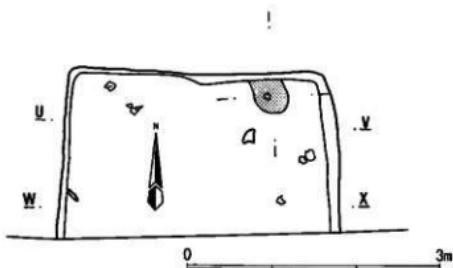
(カマド) 北壁の、おそらく中央よりは東寄りに設けられていたと考えられる。残存状態は極めて悪く、70cm×90cmの範囲に焼土が残るのみである。焼土の中からは土器片がかなり出土している。また石組みが使用



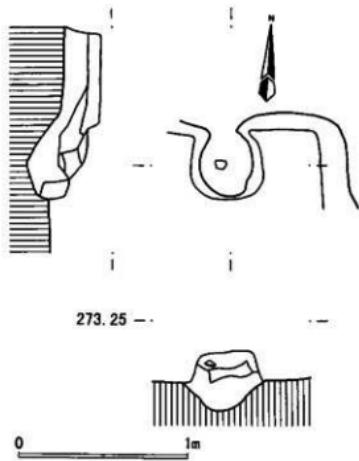
第68図 26号住居跡 ($S=1/60$)



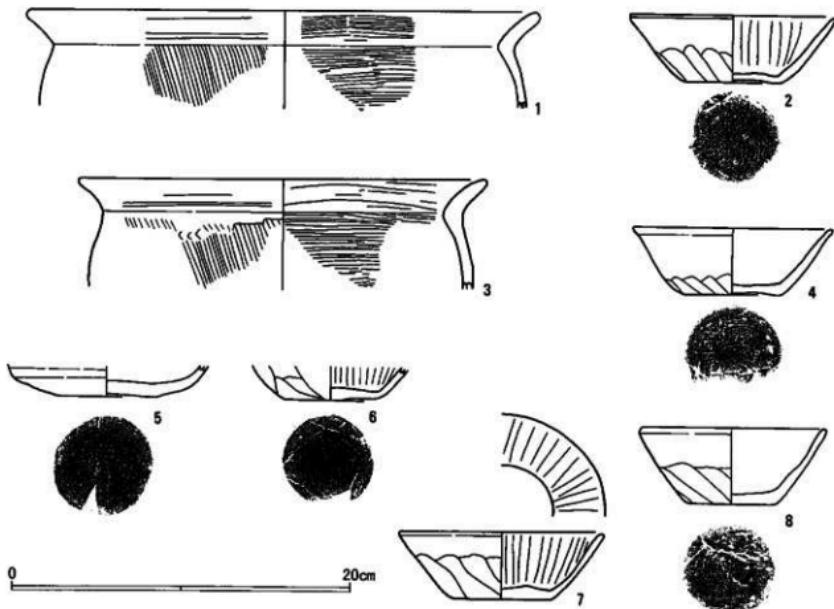
第69図 26号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



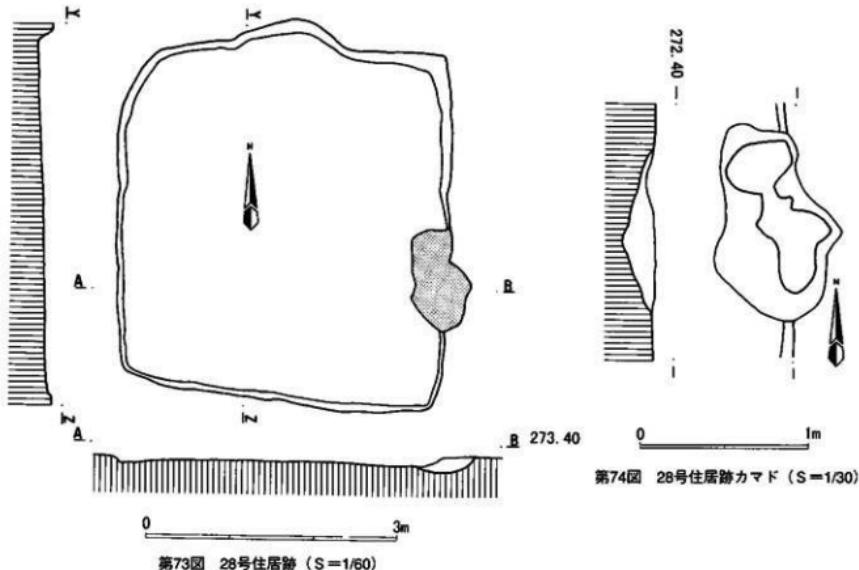
第70図 27号住居跡 (S=1/60)



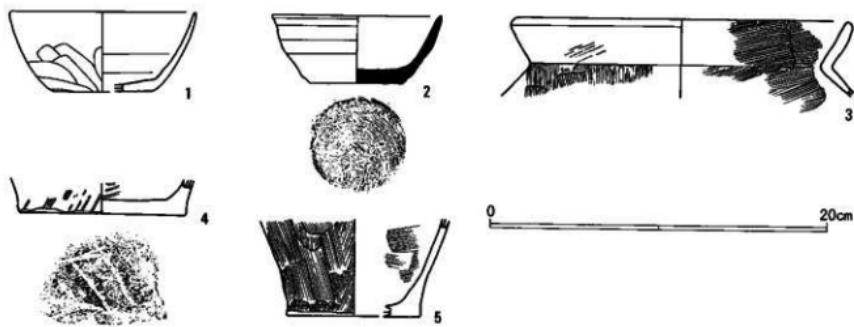
第71図 27号住居跡カマド (S=1/30)



第72図 27号住居跡出土土器 (S=1/3)



第73図 28号住居跡 (S=1/60)



第75図 28号住居跡出土土器 (1) (S=1/3)

された痕跡は全くない。

(出土遺物) 土師器の変形土器・壺形土器が出土している。

(備考) なし

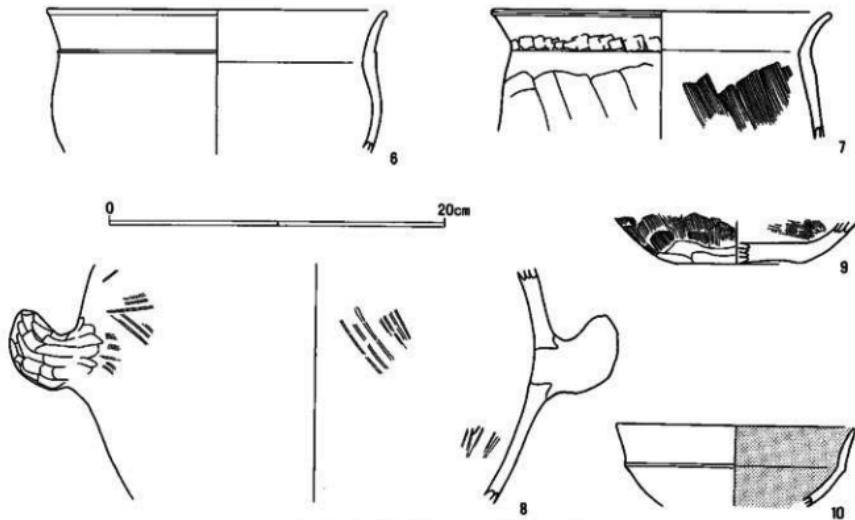
26号住居跡 (第66・68・69図)

(形状) 北壁が完全に発掘調査範囲外にかかっているために正確な形状は把握できないが、隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 東西270cm×南北250cm以上を測る。

(主軸) N-10°-W

(床面) ほぼ平坦であるが南東隅に若干の凹凸がある。



第76図 28号住居跡出土土器（2）(S=1/3)

(壁) 壁高は 6 cm～13 cm を測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 発掘調査範囲からはカマドは検出されていないが、おそらく状況から判断すれば北壁にカマドが設けられている可能性が高い。

(出土遺物) 土器の変形土器が出土している。

(備考) なし

27号住居跡（第70～72図）

(形状) 南壁が完全に発掘調査範囲外にかかっているために正確な形状は把握できないが、隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 東西330cm×南北230cm以上を測る。

(主軸) N-2° -W

(床面) ほぼ平坦であるが東側がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は30cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりやや東寄りに設けられている。残存状態は極めて悪く40cm×40cmの範囲に焼土が残るのみである。石組みが使用された痕跡は全くない。

(出土遺物) 土器の変形土器・壺形土器が出土している。

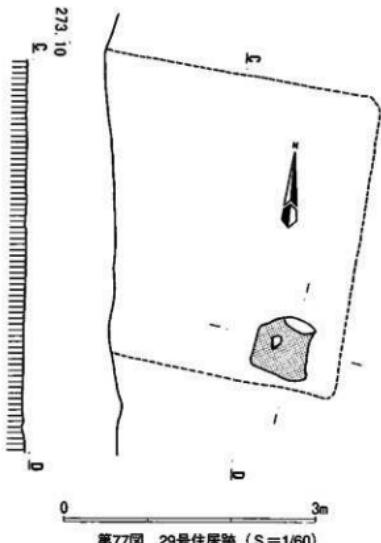
(備考) なし

28号住居跡（第73～76図）

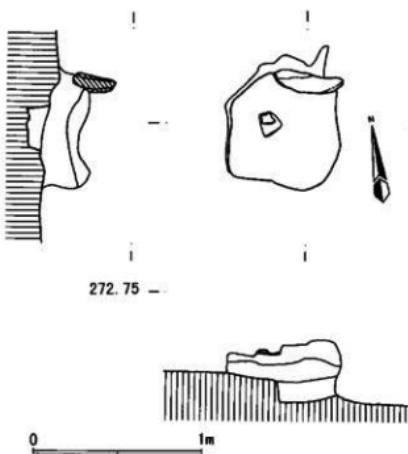
(形状) 形状は整ってはいないものの隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西400cm×南北430cmを測る。

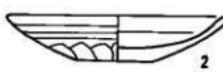
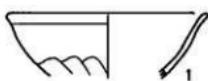
(主軸) N-95° -E



第77図 29号住居跡 (S=1/60)



第78図 29号住居跡カマド (S=1/30)



第79図 29号住居跡出土土器 (S=1/3)

(床面) ほぼ平坦であるが北側がやや低くなっている。

(壁) 壁高は6cm～20cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央からやや南寄りに設けられているが、残存状態は極めて悪い。70cm×120cmの範囲に焼土が残るのみである。袖や煙道、石組み等の痕跡も全く見られない。

(出土遺物) 1～5の土器は本住居跡に伴うものである。土師器の変形土器・坏形土器、須恵器の坏形土器等が出土している。6～10は本住居跡とは無関係と思われる。

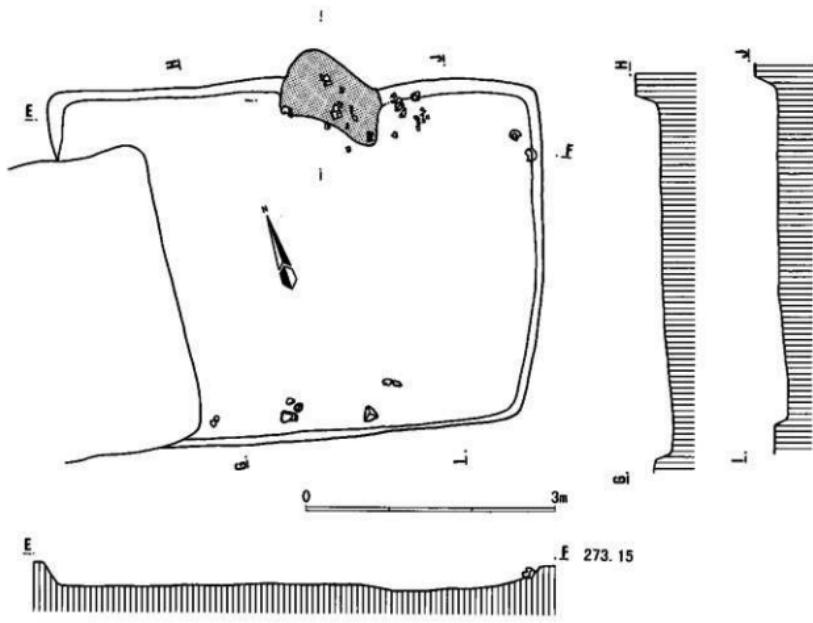
(備考) 第76図の土器はカマドを調査した際に出土した土器群である。いずれも古墳時代後期に属するものであり、本住居跡の下層に同時期の住居跡の存在が想定された。しかしカマドの調査後に付近を精査したが、その存在を明らかにすることはできなかった。

29号住居跡（第77～79図）

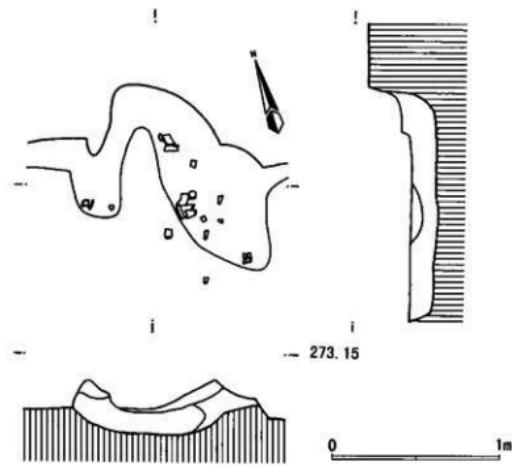
(形状) 壁を確認できなかつたため正確な形状は不明である。確認できた床の範囲から推定して隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 一辺約400cm前後を測るほどと思われる。

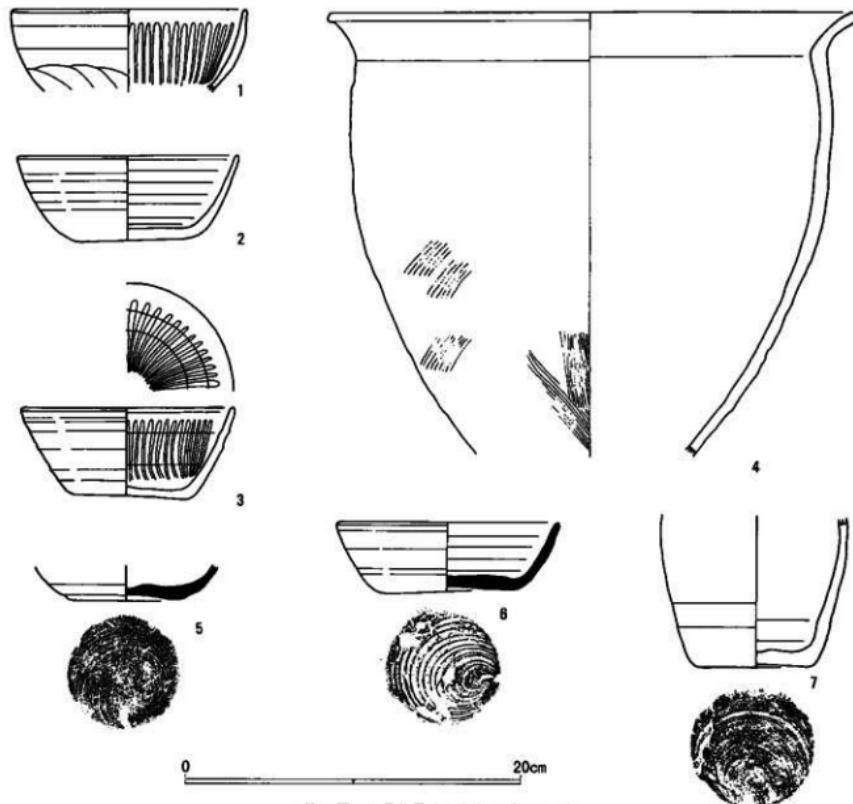
(主軸) N-97° -E



第80図 30号住居跡 (S=1/60)



第81図 30号住居跡カマド (S=1/30)



第82図 30号住居跡出土土器 ($S=1/3$)

(床面) ほぼ平坦であるがかなりの擾乱を受けており状態は良くなかった。

(カマド) 推定されるプランからすると、東壁の中央より南寄りに設けられていたと思われる。状態は極めて悪く、 $70\text{cm} \times 70\text{cm}$ の範囲に焼土が残り、北側の袖石として利用されたと思われる平石が立ったまま残っていた。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器が出土している。

30号住居跡 (第80~82図)

(形状) 南西部分を31号住居跡に切られているが隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西 $580\text{cm} \times$ 南北 440cm を測る。

(主軸) N- 19° -E

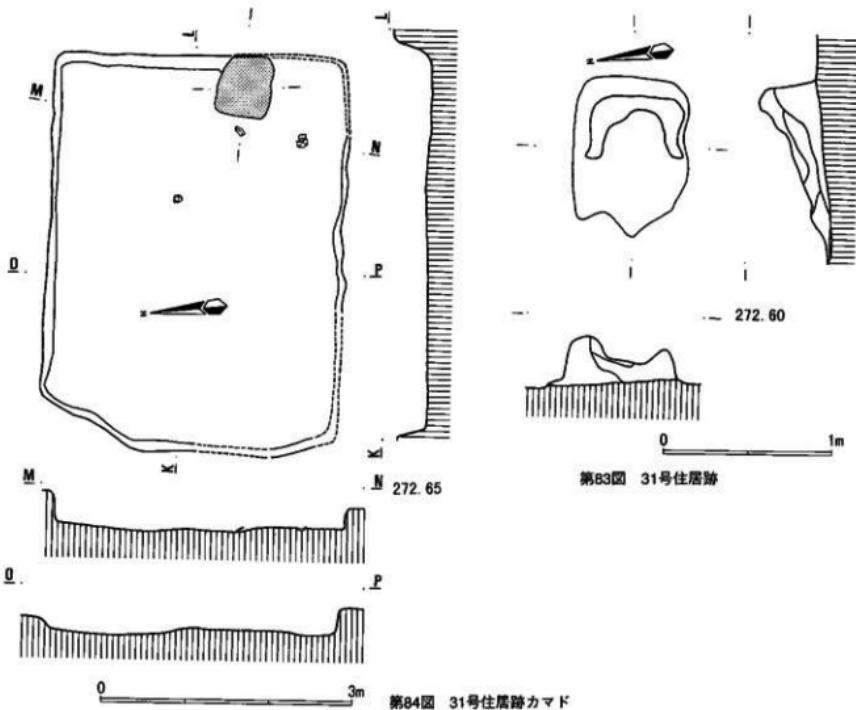
(床面) ほぼ平坦であるが、南側がやや低くなっている。

(壁) 壁高は $17\text{cm} \sim 28\text{cm}$ を測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりわずかに東側に設けられている。焼土が $110\text{cm} \times 140\text{cm}$ の範囲に認められる。状態は



第83図 31号住居跡

第84図 31号住居跡カマド

あまり良くないが、両袖と煙道の痕跡を僅かに残している。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器を出土している。

(備考) なし

31号住居跡 (第83~85図)

(形状) 所々壁を欠損しているが不整隔丸方形プランを呈する。

(規模) 東西480cm×南北360cmを測る。

(主軸) N-95°-E

(床面) 全般的にはほぼ平坦といえるが、南北側が僅かに低くなっている上に、多少凹凸が見られる。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は30cm~45cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

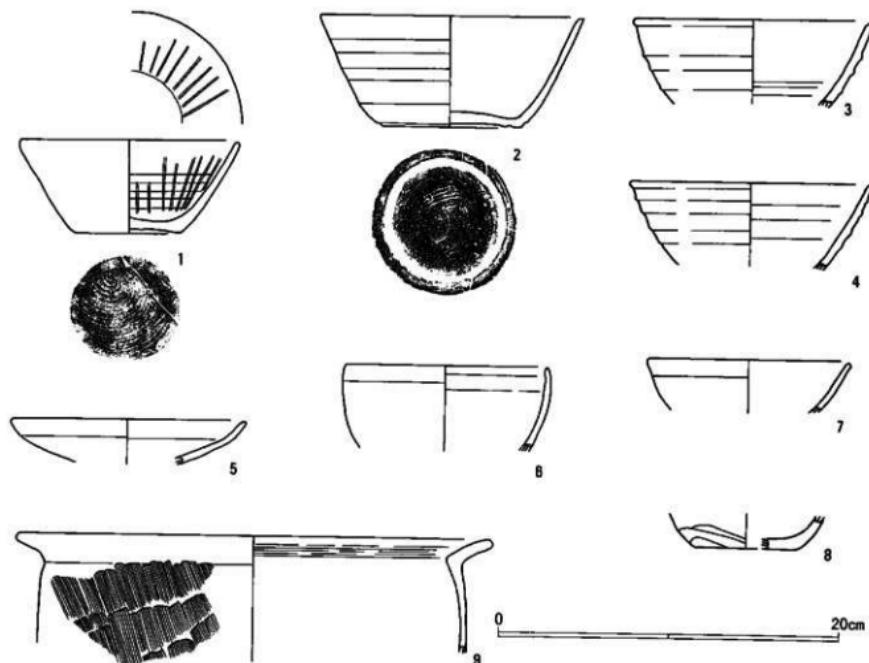
(カマド) 東壁の中央よりやや東寄りに設けられているが、状態は極めて悪い。70cm×80cmの範囲に焼土を残すのみである。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器・壺形土器が出土している。

(備考) なし

32号住居跡 (第86~88図)

(形状) 東壁の一部、カマド部分、床面の一部しか確認できなかったため正確な形状は不明である。おそらく



第85図 31号住居跡出土土器

は隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 推定で東西700cm、南北も同等規模の比較的大型の住居跡と思われる。

(主軸) N-22° -E

(床面) ほぼ平坦である。

(壁) 壁高は東壁の一部のみで計測でき13cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁のほぼ中央に設けられていたと考えられる。焼土が110cm×70cmの範囲で認められ、両袖の一部として利用されたと思われる拳大の礫が4個残っている。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・甕形土器、須恵器の壺形土器・甕形土器が出土している。

(備考) なし

33号住居跡（第89・90図）

(形状) 東壁から南壁にかけて壁を欠損しているが隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 東西430cm×南北320cmを測る。

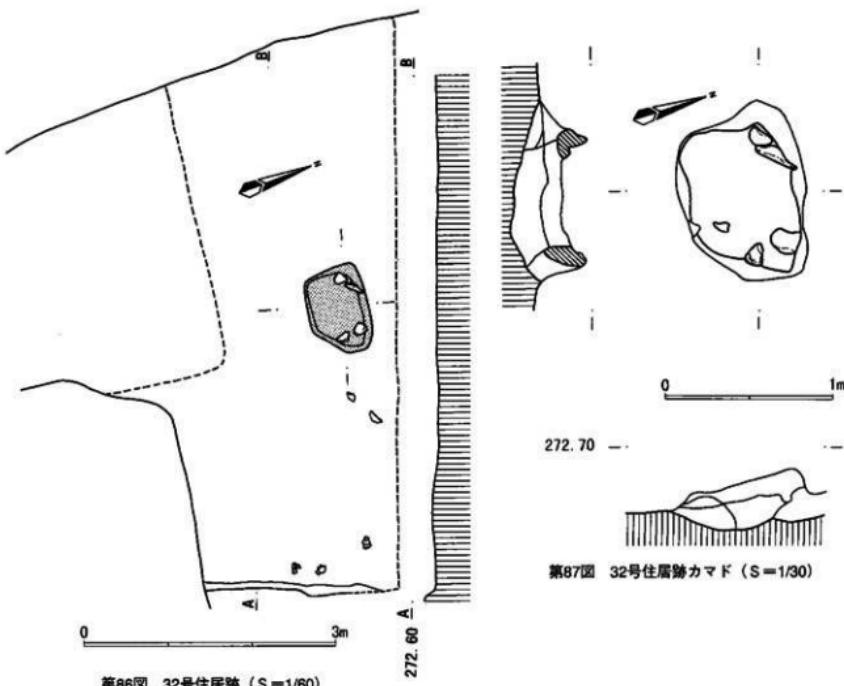
(主軸) N-95° -E

(床面) ほぼ平坦であるが南東方向がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は27cm~50cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし



第87図 32号住居跡カマド (S=1/30)

第86図 32号住居跡 (S=1/60)

(カマド) 住居跡南東隅に近いところに僅かに焼土が残りカマドの痕跡をとどめているようである。

(出土遺物) 土師器の壺形土器および墨書きを伴うものを含む土師器の壺形土器を出土している。

(備考) なし

34号住居跡（第91～93図）

(形状) 大半が発掘調査区域外に属するため正確な形状は不明である。北東隅とカマドから推定して隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 東西210cm以上×南北370cm以上を測る。

(主軸) N-85°-E

(床面) ほぼ平坦である。

(壁) 壁高は15cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

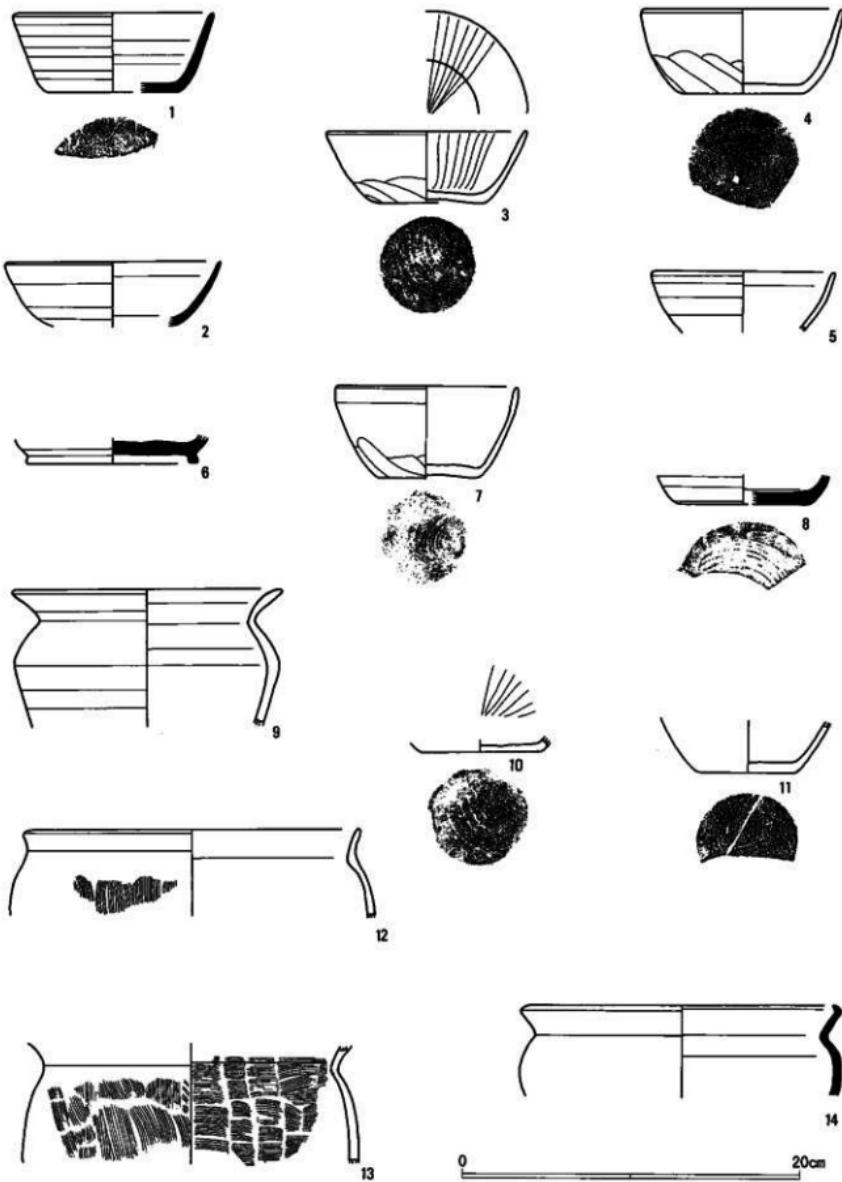
(カマド) 東壁のおそらく中央よりやや南寄りに設けられているものと思われる。焼土が75cm×65cmの範囲で残るのみで、両袖や煙道は痕跡さえも残ってはいなかった。

(出土遺物) 土師器の壺形土器を出土している。

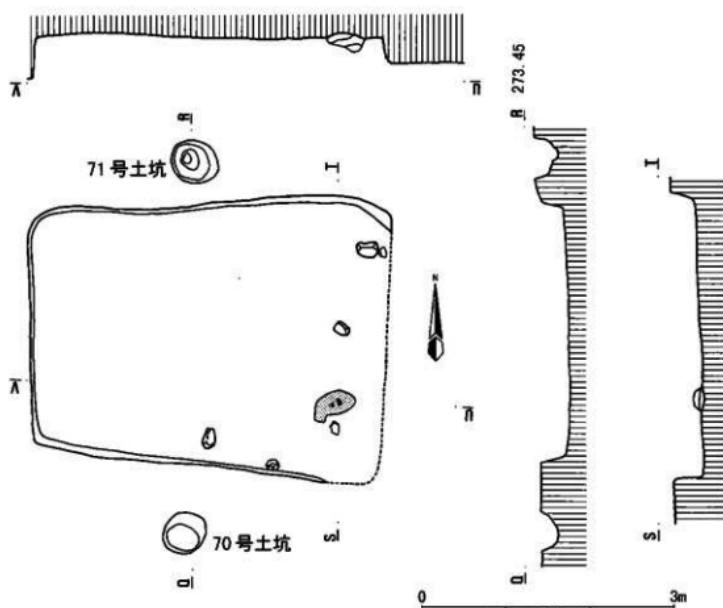
(備考) なし

35号住居跡（第94～99図）

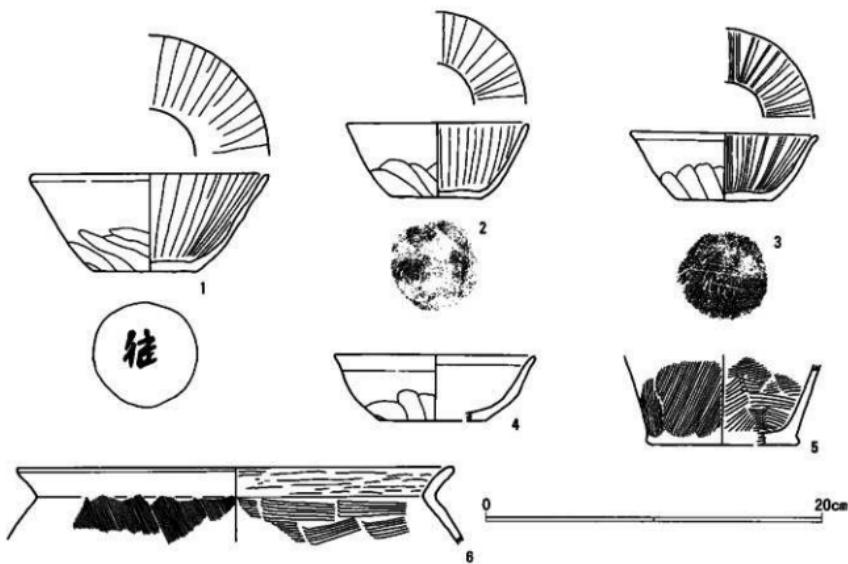
(形状) 不整隅丸方形プランを呈する。



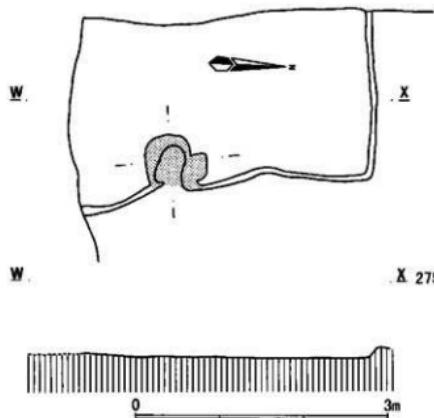
第88圖 32號住居跡出土土器 ($S = 1/3$)



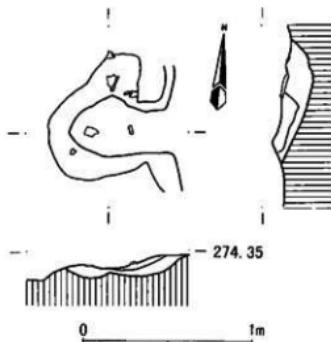
第89図 33号住居跡、70・71号土坑 ($S=1/60$)



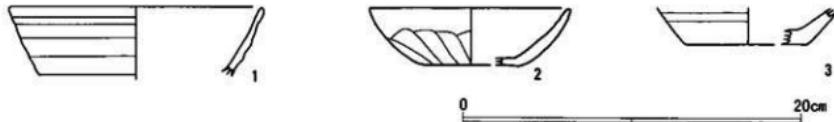
第90図 33号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



第91図 34号住居跡 (S=1/60)



第92図 34号住居跡カマド (S=1/30)



第93図 34号住居跡出土土器 (S=1/3)

(規模) 東西480cm×南北400cmを測る。

(主軸) N-14° -E

(床面) ほぼ平坦であるが南西方向がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm~40cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりわずかに東寄りに設けられている。煙道の痕跡も僅かに残り、両袖も形状が理解できる。石組みを利用した跡は確認できない。

(出土遺物) 本遺跡中で最も遺物を多量に出土した住居跡の一つである。土器器の壺形土器21点をはじめ、蓋壺・甕形土器、須恵器の壺形土器・蓋壺・甕形土器、革帶、砥石等多くの遺物が確認された。

(備考) なし

36号住居跡 (第100~102図)

(形状) 隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西440cm×南北430cmを測る。

(主軸) N-90° -E

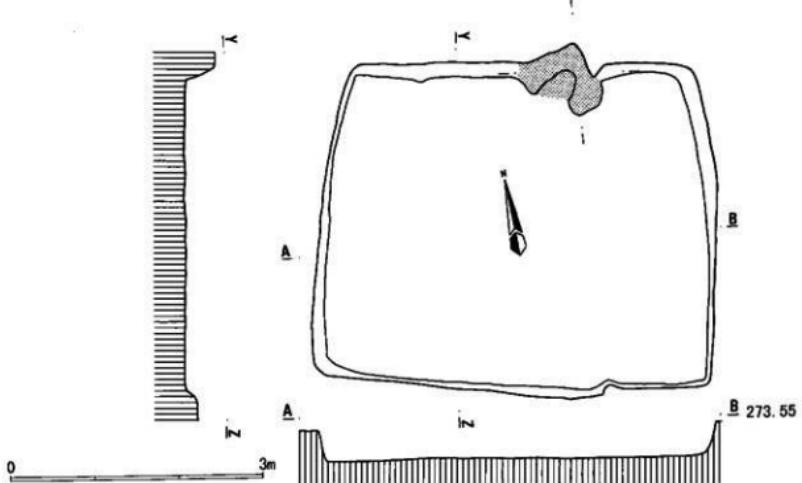
(床面) ほぼ平坦であるが、南西側がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm~50cmを測る。

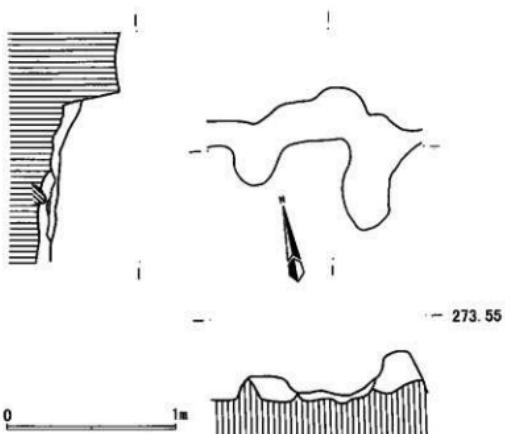
(柱穴) なし

(周溝) なし

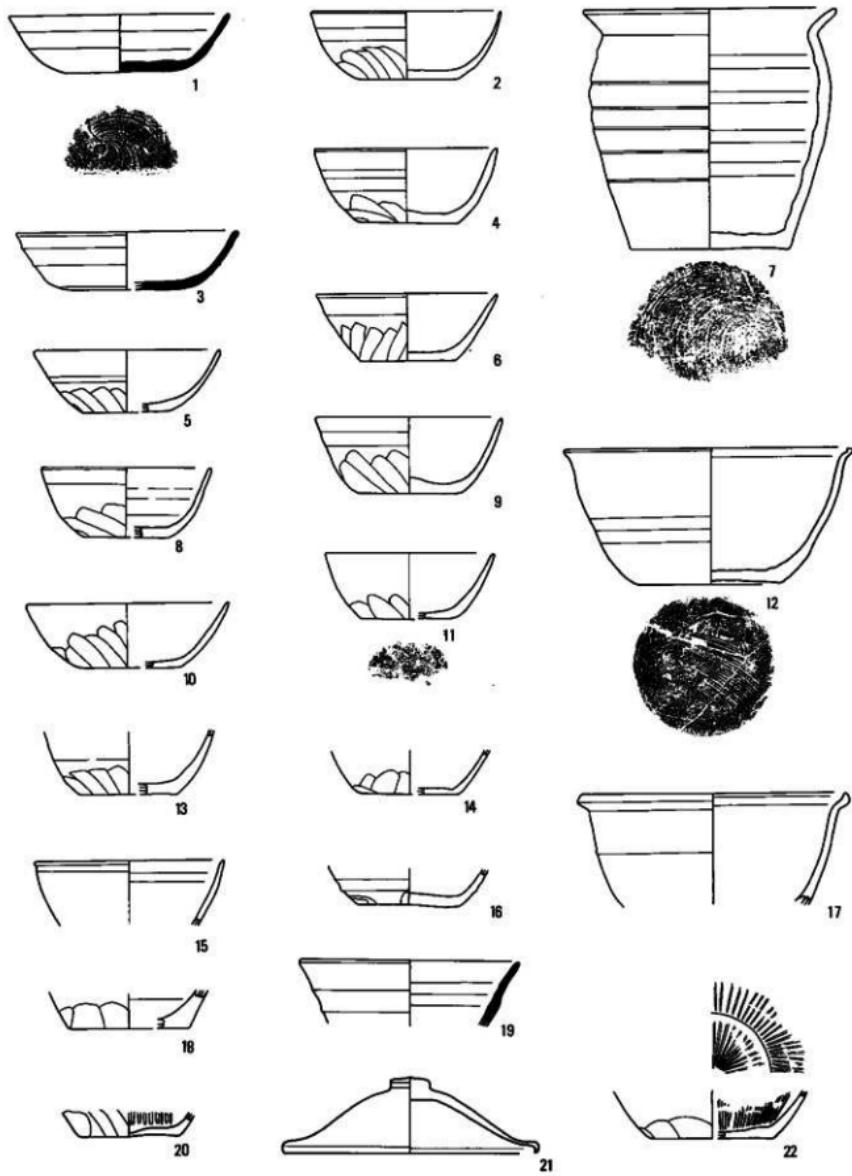
(カマド) 東壁中央よりやや南寄りに設けられている。焼土が55cm×40cmの範囲に拡がっており、南側の袖がその痕跡を残しているが、北側の袖や煙道は形状がほとんど認められない。



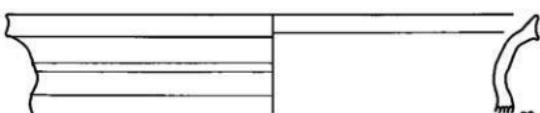
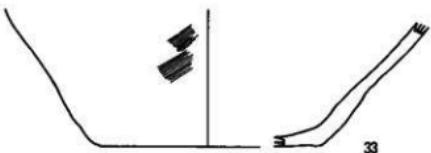
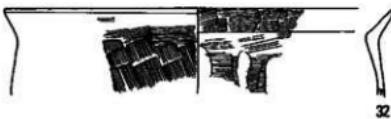
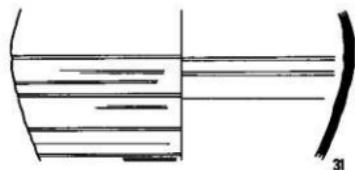
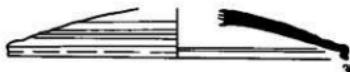
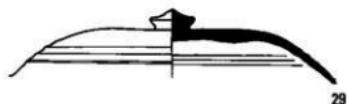
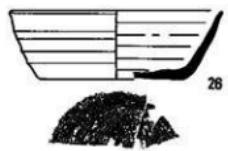
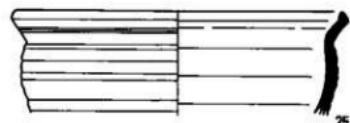
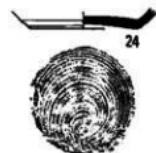
第94図 35号住居跡 (S = 1/60)



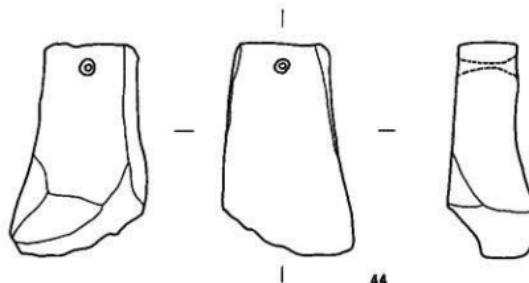
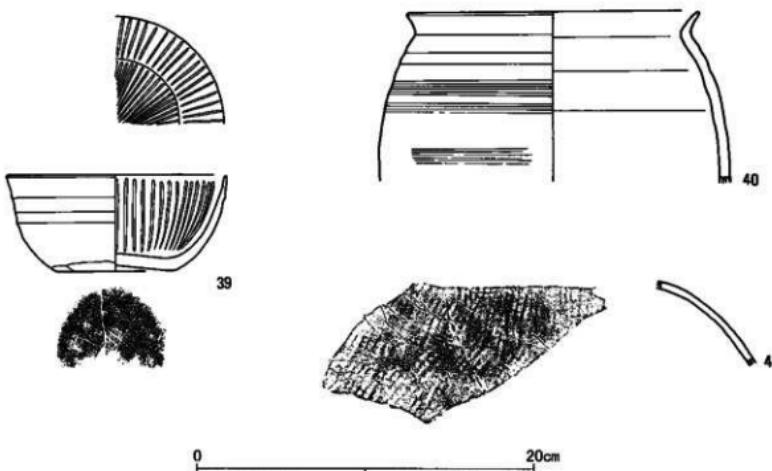
第95図 35号住居跡カマド (S = 1/30)



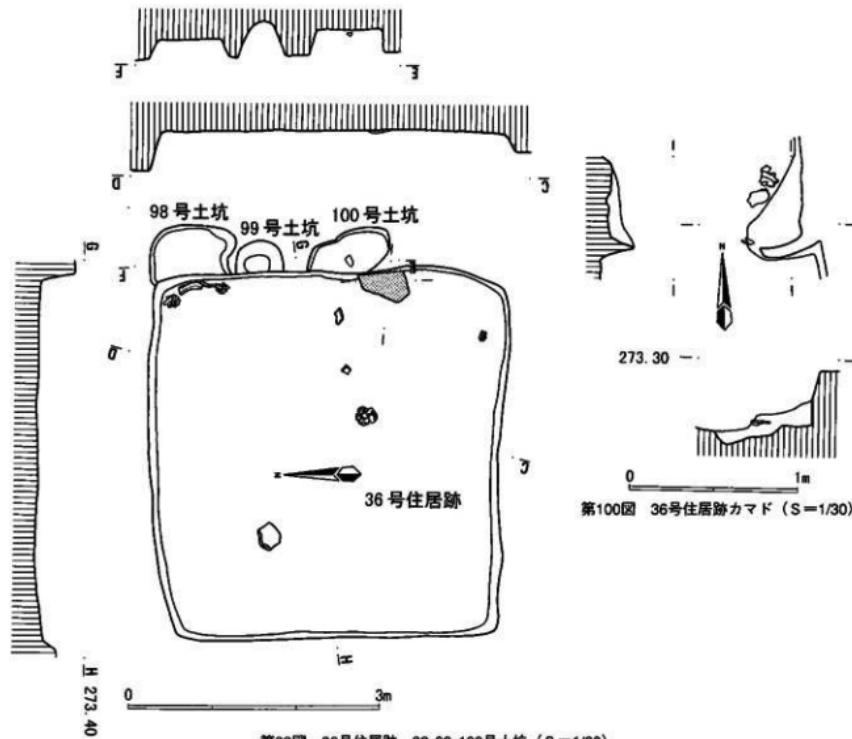
第96圖 35號住居跡出土土器 (1) ($S = 1/3$)



第97図 35号住居跡出土土器 (2) ($S = 1/3$)



第98図 35号住居跡出土土器（3）（S=1/3）・石器（S=2/3）



第99図 36号住居跡、98-99-100号土坑 (S=1/60)

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器が出土している。

(備考) 東壁に沿って98号～100号土坑が重複しているが、明確な新旧関係は明らかにはできなかった。

37号住居跡 (第103～105図)

(形状) 北壁と東壁の大半が失われているために正確な形状は把握できない。南西・南東隅とカマドの状況からすれば、隅丸方形プランを呈すると思われる。

(規模) 東西430cm×南北410cmを測る。

(主軸) N-9°-E

(床面) 全体がほぼ平坦である。

(壁) 壁高は25cm～30cmを測る。

(柱穴) なし

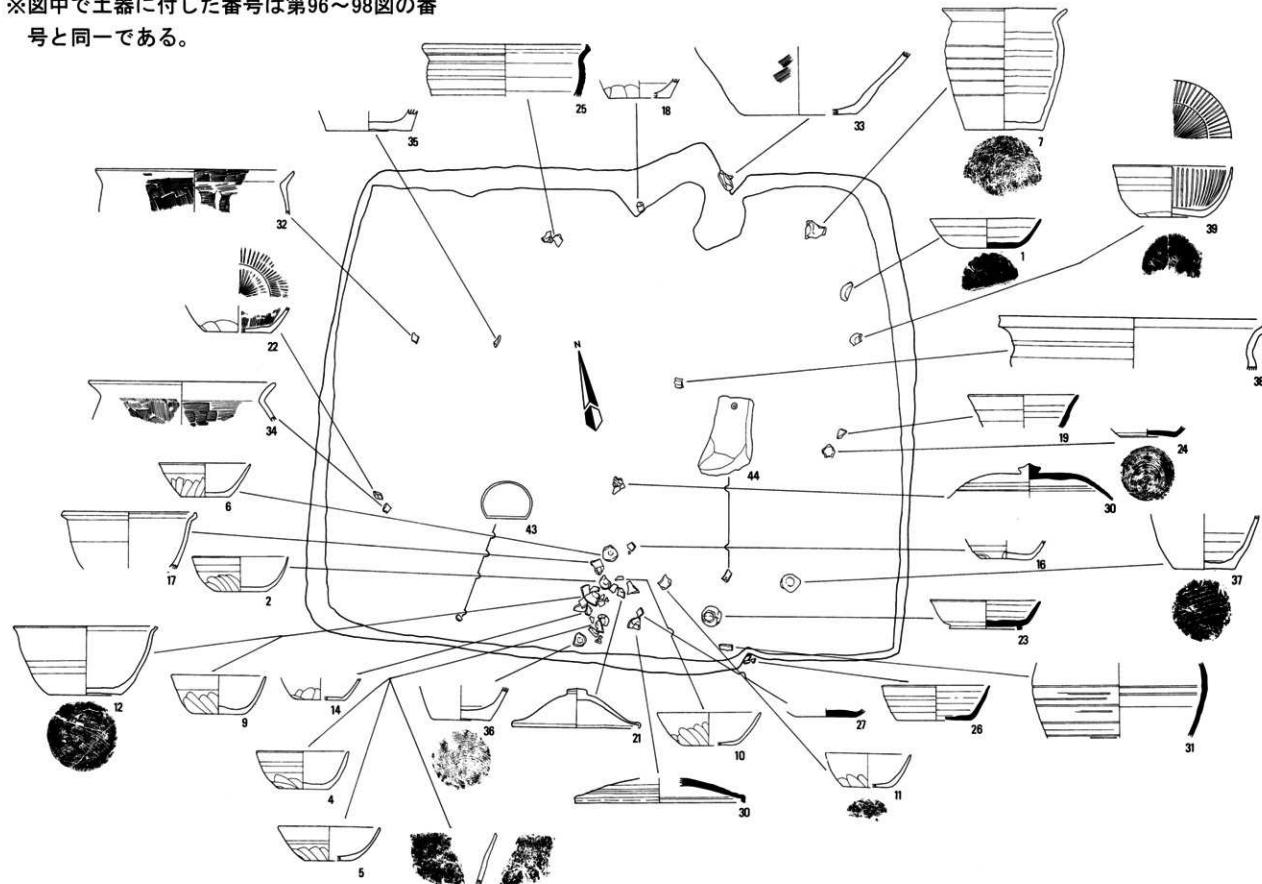
(周溝) なし

(カマド) 北壁の北西隅に近いところに設けられていたようであるが、状態は極めて悪い。ほとんど崩れた状態で焼土のみが150cm×70cmの範囲に残っている。

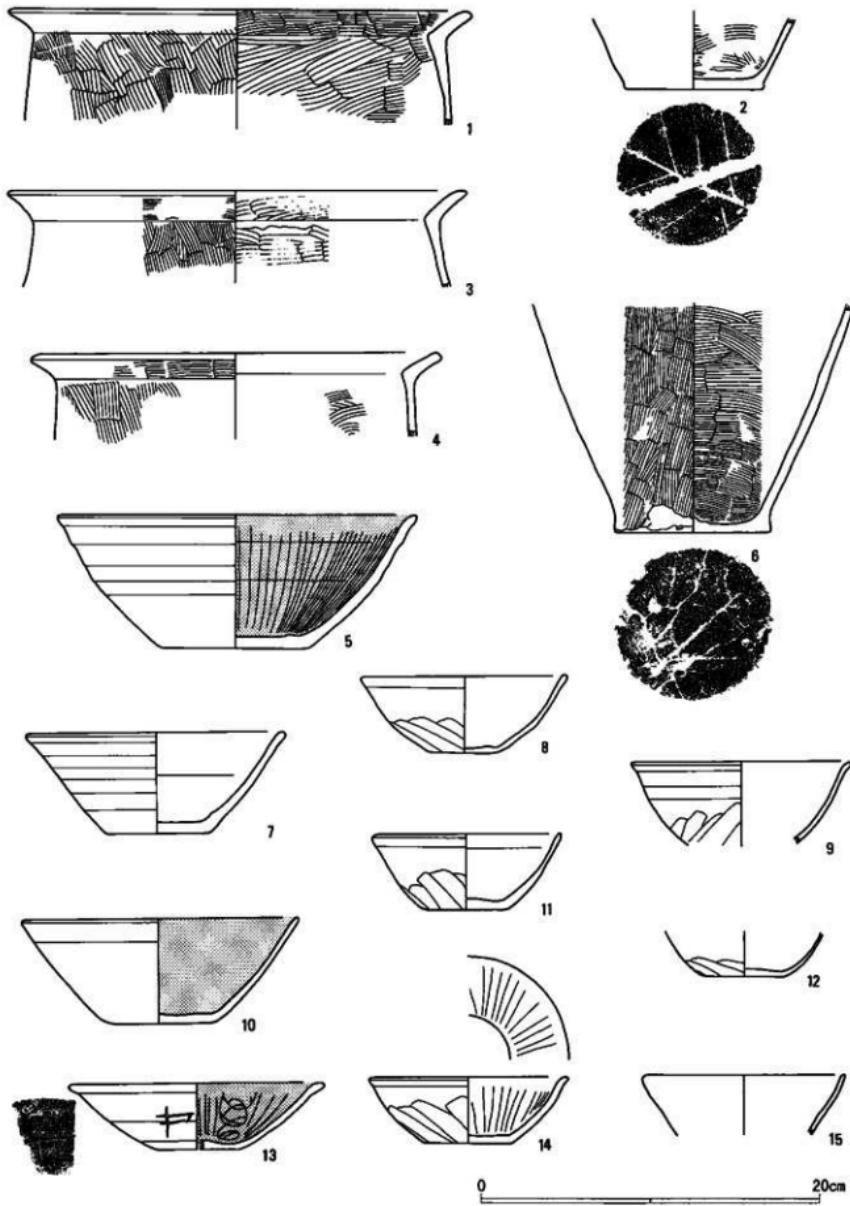
(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・皿形土器が出土している。

(備考) なし

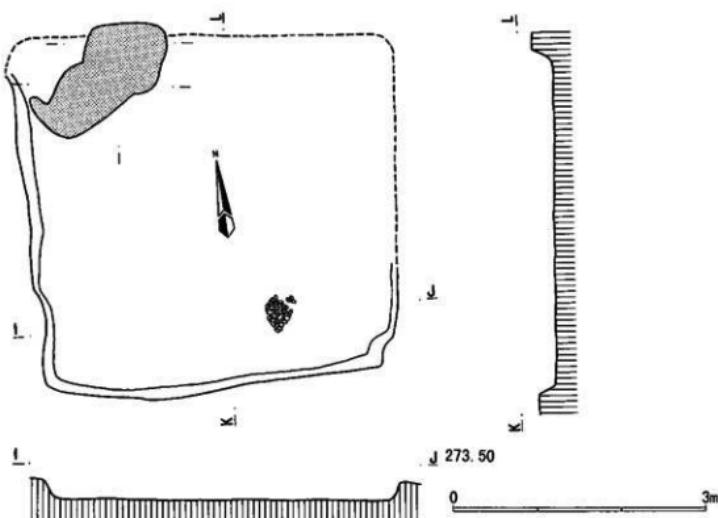
※図中で土器に付した番号は第96～98図の番号と同一である。



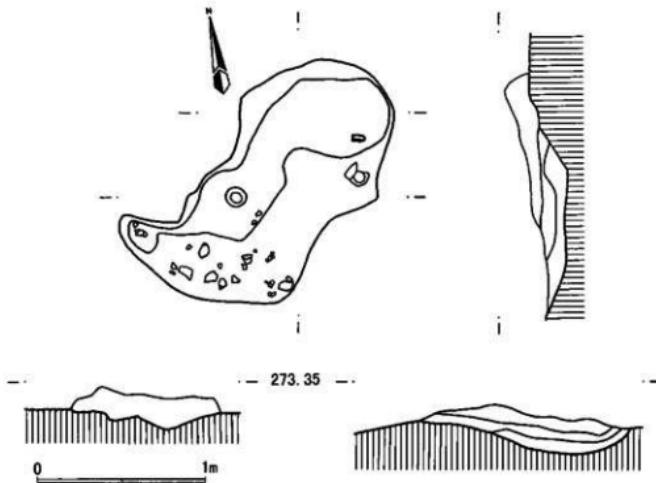
第101図 35号住居跡遺物位置図 (1/2)



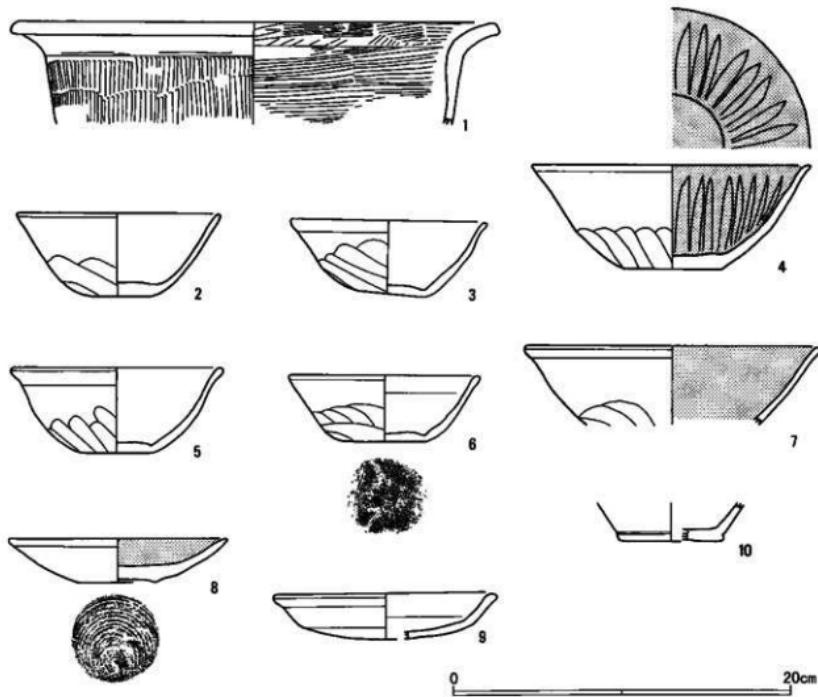
第102圖 36號住居跡出土土器 ($S=1/3$)



第103図 37号住居跡 (S=1/60)



第104図 37号住居跡カマド (S=1/30)



第105図 37号住居跡出土土器 (S=1/3)

38号住居跡 (第106~108図)

(形狀) 北西隅と南東隅の部分以外は失われているため正確な形状は把握できないが、隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 推定で東西320cm×南北300cmを測ると思われる。

(主軸) N-95°-E

(床面) 全体的にはほぼ平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は残っている部分で25cm~30cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央より南寄りに設けられており、65cm×70cmの範囲に焼土が拡がっている。両袖の形状が僅かに残っているようであるが、煙道は痕跡もない。石組みが利用されていたようで礫が幾つか残っている。

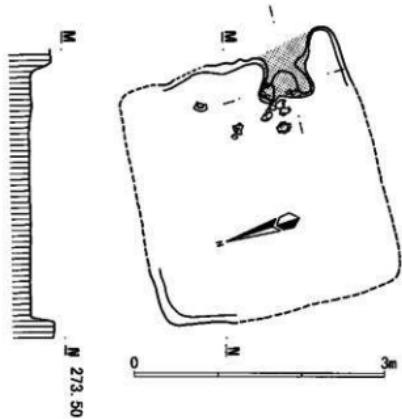
(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器・壺形土器、須恵器の壺形土器等が出土している。9の土器は類例を探したが見つからず形態不明の土師器である。

(備考) なし

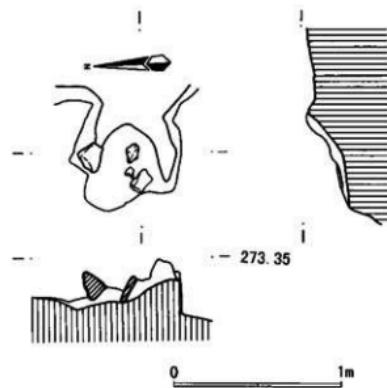
39号住居跡 (第109~111図)

(形狀) 南東隅を36号住居跡に切られているが隅丸方形プランを呈する。

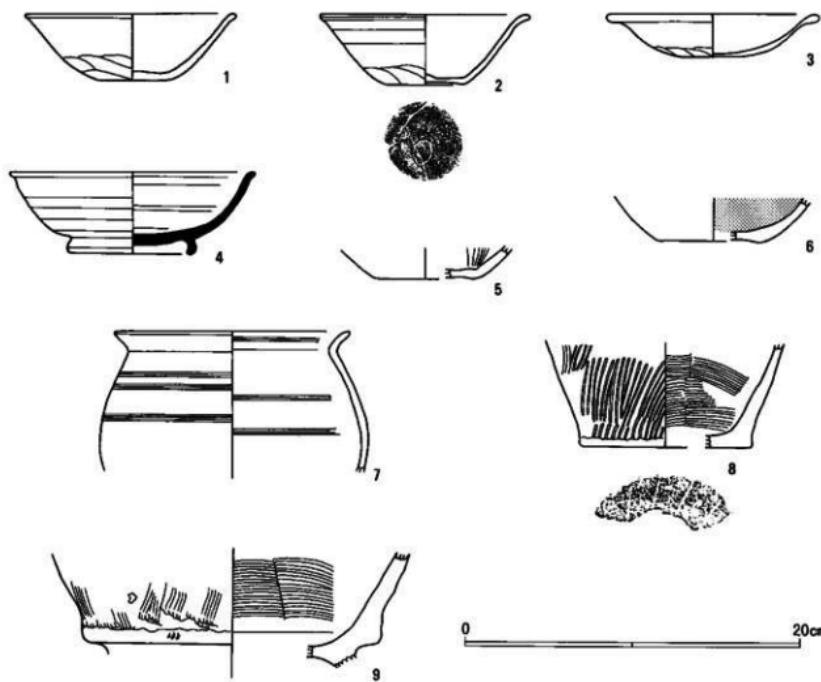
(規模) 東西440cm×南北420cmを測る。



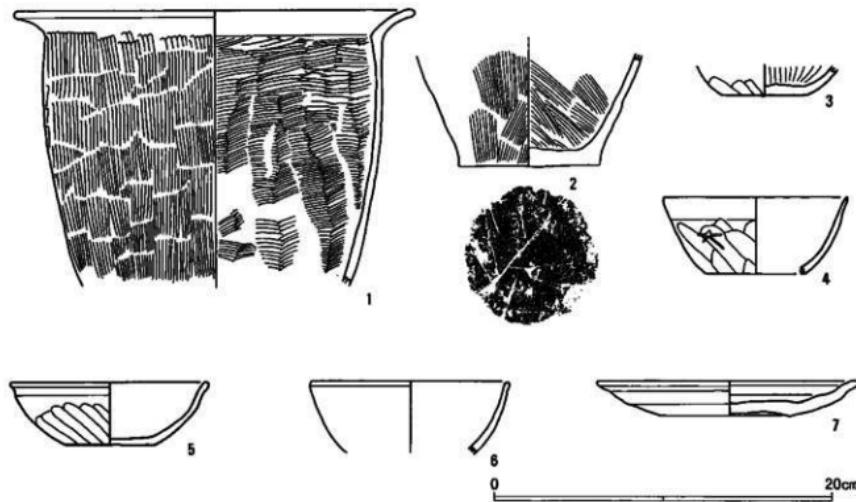
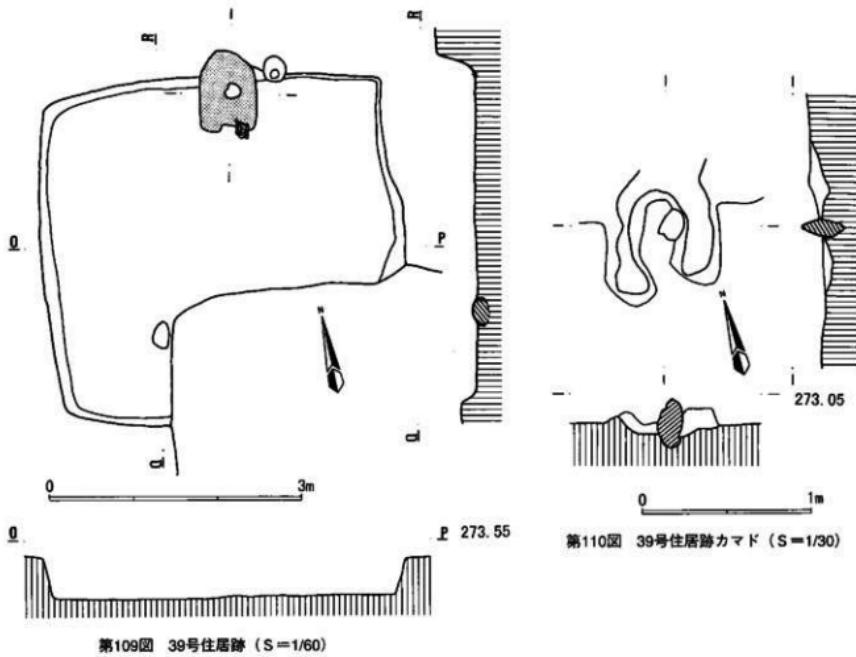
第106図 38号住居跡 ($S = 1/60$)



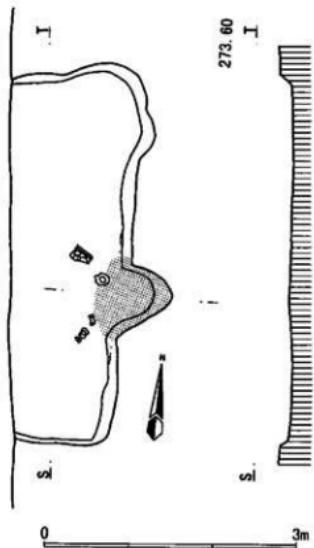
第107図 38号住居跡カマド ($S = 1/30$)



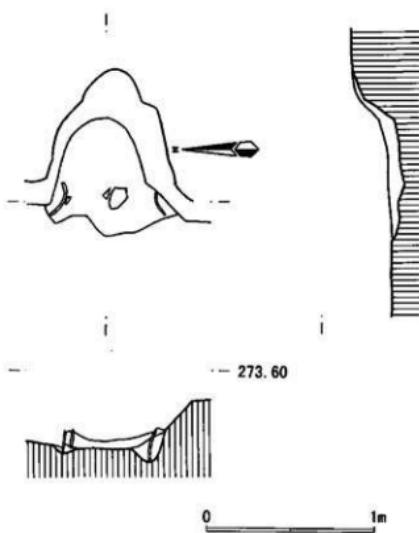
第108図 38号住居跡出土土器 ($S = 1/3$)



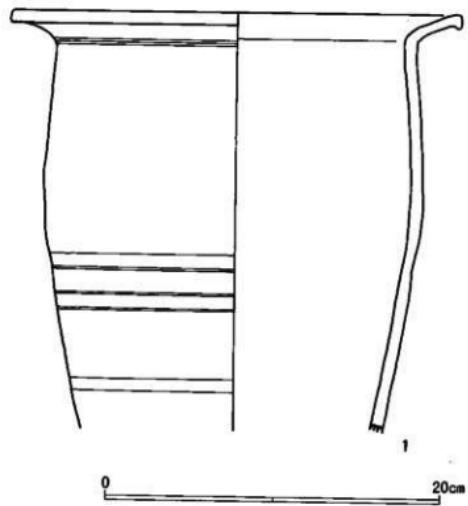
第111図 39号住居跡出土土器 (S=1/3)



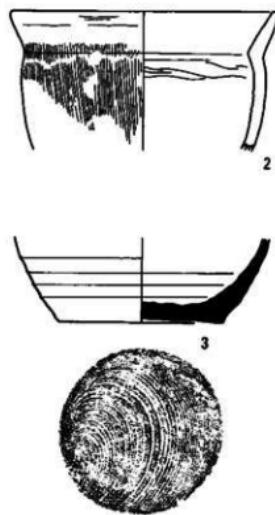
第112図 40号住居跡 (S=1/60)

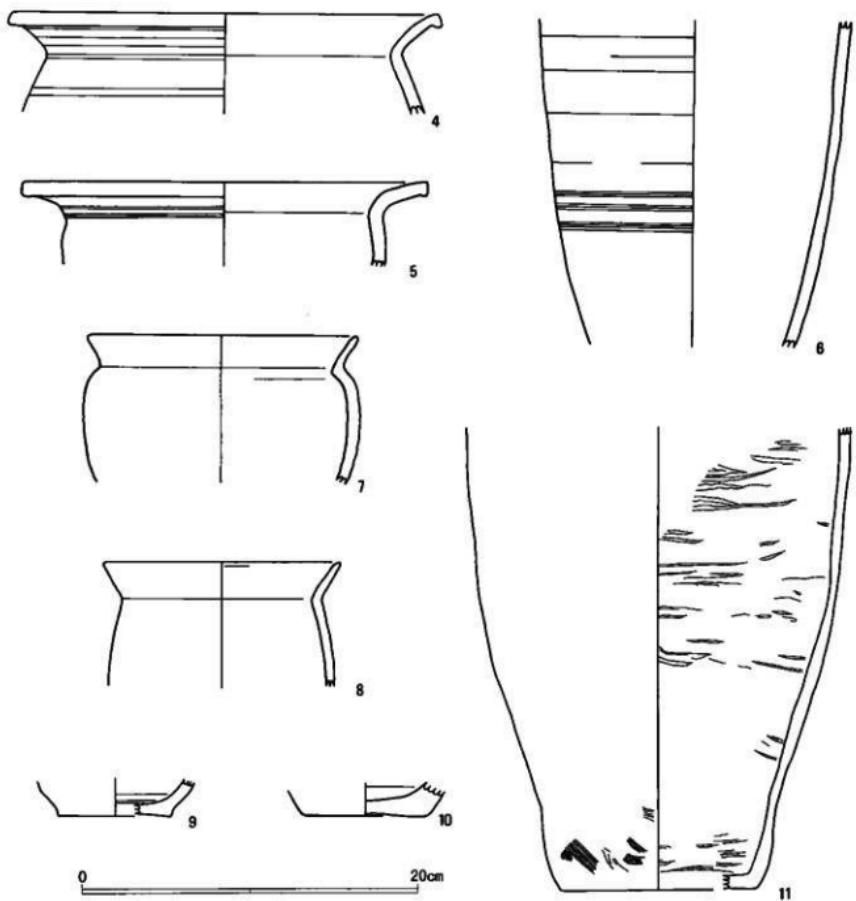


第113図 40号住居跡カマド (S=1/30)



第114図 40号住居跡出土土器 (1) (S=1/3)





第115図 40号住居跡出土土器（2）(S=1/3)

(主軸) N-10° -E

(床面) 全体的にはほぼ平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm～50cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

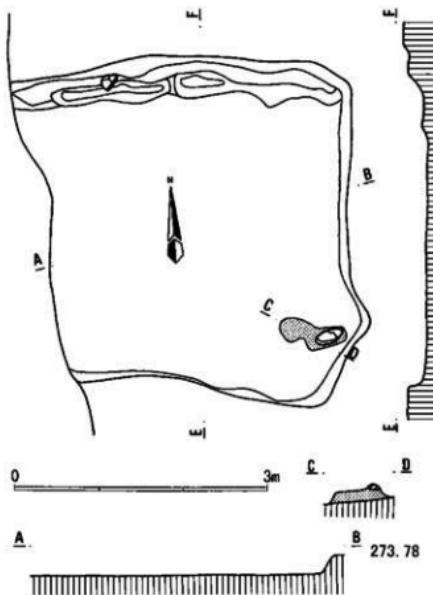
(カマド) 北壁のほぼ中央に設けられている。両袖と煙道がその形状を比較的良く残している方である。カマドの中心に支柱として利用されたと思われる礫が埋め込まれたまま直立している。

(出土遺物) 土師器の変形土器・皿形土器・壺形土器が出土している。

(備考) なし

40号住居跡（第113～115図）

(形状) 西側の大半が発掘調査区域外であったため正確な形状は不明である。おそらくは隅丸方形プランを呈



第116図 41号住居跡 (S=1/60)

するものと思われる。

(規模) 東西170cm以上×南北410cmを測る。

(主軸) N-85°-E

(床面) 発掘された範囲ではほぼ平坦である。

(壁) 壁高は15cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 東壁の中央よりやや南寄りに設けられている。東壁の線より住居跡内側には袖が残ってはない。もともとの形態かもしれない。煙道はやや形状を残す。土師器の変形土器の大形破片を埋め込み立てて、袖の一部として利用していたようである。

(出土遺物) 土師器の変形土器、須恵器の変形土器が出土している。

(備考) なし

41号住居跡 (第116・117図)

(形状) 西壁が発掘調査区域外のため正確な形状は把握できないが不整隅丸方形プランを呈するものであろう。

(規模) 東西360cm×南北400cm以上を測る。

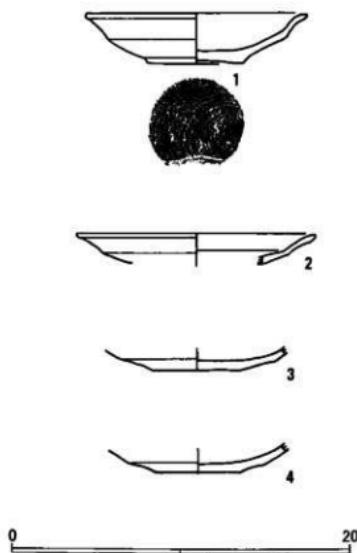
(主軸) N-3°-E

(床面) 全体的にほぼ平坦である。

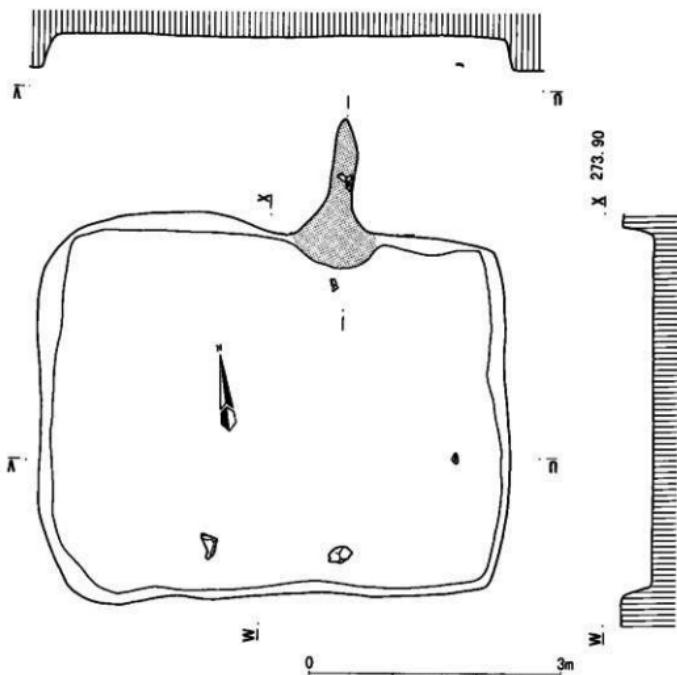
(壁) 壁高は20cm~25cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) 北壁沿いに部分的に周溝状の溝とテラス状の段が見られる。どちらも形状は一定ではなく、周溝あるいはテラスとは言い難いかもしれない。



第117図 41号住居跡出土土器 (S=1/3)



第118図 42号住居跡 (S=1/60)

(カマド) 東壁の中央よりはかなり南側に設けられた跡がある。残存状態は極めて悪く焼土が狭い範囲に残るのみである。煙道部分の突出部がわずかに見られるようである。焼土の上に礫が1個残っているが、カマドに利用されたものかどうかはわからない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・皿形土器が出土している。

(備考) なし

42号住居跡 (第118~120図)

(形状) 隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西540cm×南北420cmを測り、本遺跡では比較的大型の住居跡である。

(主軸) N-6°-E

(床面) 全体的にはほぼ平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は36cm~40cmを測る。

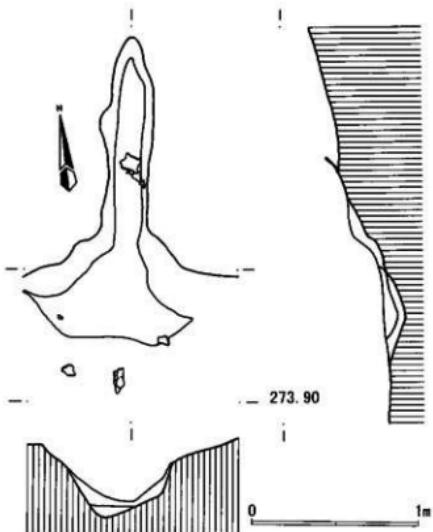
(柱穴) なし

(周溝) なし

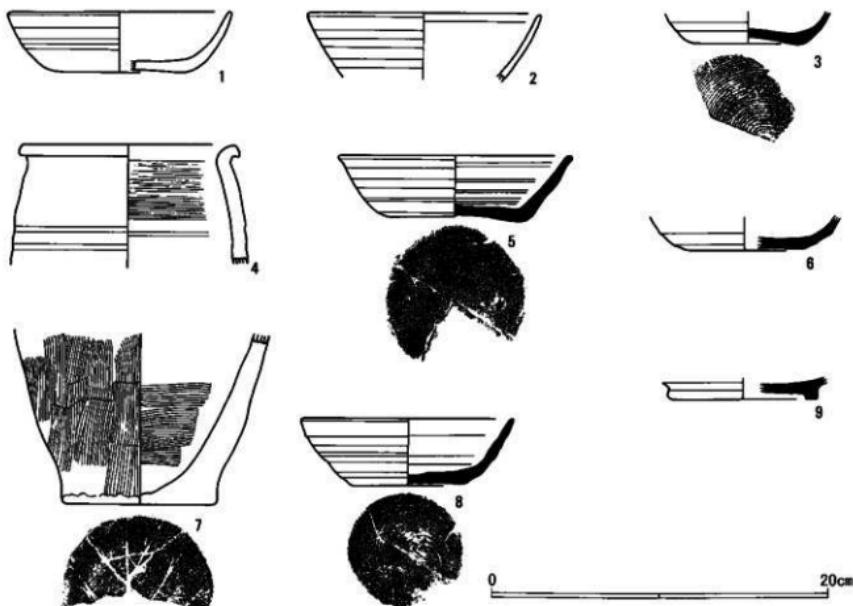
(カマド) 北壁中央よりやや東寄りに設けられており煙道の長さが明瞭に残る良い例である。天井および焚口と袖の部分は失っているが、煙道が住居跡の外に向かって1m以上の長さを残している。赤く地山が焼けている上に溝状に掘り込みが残っているために煙道の範囲が明瞭になっている。本来はもっと長かった可能性もある。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器が出土している。

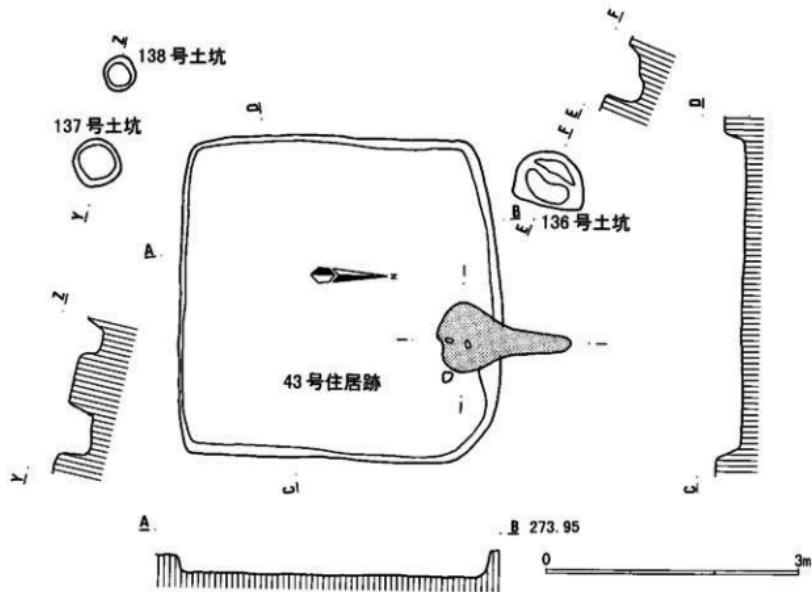
(備考) なし



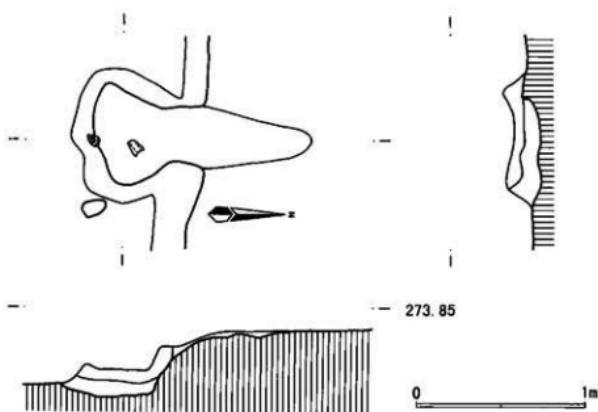
第119図 42号住居跡カマド (S = 1/30)



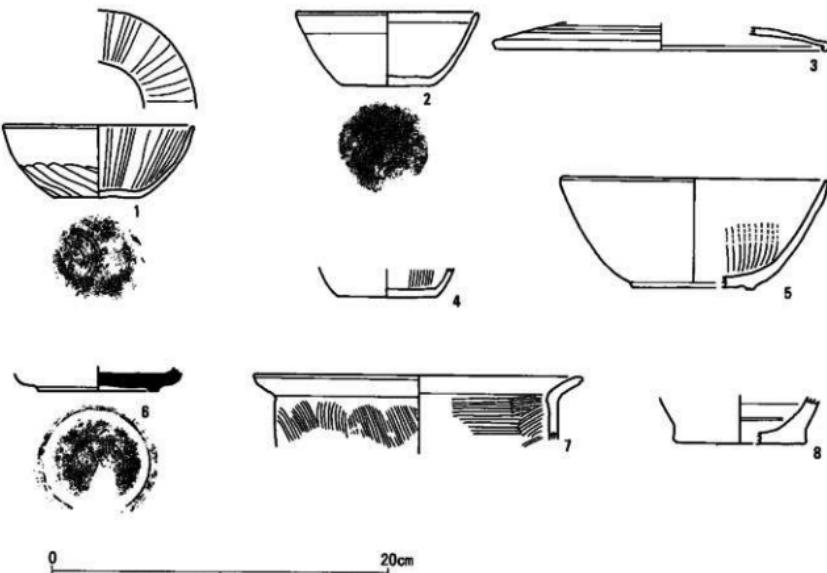
第120図 42号住居跡出土土器 (S = 1/3)



第121図 43号住居跡、136・137・138号土坑 (S = 1/60)



第122図 43号住居跡カマド (S = 1/30)



第123図 43号住居跡出土土器 (S=1/3)

43号住居跡（第121～123図）

(形状) 隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西380cm×南北370cmを測る。

(主軸) N-2° -E

(床面) 全体的には平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は25cm～27cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりやや東寄りに設けられており、煙道部分を極めて明瞭に残している。両袖はすでに天井と共に崩れているようであり、石組みが使われていた痕跡も見られない。煙道は住居跡の外へ向かって70cmほどものびて残る。やはり地山が焼けていたために掘り込みが浅いのに範囲がつかめた。もともとはもっと長かった可能性もある。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器が出土している。

(備考) なし

44号住居跡（第124～126図）

(形状) 不整形プランを呈する。

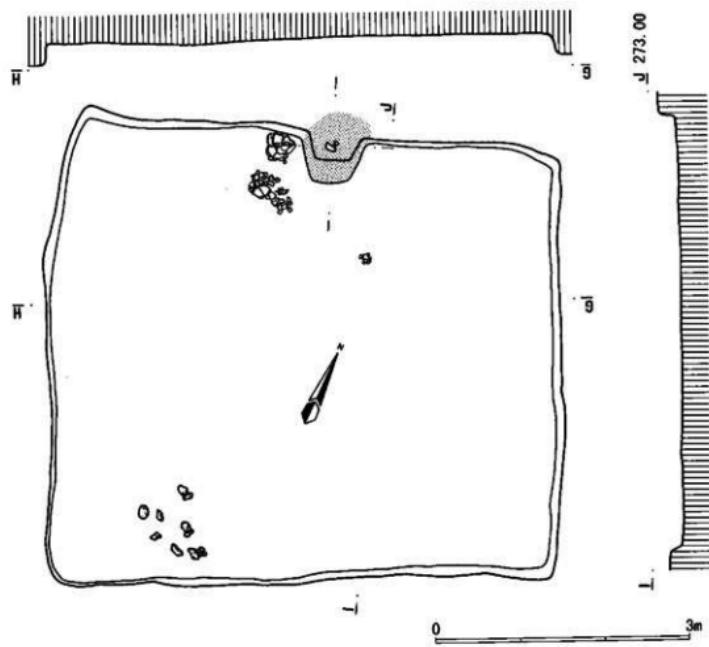
(規模) 東西570cm×南北560cmを測る。

(主軸) N-27° -E

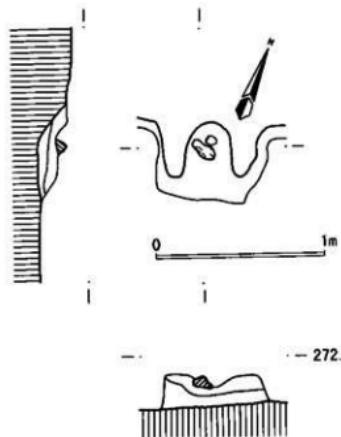
(床面) 全体的には平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は20cm～28cmを測る。

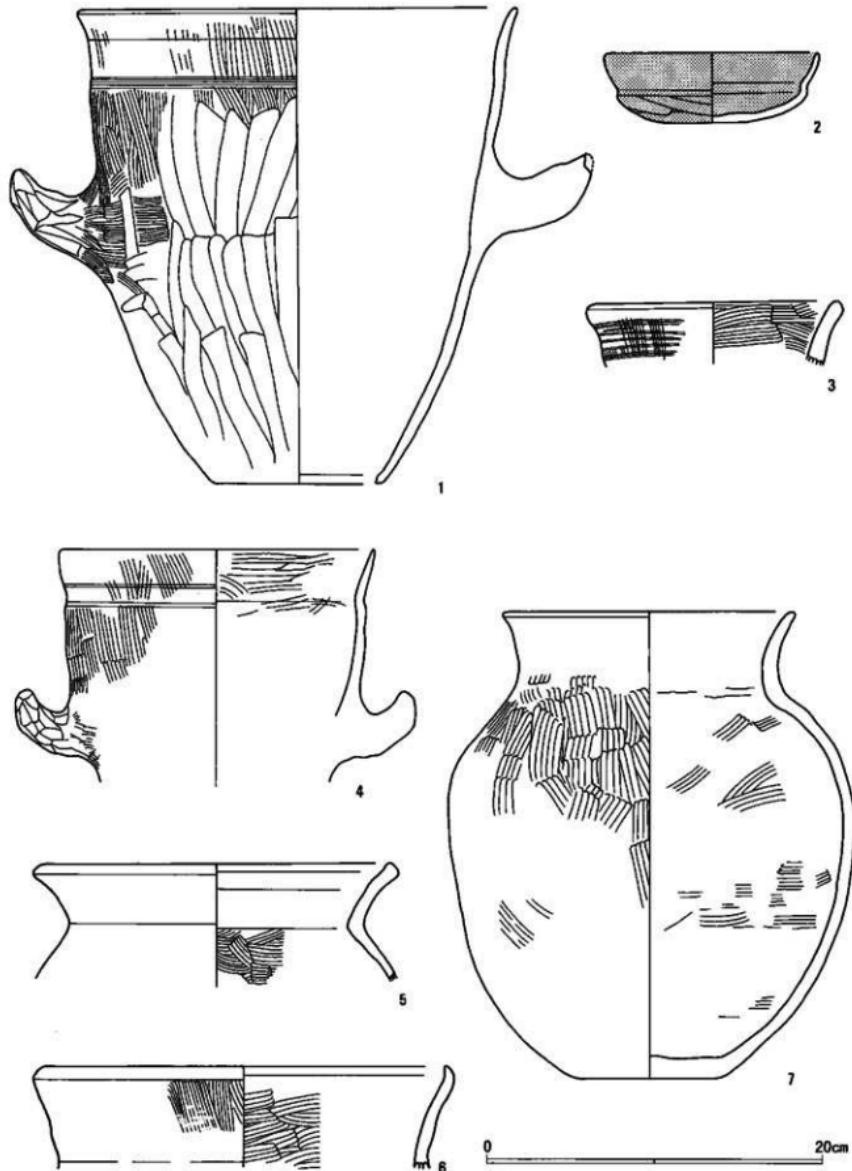
(柱穴) なし



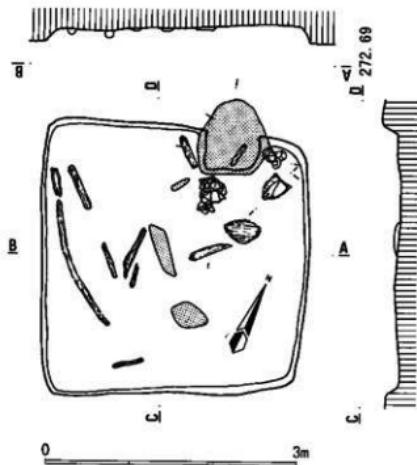
第124図 44号住居跡 (S=1/60)



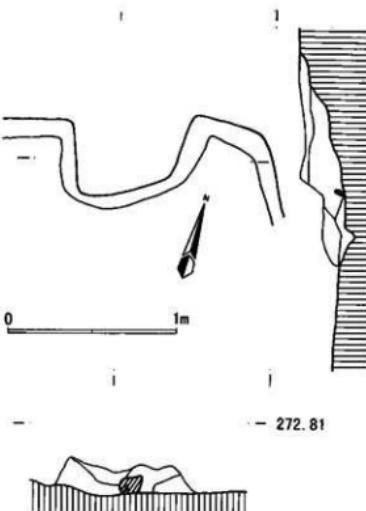
第125図 44号住居跡カマド (S=1/30)



第126図 44号住居跡出土土器 (S=1/3)



第127図 45号住居跡 (S=1/60)



第128図 45号住居跡カマド (S=1/30)

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央部分に設けられている。両袖の形状が僅かに残っているように見えるが、断面観察からは痕跡は見あたらない。焼土が52cm×60cmの範囲に残っているのみである。煙道および石組みが利用された痕も確認することはできなかった。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・壺形土器・鉢形土器が出土している。

(備考) なし

45号住居跡（第127～129図）

(形状) 隅丸方形プランを呈する。

(規模) 東西310cm×南北300cmを測る。

(主軸) N-24°-W

(床面) 全体的にはほぼ平坦であるが、所々に凹凸が見られる。

(壁) 緩やかな傾斜で立ち上がり、壁高は16cm～18cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

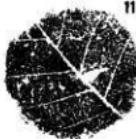
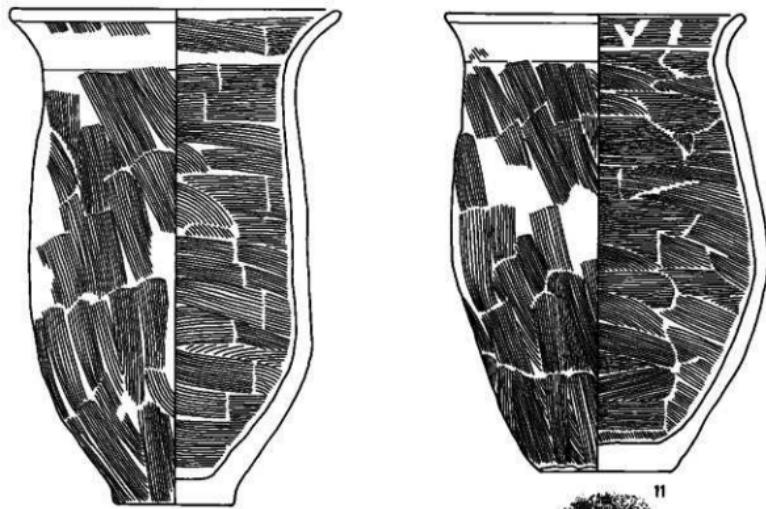
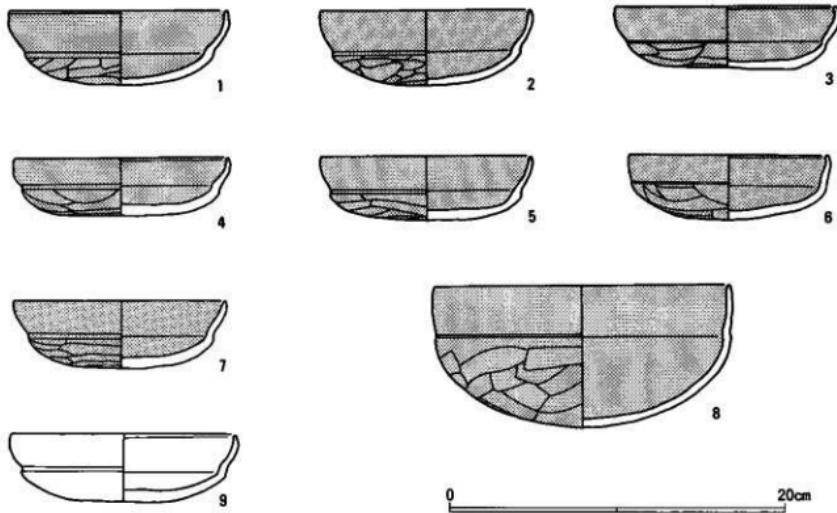
(カマド) 北壁中央よりやや東寄りに設けられている。焼土が82cm×130cmの範囲に残るのみで、両袖や煙道の痕跡は見ることはできない。石組みが利用された痕も確認できなかった。

(出土遺物) カマドの周辺から繰り返して土師器が出土している。壺形土器は重ねられた状態で出土しており、本住居跡の実生活に伴って利用されていたものである可能性が高い。大形の壺形土器と壺形土器もカマドの焚口付近から潰れた状態で出土しており、やはり住居跡に伴うものであろう。

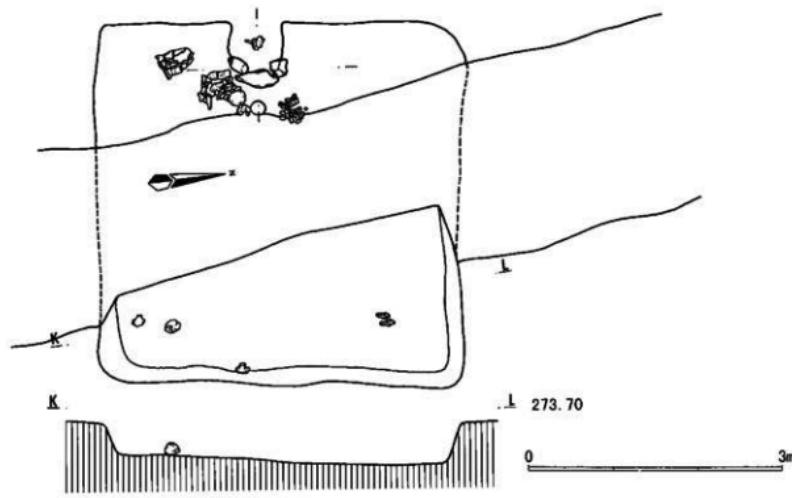
(備考) 本住居跡からは多量の木炭と焼土が床面上から確認されている。火災により土器共々住居跡も放棄されたものと思われるが、その割にはカマドの残存状態が極めて悪いところが疑問である。

46号住居跡（第130～133図）

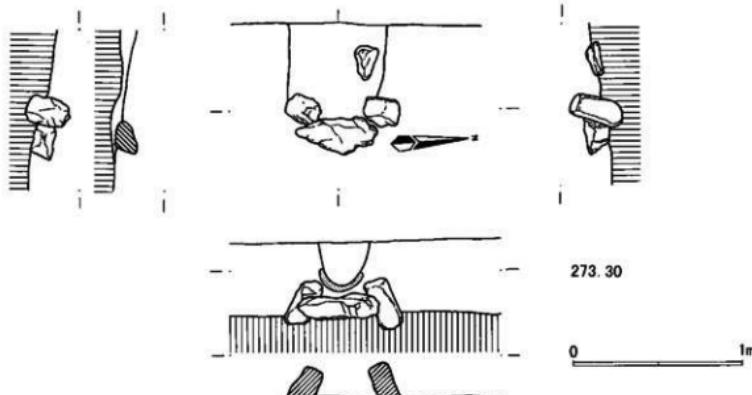
(形状) 隅丸方形プランを呈するが、発掘調査に伴う排水路によって一部帯状に掘削されている。



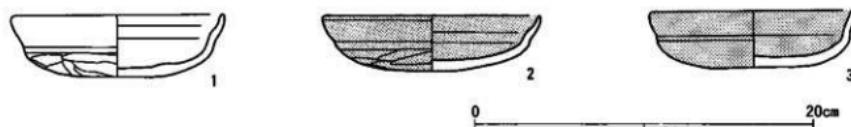
第129図 45号住居跡出土土器 ($S=1/3$)



第130図 46号住居跡 (S = 1/60)

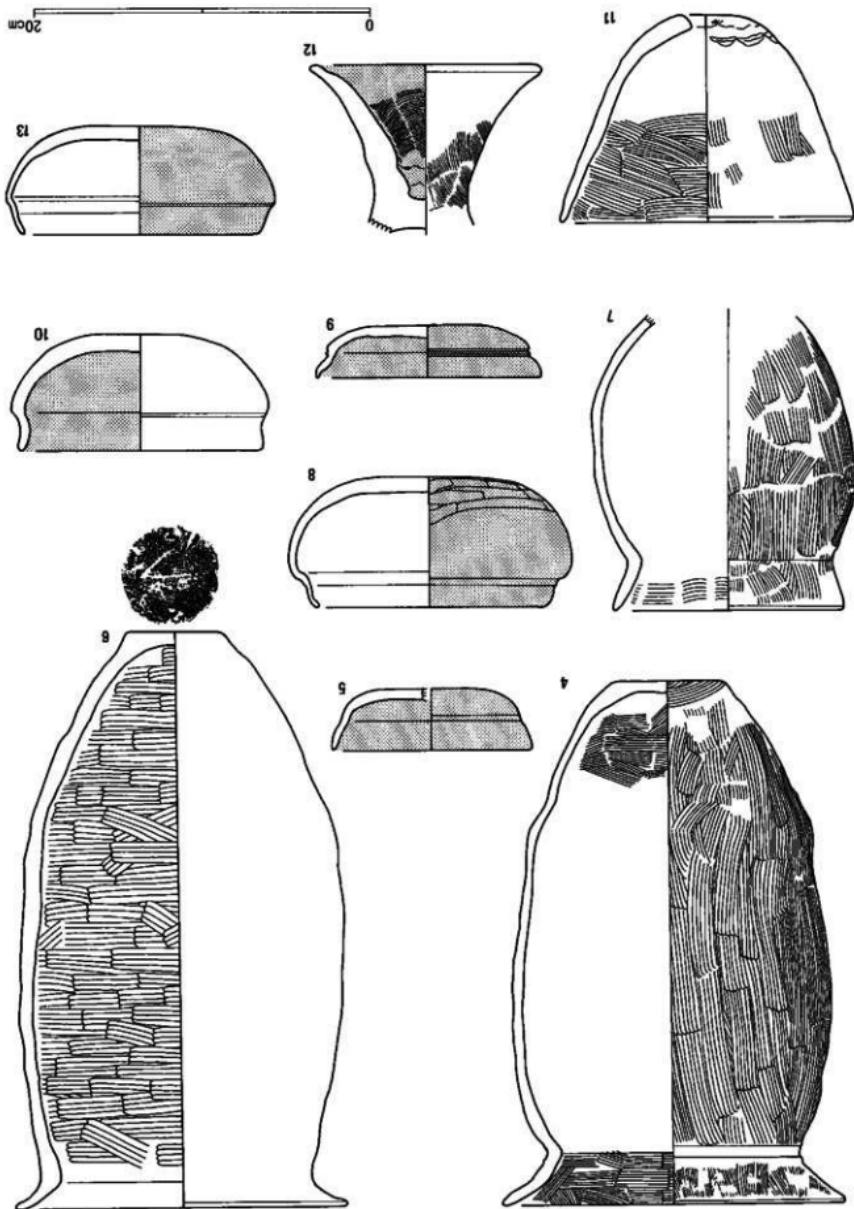


第131図 46号住居跡カマド (S = 1/30)

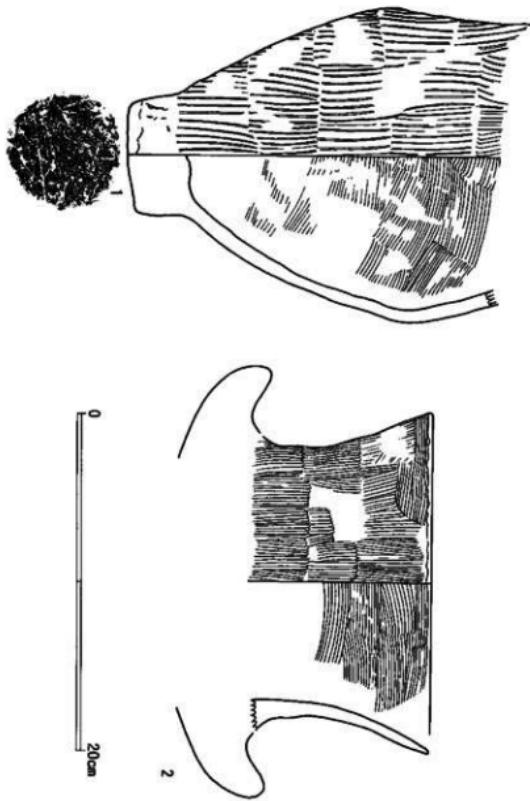


第132図 46号住居跡出土土器 (1) (S = 1/3)

第133圖 46號住處出土土器(2) ($S=1/3$)

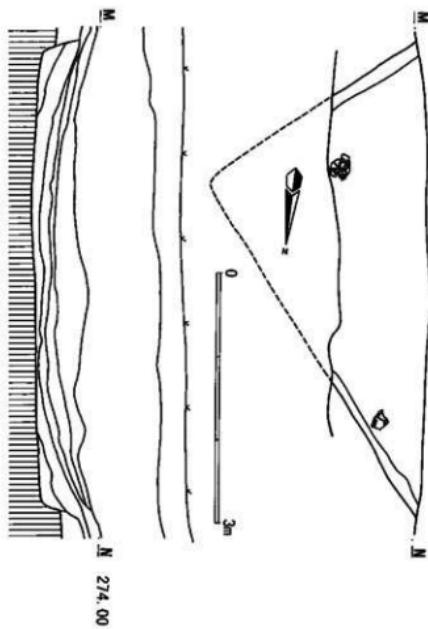


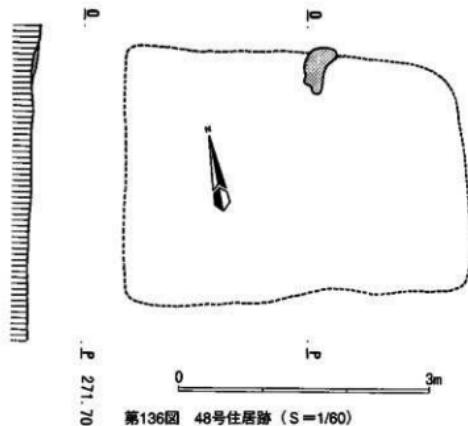
第135図 47号住居跡出土土器 (S=1/2)



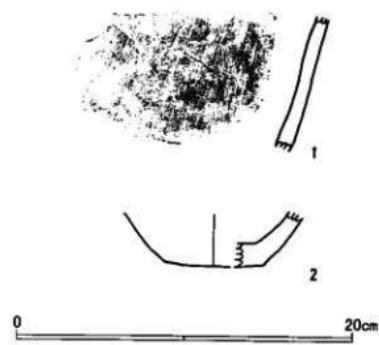
— 83 —

第134図 47号住居跡 (S=1/60)

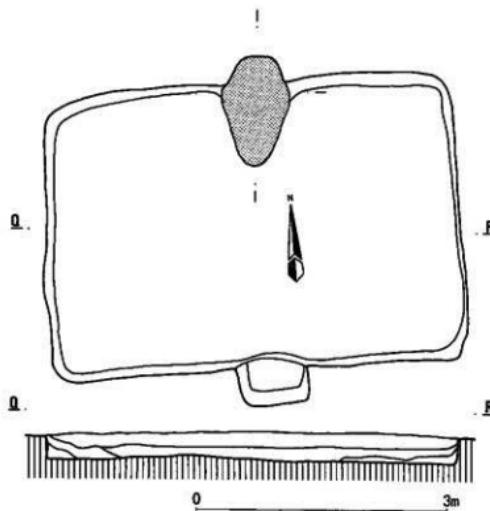




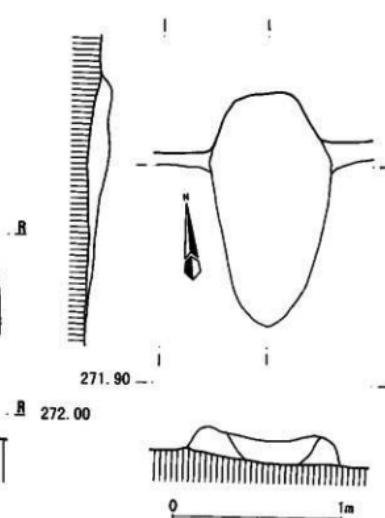
第136図 48号住居跡 (S=1/60)



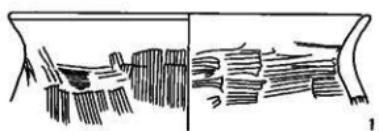
第137図 48号住居跡出土土器 (S=1/3)



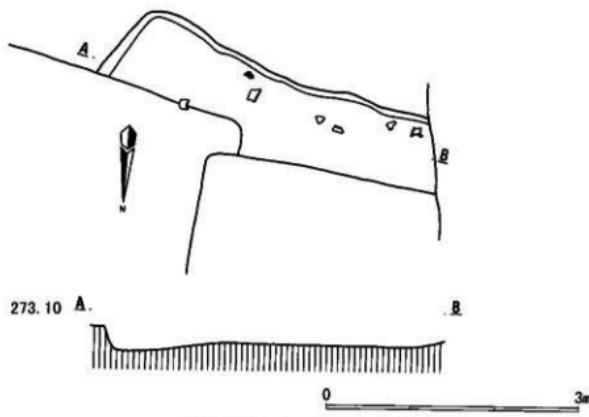
第138図 49号住居跡 (S=1/60)



第139図 49号住居跡カマド (S=1/30)



第140図 49号住居跡出土土器 (S=1/3)



第141図 50号住居跡 (S=1/60)

(規模) 東西450cm×南北420cmを測る。

(主軸) N-83°-W

(床面) 全体的にはほぼ平坦であるが、北東方向がやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は35cm~50cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 当該期の住居跡にしては珍しく西壁にカマドが設けられている。また明確な石組みカマドであり、両袖に使用した石が南北共に埋め込まれて残っている。その上、天井石もその袖石から焚口方向に落下した状態で残っている。また西壁が丁度発掘調査区域外との境になるため、煙道が土層断面で明瞭に観察できた。U字形に残り、底面部分のみ赤く焼けて焼土になっている。石以外の粘土部分の残りはあまり良くなく、また他にまだ石が用いられたかどうかも不明である。

(出土遺物) 本住居跡もカマド周辺を中心に多くの土師器を出土した。45号住居跡と同様に本住居に伴うものであろうと思われる。壺形土器・壺形土器・高壺形土器の脚部のみ・瓶形土器が出土している。このうち、瓶形土器と高壺形土器の脚部のみがカマドから離れた場所から出土した。

(備考) なし

47号住居跡（第134・135図）

(形状) 多くの部分が発掘調査区域外である上に、発掘調査に伴う排水用の溝により東隅を失っているために正確な形状は不明である。おそらくは方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 推定で一辺500cm以上の規模であると思われる。

(主軸) N-38°-W

(床面) 発掘で確認された範囲に関してはほぼ平坦である。

(壁) 地山の確認面からの壁高は20cm~25cmを測るが、土層断面の観察からは、実際60cmの壁高をもつ。

(柱穴) なし

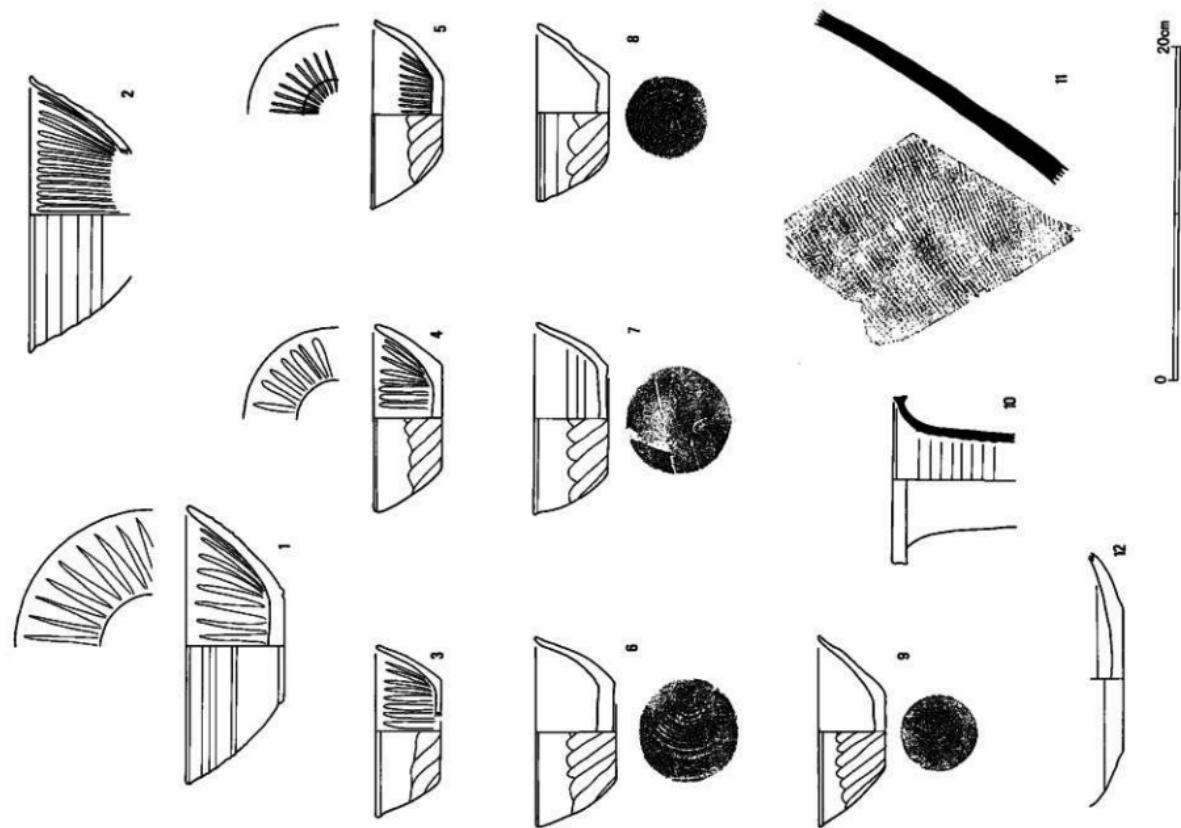
(周溝) なし

(カマド) 発掘調査した範囲では確認できなかった。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・瓶形土器が出土している。

(備考) なし

48号住居跡（第136・137図）



第142图 50号住居跡出土土器 ($S=1/3$)

(形状) 壁を確認できなかつたため、正確な形状は把握できなかつたが、床面の範囲を追つた結果、不整隅丸方形プランを呈すると予想された。

(規模) 東西400cm×南北330cmを測る。

(主軸) N-6° -E

(床面) 全体的には平坦であった。

(壁) なし

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁の中央よりやや東寄りに存在していたと思われる。状態は極めて悪く、30cm×55cmの範囲に焼土が残るのみであった。

(出土遺物) 土師器の壺形土器底部の破片が出土したのみであった。

(備考) なし

49号住居跡（第138・140図）

(形状) 隅丸方形プランを呈する。南壁の中央部分に80cm×50cmの方形の張り出し部を有し、床面から15cmほど高い階段状の形状を示す。

(規模) 東西490cm×南北340cmを測る。

(主軸) N-2° -E

(床面) 全体的には平坦である。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は10cm～35cmを測る。北壁が最も低い。

(柱穴) なし

(周溝) なし

(カマド) 北壁のはば中央に設けられている。煙道はわずかにその形状を残している。土層の断面観察では両袖も若干痕跡を残している。石組みが利用された痕は見ることができない。

(出土遺物) 土師器の壺形土器の破片が2点出土している。

(備考) なし

50号住居跡（第141・142図）

(形状) 北側を29号住居跡・31号住居跡に切られている上、西側が発掘調査区域外であったため、住居跡の正確な形状は不明である。南東隅と考えられるコーナーが唯一確認できただけであるが、不整隅丸方形プランを呈するものと思われる。

(規模) 南壁の規模からすれば一辺400cm前後を測ると思われる。

(主軸) 推定でN-106° -E

(床面) 確認された範囲はほぼ平坦であるが、東壁寄りがやや低くなっている。

(壁) ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は30cmを測る。

(柱穴) なし

(周溝) なし

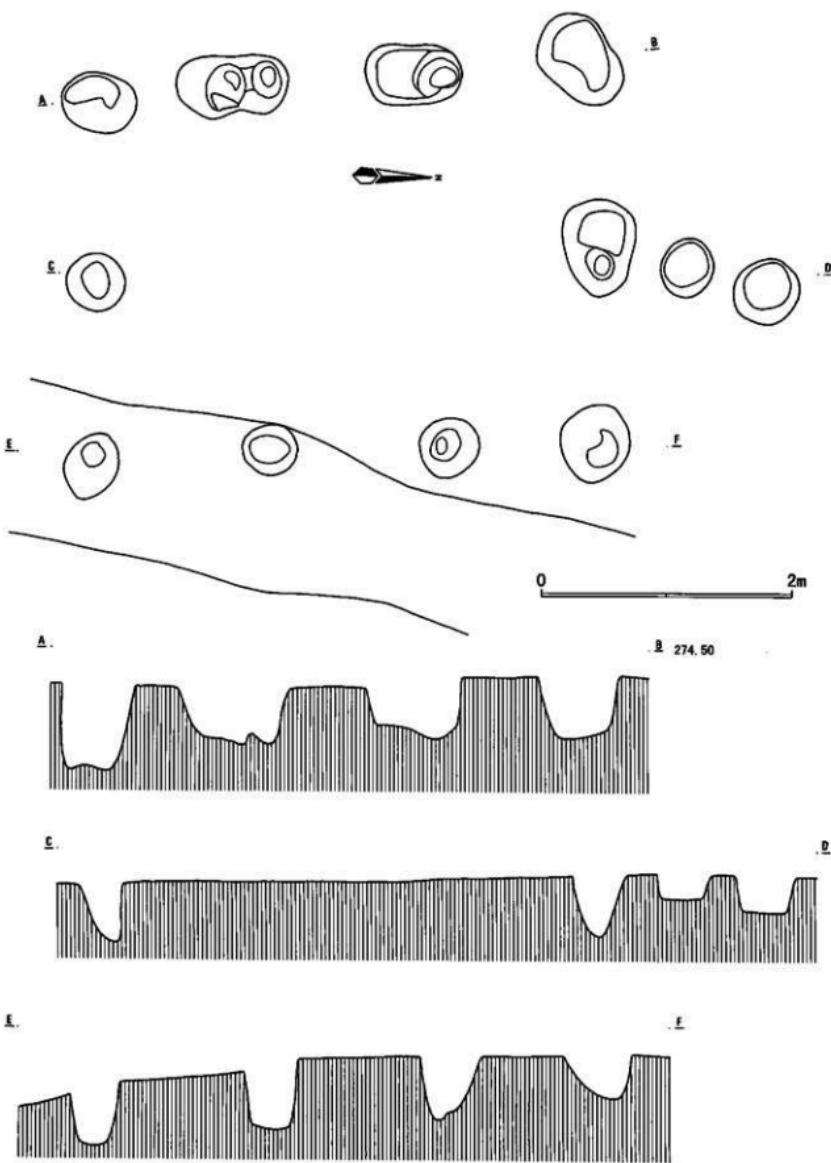
(カマド) 発掘した範囲では確認できなかつた。

(出土遺物) 土師器の壺形土器・高台壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器が出土している。

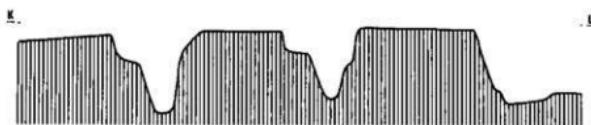
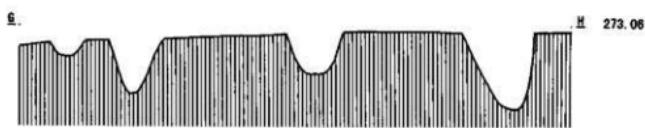
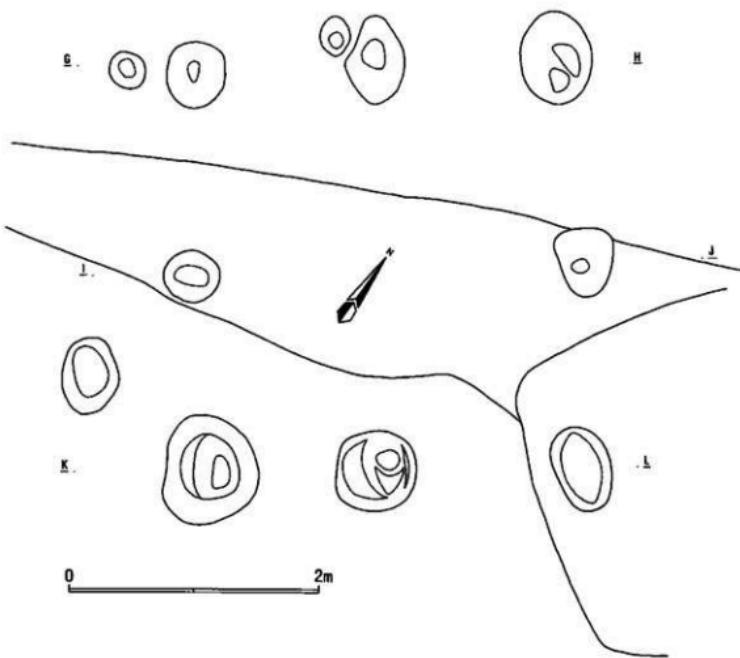
(備考) なし

第2節 掘立柱建物跡

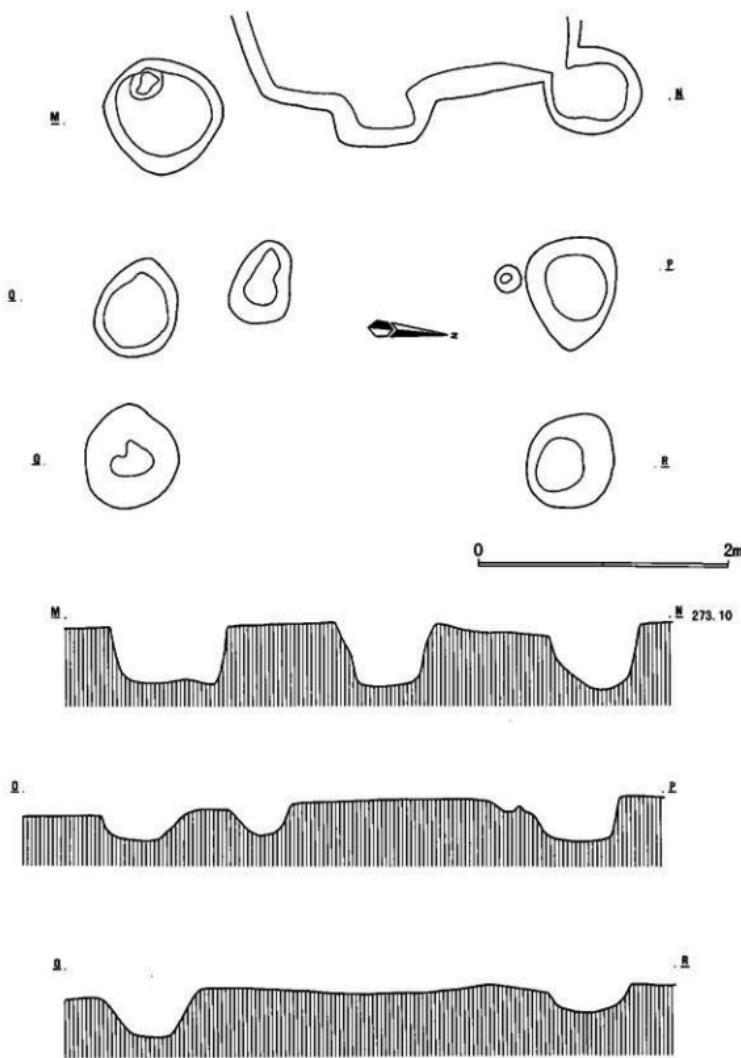
新居道下遺跡からは3基の掘立柱建物跡が発見されている。それら以外でも土坑群が一部規則的に並び、あたかも建物跡と考えられるものが若干存在したが、積極的に建物跡と主張するだけの根拠に乏しく、今回は3基のみを遺構としてとらえた。3基の建物跡からはいずれも出土遺物は発見されなかつた。そのため時期の特定はできなかつた。



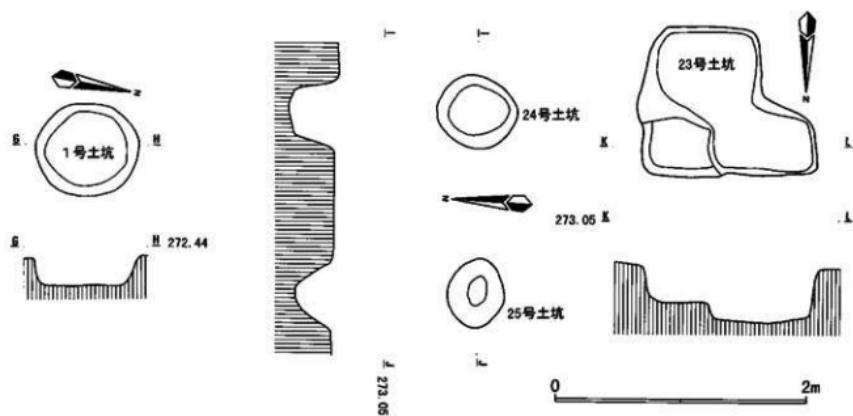
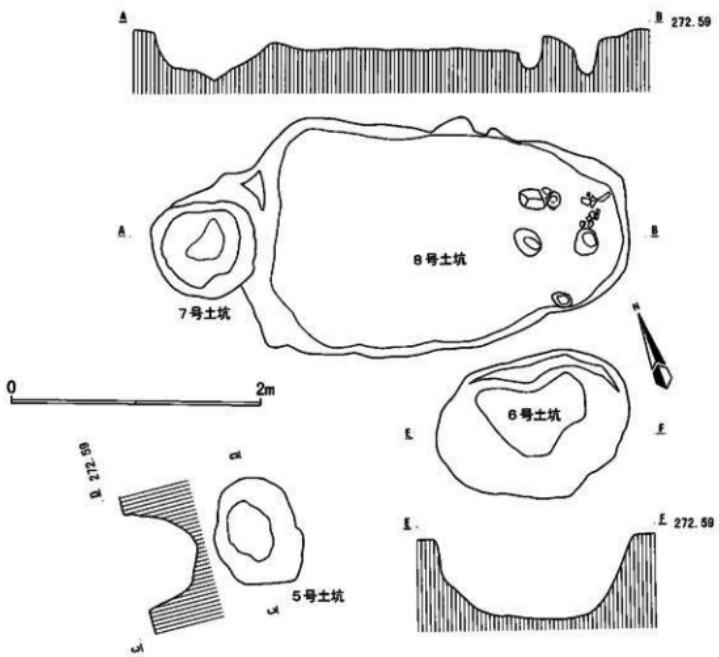
第143圖 1號壠立柱建物跡 ($S=1/40$)



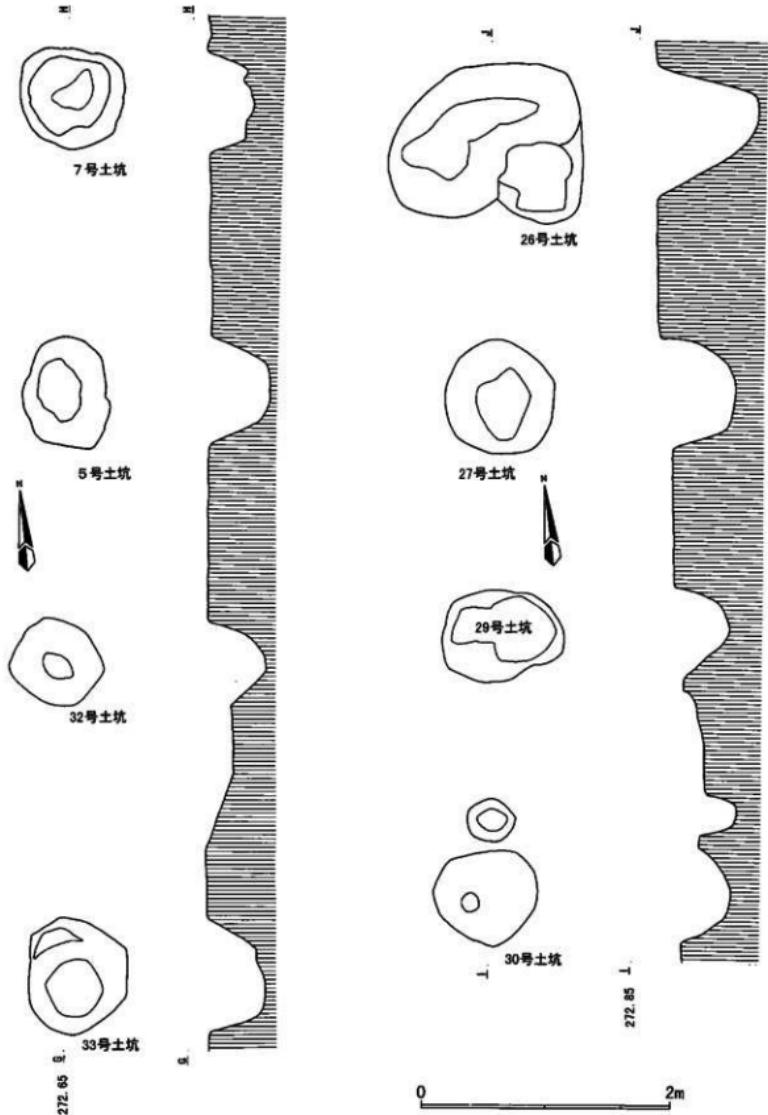
第144圖 2號獨立柱遺物跡 ($S=1/40$)



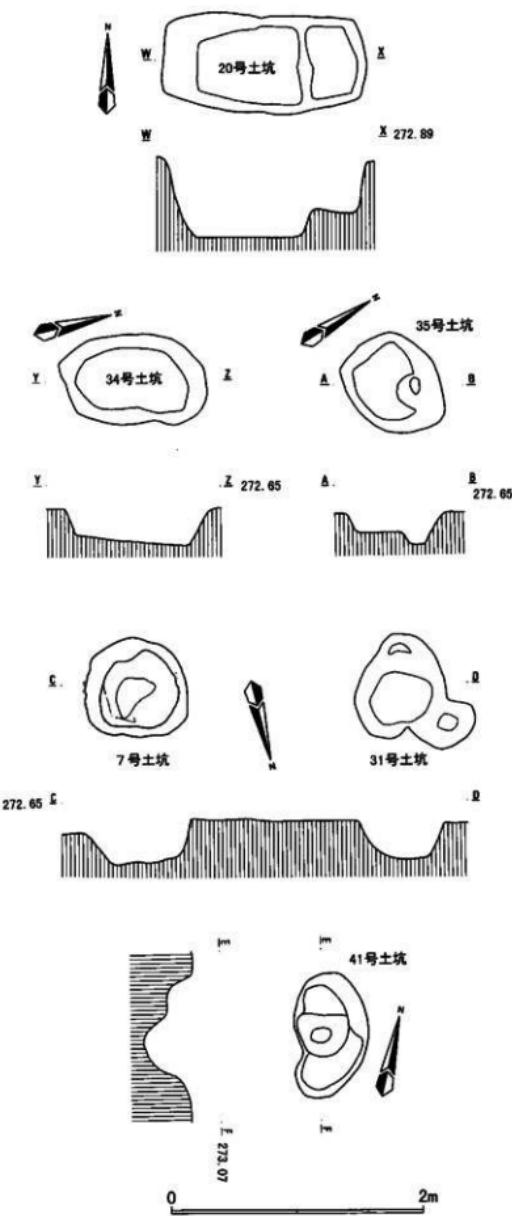
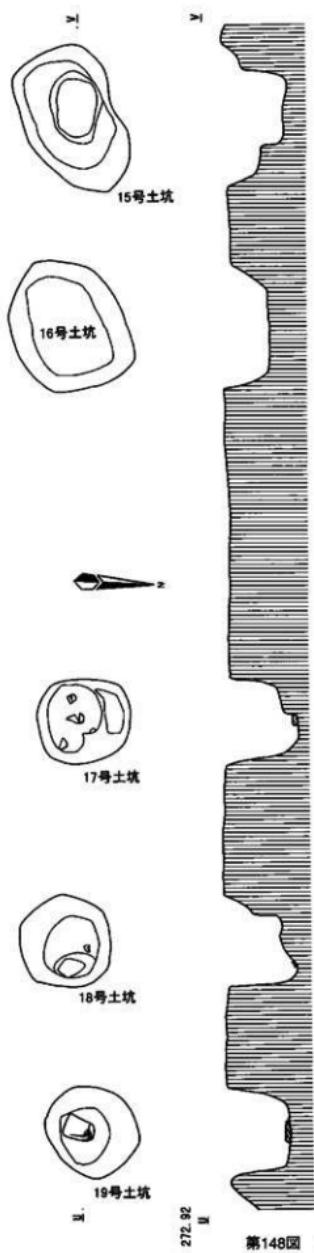
第145図 3号塔立柱建物跡 ($S=1/40$)



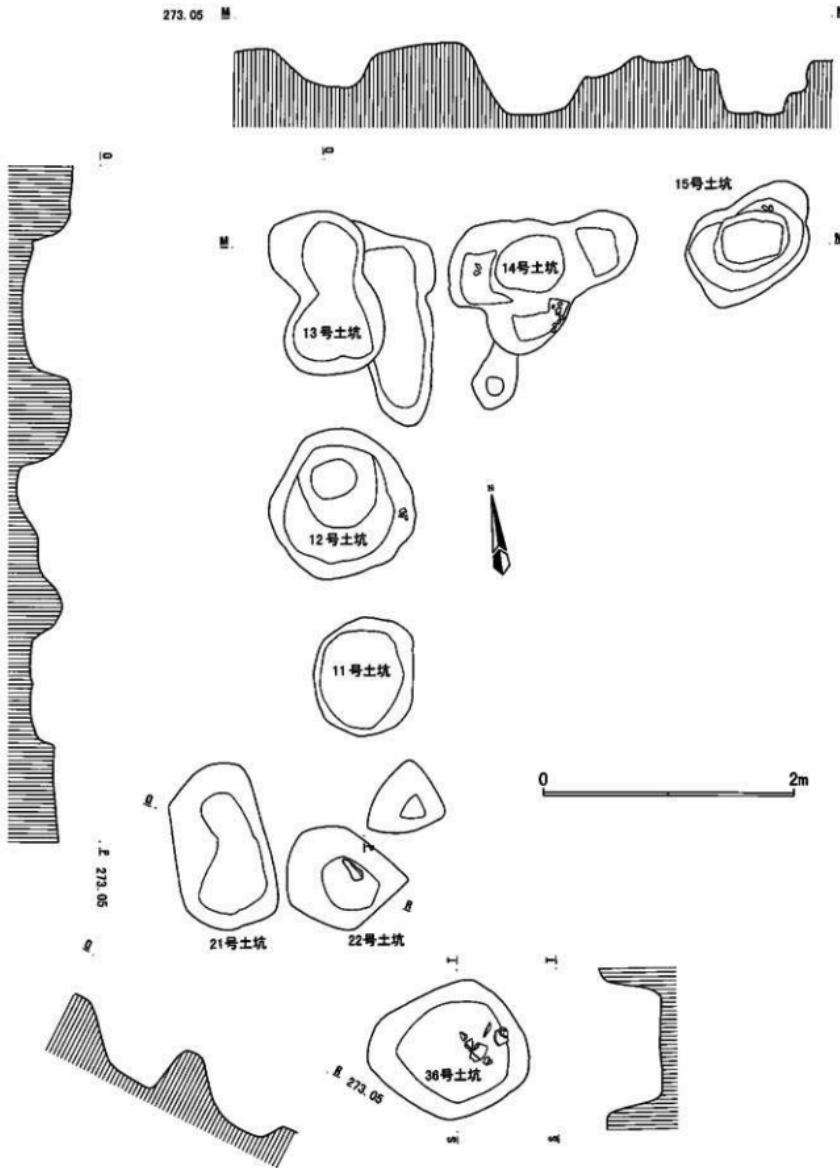
第146図 1・5～8・23～25号土坑 (S=1/40)



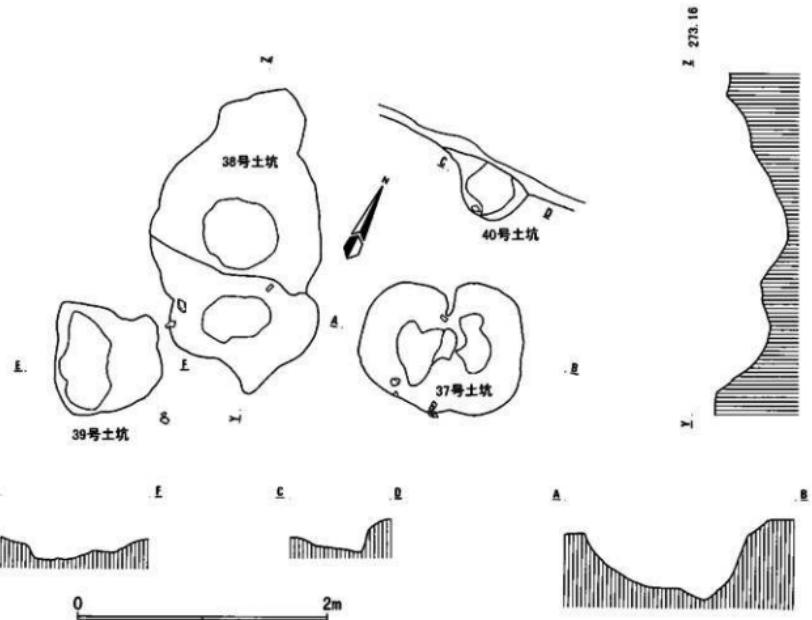
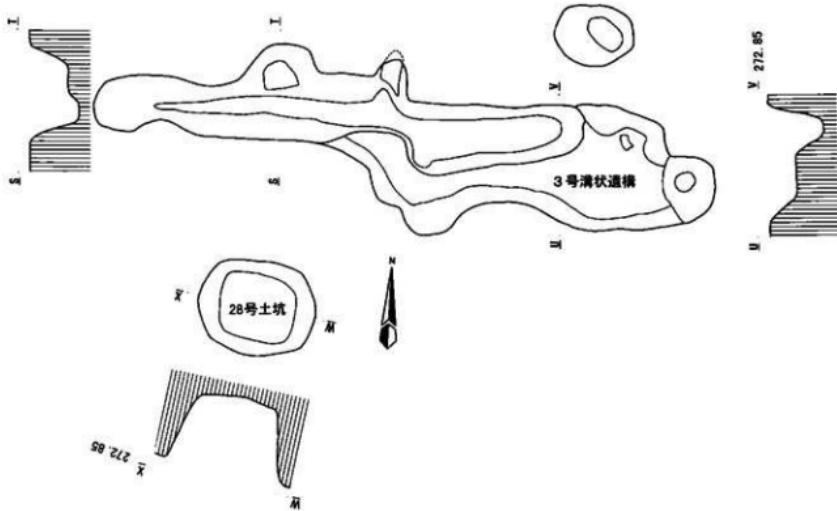
第147图 5·7·26·27·29·30·32·33号土坑 ($S=1/40$)



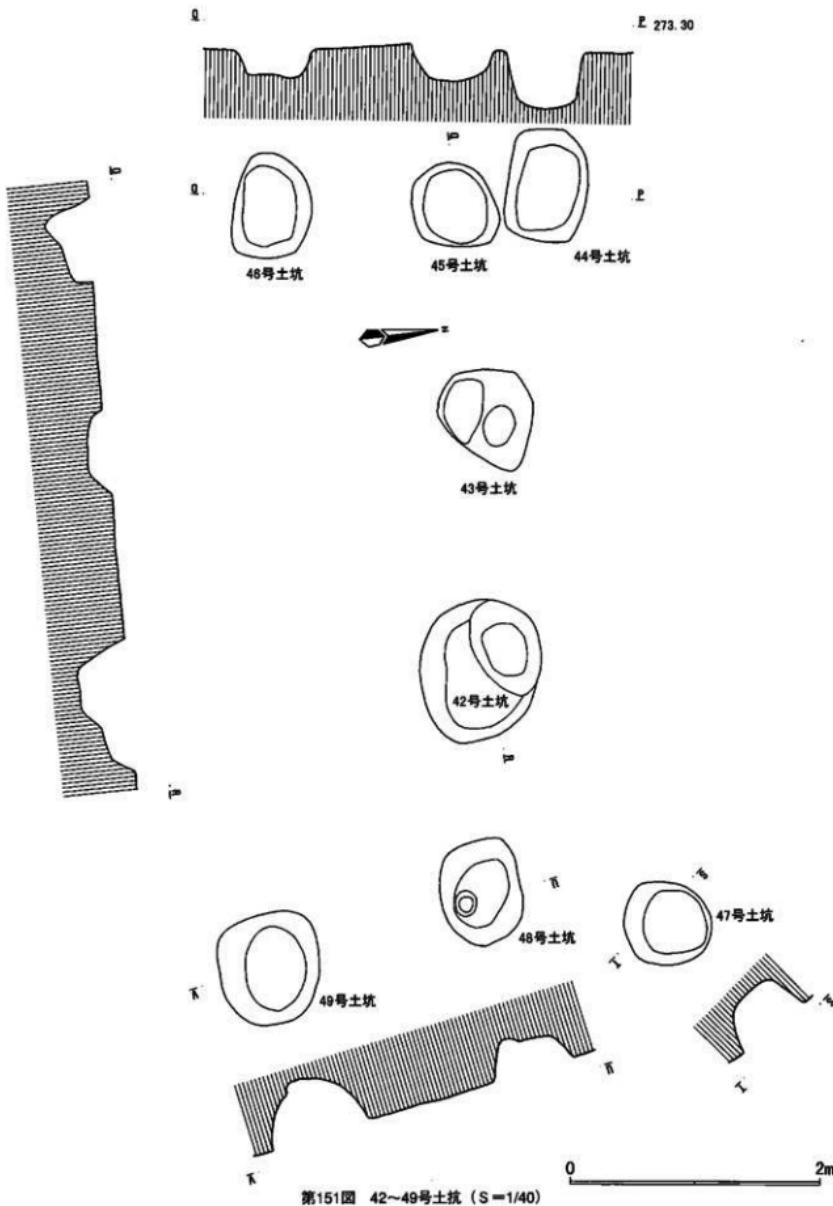
第148図 7・15~20・31・34・35・41号土坑 ($S = 1/40$)

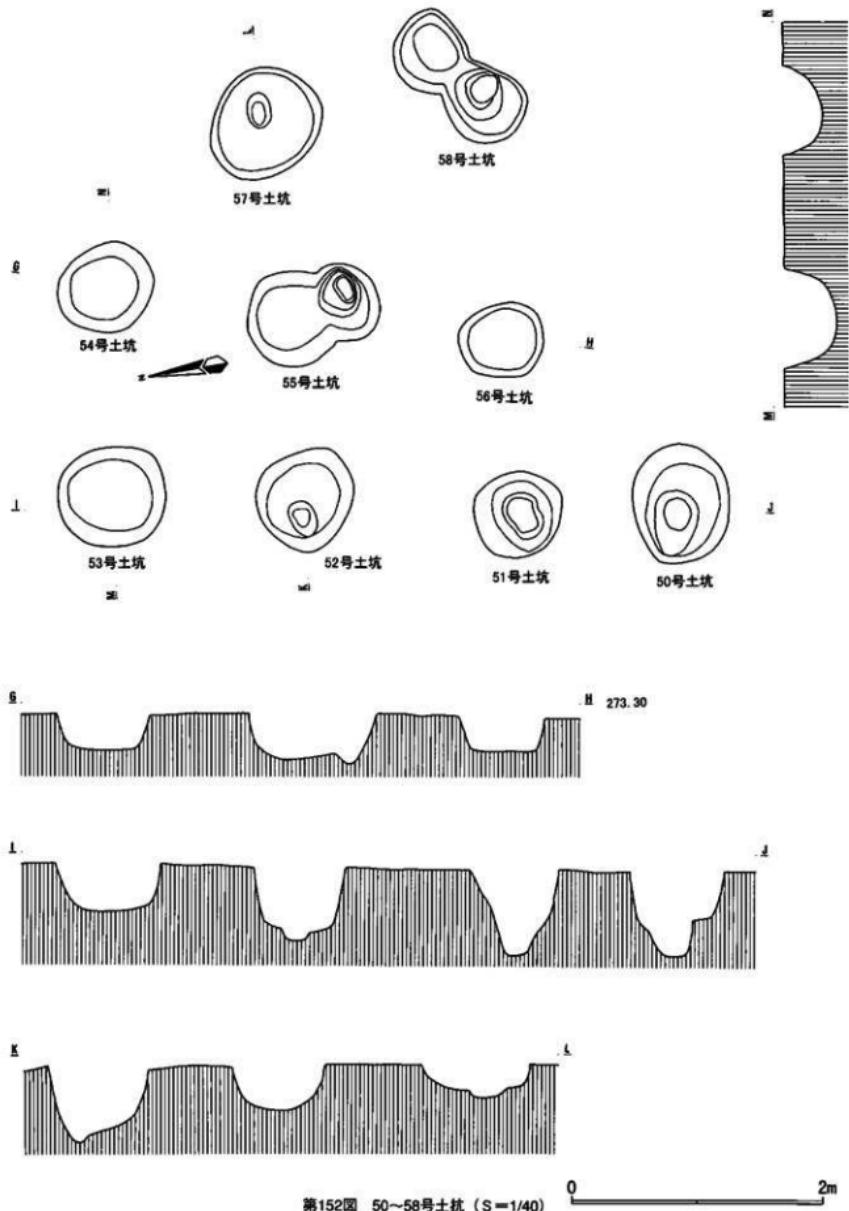


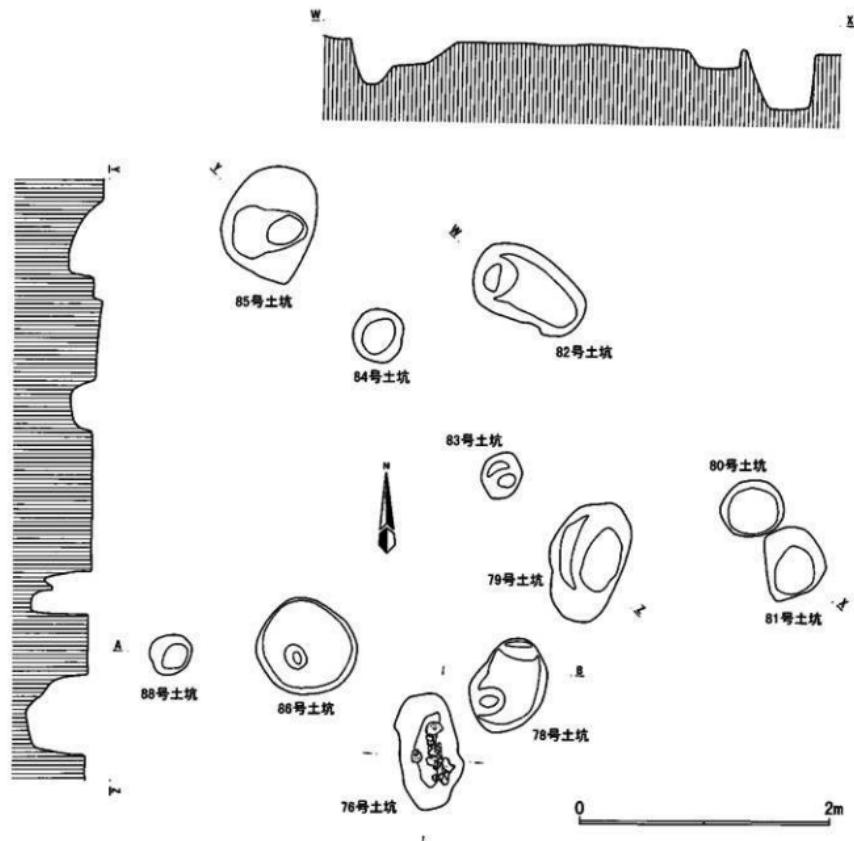
第149圖 11~15·21·22·36號土坑 ($S = 1/40$)



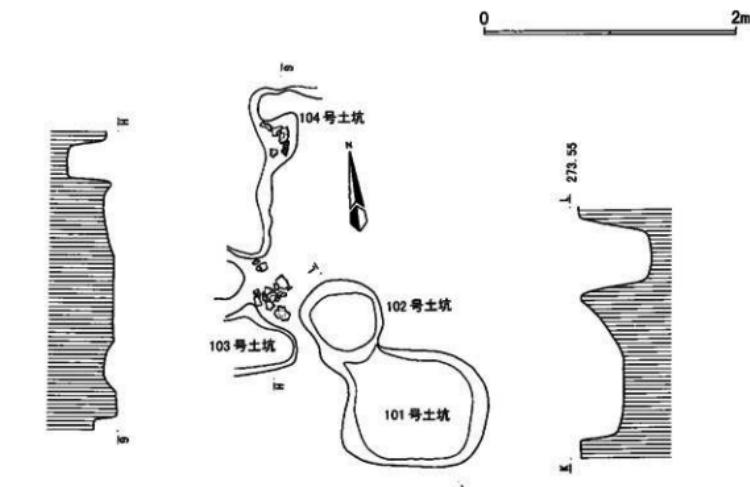
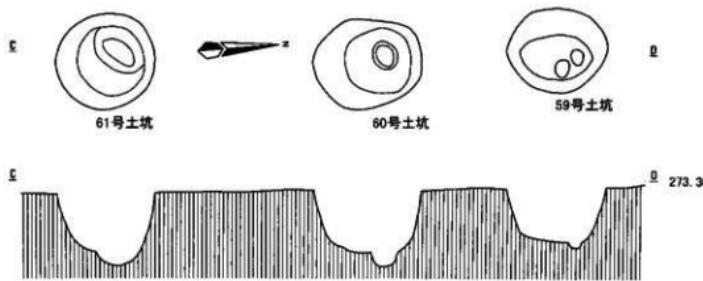
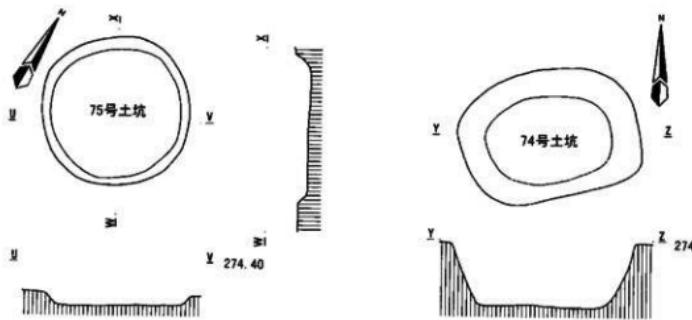
第150圖 28-37~40号土坑、3号溝状遺構 ($S=1/40$)



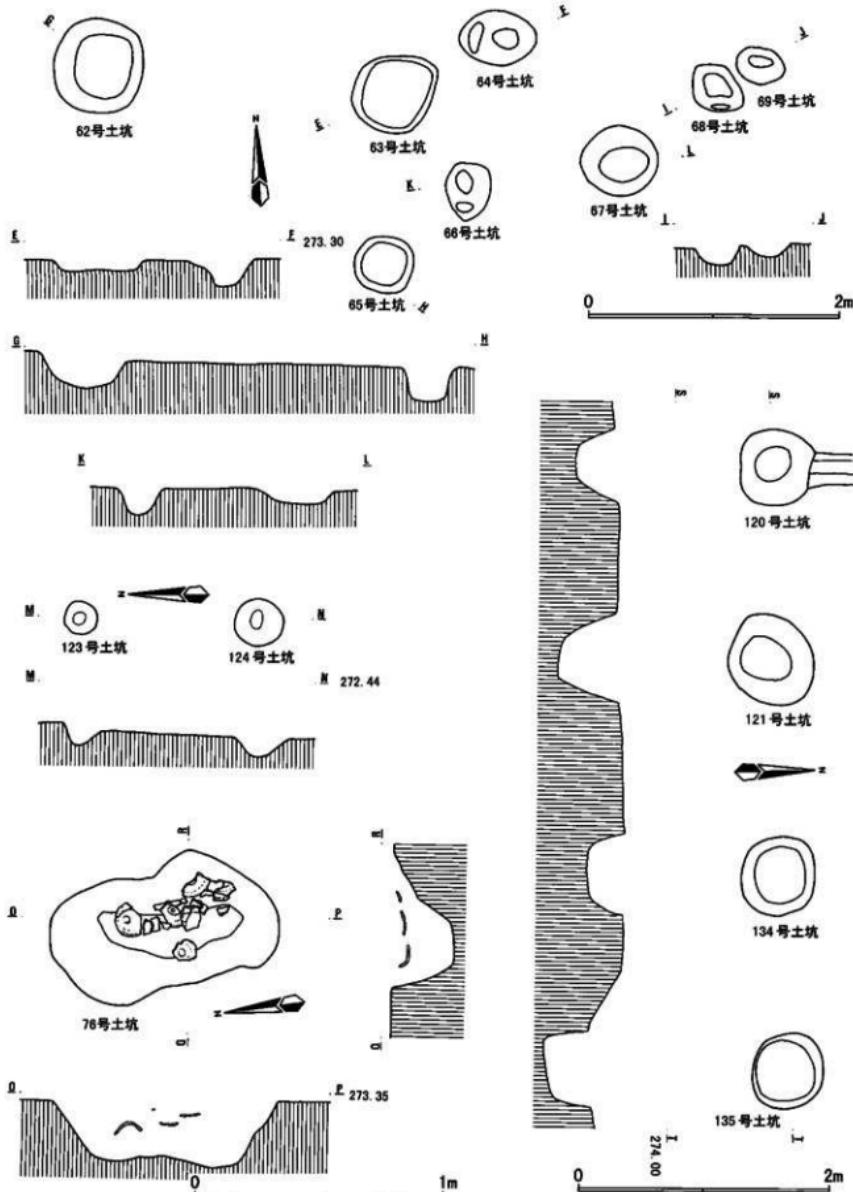




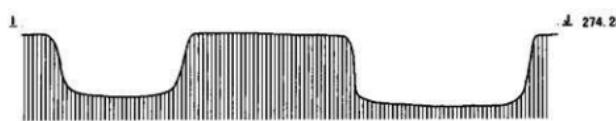
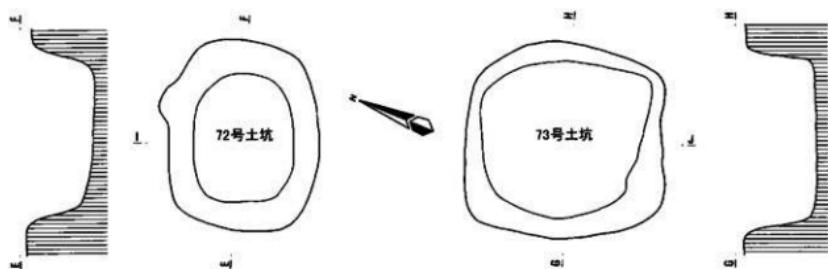
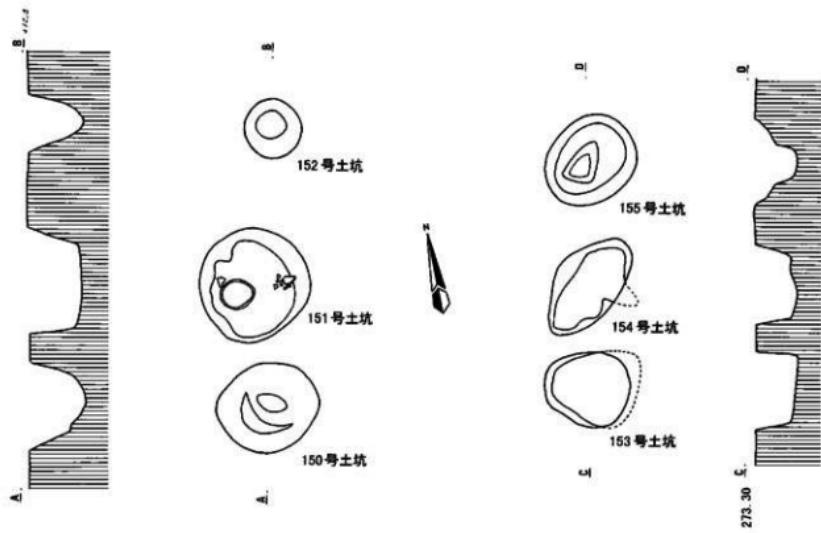
第153圖 76~88號土坑 ($S=1/40$)



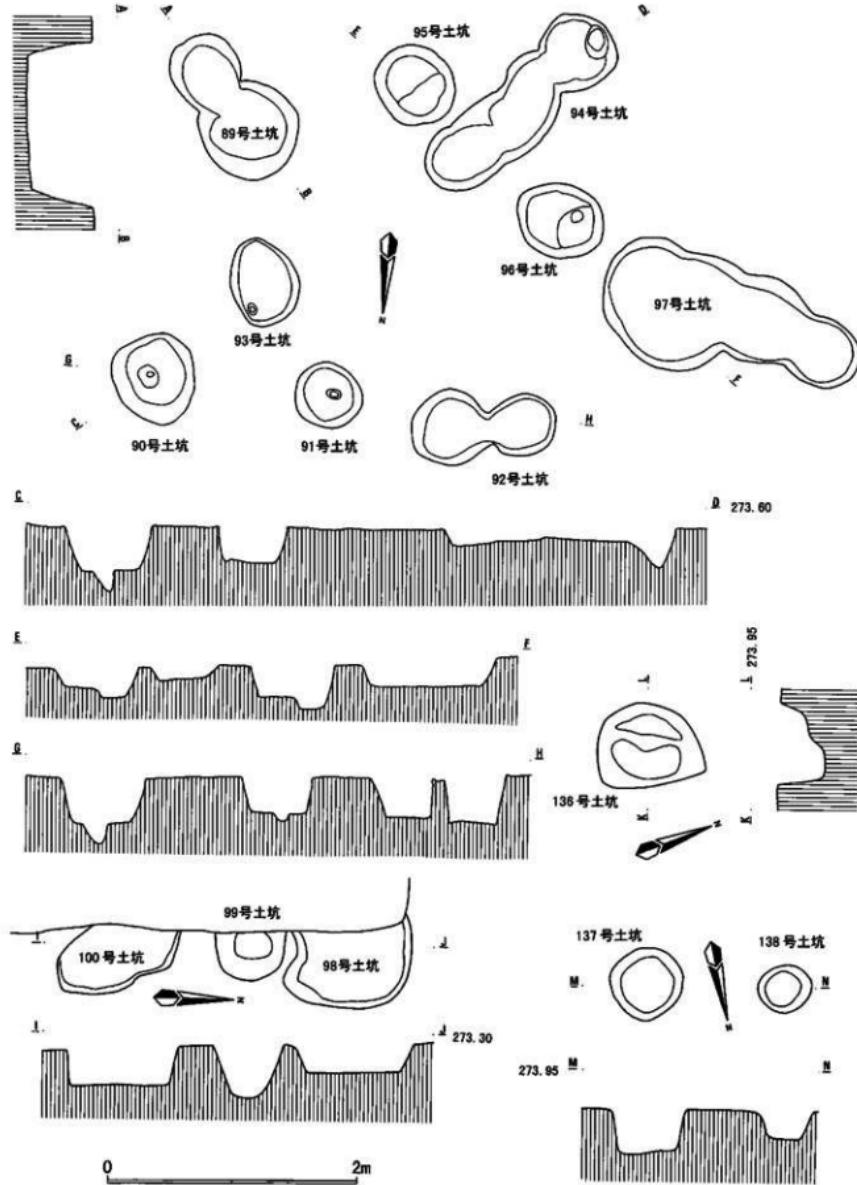
第154圖 59~61·74·75·101~104号土坑 ($S = 1/40$)



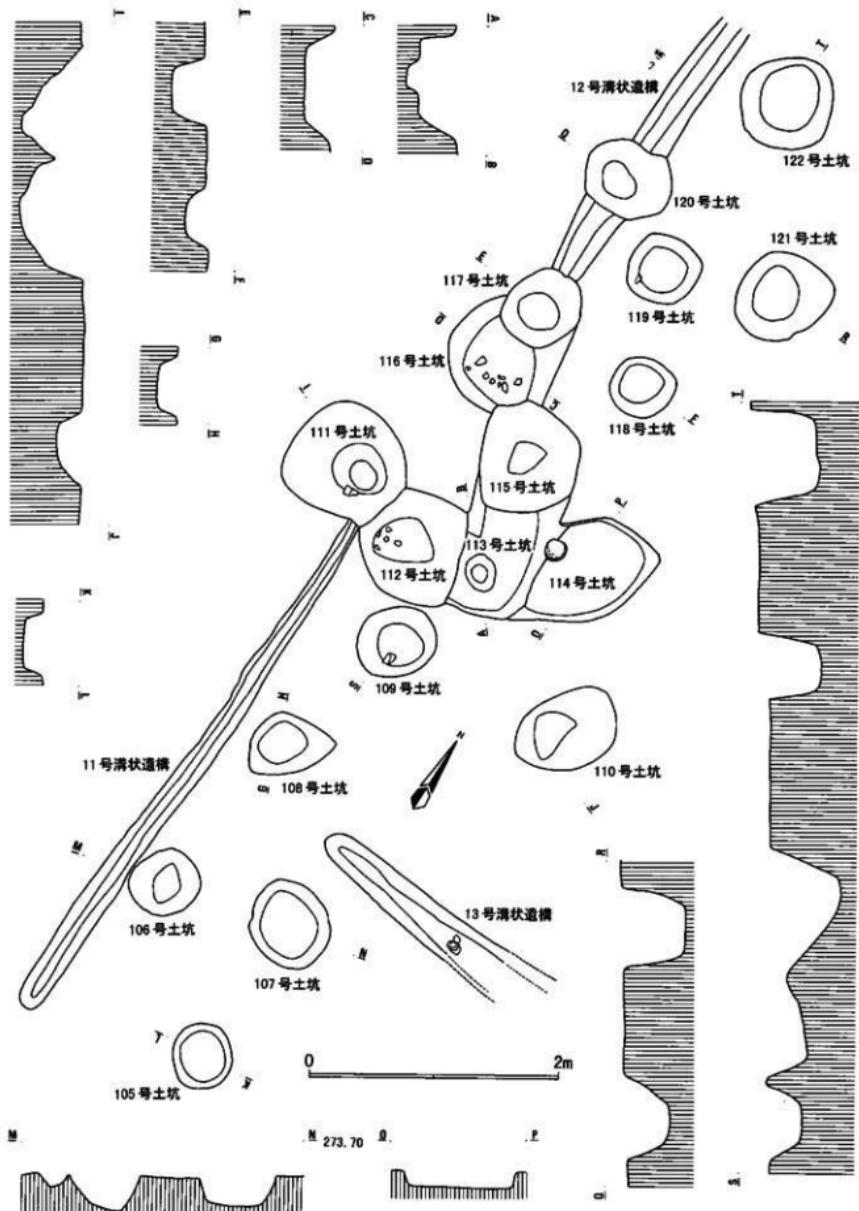
第155圖 62~69·76·120·121·123·124·134·135号土坑 ($S=1/40$)



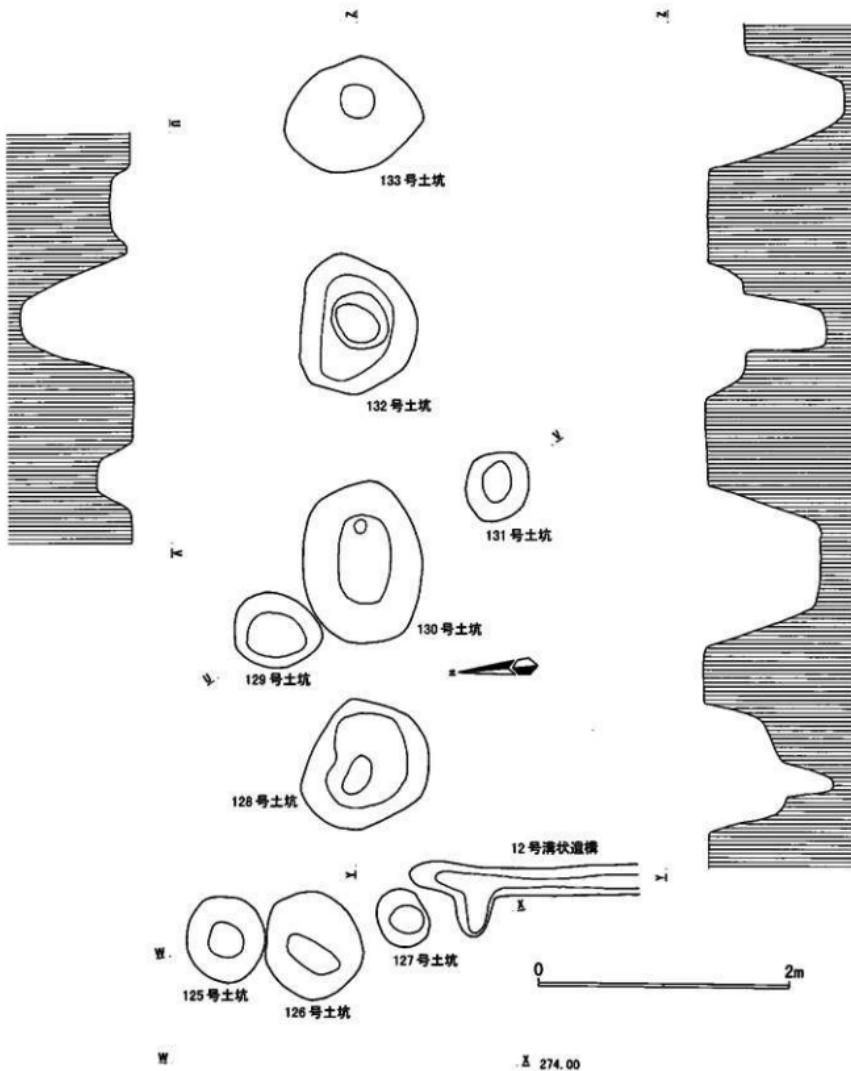
第156圖 72·73·150~155號土坑 ($S=1/40$)



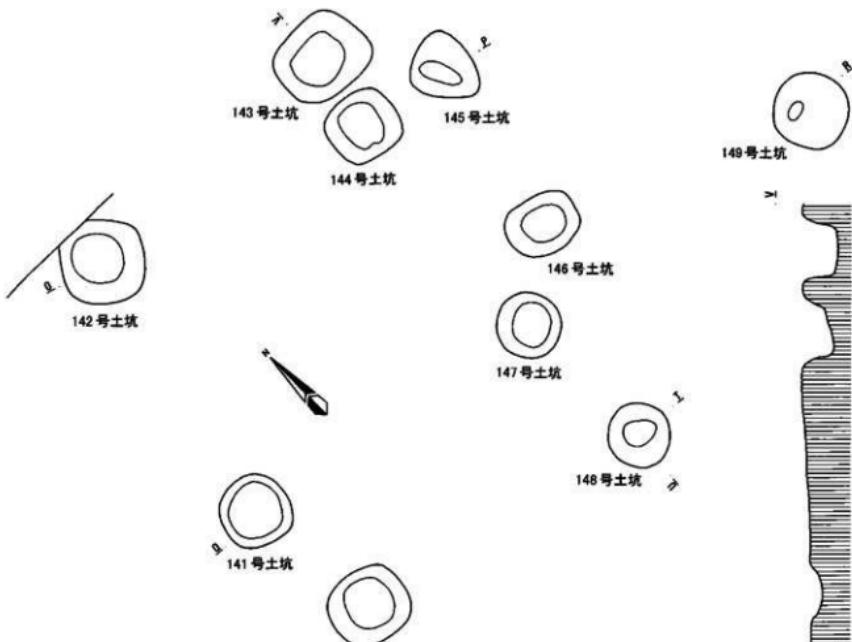
第157圖 89~100·136~138號土坑 ($S=1/40$)



第158図 105～122号土坑、11～13号溝状遺構 ($S=1/40$)



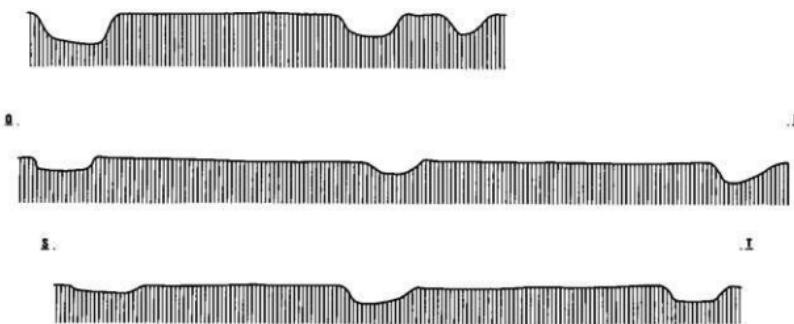
第159圖 125~133號土坑 ($S = 1/40$)



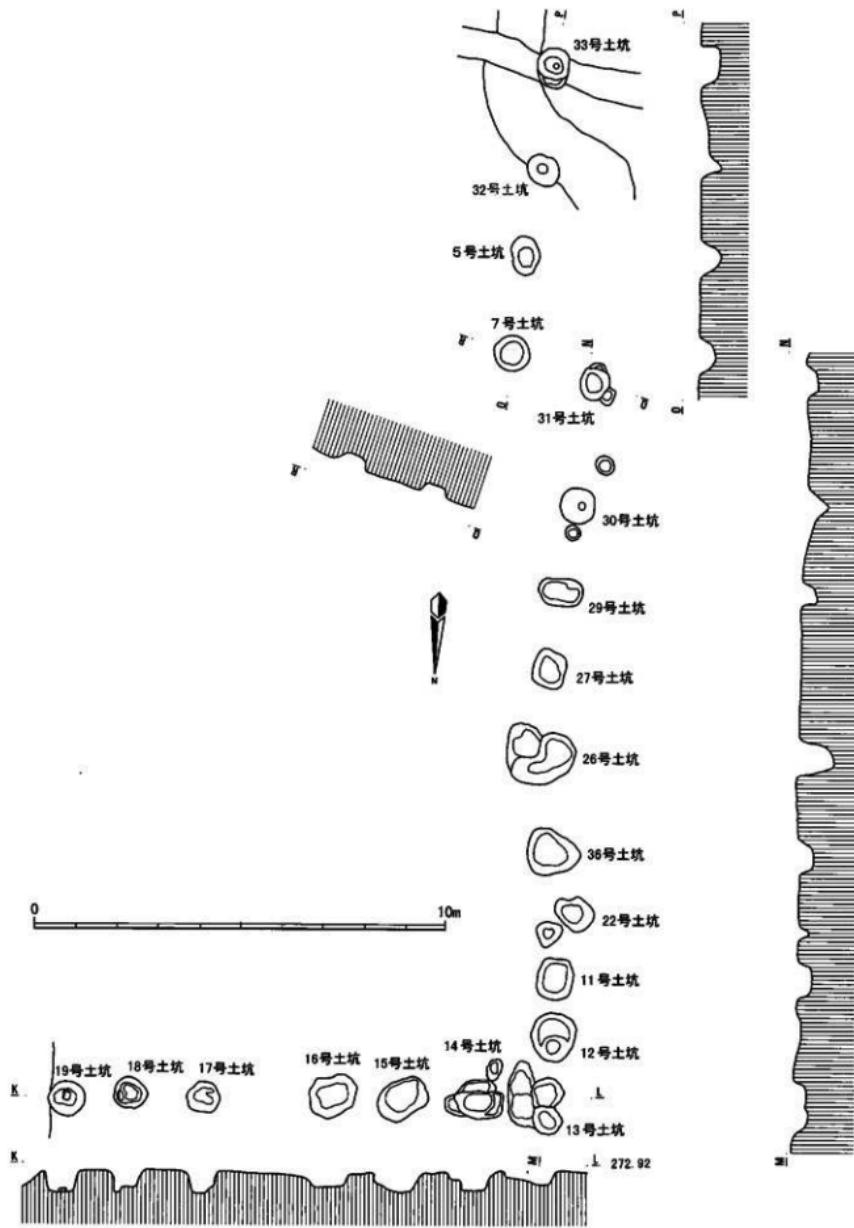
0 2m

139号土坑

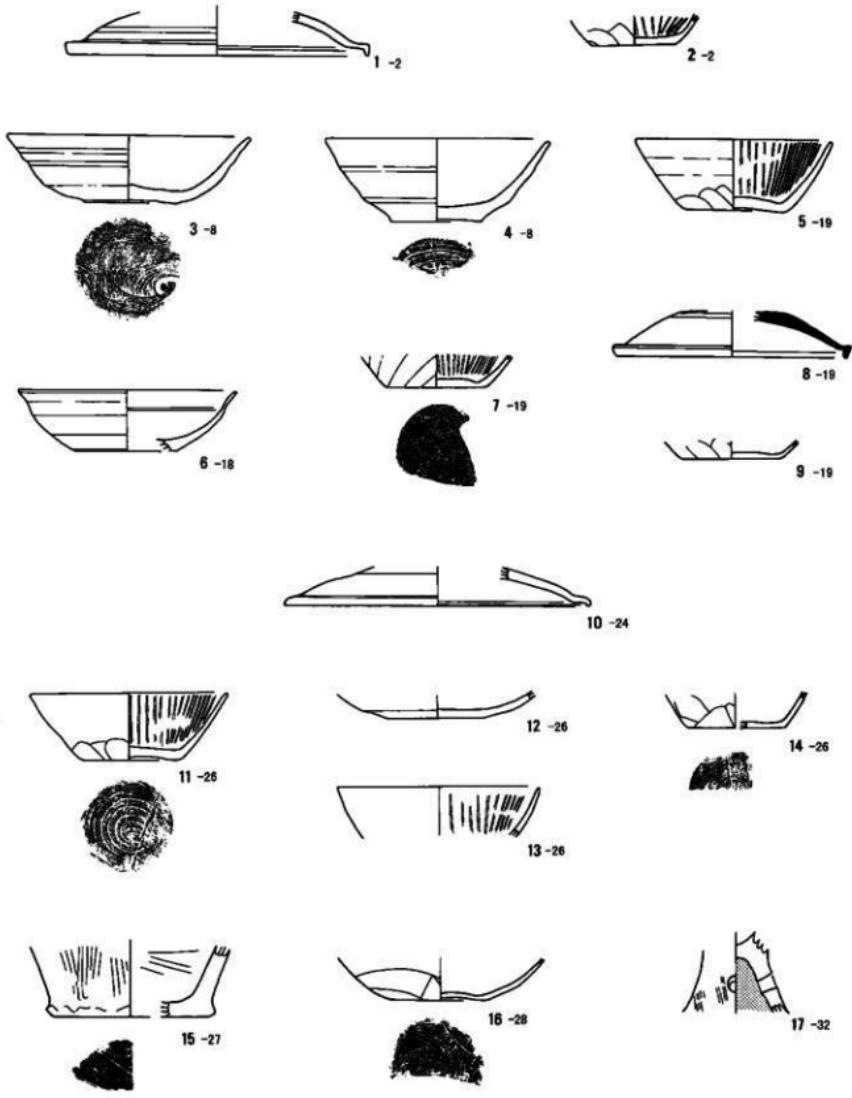
273.20



第160圖 139~149號土坑 ($S = 1/40$)

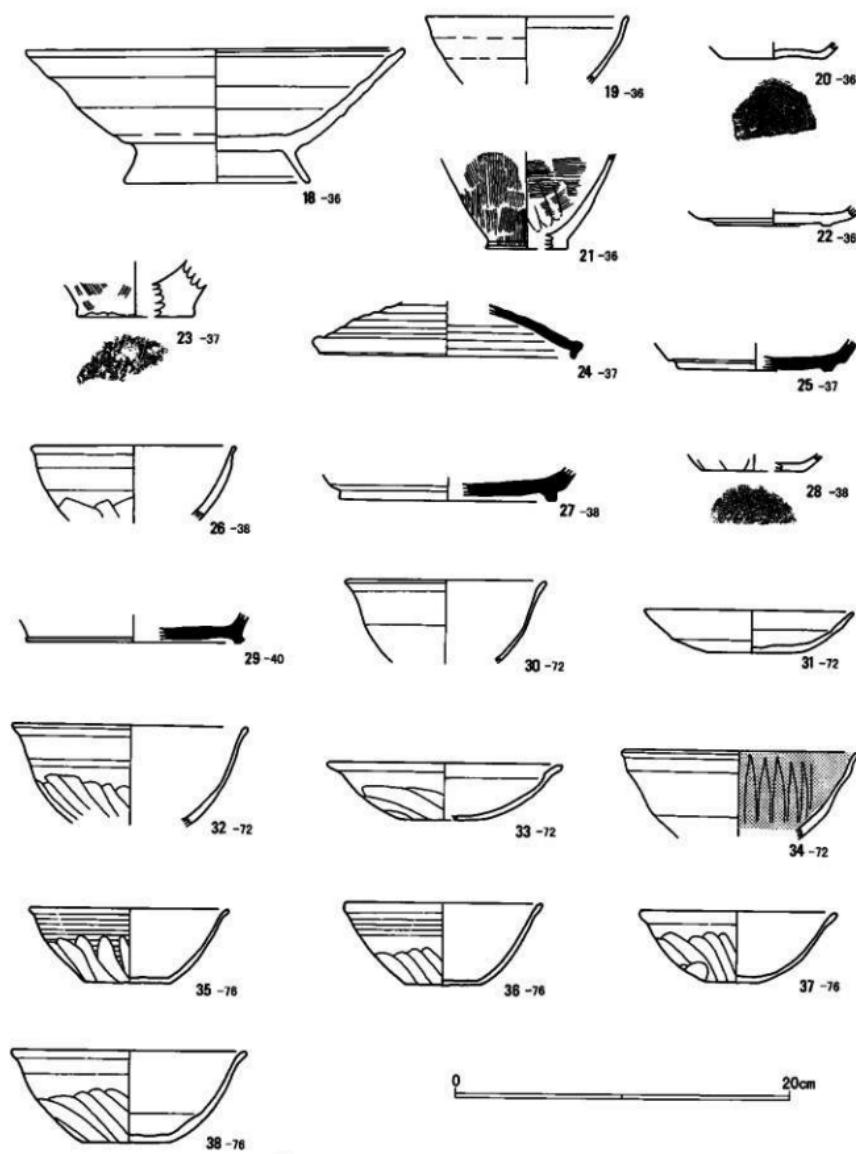


第161図 横列跡 (S=1/120)

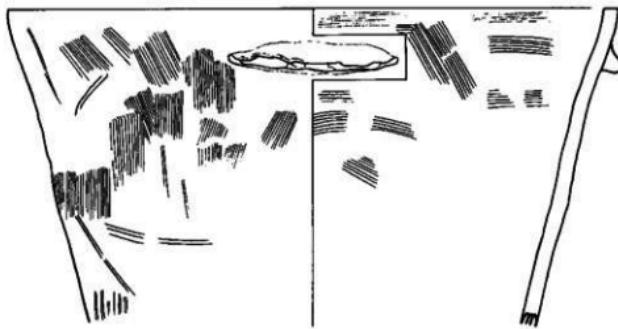
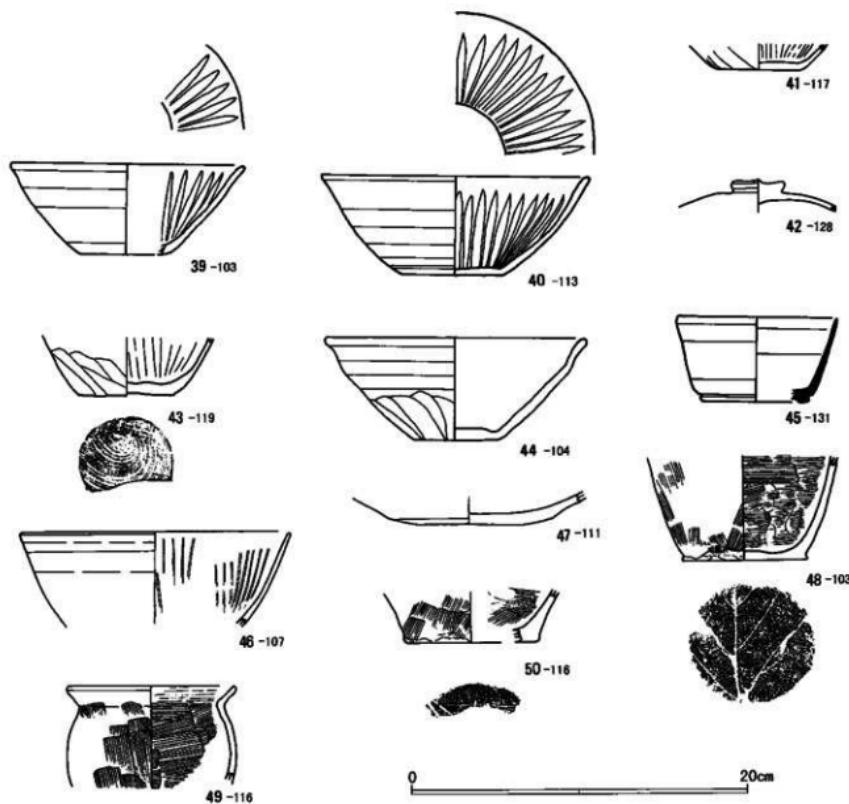


*図中で土器に付した小番号は出土した土坑番号である。 0 20cm

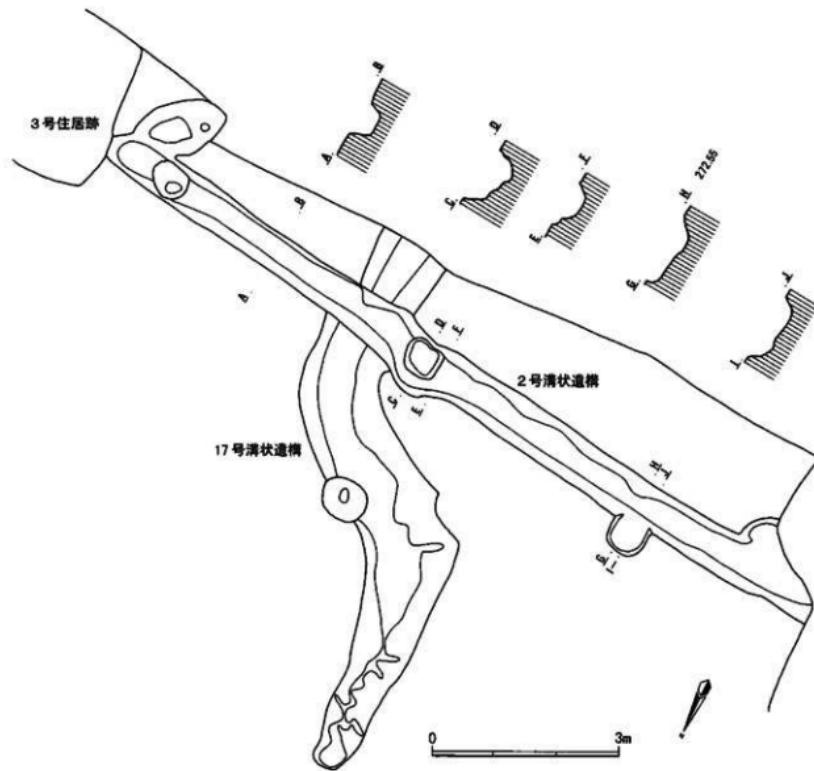
第162図 土坑出土土器 (1) (S=1/3)



第163圖 土坑出土土器 (2) (S=1/3)



第164図 土抗出土土器 (3) (S=1/3)



第165図 2・17号溝状造構 (S=1/80)

1号掘立柱建物跡（第143図）

(規模) 東西2間(3.0m)×南北3間(4.2m)

(柱間寸法) 東西方向、南北方向共に約140~150cm。

(主軸) N-4° - E

(備考) 北の方向に主柱穴よりはやや浅めの縦穴が2基並んで検出されている。本遺構に伴う可能性が高いと思われる。

2号掘立柱建物跡（第144図）

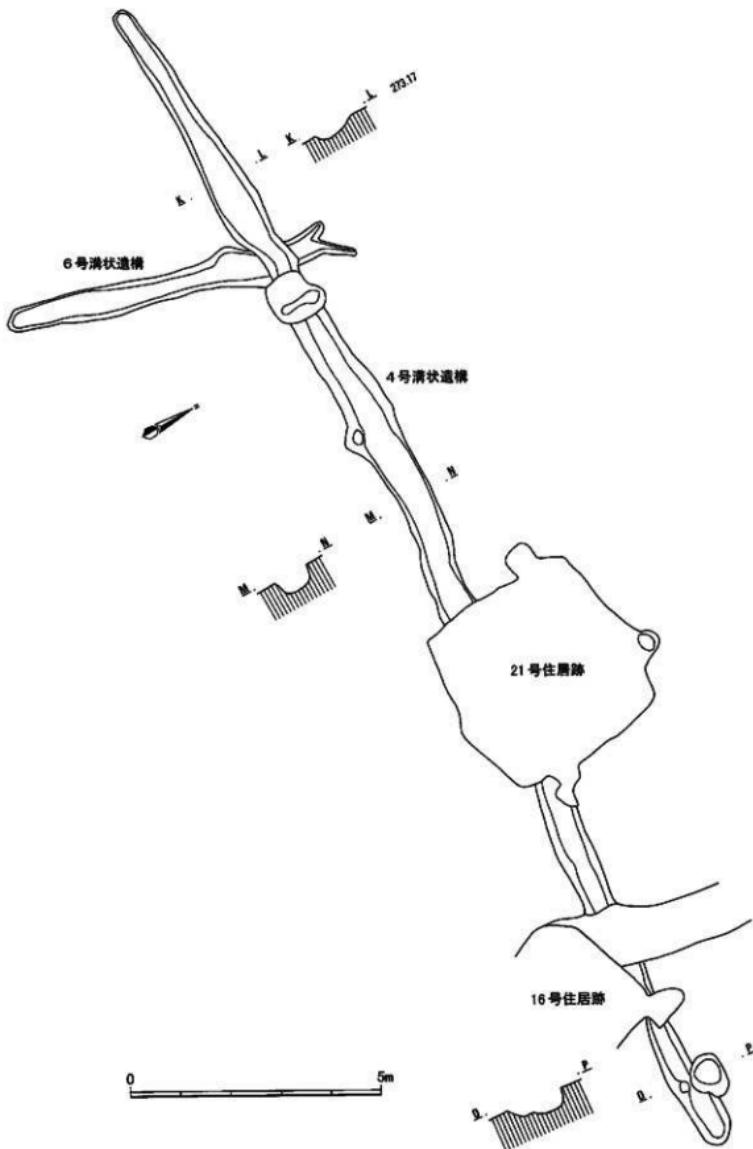
(規模) 東西2間(3.0m)×南北2間(3.2m)

(柱間寸法) 東西方向、南北方向共に約150~160cm。

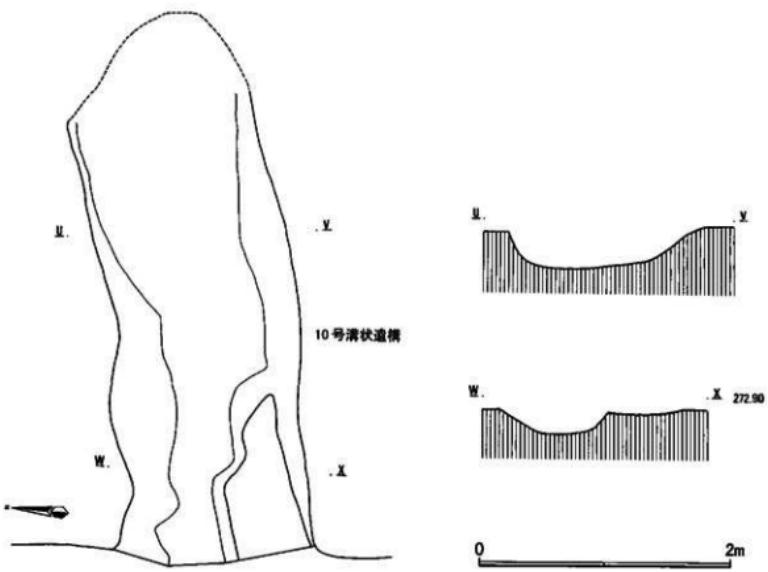
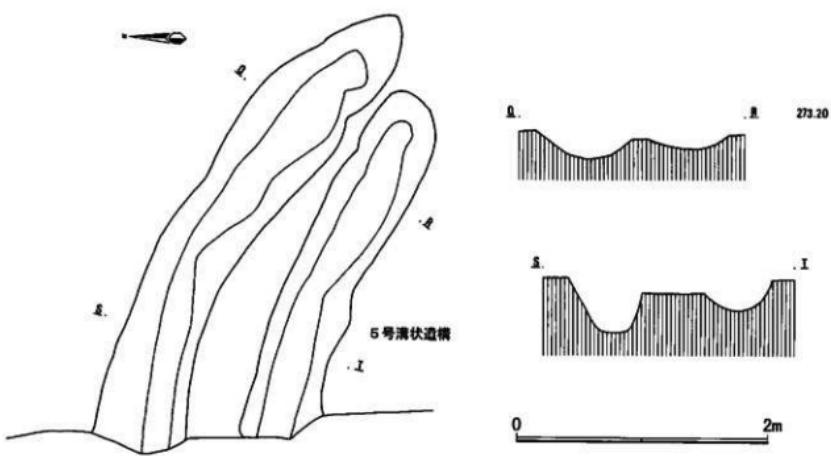
(主軸) N-38° - W

(備考) 主柱穴のすぐ側に3基の小規模な縦穴が別に検出されているが、位置的に主柱穴を補助するために掘られた可能性のものもある。

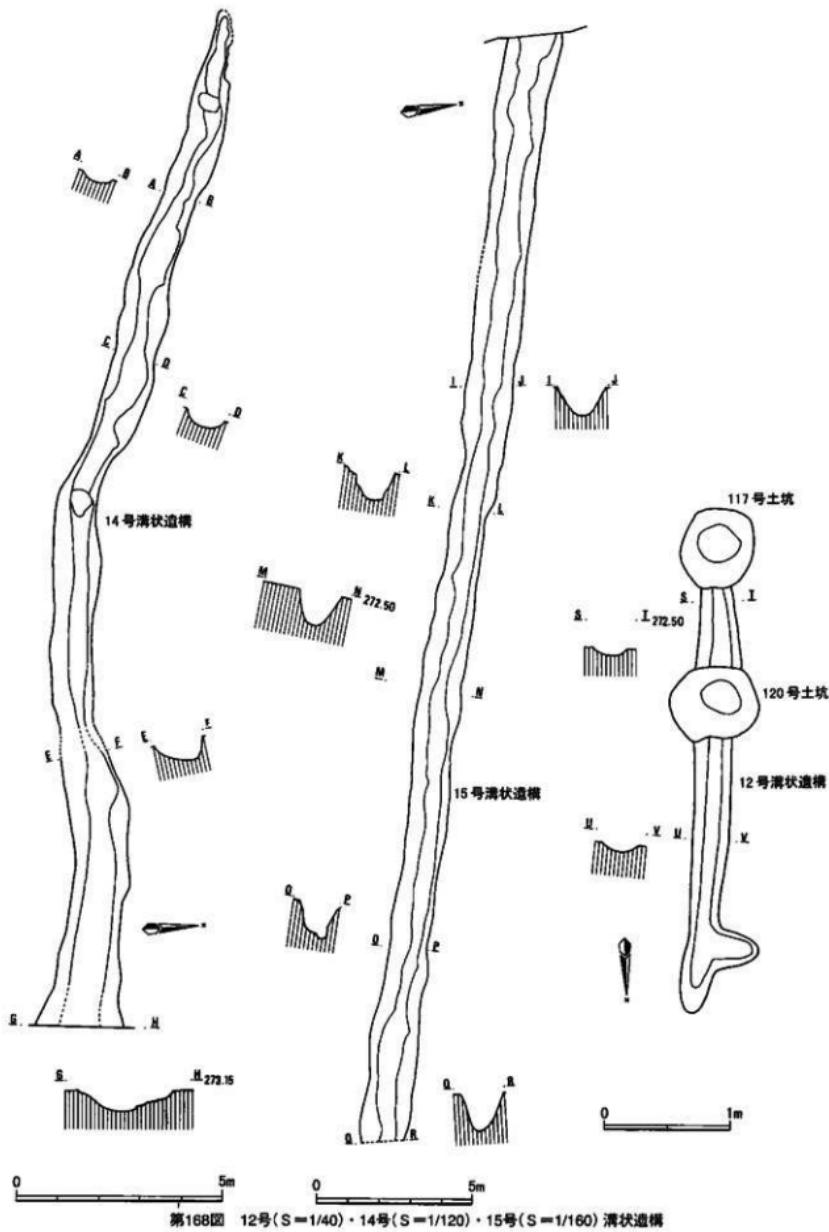
3号掘立柱建物跡（第145図）



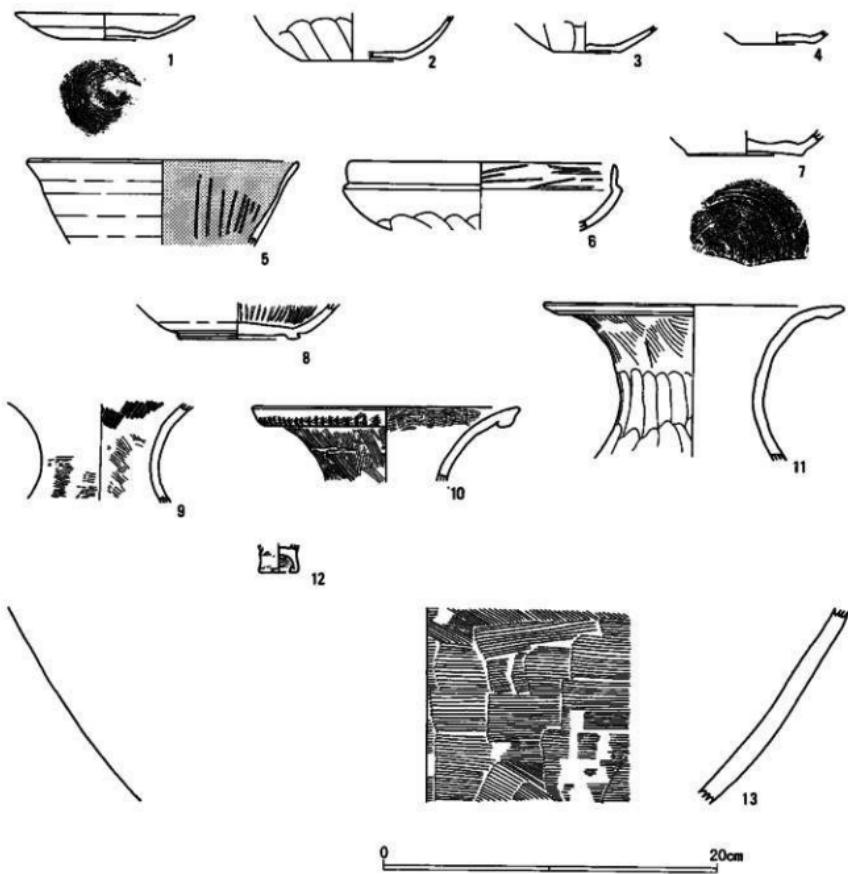
第166図 4・6号溝状遺構 ($S=1/100$)



第167図 5・10号溝状造構 ($S=1/40$)



第168圖 12号($S=1/40$)·14号($S=1/120$)·15号($S=1/160$)溝狀造構



第169図 溝状遺構出土土器 (S=1/3)

(規模) 東西2間(3.0m)×南北2間(3.6m)

(柱間寸法) 東西方向は150cm、南北方向は180cm。

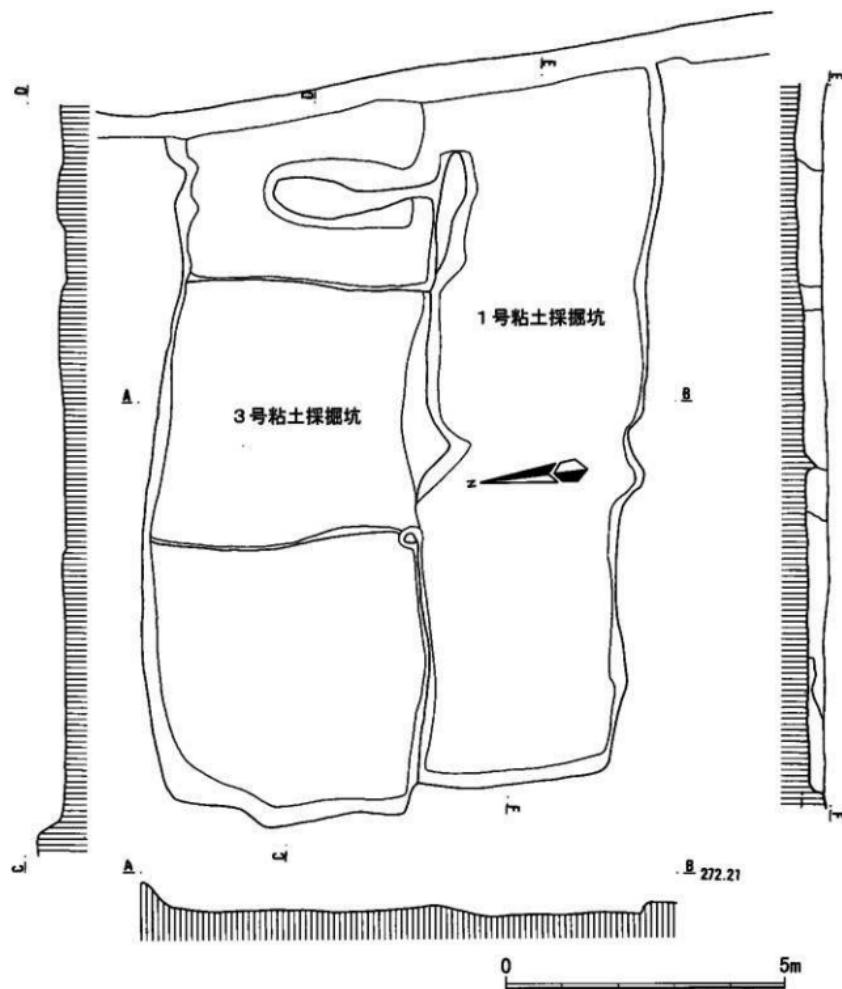
(主軸) N-5°-W

(備考) 東辺については中間の柱穴が検出されなかった。

第3節 土坑と出土遺物（第146図～第164図）

本遺跡からは149基の土坑が確認されている。しかしその形状・規模等は個々まちまちであり、出土遺物も存在しないものが大半である。そのため時期的な性格・傾向等を把握することはできなかった。

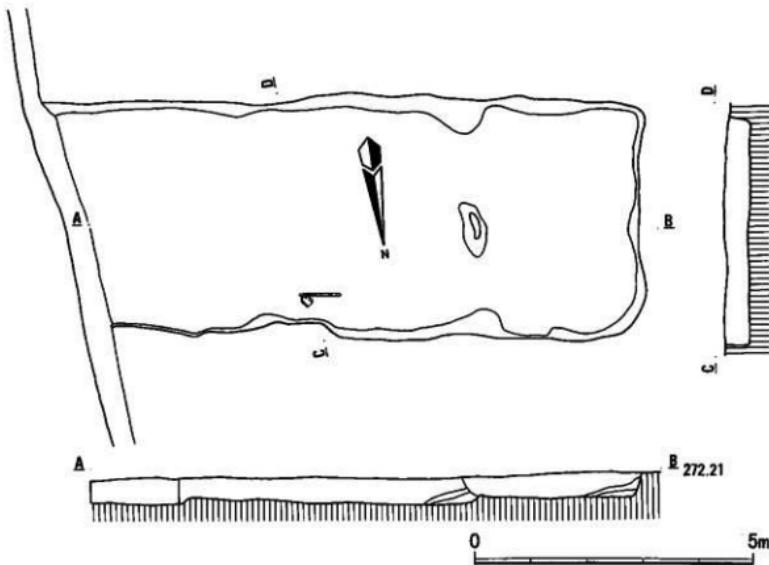
一部には祭祀あるいは呪術的に利用されたと思われる例が存在するが稀少である（76号土坑・第155図）。これは瓢箪形を呈する土坑の中に、数個の土師器の壊形土器を廻棄したと考えられる状況で発掘された。



第170図 1・3号粘土探掘坑 (S=1/90)

また先に記した掘立柱建物跡とともにとれるような配置を示す土坑群が所々に見られた(50~58号土坑・第152図、150~155号土坑・第156図)。しかしその形状から見て、今一つ積極的に建物跡と主張する根拠に乏しかった。

その他に2区の中の南東に土坑群が列を為して配置されている例が存在している(第161図)。これを横列跡と考えた。全ての土坑からではないが土器もかなり出土しており、ほぼ同一時期のものと考えられるため、一つの遺構と見て差し支えないものと思われる。しかし発掘調査範囲が道路幅に限定されているため、全体的な配列は不明である。



第171図 2号粘土探査坑 ($S=1/90$)

第4節 溝状遺構と出土遺物

本遺跡からは16条の溝状遺構が発見されている。ほぼ時期を確定できたのは4条のみである。その他は時期・性格等は特定することは困難であった。

3号溝状遺構（第150図）

不整形な溝状遺構である。長さ5m、幅80cmほどである。10世紀代の土師器を纏まって出土している（第169図2～5）。

7号溝状遺構（第66図）

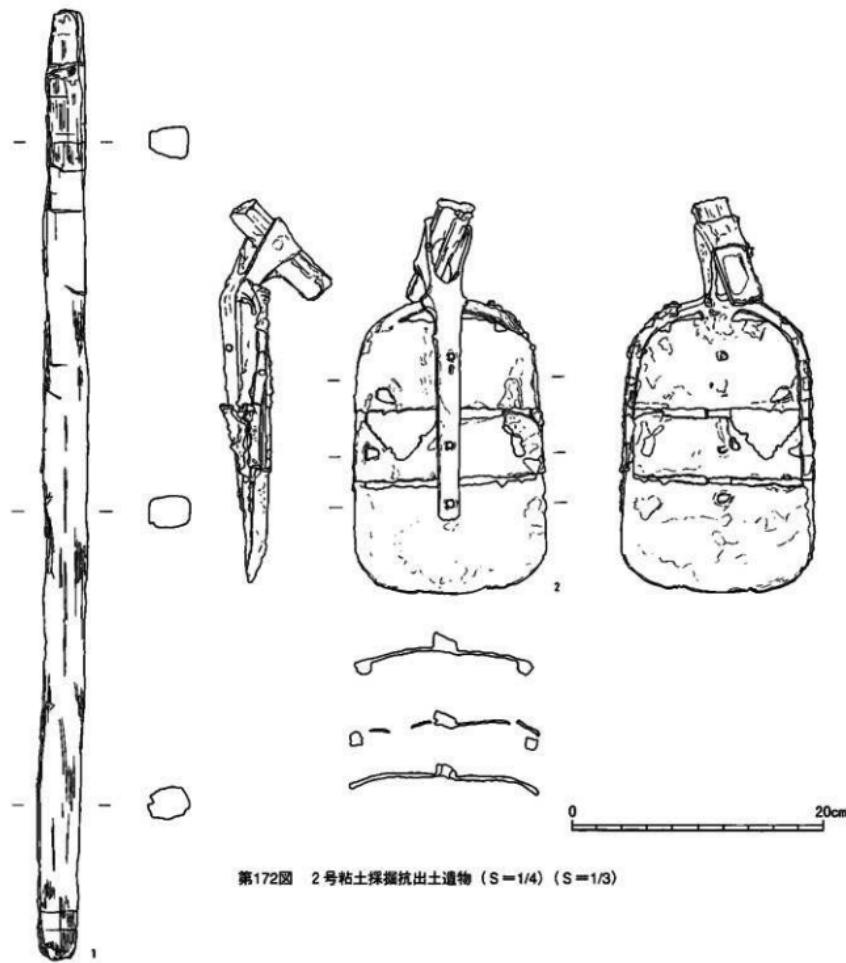
幅2～3m、深さ1.5mの大きな溝状遺構である。南北に走るが12mほどの長さの範囲しか確認されていない。溝状遺構中から古墳時代前期の土器片（S字状口縁）が2片発見されたが、採り上げる直前に台風が来襲したときに流されてしまった。

10号溝状遺構（第167図）

幅1.5m、長さ5mの範囲で確認された。西側は調査区域外、東側では徐々に浅くなつて消失してしまっている。深さは最も深い所で50cmほどである。弥生時代後期の壺形土器等を出土している（第169図9～13）。これだけの規模で性格を論じるのは危険かもしれないが、方形周溝墓の可能性もある。周囲を精査したが関連する溝状遺構は確認できなかった。

15号溝状遺構（第168図）

本遺跡中最大の溝状遺構である。遺跡を東西に横断しており、幅はほぼ2mで一定で、深さは1.5～2m、長さは55mを測る。断面はV字形で水路として利用された土の堆積状態を示す。古墳時代後期の44号住居跡が上に乗っており、中からも古墳時代前期のS字状口縁の土器片が数片確認されていたが、採り上げる直前に台風の襲来で流されてしまった。

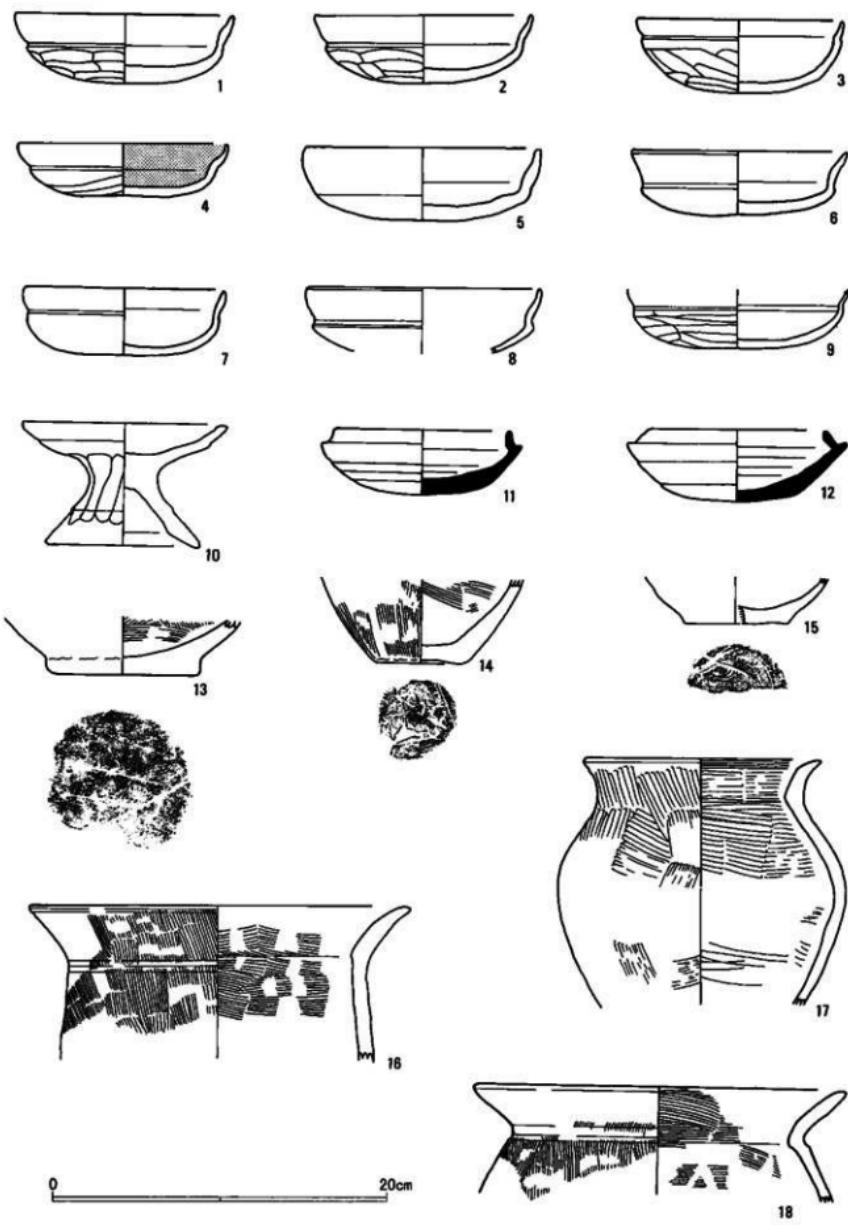


第172図 2号粘土探掘坑出土遺物 (S=1/4) (S=1/3)

第5節 粘土探掘坑と出土遺物

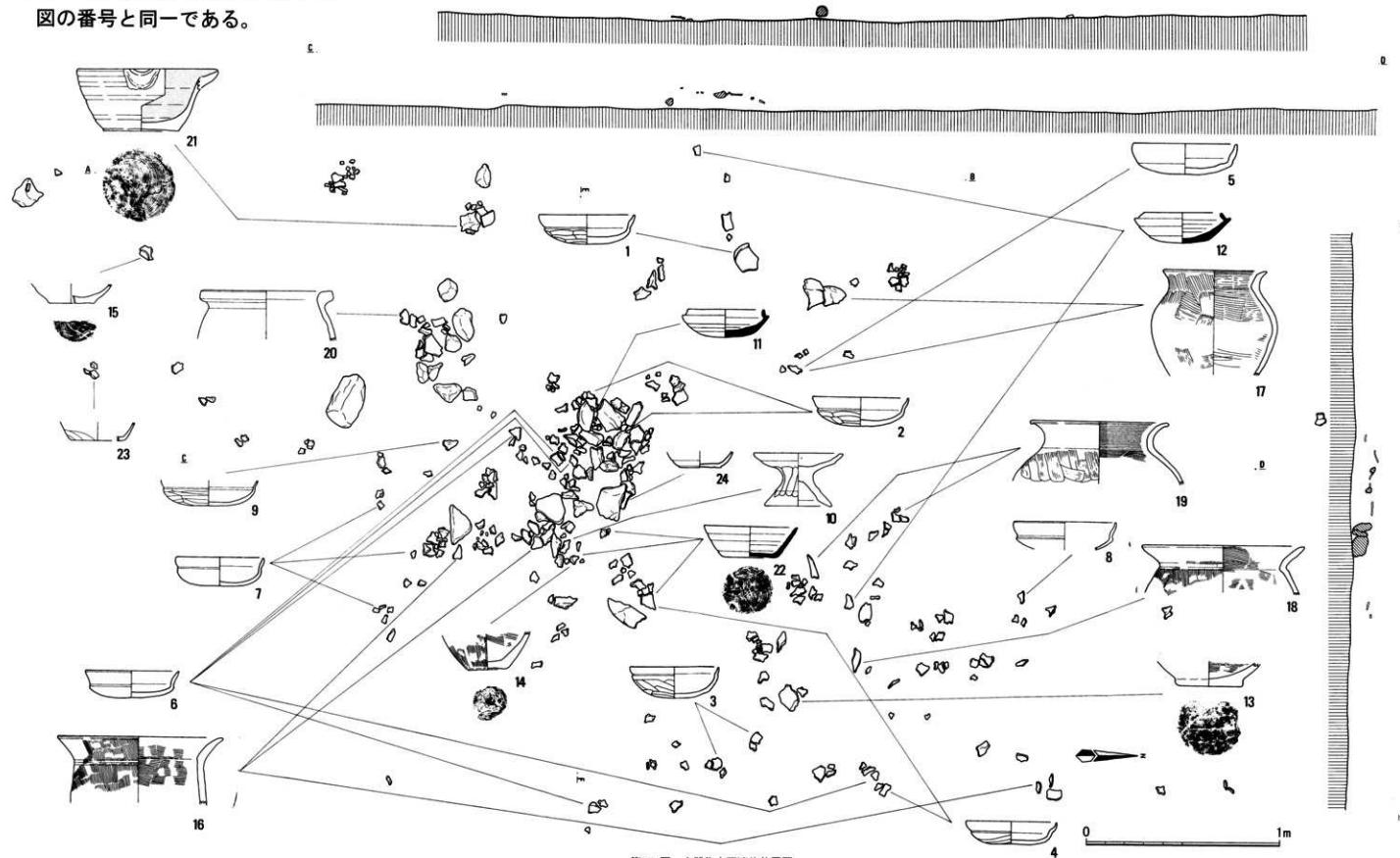
近代の粘土探掘坑と思われる遺構が3基発見された。当初覆土中から平安時代の土師器のみが出土し、遺構の性格と時期の決定に悩まされたが、床面から大正時代から昭和初期に使用された鋤簾（第172図）が発見され、粘土探掘坑であることが判明したわけである。1号～3号の3基の探掘坑が確認されたが、いずれも本遺跡の遺構確認面である黄褐色粘質土層を掘り込んで粘質土を採取している。鋤簾は土探掘時に破損したために廃棄されたものであろう。

地元の故老達の話によれば、かつて周辺で瓦生産が盛んであった頃は、農閑期になると瓦生産業者が農家に直に話をつけて、農地を掘削して良質な粘質土を採取していくらしい。その際、農家と取り決めた所定の量

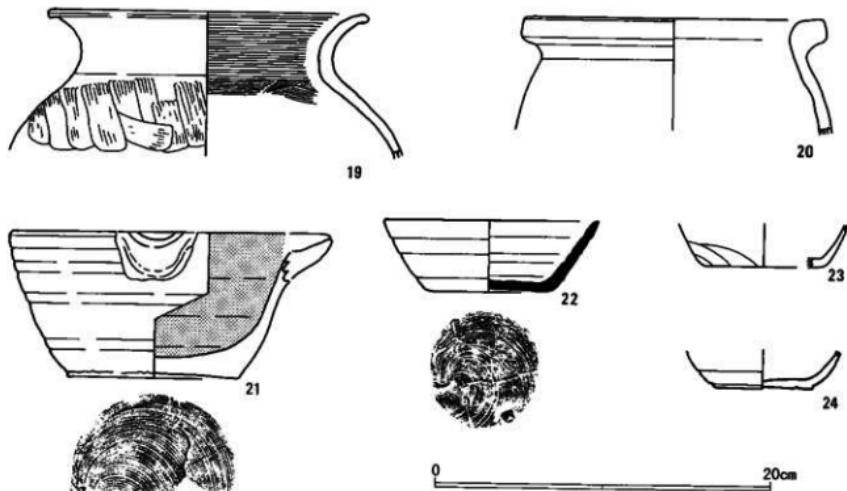


第173図 土器集中区出土土器(1) (S=1/3)

※図中に土器に付した番号は第175
図の番号と同一である。



第174図 土器集中区遺物位置図



第175図 土器集中区出土土器（2）（S=1/3）

を採掘したという。実際に当遺跡で確認された粘土探査坑は、比較的規則正しい長方形プランを呈していた。土地を計測しながら掘削したことによるものであろうか。

1号粘土探査坑（第170図）

東側は発掘調査範囲外であるため未発掘である。調査した範囲で東西12.6m×南北3.6mの長方形プランを呈する。土層断面図を見る限り大きさは東西2回に分けて土を探掘しているようである。

2号粘土探査坑（第171・172図）

東側は未発掘である。調査した範囲で東西10.8m×南北3.9mの長方形プランを呈する。土層断面を見ると大きく3回に分けて土を探掘したようである。本探査坑の底面から鐵簾が出土した。

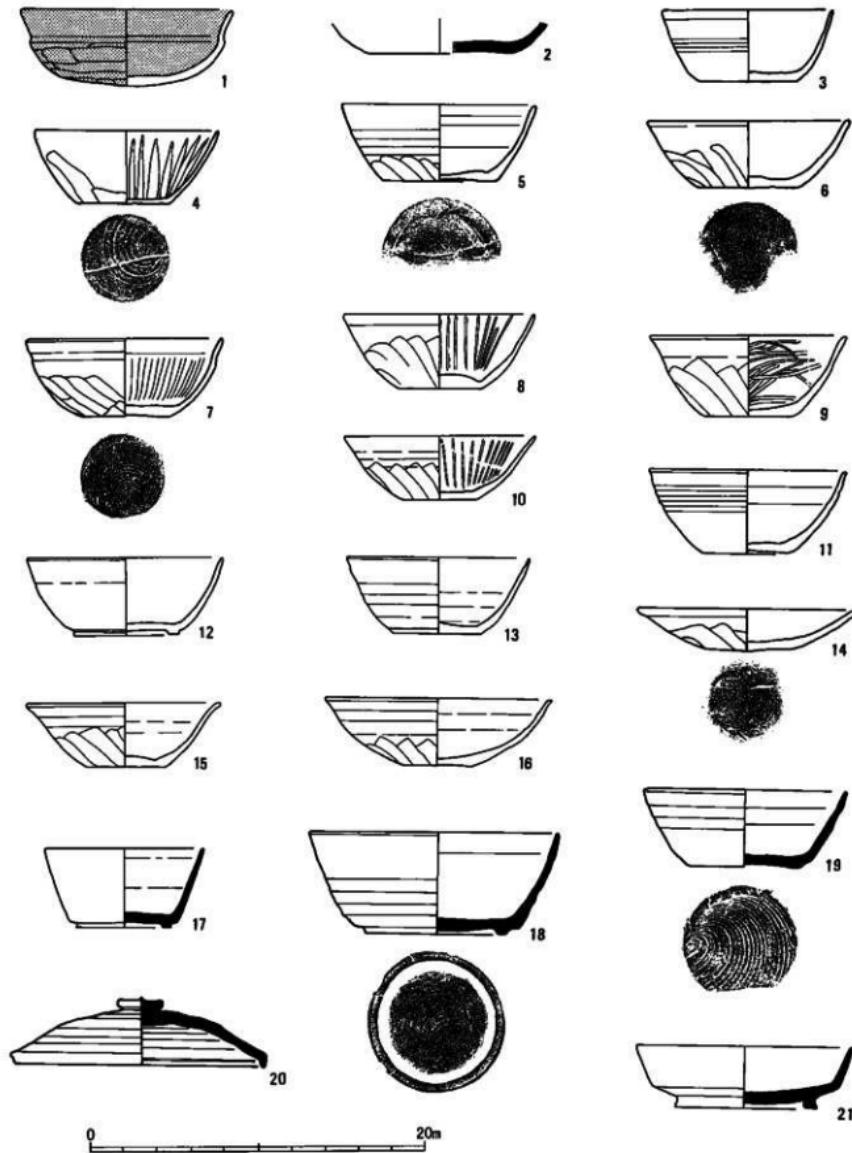
3号粘土探査坑（第170図）

やはり東側は未発掘である。東西13m×南北5.1mの長方形プランを呈する。大きさは3回に分けて土を探掘しているようである。

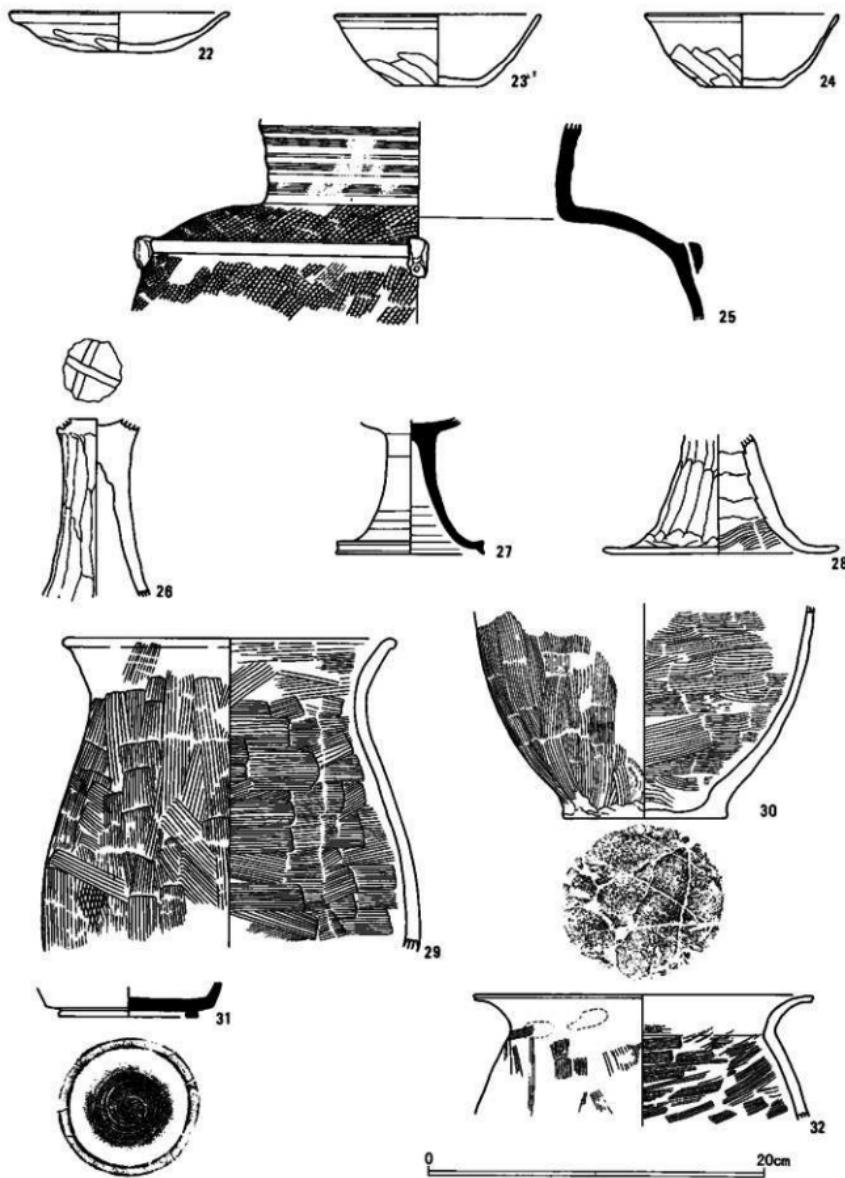
第6節 その他の遺構と出土遺物

土器集中区（第173図～第175図）

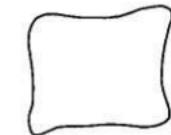
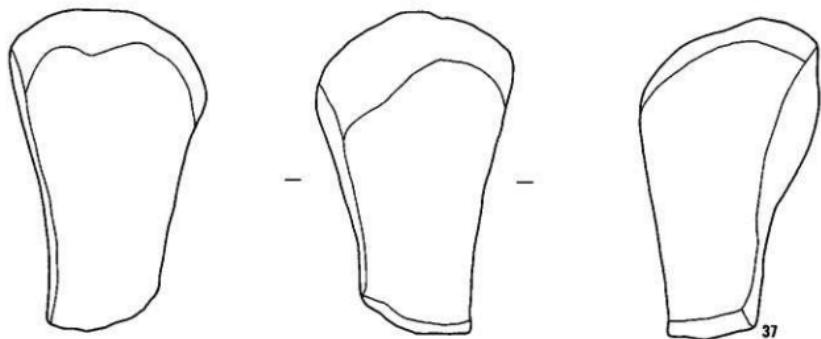
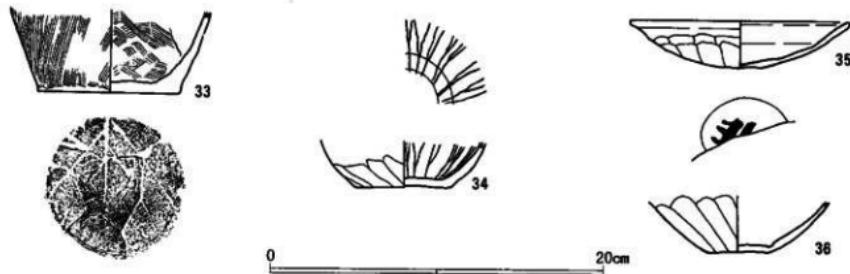
G-8グリッドを主体とする範囲で、古墳時代後期の土器が纏まって確認された。これを土器集中区と呼んだ。大小入り交じった蝶と土器とが規則性ではなく散乱した状態で確認されている。配石遺構的な状況は全くとらえることはできない。また竪穴状の遺構も確認されておらず、面的な拡がりのみで存在する遺構である。ここで遺構としての性格を断定することは危険であろうが、敢えて言うならば、遺構としての性格は不明であるが、祭祀的な行事が行われた跡である可能性が強いと思われる。ただ、同じ甲西バイパスの建設に伴う発掘調査で、中巨摩郡甲西町油田遺跡の例では祭祀儀礼に使われたと思われる獣の骨が蝶や土器に混じって検出されているが、当遺跡では獸骨は発見されなかった。



第176図 グリッド出土土器 (1) (S=1/3)



第177図 グリッド出土土器（2）（S=1/3）



0 10cm

第178図 グリッド出土土器 (3) (S=1/3)・石器 (S=2/3)

グリッド出土遺物（第176図～第178図）

これまでに記載した遺構以外の範囲から出土したものを一括してグリッド出土遺物とした。古墳時代の遺物は僅かで、やはり奈良時代・平安時代の遺物が多くを占める。とくに珍しいものとしては凸帯付四耳壺（第177図25）があげられる。本遺跡は住居跡の重複が激しいため、既に大部分が破壊されて消失した住居跡等に伴うような遺物が確認されたものと思われる。

第5章 まとめ

第1節 遺構について

新居道下遺跡で確認された最も古い時代の遺構は弥生時代終末の10号溝状遺構である。これについては先にも触れたが、方形周溝墓である可能性が考えられる。出土している土器は、おおよそ3世紀代のものと考えられるもので、同じ時期の方形周溝墓は本遺跡の北400mに位置する十五所遺跡で数多く発見されている。当該期におけるこの周辺の遺跡数の増加やその拡張具合を考える一例となるであろう。

次の段階では古墳時代前期の溝状遺構があげられる。2条の溝状遺構が発見されているが、いずれも本遺跡中では最も規模（幅・深さ・長さ）が最大級のもので、この時期に周囲で大規模な土木工事が実施された様子がうかがえる。なお同時期の住居跡は本遺跡のすぐ北の村前東遺跡で数多く発見されている。

古墳時代後期の住居跡は4基検出されている。時期的には6世紀の末に属するものと考えられるが、集落自体は甲西バイパスの路線の西側に広く展開しているものと思われる。今回発掘したものは集落の東端の部分ではないだろうか。

奈良・平安時代の遺構の分布は、8世紀の後半と9世紀の末の二つのピークが存在する。とくに8世紀の第3四半期は、本遺跡で住居跡の展開の広さと存在数が最大となる。次に多いのは9世紀第4四半期で、横列跡もこの時期に属するものと考えられる。いずれの時期も面的な広さで調査が実施されてはいないため、その全体的な様相は把握できない。しかしこの二つの時期に県内の各所で遺跡が飛躍的に拡張を見せる傾向はかねてより指摘されており、甲府盆地西部でも同様な実態が明らかになったといえる。

本遺跡における奈良・平安時代の住居跡のカマド設置場所については、9世紀代までは北カマドが主体であり、10世紀以降は東カマドに推移していく傾向が見られる。

第2節 土器について

本遺跡では古墳時代後期と奈良・平安時代の土器が数多く良好なセットで住居跡から出土している。しかし、当該期の土器編年がかなり完成の域に達しているためであろうか、従来の所見を変えうるような例は発見できなかった。しかし甲府盆地西部地域で古墳時代後期の良好な土器セットが纏まって発掘されたのは今回が初めてであろうか。

新居道下遺跡1期：6世紀末

古墳時代後期の土器群である。46号住居跡と47号住居跡の位置関係から考えると両者の同時存在はあり得なものであろう。そのため出土土器にも時期的な前後関係が見られる可能性を秘めていたが、実際に観察してみた限りでは顕著な差は認められなかった。一般的に見られるように、壺形土器・壺形土器・瓶形土器・高壺形土器から構成されている。ただ本遺跡の同時期の出土土器では、高壺形土器が少々少ない印象である。

新居道下遺跡2期：8世紀第2四半期

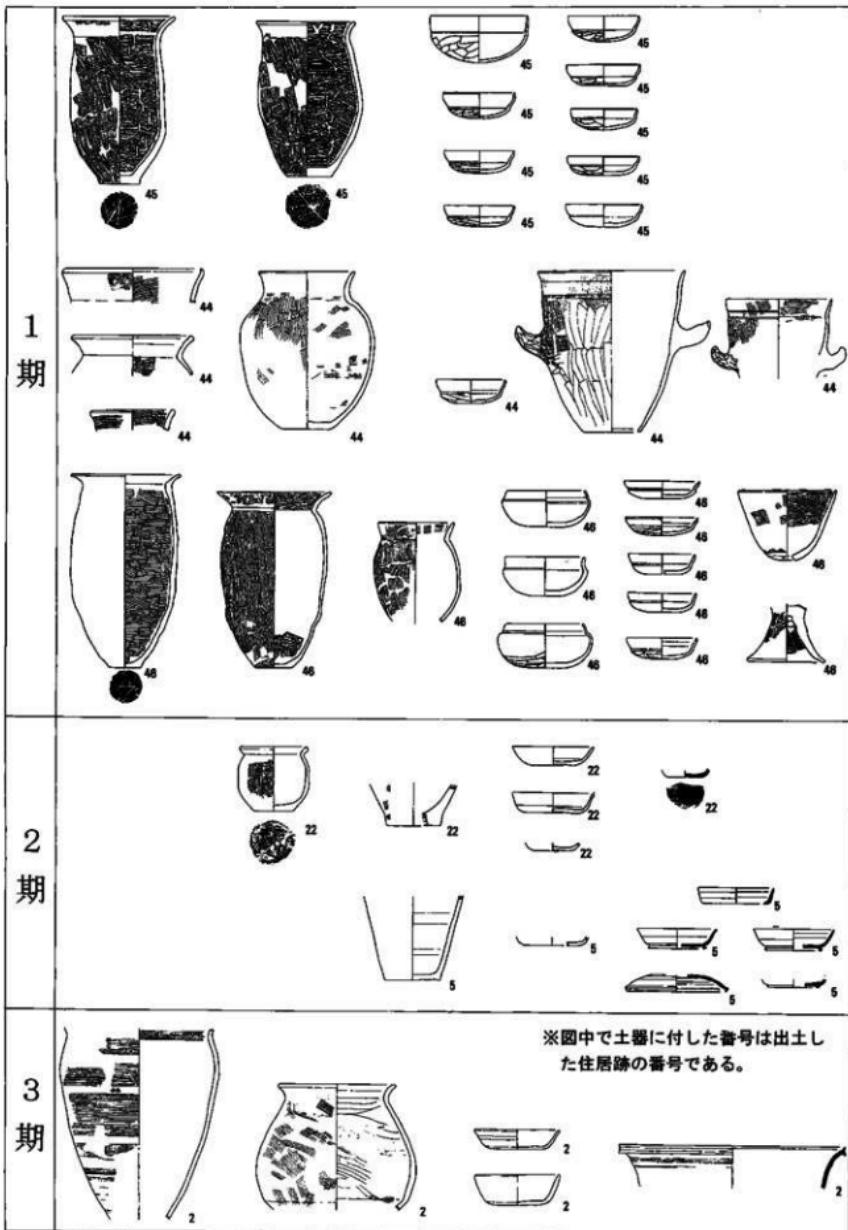
土師器の壺形土器・小形壺形土器・壺形土器・須恵器の壺形土器・蓋杯が出土している。土師器の壺は底端部に丸みを持つ大きな平底で盤状を呈する。須恵器では高台付壺が顕著で口径は大きめである。

新居道下遺跡3期：8世紀第3四半期

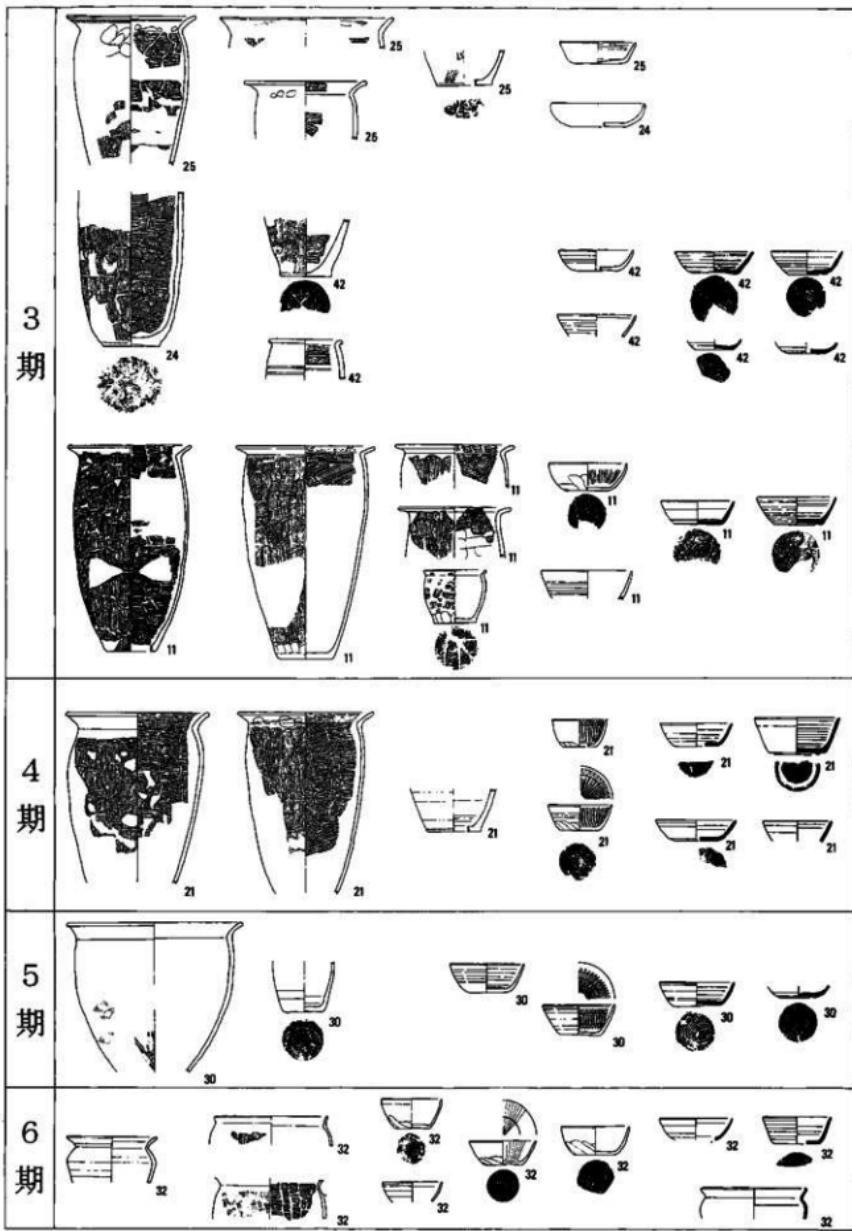
土師器は壺形土器・小形壺形土器・壺形土器・須恵器は壺形土器・壺形土器が出土している。土師器の壺は長胴形および球胴形の二種類があり、いずれもハケ目整形されている。土師器の壺は盤状を呈し、底部の端が角張って口縁部に至る形態のものが主である。底部は糸切り後にその周辺を大きくヘラ削りするものが多い。須恵器の壺ではこの時期の特徴とされていた高台付のものがあり見られず、やや身の浅い扁平なものとやや深いものとが存在するようである。

新居道下遺跡4期：9世紀第1四半期

土師器は壺形土器・壺形土器・須恵器は壺形土器が見られる。土師器の壺は長胴形で内外面共にハケ目整形

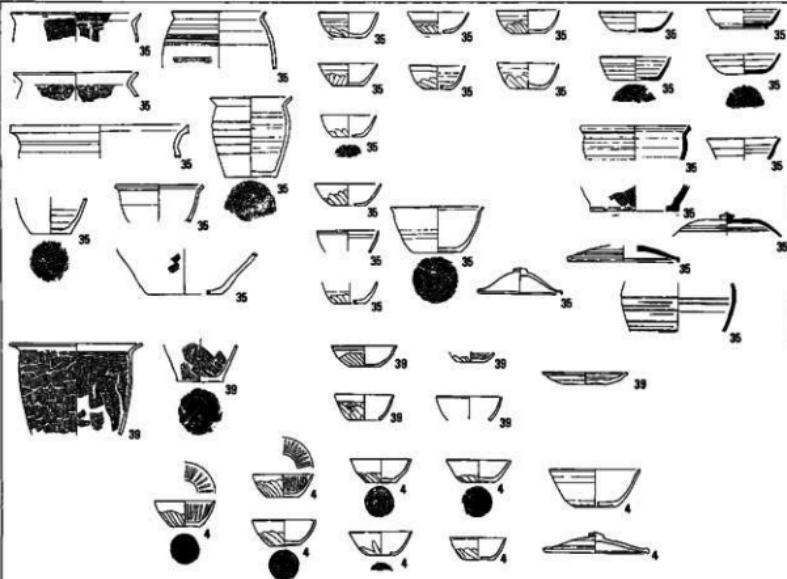


第179図 新居道下土器変遷図（1）

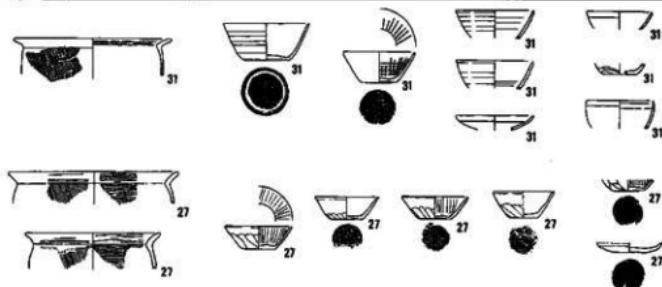


第180図 新居道下土器変遷図（2）

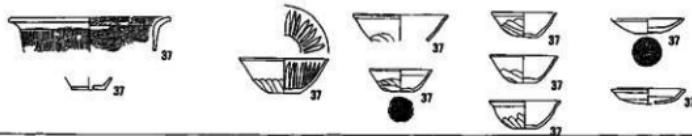
7期



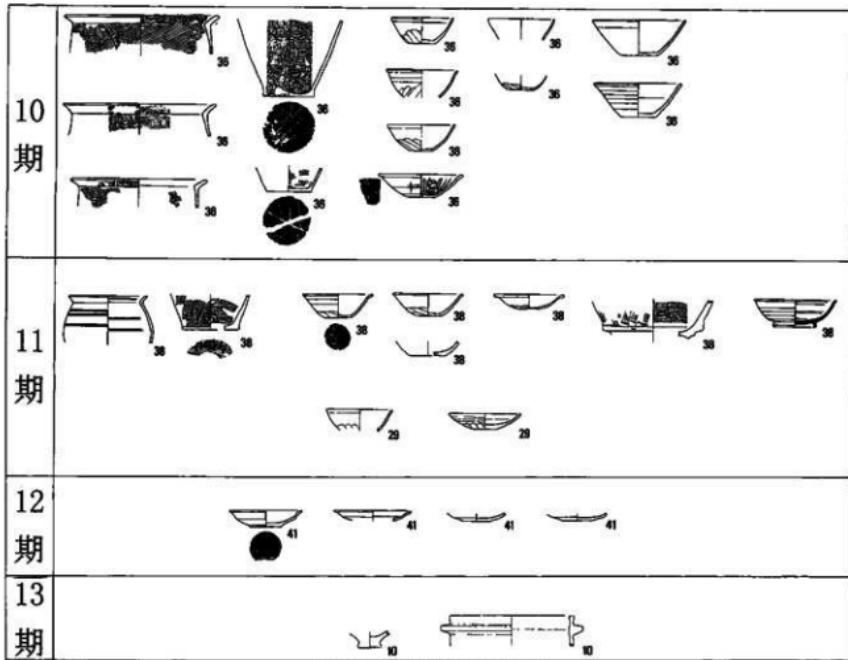
8期



9期



第181図 新居道下土器変遷図（3）



第182図 新居道下土器変遷図（4）

されている。坏は口唇部が尖形で底径の大きな身の深い箱形を呈する。内面に放射状の暗文がみこみ部を含め全面に施されているのが特徴である。須恵器の坏は底部糸切り後にその周辺にヘラ削りが施されている。他に高台付も認められる。やや法量が大きいのは古い時期の特徴をのこすものであろうか。

新居道下遺跡 5期：9世紀第2四半期

土師器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器、須恵器の坏形土器が確認されている。土師器の坏は底部が糸切り後に全面ヘラ削りが施される。ただこの時期の特徴とされる横位のヘラ磨きは明確には認められなかった。内面は放射状暗文がみこみ部も含めて施されている。壺は口縁部が長く、内外面共にハケ目は稀薄である。

新居道下遺跡 6期：9世紀第3四半期

土師器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器、須恵器の坏形土器・小形壺形土器がある。土師器の坏は前段階からの特徴を継承し口唇部が尖形を呈する。最も大きな変化は表面への整形方法の変化で、この時期以降の主流となる斜方向のヘラ削りが顕著になる点である。みこみ部の暗文も残り、底部は糸切り後に全面あるいは全面にヘラ削りが行われている。

新居道下遺跡 7期：9世紀第4四半期

土師器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器・皿形土器・蓋坏、須恵器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器・蓋坏が出土しており、本遺跡中最も多量の資料が存在する時期である。土師器の坏のみこみ部の暗文は姿を消している。口唇部はやや丸みを帯び、口径が小さくなると共に底径の口径との相対的な大きさも縮小していく。底部は全面ヘラ削りされるものが大半である。体部は斜方向のヘラ削りが一般的となる。皿は盤状を呈し内面にくびれを有し底部は大きい。底部は回転ヘラ削り、体部下半は横方向回転ヘラ削りが施されている。

新居道下遺跡8期：10世紀第1四半期

土師器の壺形土器・坏形土器・皿形土器が出土している。土師器の坏は底径の縮小が前段階より更に進み、口縁に向かって底部から直線的に開き立ち上がる形状を見せる。放射状の暗文のあるものと無いものがある。底部は糸切り後にヘラ削りを行わないものが多いようである。皿は下半部の横位回転ヘラ削りの特徴を残している。

新居道下遺跡9期：10世紀第2四半期

土師器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器・皿形土器が出土している。壺は口唇部がかなり肥厚してくる。坏は口唇部が玉縁化し、底部の縮小が更に進む。やはりこの時期から内面黒色で放射状暗文を有する例が出現する。底部は全面ヘラ削りの例が多い。

新居道下遺跡10期：10世紀第3四半期

土師器の壺形土器・坏形土器が出土している。壺の口唇の肥厚はかなり一般的になってくる。坏は底部が極端に小さくなると共に、糸切り後に全面ヘラ削りが施されるようになる。口唇部は肥厚した玉縁となり、内面の暗文は内面黒色に伴うもの以外は消滅しているようである。

新居道下遺跡11期：10世紀第4四半期

土師器の壺形土器・小形壺形土器・坏形土器・灰釉陶器が出土している。坏の口唇部は最も極端に発達した玉縁を呈し、形態的には底径の小さな三角形状のものが目立つ。内面の暗文はほとんど見られない。皿の口唇部も最も肥厚した玉縁となる。

新居道下遺跡12期：11世紀前半

土師器の皿形土器しか確認されていない。口縁はやや玉縁の傾向を残しており、器面はヘラ削り整形が姿を消して全面ヨコナデで行われる。底部は回転糸切り未調整のものしか確認できていない。

新居道下遺跡13期：11世紀後半

高台付坏と羽釜のみが出土しており、その他の形態は発掘では確認できなかった。内外面の調整はナデによるものが主流である。

以上新居道下遺跡での土器変遷の概観を示したが、同一時期の土器のセットとしての組み合わせを見るためには、まだ資料的に量が少ない時期も多く存在する。更に類例を積み重ねないと、ある形態の土器について、当該地周辺ではもともと存在しないものなのかどうかの区別も付かない。今後の資料の増加によって甲府盆地西部の古墳時代から奈良・平安時代までの土器様相は更に明確になっていくであろう。

(参考文献)

- 坂本美夫他 1983 「奈良・平安時代土器の諸問題」 神奈川考古第14号
- 坂本美夫 1986 「甲斐国における古代末期の土器様相」 神奈川考古第21号
- 清水 博 1987 「メ木遺跡」 梅形町教育委員会
- 平野 修他 1988 「宮間田遺跡」 武川村教育委員会
- 平野 修他 1992 「宮ノ前遺跡」 薩摩市教育委員会他
- 保阪和博 1998 「油田遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第130集

1号住居跡出土土器(第9図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壺	(口)29.0 (高)一 (底)一	—	—	(胎)密 (焼)良好 (色)灰色	
2	土師壺	15.0 8.0 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
3	土師高台壺	— 8.2	ヘラケズリ —	—	密 良好 赤褐色	
4	土師壺	— 5.6	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密(胎石合む) 良好 黄褐色	
5	須恵壺	— 15.3	タタキメ —	ヘラケズリ	密 良好 青灰色	

2号住居跡出土土器(第11図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)一 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	密(胎石合む) (焼)良好 (色)青灰色	
2	土師壺	15.3 3.6 9.6	ナデ —	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
3	土師壺	15.2 5.6 8.4	ナデ —	ヘラケズリ	密(胎石合む) 良好 赤褐色	
4	土師壺	20.6 — (内)指頭痕	ハケメ 指頭痕 (内)指頭痕	—	密(胎石合む) 良好 暗褐色	
5	須恵壺	40.3 —	ナデ —	—	密 良好 黑灰色	
6	土師壺	— 16.0	— —	木葉痕	密(胎石合む) 良好 自然(内)青灰色	

3号住居跡出土土器(第14図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壺	(口)10.0 (高)6.6 (底)6.6	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)灰色	
2	須恵壺	13.6 4.4 6.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
3	須恵壺	13.0 4.4 6.8	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
4	須恵壺	13.3 4.0 7.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
5	須恵壺	13.6 4.3 7.2	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密(胎石合む) 良好 灰白色	

3号住居跡出土土器(第14図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
6	須恵壺	(口)11.8 (高)3.2 (底)7.6	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密(胎石合む) (焼)良好 (色)青灰色	
7	須恵壺	— 6.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(胎石合む) 良好 青灰色	
8	須恵壺	12.6 3.7 9.8	ヘラケズリ —	—	密(石合む) 良好 灰白色	
9	須恵壺	— 6.0	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密(石合む) 良好 灰白色	
10	須恵壺	16.0 5.2 —	— —	—	密 良好 灰白色	

4号住居跡出土土器(第16図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)11.0 (高)4.1 (底)6.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(胎石合む) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	11.2 4.7 5.2	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
3	土師壺	11.1 4.3 —	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
4	土師壺	10.5 4.6 5.2	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密(赤合む) 良好 赤褐色	
5	土師壺	10.5 4.3 5.3	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 黄褐色(内)墨色	
6	土師壺	18.3 3.6 —	— —	—	密 良好 赤褐色	
7	土師壺	9.7 3.9 5.6	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
8	土師高台壺	15.8 6.7 7.9	— —	—	密 良好 黄褐色	
9	土師壺	10.9 4.0 5.7	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	密(赤合む) 良好 赤褐色	

5号住居跡出土土器(第20図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵高台壺	(口)14.0 (高)3.7 (底)10.2	ヘラケズリ —	—	(胎)密 (焼)良好 (色)青灰色	
2	須恵高台壺	14.2 3.9 10.0	— —	—	密 良好 青灰色	

5号住居跡出土土器(第20図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
3	土師壺	(口)10.0 (高)10.0	一 一	回転糸切り	(胎)密(砂粒含む) (焼)良好 (色)赤褐色	
4	須恵壺	13.4 2.9 11.7	一 一	一	密 良好 青灰色	
5	須恵高台壺	— — 9.2	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
6	須恵蓋	17.3 — —	— 一	—	密 良好 青灰色	
7	土師壺	— — 9.4	— 一	—	密 良好 褐色	

6号住居跡出土土器(第21図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)36.4 (高)一 (幅)一	ハケメ —	—	(胎)竹割(紅茶剖) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	— — (内)ヘラケズリ	— —	—	竹割(白砂利剖) 良好 赤褐色	
3	土師壺	— 14.0	ヘルミガキ ヘラケズリ	ヘラケズリ	竹割(白砂利剖) 良好 暗褐色	
4	須恵壺	— 6.9	— —	—	密 良好 灰色	
5	須恵壺	— 6.0	— —	—	割白(茶剖含む) 良好 茶灰色	ビダスキ
6	須恵壺	12.5 3.8 5.4	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	割白(茶剖含む) 良好 灰褐色	ビダスキ
7	須恵高台壺	12.2 4.1 8.4	ヘラケズリ —	—	密 良好 灰褐色	

7号住居跡出土土器(第24図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)11.8 (高)5.2 (幅)4.4	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	割削(竹剖含む) (焼)良好 (色)黄褐色	
2	土師壺	11.6 4.0 4.6	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	割(絶好子含む) 良好 黄褐色	
3	土師壺	11.7 4.7 4.4	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	割(絶好子含む) 良好 黄褐色	
4	土師壺	11.8 — —	ヘラケズリ —	—	密 良好 褐色	

7号住居跡出土土器(第24図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
5	土師壺	(口)12.6 (高)4.2 (幅)4.4	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	
6	土師壺	12.0 4.5 5.0	ナデ ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
7	土師皿	12.6 2.9 4.2	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
8	須恵壺	28.5 — —	— —	—	密(墨粉含む) 良好 自然釉(内緋色)	
9	須恵壺	41.8 — —	— —	—	密(石英含む) 良好 黒灰色	
10	須恵壺	— — (内)タタキメ	タタキメ —	—	やや粗い 良好 灰色	

8号住居跡出土土器(第29図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)26.1 (高)一 (幅)一	ハケメ (内)ヘラケズリ	—	(胎)密(石英含む) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	14.0 — —	ナデ (内)暗文	—	密 良好 黄褐色	
3	土師壺	14.2 — —	— —	—	密 良好 黄褐色	
4	土師壺	21.7 — —	ハケメ —	—	やや粗い(茶剖含む) 良好 赤褐色	
5	土師壺	20.3 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 黄褐色	
6	土師壺	24.8 — —	ハケメ 指頭痕 (内)ハケメ	—	密 良好 黄褐色	
7	須恵壺	— — 8.2	— — 回転糸切り	—	密 良好 青灰色	

9号住居跡出土土器(第30図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壺	(口)14.2 (高)3.3 (幅)8.9	ナデ —	ヘラケズリ	(胎)緻密 (焼)良好 (色)灰色	
2	須恵壺	— — —	ナデ —	回転糸切り	緻密 良好 青灰色	
3	須恵壺	— — 9.0	ナデ —	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	

9号住居跡出土土器(第30図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
4	須恵壊	(口)一 (高)一 (底)一	ナデ —	回転糸切り	(胎)緻密 (焼)良好 (色)青灰色	
5	須恵高台壺	— 11.2	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	緻密 良好 灰色	
6	土師壊	— 12.0	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 赤褐色	
7	土師壊	— 9.6	ナデ —	ヘラケズリ 回転糸切り	緻密 良好 明赤褐色	
8	土師高台壺	— 9.0	ナデ —	ヘラケズリ 線刻	緻密 良好 明赤褐色	
9	須恵壊	— 7.2	ナデ ヘラケズリ	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	ビダスキ
10	須恵蓋	19.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰白色	
11	土師甕	23.4 — —	ハケメ —	—	やや粗い 良好 淡褐色	
12	須恵甕	37.5 — —	ハケメ —	—	緻密 良好 赤褐色	鬼板 (内) 鬼板
13	土師甕	— 8.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 淡褐色	

10号住居跡出土土器(第38図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師甕	(口)一 (高)一 (底)4.2	— —	—	(胎)密 (焼)良好 (色)黄褐色	
2	土師羽釜	22.6 —	ナデ —	—	密 良好 赤褐色	

11号住居跡出土土器(第33図)

番号	器種		調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師甕	(口)21.6 (高)37.0 (底)9.0	ハケメ (内)ハケメ	—	やや粗い (胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師甕	24.2 38.3 9.4	ハケメ (内)ハケメ	ヘラケズリ	やや粗い (胎)密 (焼)良好 赤褐色	
3	土師甕	18.6 — (内)ハケメ	ハケメ —	—	やや粗い (胎)密 (焼)良好 赤褐色	
4	土師壊	13.7 4.9 7.6	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ 線刻	やや粗い (胎)密 (焼)良好 赤褐色	

11号住居跡出土土器(第33図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
5	土師甕	(口)10.8 (高)9.5 (底)7.4	ハケメ ヘラケズリ (内)ナデ	本葉痕	やや粗い (胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
6	土師甕	20.3 — (内)ハケメ	ハケメ —	—	やや粗い (胎)密 (焼)良好 赤褐色	
7	須恵壊	13.8 4.7 8.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	やや粗い (胎)密 (焼)良好 赤褐色	
8	須恵壊	12.8 4.0 8.0	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	やや粗い (胎)密 (焼)良好 灰白色	
9	土師壊	15.8 — —	ナデ —	—	密 良好 赤褐色	

12号住居跡出土土器(第32図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師甕	(口)21.8 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師甕	15.0 — —	— —	—	密 良好 明褐色	
3	土師壊	— 7.8	— —	—	やや粗い 良好 黃褐色	
4	土師甕	— 10.2	ハケメ —	木葉痕	やや粗い (胎)密 良好 黒褐色(内)褐色	
5	須恵壊	12.8 — —	ナデ —	—	密 良好 青灰色	
6	土師壊	13.0 — —	— —	—	密 良好 褐色	

13,14号住居跡出土土器(第35図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師甕	(口)22.0 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)明茶褐色	13住
2	須恵壊	14.0 4.0 9.4	ナデ ヘラケズリ —	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	ビダスキ 13住
3	須恵壊	— 7.6	— —	回転糸切り	密 良好 灰白色	14住
4	土師甕	13.0 4.6 4.2	ナデ ヘラケズリ —	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	14住
5	土師壊	13.2 — —	— —	—	密 良好 赤褐色	14住

15号住居跡出土土器(第39図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口21.4 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	やや細い(微鉢形) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	23.2 — (内)ハケメ	—	—	やや細い(微鉢形) 良好 明褐色	
3	土師壺	18.6 — —	—	—	やや細い(微鉢形) 良好 灰白色	
4	土師壺	— 11.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや細い(微鉢形) 良好 灰白色	
5	土師壺	11.6 5.0 7.8	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ 線刻	やや細い(微鉢形) 良好 黄褐色	
6	土師壺	12.5 — —	ナデ (内)暗文(不規則)	—	密 良好 赤褐色	
7	須恵壺 高台壺	— 10.3	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 青灰色	
8	須恵壺	— 7.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 灰褐色	

16号住居跡出土土器(第42図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口12.0 (高)4.2 (底)5.4	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)白褐色	
2	土師壺	12.0 4.6 6.0	ヘラケズリ —	ヘラケズリ	やや細い(微鉢形) 良好 黄褐色(内)黒色	
3	土師壺	— 8.2	ハケメ (内)ハケメ	ヘラケズリ	やや細い(微鉢形) 良好 明褐色	

17号住居跡出土土器(第45図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口28.6 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ナデ	—	やや細い(微鉢形) (焼)良好 (色)淡褐色	
2	須恵壺	14.1 3.7 8.0	ナデ ヘラケズリ	回転糸切り	密 良好 青灰色	
3	土師壺	— 10.3	ハケメ —	—	やや細い(微鉢形) 良好 赤褐色	
4	土師壺	— 9.2	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	密 良好 明褐色	

18号住居跡出土土器(第48図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口69.2 (高)一 (底)一	ナデ —	—	やや細い(微鉢形) (焼)良好 (色)赤黃褐色	
2	土師壺	15.7 6.2 10.6	ナデ (内)暗文	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 黃褐色	
3	須恵壺	14.5 — (内)ナデ	ナデ	—	密(白土含む) 良好 灰色	
4	土師壺	— 22.3	ナデ —	—	やや細い(微鉢形) 良好 明褐色	
5	土師壺	23.5 — (内)ハケメ	ハケメ —	—	やや細い(微鉢形) 良好 明褐色	
6	須恵壺	— 5.0	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(白土含む) 良好 灰褐色	ビダスキ
7	須恵壺	— 7.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り 密(砂粒含む)	密(砂粒含む) 良好 灰色	

19号住居跡出土土器(第51図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口23.7 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	やや細い(微鉢形) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	15.7 5.8 6.6	ヘラケズリ —	—	密 良好 赤褐色(内)黑色	
3	須恵壺	— —	タタキメ —	—	密 良好 灰白色	
4	土師壺	15.6 — (内)ナデ	ナデ —	—	密 良好 褐色	

20号住居跡出土土器(第52図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壺	口39.0 (高)一 (底)一	タタキメ —	—	(胎)密 (焼)良好 (色)黒灰色	
2	須恵壺	— —	タタキメ (内)タタキメ	—	密 良好 灰白色	
3	土師壺	23.6 — (内)ハケメ	ハケメ —	—	やや細い(微鉢形) 良好 赤褐色	
4	須恵壺 高台壺	— 10.4	— —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
5	須恵壺 高台壺	— 8.3	— —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色(内)茶褐色	

21号住居跡出土土器(第 55.56 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壊	(口)15.8 (高)3.2 (底)9.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)青灰色	ヒダスキ
2	須恵壊	13.0 4.2 8.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰白色	
3	須恵高台壺	15.5 6.7 8.1	ナデ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
4	須恵壊	12.1 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 灰白色	
5	須恵壊	12.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 青灰色	ヒダスキ
6	須恵高台壺	— — 8.2	— —	ヘラケズリ	密 良好 青灰色	
7	須恵壊	— — 6.8	— —	—	やや粗い 良好 灰白色	ヒダスキ
8	土師壺	24.1 — —	ハケメ 指頭痕 (内)ハケメ	—	密(砂粒含む) 良好 赤褐色	
9	土師壊	11.6 4.6 6.8	ナデ ヘラケズリ (内)暗文	静止糸切り ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
10	土師壊	10.1 4.9 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
11	土師壺	25.0 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 淡褐色	
12	土師壊	13.5 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 赤褐色	
13	土師壺	— — 9.4	— —	ヘラミガキ	粗(小石含む) 良好 淡褐色	

22号住居跡出土土器(第 60 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)11.4 (高)11.7 (底)6.8	ハケメ —	木葉痕	粗(砂粒含む) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壊	14.2 3.3 7.6	ナデ —	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 明黃褐色	
3	土師壊	14.4 3.5 9.0	ナデ —	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 赤褐色	
4	土師壺	— — 10.0	ハケメ —	木葉痕	粗(砂粒含む) (焼)良好 褐色	
5	土師壊	— — 6.6	ナデ —	—	密(赤玉含む) 良好 明黃褐色	

22号住居跡出土土器(第 60 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
6	須恵壊	(口) — (高) — (底)6.8	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(焼)良好 (色)灰色	

23号住居跡出土土器(第 61 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)15.4 (高)17.5 (底)8.2	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	粗(砂粒含む) (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	— — 8.2	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	粗(砂粒含む) 良好 赤褐色	
3	土師壺	— — 7.8	ハケメ —	木葉痕	粗(砂粒含む) 良好 褐色	
4	須恵壊	— — 7.2	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 灰色	
5	須恵壊	— — 8.2	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 灰色	
6	須恵壊	— — 7.0	ナデ —	回転糸切り ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 青灰色	ヒダスキ

24号住居跡出土土器(第 65 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口) — (高) — (底)10.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壊	17.0 4.2 9.8	ナデ —	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	

25号住居跡出土土器(第 67 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	(口)23.2 (高) — (底) —	ハケメ (内)ハケメ 指頭痕	—	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	22.3 — —	指頭痕 (内)ハケメ	—	密 良好 赤褐色	
3	土師壺	— — 10.2	— (内)ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 暗赤褐色	
4	土師壺	31.0 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	やや粗い (焼)良好 橙色	
5	土師壊	13.6 4.0 10.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	

26号住居跡出土土器(第69図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	□29.2 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	— 10.6	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 褐色	
3	土師壺	— 9.2	ヘラケズリ —	木葉痕	密 良好 褐色	

27号住居跡出土土器(第72図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	□30.4 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)密(砂粒含む) (焼)良好 (色)暗褐色	
2	土師壺	12.3 4.0 5.8	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	密 良好 橙色	
3	土師壺	24.4 (内)ハケメ	—	舊(金雲母含む) 良好 暗褐色		
4	土師壺	11.8 4.0 5.8	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 明赤褐色	
5	土師壺	— 5.5	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 明赤褐色	
6	土師壺	— 5.5	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	密 良好 橙色	
7	土師壺	12.0 4.0 6.0	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	密 良好 橙色	
8	土師壺	11.0 4.5 5.4	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 黄橙色	

28号住居跡出土土器(第75図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	□11.2 (高)4.8 (底)6.0	ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黄橙色	
2	須恵壺	10.2 4.2 5.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰黄色	
3	土師壺	20.4 — 10.0	ハケメ (内)ハケメ	—	舊(金雲母含む) 良好 灰褐色	
4	土師壺	— 10.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	舊(金雲母含む) 良好 赤褐色	
5	土師壺	— 8.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 暗赤褐色	

29号住居跡出土土器(第76図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
6	土師壺	□20.2 (高)一 (底)一	—	—	(胎)密 (焼)良好 (色)明赤褐色	
7	土師壺	20.5 — —	ヘラケズリ (内)ハケメ	—	密 良好 黃褐色	
8	土師瓶	— — —	ヘラケズリ ハケメ (内)ハケメ	—	舊(金雲母含む) 良好 橙色	
9	土師壺	— 7.6	ハケメ (内)ハケメ	ヘラケズリ	粗い 良好 褐色	
10	土師壺	14.5 — —	ナデ (内)ナデ	—	舊(金雲母含む) 良好 明赤褐色 (内)墨色	

29号住居跡出土土器(第79図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	□12.0 (高)一 (底)一	ヘラケズリ (内)ナデ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)明赤褐色	
2	土師皿	13.2 2.6 4.5	ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	

30号住居跡出土土器(第82図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	□14.0 (高)一 (底)一	ヘラケズリ (内)暗文	—	(胎)密 (焼)良好 (色)橙色	
2	土師壺	13.2 5.2 6.5	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	やや粗い(砂粒含む) 良好 橙色	
3	土師壺	12.8 5.4 7.0	ナデ (内)暗文	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
4	土師壺	31.6 — —	ハケメ (内)ナデ	—	やや粗い(砂粒含む) 良好 橙色	
5	須恵壺	— 6.7	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰白色	
6	須恵壺	13.2 4.2 8.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰色	
7	土師壺	— 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	粗い(砂粒含む) 良好 橙色	

31号住居跡出土土器(第85図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壊	口13.0 高5.5 底6.2	ナデ (内)暗文	回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土師高台壊	15.5 6.6 8.5	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 橙色	
3	土師壊	14.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 橙色	
4	土師壊	14.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 橙色	
5	土師皿	14.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
6	土師壊	12.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 赤褐色	
7	土師壊	12.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 橙色	
8	土師壊	— 6.0	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 橙色	
9	土師甕	28.2 — —	ハケメ (内)ナデ	—	緻密 良好 褐色	

32号住居跡出土土器(第88図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壊	口12.0 高4.9 底8.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	(胎)緻密 (焼)良好 (色)青灰色	
2	須恵壊	12.8 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	
3	土師壊	12.0 4.4 6.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、暗文	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 明褐色	
4	土師壊	12.2 5.1 7.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 明褐色	
5	土師壊	11.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 明褐色	
6	須恵高台壊	— 10.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰色	
7	土師壊	11.0 5.6 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 明褐色	
8	須恵壊	— 8.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	緻密 良好 灰色	
9	土師甕	16.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	密(砂合含む) 良好 褐色	

32号住居跡出土土器(第88図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
10	土師壊	(口)ー (高)ー (底)7.2	(内)ナデ暗文	ヘラケズリ 回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
11	土師壊	— — 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 褐色	
12	土師甕	20.2 — —	ナデ ハケメ (内)ナデ	—	緻密(鉛鉛付) 良好 褐色	
13	土師甕	— — —	ハケメ (内)ハケメ	—	緻密(鉛鉛付) 良好 暗褐色	
14	須恵甕	18.8 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	

33号住居跡出土土器(第90図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壊	口14.2 高5.8 底6.0	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)橙色	墨書きあり
2	土師壊	11.0 4.0 5.5	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	密 良好 橙色	
3	土師壊	11.0 4.6 5.4	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	緻密 良好 橙色	
4	土師壊	12.0 4.0 6.4	ヘラケズリ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
5	土師甕	— — 9.0	ハケメ (内)ハケメ	—	緻密(鉛鉛付) 良好 暗赤褐色	
6	土師甕	26.0 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	緻密(鉛鉛付) 良好 明赤褐色	

34号住居跡出土土器(第93図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壊	口15.0 高— 底—	ナデ (内)ナデ	—	(胎)緻密 (焼)良好 (色)赤褐色	
2	土師壊	12.2 3.0 6.0	ヘラケズリ (内)ナデ	—	緻密 良好 明褐色	
3	土師壊	— — 7.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	

35号住居跡出土土器(第96図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	須恵壊	口13.2 高3.5 底6.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	(胎)緻密 (焼)良好 (色)青灰色	

35号住居跡出土土器(第96図)

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
2	土師壺	仰11.4 (高)4.2 (底)6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	赤色 顔料
3	須恵壺	13.4 3.5 7.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 灰色	
4	土師壺	11.0 4.4 6.1	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	
5	土師壺	11.2 3.9 5.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	
6	土師壺	10.8 4.2 5.7	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 明褐色	
7	土師壺	15.0 14.6 9.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	やや緻密(胎含む) 良好 橙色	
8	土師壺	10.2 4.2 5.1	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
9	土師壺	11.2 4.6 6.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	やや緻密(胎含む) 良好 橙色	
10	土師壺	12.2 3.8 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	
11	土師壺	10.1 4.0 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 褐色	
12	土師鉢	17.0 8.2 8.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	静止糸切り	密 良好 橙色	
13	土師壺	— 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 赤褐色	
14	土師壺	— 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	静止糸切り	密 良好 褐色	
15	土師壺	11.4 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 赤褐色	
16	土師壺	— 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 静止糸切り	密 良好 橙色	
17	土師鉢	15.8 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 赤褐色	
18	土師壺	— 7.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 静止糸切り	密 良好 明褐色	
19	須恵壺	8.2 —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	
20	土師壺	— 5.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、著文	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 褐色	

35号住居跡出土土器(第96・97・98図)

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
21	土師蓋	仰15.4 (高)4.8 (底)一	ナデ (内)ナデ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)赤褐色	赤色 顔料
22	土師壺	— 7.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、著文	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
23	須恵壺 高台壺	13.2 3.4 8.8	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	緻密 良好 灰色	
24	須恵壺	— 6.6	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	
25	須恵壺	19.7 —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰褐色	
26	須恵壺	7.9 4.2 8.8	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	
27	須恵壺	— 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 明黃褐色	(内)ヒ ダスキ
28	須恵壺	— 16.2	タクキメ (内)ナデ	ナデ ヘラケズリ	緻密 良好 灰褐色	
29	須恵蓋	— —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	
30	須恵蓋	20.4 —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	
31	須恵蓋	— —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 綠灰色	外面に 自然輪
32	土師壺	23.0 —	ハケメ (内)ハケメ	—	密(金雲母含む) 良好 褐色	
33	土師壺	— 13.5	ナデ ハケメ (内)ナデ	ナデ	やや緻密(胎含む) 良好 明褐色	
34	土師壺	22.2 —	ナデ ハケメ (内)ハケメ	—	やや緻密(胎含む) 良好 赤褐色	
35	土師壺	10.2 —	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	やや粗い 良好 灰褐色	
36	土師壺	— 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密(砂金母含む) 良好 橙色	
37	土師壺	— 7.2	ナデ (内)ナデ	静止糸切り	密(砂金母含む) 良好 橙色	
38	土師壺	32.2 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 黄橙色	
39	土師壺	13.2 5.8 7.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、著文	静止糸切り (線剤)	密 良好 明褐色	

35号住居跡出土土器(第98図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
40	土師壺	①17.3 (高)一 (底)一	ナデ (内)ナデ	—	密 (燒)良好 (色)赤褐色	
41	土師壺	— —	タタキメ (内)ナデ	—	密 良好 黄橙色	
42	土師壺	— —	ナデ (内)布目	—	密 良好 明褐色	

36号住居跡出土土器(第102図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	①27.5 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	密 (燒)良好 (色)褐色	
2	土師壺	— 8.3	(内)ハケメ	木葉痕	密 (燒)良好 暗褐色	
3	土師壺	27.5 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 (燒)良好 褐色	
4	土師壺	24.4 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 (燒)良好 明褐色	
5	土師壺	21.4 8.2 8.6	ナデ ハラケズリ (内)暗文	ハラケズリ	密 良好 橙色(内)黑色	
6	土師壺	— — 9.3	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	粗い(金墨含む) 良好 褐色	
7	土師壺	15.4 6.0 6.0	ナデ ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密(砂粒含む) 良好 橙色	
8	土師壺	12.2 4.6 4.0	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密(砂粒含む) 良好 橙色	
9	土師壺	13.2 — —	ハラケズリ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
10	土師壺	16.5 6.4 6.0	ナデ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 橙色(内)黑色	
11	土師壺	11.4 4.4 5.2	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 橙色	
12	土師壺	— — 4.6	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 橙色	
13	土師壺	15.0 4.2 4.6	ナデ、縹刻 (内)暗文	ハラケズリ	密 良好 黄褐色(内)黑色	
14	土師壺	12.0 4.0 5.2	ハラケズリ (内)暗文	ハラケズリ	密 良好 橙色	
15	土師壺	12.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 明赤褐色	

37号住居跡出土土器(第105図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	①28.8 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	密 (燒)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	12.1 5.0 3.8	ハラケズリ	ハラケズリ	密 良好 赤褐色	
3	土師壺	11.8 4.4 4.0	ハラケズリ	ハラケズリ	密 良好 赤褐色	不明瞭 墨書あり
4	土師壺	16.7 6.3 5.8	ハラケズリ ナデ (内)暗文	ハラケズリ	密 良好 赤褐色(内)黑色	
5	土師壺	12.6 5.1 4.2	ハラケズリ ナデ	ハラケズリ	密 良好 淡褐色	
6	土師壺	11.4 4.1 5.0	ハラケズリ ナデ	ハラケズリ 縹刻	密 良好 淡褐色	
7	土師壺	17.6 — —	ハラケズリ ナデ	—	密 良好 赤褐色(内)黑色	
8	土師壺	13.1 2.7 4.6	ナデ	回転糸切り	密 良好 白褐色(内)黑色	
9	土師壺	13.3 2.7 6.0	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 赤褐色	
10	土師壺	— — 6.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 淡褐色	

38号住居跡出土土器(第108図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	①12.5 (高)4.0 (底)4.4	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	(胎)密 (燒)良好 (色)赤褐色	
2	土師壺	12.6 4.2 5.0	ハラケズリ (内)ナデ	回転糸切り ハラケズリ	密 良好 橙色	
3	土師壺	12.8 2.6 4.0	ハラケズリ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 橙色	
4	灰釉 高台壺	14.6 5.0 7.5	ナデ (内)ナデ	ナデ	緻密 良好 黄灰色	
5	土師壺	— — 6.0	ハラケズリ (内)暗文	ハラケズリ	密 良好 橙色	
6	土師壺	— — 6.0	ナデ (内)ナデ	ハラケズリ	密 良好 黄褐色(内)黑色	
7	土師壺	14.0 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 黄橙色	
8	土師壺	— — 10.4	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	

38号住居跡出土土器(第108図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
9	土師 ?	(口)一 (高)一 (底)17.8	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)密 (燒)良好 (色)赤褐色	

39号住居跡出土土器(第111図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師 壺	(口)24.0 (高)一 (底)一	ハケメ (内)ハケメ	—	胎(燒)良好 (色)暗赤褐色	
2	土師 壺	— 8.4	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	胎(燒)良好 暗赤褐色	
3	土師 壺	— 5.0	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	胎(燒)良好 良好 赤褐色	
4	土師 壺	10.8 —	ヘラケズリ 線刻 (内)ナデ	—	胎(燒)良好 良好 赤褐色	
5	土師 壺	11.2 3.8 5.2	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	胎(燒)良好 良好 明褐色	
6	土師 壺	10.6 —	ナデ (内)ナデ	—	胎(燒)良好 良好 赤褐色	
7	土師 皿	15.0 2.1 7.5	ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	胎(燒)良好 良好 明褐色	

40号住居跡出土土器(第114・115図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師 壺	(口)27.0 (高)一 (底)一	ナデ (内)ナデ	—	(胎)密 (燒)良好 (色)白青褐色	
2	土師 壺	16.2 —	ハケメ (内)ナデ	—	やや粗い 良好 明褐色	
3	須恵 壺	— 10.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	緻密 良好 灰白色	ヒグスキ
4	土師 壺	25.6 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
5	土師 壺	24.4 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
6	土師 壺	— —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 明褐色	
7	土師 壺	16.2 —	ナデ (内)ナデ	—	やや粗い 良好 赤褐色	
8	土師 壺	14.0 —	ナデ (内)ナデ	—	やや粗い 良好 暗赤褐色	

40号住居跡出土土器(第115図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
9	土師 壺	(口)一 (高)一 (底)6.8	ナデ (内)ナデ	静止糸切り	(胎)密 (燒)良好 (色)橙色	
10	土師 壺	— 7.3	(内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
11	土師 壺	— 11.8	ナデ、ハケメ (内)ナデ ヘラケズリ	木葉痕	密 良好 赤褐色	

41号住居跡出土土器(第117図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師 皿	(口)13.0 (高)3.0 (底)5.6	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	(胎)密 (燒)良好 (色)橙色	
2	土師 皿	14.3 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 明褐色	
3	土師 皿	— 5.2	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 明赤褐色	
4	土師 皿	— 5.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 明赤褐色	

42号住居跡出土土器(第120図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師 壺	(口)13.2 (高)3.8 (底)7.4	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)緻密 (燒)良好 (色)褐色	
2	土師 壺	14.0 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
3	須恵 壺	— 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 黄灰色	
4	土師 皿	12.8 —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 橙色	
5	須恵 壺	14.0 3.8 8.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰褐色	
6	須恵 壺	— 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰白色	
7	土師 皿	— 9.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや密(燒) 良好 暗褐色	
8	須恵 壺	12.8 4.0 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 黄灰色	
9	須恵 壺	— 9.0	— (内)ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 黄灰色	

43号住居跡出土土器(第123図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口11.2 周4.4 底5.4	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	(胎)緻密 (焼)良好 (色)橙色	
2	土師壺	11.0 4.5 5.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	緻密 良好 赤褐色	
3	土師壺	19.8 — —	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 明赤褐色	
4	土師壺	— — 6.0	ナデ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	緻密 良好 橙色	
5	土師高台壺	16.0 6.5 7.3	ナデ (内)暗文	—	緻密 良好 明赤褐色	
6	須恵高台壺	— — 7.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 灰色	
7	土師甕	19.8 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	緻密 良好 赤褐色	
8	土師甕	— — 8.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	重い(砂粒含む) 良好 赤褐色	

44号住居跡出土土器(第126図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師瓶	口26.6 周29.0 底10.0	ヘラケズリ ハケメ (内)ヘラミガキ	—	(胎)密 (焼)良好 (色)灰褐褐色	
2	土師壺	13.0 4.3 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
3	土師甕	15.2 — —	ナデ ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 橙色	
4	土師甕	19.0 — —	ヘラケズリ ハケメ ヘラミガキ (内)ハケメ	—	密 良好 明褐色	
5	土師甕	21.0 — —	ナデ (内)ハケメナデ	—	密 良好 赤褐色	
6	土師甕	24.0 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 灰褐色	
7	土師甕	17.6 28.6 8.8	ハケメ、ナデ (内)ハケメナデ	ヘラケズリ	密 良好 黄褐色	

45号住居跡出土土器(第129図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口8.0 高4.6 底3.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黑色	

45号住居跡出土土器(第129図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
2	土師壺	口12.8 周4.6 底3.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黑色	
3	土師壺	13.4 3.7 7.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
4	土師壺	12.8 3.6 6.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
5	土師壺	12.8 3.8 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
6	土師壺	12.2 4.0 4.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
7	土師壺	12.6 4.1 3.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
8	土師甕	18.0 8.4 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
9	土師甕	13.4 4.0 5.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色	
10	土師甕	19.6 30.0 7.2	ハケメ ナデ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 赤褐色	
11	土師甕	18.0 27.8 7.8	ハケメ ナデ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 赤褐色	

46号住居跡出土土器(第132・133図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口12.8 周3.8 底5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)褐色	
2	土師壺	13.0 3.4 4.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
3	土師壺	12.4 3.5 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色	
4	土師甕	20.5 31.6 6.6	ハケメ (内)ハケメ	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色	
5	土師壺	12.0 3.7 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 黑色	
6	土師甕	19.6 34.8 5.6	ナデ (内)ハケメ	木葉痕 ヘラケズリ	重い(砂粒含む) 良好 褐色	
7	土師甕	13.6 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	やや粗い 良好 褐色	
8	土師壺	14.0 8.0 8.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 黑色(内)褐色	

46号住居跡出土土器(第133図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
9	土師壺 坏	口13.6 (高)3.0 (底)7.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (燒)良好 (色)黒色	
10	土師壺 坏	14.5 7.0 5.5	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色(内)黑色	
11	土師瓶	17.5 12.6 4.0	ハケメ、ナデ (内)ハケメ	ヘラケズリ	密 良好 黄橙色	
12	土師高壺 坏	— 14.0	ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 褐色(内)黑色	
13	土師壺 坏	14.2 6.6 7.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 黑色(内)褐色	

47号住居跡出土土器(第135図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺 壺	(口)ー (高)ー (底)16.5	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	(胎)薄(燒合) (燒)良好 (色)褐色	
2	土師瓶	20.5 —	ハケメ (内)ハケメ	—	やや粗い 良好 褐色	

48号住居跡出土土器(第137図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺 壺	(口)ー (高)ー (底)ー	ヘラミガキ (内)ナデ	—	(胎)薄(燒合) (燒)良好 (色)黒褐色	
2	土師壺	— 6.0	ナデ (内)ナデ	—	(胎)薄(燒合) (燒)良好 赤褐色	

49号住居跡出土土器(第140図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師壺	口21.5 (高)ー (底)ー	ハケメ (内)ハケメ	—	(胎)薄(燒合) (燒)良好 褐色(内)暗褐色	
2	土師壺	— 14.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 暗褐色	

50号住居跡出土土器(第142図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師高台壺 坏	口16.8 (高)5.9 (底)6.6	ナデ (内)暗文	ヘラケズリ	(胎)密 (燒)良好 (色)赤褐色	

50号住居跡出土土器(第142図)

番号	器種	法量(cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
2	土師壺 坏	口16.4 (高)ー (底)ー	ナデ (内)暗文	—	(胎)密 (燒)良好 (色)赤褐色	
3	土師壺 坏	10.4 3.9 6.0	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
4	土師壺 坏	10.3 4.1 6.3	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 淡褐色	
5	土師壺 坏	11.4 4.2 4.2	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	密 良好 淡褐色	
6	土師壺 坏	11.4 4.8 5.8	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
7	土師壺 坏	11.6 6.5 6.6	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
8	土師壺 坏	10.5 4.3 4.8	ヘラケズリ ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
9	土師壺 坏	11.6 4.1 4.3	ヘラケズリ —	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 白橙色	
10	須恵壺 長頸壺	10.1 — —	(内)ナデ	—	密 良好 灰褐色(内)自然釉	
11	須恵壺	— —	タタキメ —	—	密 良好 青灰色	
12	土師壺	— 8.6	ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 淡褐色	

土坑出土土器 (第 162 ~ 164 図)

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・ 色調	備考	番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・ 色調	備考
			器体部	底部						器体部	底部		
1	土師 蓋	18.0 (内) —	ナデ —	—	胎(純白子含む) (焼)良好 (色)褐褐色,有剥	2号 土坑	18	土師 高台坏	21.4 (内) 8.1 11.2	ナデ (内)ナデ	ナデ	胎(純白子含む) (焼)良好 (色)橙色	36号 土坑
2	土師 坏	— 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 橙色	2号 土坑	19	土師 坏	12.2 — —	ナデ (内)ナデ	—	胎(純白子含む) 良好 橙色	36号 土坑
3	土師 坏	15.0 4.0 5.4 (内)ナデ	ナデ	回転糸切り	胎(純白子含む) 良好 赤褐色	8号 土坑	20	土師 坏	— — 6.0	(内)ナデ	回転糸切り	胎(純白子含む) 良好 橙色	36号 土坑
4	土師 坏	13.3 5.0 5.2 (内)ナデ	ナデ	回転糸切り	胎(純白子含む) 良好 暗褐色	8号 土坑	21	土師 甕	— — 5.0	ハケメ (内)ハケメ	—	胎(純白子含む) 良好 褐色	36号 土坑
5	土師 坏	11.4 4.2 6.0 (内)暗文	ナデ ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 橙色	19号 土坑	22	土師 高台坏	— — 7.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 橙色	36号 土坑
6	土師 坏	13.2 3.6 — (内)ナデ	ヘラケズリ	—	胎(純白子含む) 良好 橙色	18号 土坑	23	土師 甕	— — 7.0	ハケメ —	本葉痕	胎(純白子含む) 良好 灰白色	37号 土坑
7	土師 坏	— — 6.0 (内)暗文	ヘラケズリ	回転糸切り ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 橙色	19号 土坑	24	須恵 蓋	15.3 — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 灰白色	37号 土坑
8	須恵 蓋	13.3 — — (内)ナデ	ナデ	—	密 良好 灰色	19号 土坑	25	須恵 高台坏	— — 11.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 青灰色	37号 土坑
9	土師 坏	— — 6.0 (内)ナデ	ヘラケズリ	回転糸切り ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 赤褐色	19号 土坑	26	土師 坏	12.2 — —	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	—	胎(純白子含む) 良好 赤褐色	38号 土坑
10	土師 蓋	18.2 — — (内)ナデ	ナデ	—	胎(純白子含む) 良好 橙色	24号 土坑	27	須恵 高台坏	— — 13.1	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 灰色	38号 土坑
11	土師 坏	12.1 4.1 6.0 (内)暗文	ナデ ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 橙色	26号 土坑	28	土師 坏	— — 6.0	ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 赤褐色	38号 土坑
12	土師 皿	— — 12.1 (内)ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	胎(純白子含む) 良好 赤褐色	26号 土坑	29	須恵 甕	— — 13.0	ナデ (内)ナデ	ナデ	密 良好 灰白色	40号 土坑
13	土師 坏	12.1 — — (内)暗文	ナデ (内)暗文	—	胎(純白子含む) 良好 橙色	26号 土坑	30	土師 坏	11.4 — —	ナデ (内)ナデ	—	胎(純白子含む) 良好 橙色	72号 土坑
14	土師 坏	— — 6.0 (内)ナデ	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り ヘラケズリ	密 良好 橙色	26号 土坑	31	土師 皿	12.3 2.3 5.4 (内)ナデ	ナデ ヘラケズリ	—	密 良好 赤褐色	72号 土坑
15	土師 甕	— — 9.2 (内)ハケメ	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや粗い 良好 褐色	27号 土坑	32	土師 坏	14.1 — —	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	—	密 良好 明赤褐色	72号 土坑
16	土師 坏	— — 6.0 (内)ナデ	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 暗橙色	3号溝の 坏(同一 22号土坑)	33	土師 坏	14.1 3.3 5.2 (内)ナデ	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	72号 土坑
17	土師 高台坏	— — — 透し三方	透し三方	—	やや粗い小石付 良好 橙色(内)黑色	32号 土坑	34	土師 坏	14.0 — —	ナデ (内)暗文	—	胎(純白子含む) 良好 橙色(内)黑色	72号 土坑

溝状遺構 (第 165 ~ 169 図)

番号	器種	法量 (cm)	調整		器体部	備考
			胎土・焼成・色調	底部		
35	土師壺	D11.2 (高) 4.2 (底) 5.1	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 明橙色	76号 土坑
36	土師壺	12.0 4.8 4.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 明橙色	76号 土坑
37	土師壺	11.8 4.3 4.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 明橙色	76号 土坑
38	土師壺	14.2 5.6 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	やや粗い(小石含む) 良好 明赤褐色	76号 土坑
39	土師壺	14.2 5.4 5.4	ナデ (内)暗文	ヘラケズリ	やや粗い(小石含む) 良好 赤橙色	103号 土坑
40	土師壺	16.2 6.0 6.0	ナデ (内)暗文	ヘラケズリ	やや粗い(小石含む) 良好 明褐色	118号 土坑
41	土師壺	— — 5.0	ヘラケズリ (内)暗文	ヘラケズリ	密(赤褐色含む) 良好 褐色	117号 土坑
42	土師蓋	— — —	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 赤褐色、丹塗り	128号 土坑
43	土師壺	— — 5.8	ヘラケズリ (内)暗文	回転糸切り	密 良好 赤褐色(内)暗褐色	119号 土坑
44	土師壺	15.6 6.2 5.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	やや粗い(小石含む) 良好 明褐色	104号 土坑
45	須恵高台壺	9.4 5.2 6.4	ナデ (内)ナデ	—	やや粗い(小石含む) 良好 灰色	131号 土坑
46	土師壺	16.4 — —	ナデ (内)ナデ	—	密(赤褐色含む) 良好 明褐色	107号 土坑
47	土師壺	— — 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(赤褐色含む) 良好 明褐色	111号 土坑
48	土師甕	— — 7.5	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	やや粗い(小石含む) 良好 暗褐色	103号 土坑
49	土師甕	10.2 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密(金雲母粉含む) 良好 暗褐色	116号 土坑
50	土師甕	— — 8.0	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	密(金雲母粉含む) 良好 暗褐色	116号 土坑
51	土師羽釜	36.8 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	やや粗い(小石含む) 良好 暗褐色	8号 土坑

土器集中区出土土器 (第 173・175 図)

番号	器種	法量(cm)	調整		器体部	備考
			胎土・焼成・色調	底部		
1	土師 坏	(口) (高) (底) 13.2 4.2 4.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎) (燒) (色) 密 良好 灰褐色	
2	土師 坏	13.2 4.2 4.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 褐色	
3	土師 坏	12.3 4.6 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色	
4	土師 坏	12.6 3.2 6.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色(内)黑色	
5	土師 坏	14.2 4.4 5.4	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 暗褐色	
6	土師 坏	12.8 3.8 5.6	ナデ (内)ナデ	ナデ	密(砂粒含む) 良好 橙色	
7	土師 坏	12.2 4.0 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 灰褐色	
8	土師 坏	14.2 — (内)ナデ	ナデ	—	密 良好 黑褐色	
9	土師 坏	— — 5.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラミガキ	密 良好 灰黄褐色	
10	土師 高坏	12.4 7.4 9.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ナデ	密 良好 橙色	
11	須恵 坏	10.8 4.0 3.8	ナデ (内)ナデ	ナデ	緻密 良好 黄灰色	
12	須恵 坏	10.7 4.4 3.4	ナデ (内)ナデ	ナデ	密 良好 黄灰色	
13	土師 甕	— 9.4	ナデ ハケメ (内)ナデ	木葉痕	密 良好 明褐色	
14	土師 甕	— — 5.4	ハケメ、ナデ (内)ハケメ ヘラケズリ	木葉痕	密 良好 褐色	
15	土師 甕	— — 5.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 褐色	
16	土師 甕	23.2 — (内)ナデ、ハケメ	ナデ ハケメ (内)ナデ、ハケメ	—	やや粗い(小石含む) 良好 橙色	
17	土師 甕	14.0 — (内)ナデ、ハケメ	ナデ ハケメ (内)ナデ、ハケメ	—	密 良好 赤褐色	
18	土師 甕	22.2 — (内)ナデ、ハケメ	ナデ ハケメ (内)ナデ、ハケメ	—	密(砂粒含む) 良好 橙色	
19	土師 甕	19.4 — (内)ナデ、ハケメ	ナデ ハケメ (内)ナデ、ハケメ	—	密 良好 黄褐色	
20	土師 甕	18.0 — (内)ナデ	ナデ (内)ナデ	—	密 良好 褐色	
21	土師 片口	— 9.0 10.4	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密(金雲母含む) 良好 暗褐色(内)黑色	
22	須恵 坏	11.8 4.3 7.2	ナデ (内)ナデ	回転糸切り (線刻)	緻密 良好 灰白色	
23	土師 坏	— — 7.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	
24	土師 高台坏	— — 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	

グリッド出土土器 (第176 ~ 178図)

番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
1	土師 壺	12.6 (高) 4.6 (底) 3.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	(胎)密 (焼)良好 (色)黒色	G - 14
2	須恵 壺	— 9.0	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	密 良好 灰白色	H - 11
3	土師 壺	10.4 4.4 6.0	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	C - 13
4	土師 壺	11.0 4.4 5.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、暗文	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 橙色	C - 12
5	土師 壺	11.3 4.6 6.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 赤褐色	C - 13
6	土師 壺	12.2 4.0 6.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 橙色	北
7	土師 壺	11.6 4.6 5.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、暗文	回転糸切り	密 良好 橙色	フク土
8	土師 壺	11.6 4.5 5.0	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、暗文	ヘラケズリ	密 良好 灰褐色	H - 13
9	土師 壺	11.8 4.8 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ヘラガキ	ヘラケズリ 回転糸切り	密(砂粒含む) 良好 赤褐色	H - 13
10	土師 壺	11.6 3.8 4.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ、暗文	ヘラケズリ	密 良好 橙色	H - 12
11	土師 壺	12.0 5.0 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 橙色	C - 13
12	土師 高台壺	11.6 4.8 6.2	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 赤褐色	G - 13
13	土師 壺	11.2 4.6 5.4	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 静止糸切り	密 良好 浅黃橙色	H - 13
14	土師 皿	13.3 2.6 4.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密(砂粒含む) 良好 赤褐色	北
15	土師 壺	11.6 3.8 4.6	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 黄橙色	H - 12
16	土師 壺	13.7 4.0 4.2	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密(砂粒含む) 良好 赤褐色	F - 2
17	須恵 高台壺	9.4 4.8 5.8	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 灰色	G - 13
18	須恵 高台壺	15.0 6.2 8.7	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ 回転糸切り	密 良好 黄灰色	C - 13
番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土・焼成・色調	備考
			器体部	底部		
19	須恵 壺	12.2 (高) 4.7 (底) 6.6	ナデ (内)ナデ	回転糸切り	(胎)密 (焼)良好 (色)灰白色	H - 11
20	須恵 蓋	15.0 4.2 —	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	C - 13
21	須恵 高台壺	13.0 3.8 8.6	ナデ (内)ナデ	ヘラケズリ	緻密 良好 灰色	F - 20
22	土師 皿	13.2 2.4 5.3	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	H - 14
23	土師 壺	12.5 4.3 5.4	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 緑(絶好含む)	H - 14
24	土師 壺	11.5 4.5 4.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ	ヘラケズリ	密 良好 緑(絶好含む)	H - 14
25	須恵 凸帯付 四耳壺	— — —	タタキメ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	C - 12
26	土師 高壺	— — (内)線刻	ヘラケズリ ナデ	—	密 良好 褐色	B - 12
27	須恵 高壺	— — 9.0	ナデ (内)ナデ	—	緻密 良好 灰色	H - 13
28	土師 高壺	— — 13.2	ヘラケズリ (内)ハケメ	—	密 良好 緑(絶好含む)	B - 12
29	土師 甕	20.0 — —	ハケメ (内)ハケメ	—	密 良好 褐色	D - 10
30	土師 甕	— — 8.4	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 褐色	H - 14
31	須恵 高台壺	— — 8.3	ヘラケズリ —	回転糸切り	密(赤色粒子含む) 良好 黒灰色(茶色)	C - 12
32	土師 甕	20.0 — —	指頭痕 ハケメ (内)ハケメ	—	密(赤色粒子含む) 良好 褐色	B - 12
33	土師 甕	— — 9.6	ハケメ (内)ハケメ	木葉痕	密 良好 褐色	H - 14
34	土師 壺	— — 5.8	ナデ ヘラケズリ (内)ナデ暗文	ヘラケズリ	密 良好 赤褐色	H - 13
35	土師 皿	13.0 2.3 3.0	ヘラケズリ	—	密(赤色粒子含む) 良好 赤褐色	墨書き H - 14
36	土師 壺	— — 3.6	ヘラケズリ	ヘラケズリ	密(赤色粒子含む) 良好 褐色	H - 14

土坑一覧表

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
1	F-2	85cm	75cm	21cm
2	B-イ	110	75	70
3	C-2	119	62	56
4	C-3	104	36	51
5	C-1	88	69	48
6	C-1	159	116	65
7	C-1	88	76	38
8	C-1	300	167	16
9	C-2 C-3	70	68	78
10	B-3	75	61	59
11	C-4	96	81	41
12	C-5	118	115	38
13	C-5	182	104	30
14	C-5	157	86	54
15	C-5	114	71	48
16	B-5	108	91	29
17	B-5	76	69	49
18	A-5	76	75	44
19	A-5	78	76	51
20	A-5	163	75	61
21	D-4	131	77	53
22	C-4 D-4	100	76	31
23	D-4	140	119	45
24	D-3	66	60	39
25	D-3	55	48	29
26	C-3	160	108	92
27	C-3	92	90	53

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
28	C-3	95	75	61
29	C-3	98	74	34
30	C-2 D-2	84	75	39
31	D-1 D-2	99	55	29
32	C-1	77	73	36
33	C-イ	83	79	45
34	D-1	123	70	29
35	D-2	88	71	15
36	C-4	130	105	47
37	C-8	131	78	53
38	C-7 D-8	243	138	48
39	C-7 D-7	100	85	20
40	C-8	55	41	14
41	B-9 B-10	100	60	38
42	B-ロ	117	96	41
43	B-ロ	90	70	48
44	C-ロ	94	64	46
45	C-ロ	86	66	26.5
46	C-ロ	85	63	26
47	A-ロ B-ロ	72	66	38
48	B-ロ	86	64	32.5
49	B-ロ	95	80	49.5
50	F-10 F-11	95	77	68.5
51	F-11	73	67	67.5
52	F-11	83	73	63
53	F-11	90	80	40
54	E-11	78	68	29

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
55	E-11	107	65	80
56	E-11	68	57	28
57	E-11	93	84	28
58	E-11	121	57	56.5
59	E-10	79	67	47
60	D-11 E-11	87	70	59.5
61	D-11	78	74	54.5
62	F-12	76	71	19
63	E-12	74	63	12
64	E-12	63	44	22.5
65	E-12	48	45	26.5
66	E-12	45	36	24
67	E-12	61	56	20
68	E-12	48	33	12.5
69	E-12	39	28	10
70	H-13 G-13	56	47	21
71	G-14	58	46	25
72	G-22 G-23	150	120	51
73	G-22	177	154	55
74	I-23	145	102	49
75	H-24	118	114	8
76	G-14	92	48	30
77	G-14	43	38	25
78	F-14 G-14	78	56	30.5
79	F-14 F-15	97	61	50
80	F-14 F-15	50	46	15
81	F-14	60	48	44

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
82	F-15	96cm	56cm	20cm
83	F-15	40	32	45
84	G-15	43	40	17
85	G-15	95	71	27.5
86	G-14	82	76	15
87	G-14	41	34	24
88	G-14	35	31	15
89	F-15	126	55	52
90	E-15 F-15	72	64	50
91	F-15	54	46	35
92	F-15	114	45	34
93	F-15	66	53	27
94	F-15	184	54	30
95	F-15	67	59	24
96	F-15	73	58	33
97	F-15 G-15	212	55	22
98	E-13 E-14	102	60	20.5
99	E-13	56	43	41
100	E-13	104	55	27.5
101	E-14	112	94	34
102	E-14	65	58	60
103	E-14	64	52	14
104	E-14	40	38	20
105	H-14	54	49	14
106	H-14	55	52	27.5
107	H-14	70	61	24
108	H-14	67	48	16

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
109	H-14	64	55	30
110	H-14	86	59	21
111	H-14 H-15	98	82	49
112	H-14 H-15	90	82	53
113	H-14 H-15	87	70	42
114	H-15	100	77	13
115	H-15	84	74	57
116	H-15	107	90	19
117	H-15	67	56	25
118	H-15	54	48	19
119	H-15	60	54	46
120	H-15	72	56	32
121	H-15	80	68	52
122	H-15 H-16	78	72	53
123	H-16	26	26	13
124	H-16	40	38	16
125	H-16	70	62	36
126	H-16	85	79	74
127	H-16	48	39	23
128	H-16	109	86	100
129	H-16	71	62	15
130	G-16 H-16	130	97	93
131	G-15 G-16	60	50	19
132	G-16	112	93	96
133	G-16	113	84	101
134	G-15 H-15	66	59	31
135	G-15	64	57	37

土坑番号	グリッド	サイズ		
		長径	短径	深さ
136	F-17 G-17	86	66	35
137	G-16	58	55	32
138	G-16	43	36	23
139	E-13	62	53	8.5
140	E-13	65	58	13
141	E-13	60	56	9
142	D-14 E-14	74	67	22.5
143	D-14	78	62	29
144	D-13 D-14	61	53	23
145	D-13 D-14	57	50	17
146	D-13	60	47	16
147	D-13	52	50	10
148	D-13	53	50	11
149	D-13	62	58	16
150	F-13	79	60	45
151	F-13	94	85	42
152	F-13	50	48	45
153	F-13	80	68	34
154	F-13	96	60	31
155	F-13	72	68	34

図 版

図版1



2号柵跡



粘土探査坑



24号住居跡

図版2



16号住居跡、2・3号堀立柱跡



2区測量風景



38号住居跡

図版3



2区南



2号溝状遣構と土抗群



42・43号住居跡



15号溝状遣構

図版4



南盛り土より中央部



42号住居跡プラン確認



台風一過

図版5



1号住居跡



2号住居跡

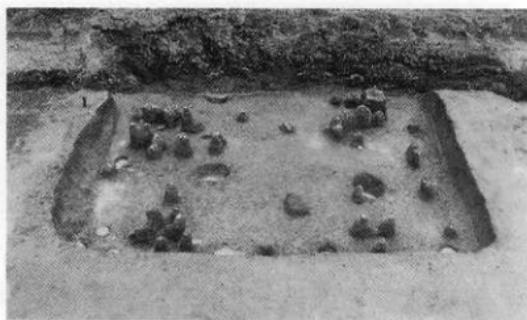


2号住居跡カマド

図版6



3号住居跡



4号住居跡



4号住居跡

図版7



5・6号住居跡



7号住居跡



7号住居跡カマド

図版8



8号住居跡



8号B住居跡カマド



8号A住居跡カマド

図版9



8号住居跡



8・9号住居跡



9号住居跡

図版10



9・10号住居跡



11号住居跡

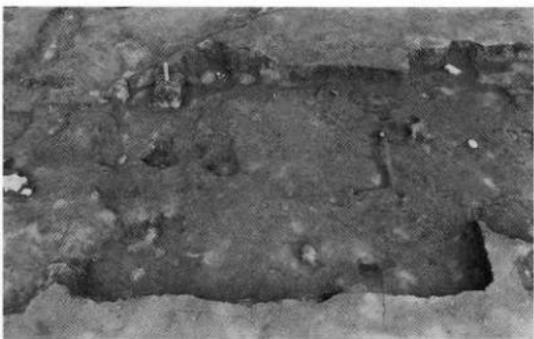


11号住居跡出土遺物

図版11



12号住居跡



13号住居跡



14号住居跡

図版12



16号住居跡出土遺物



16号住居跡



17号住居跡



18号住居跡

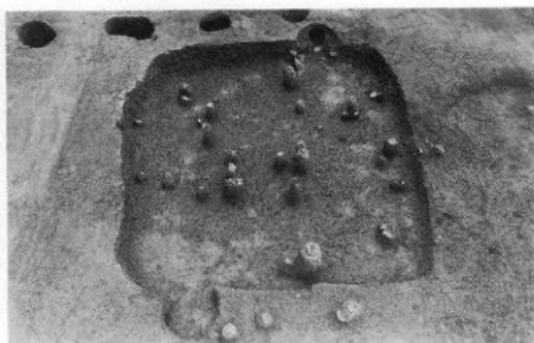


19・20号住居跡



19・20号住居跡

図版14



21号住居跡



22・23号住居跡



22号住居跡

図版15



24号住居跡、8号溝状遺構



24号住居跡、8号溝状遺構



24号住居跡カマド

図版16



7・9号溝状遺構、25号住居跡



7・9号住居跡遺構、25号住居跡



26号住居跡



27号住居跡



27号住居跡、51・51号土坑

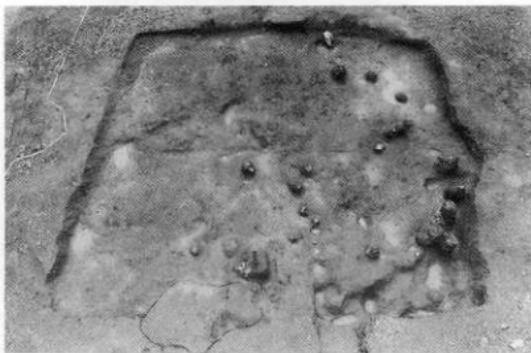


27号住居跡、50~58号土坑

図版18



21号住居跡カマド



28号住居跡



29号住居跡

図版19



30号住居跡



31号住居跡



30号住居跡カマド

図版20



35号住居跡



35号住居跡出土遺物



35号住居跡出土遺物

図版21



36号住居跡



36・37・39号住居跡



36号住居跡出土遺物

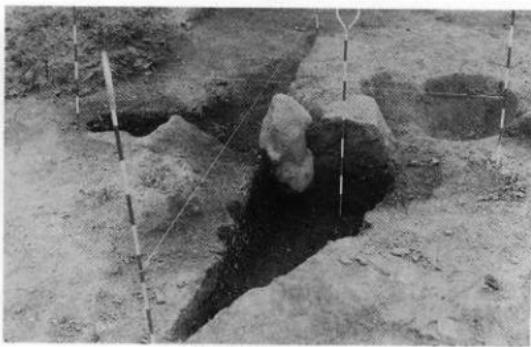
図版22



35号住居跡出土遺物



38・39号住居跡



39号住居跡カマド



40号住居跡



40号住居跡

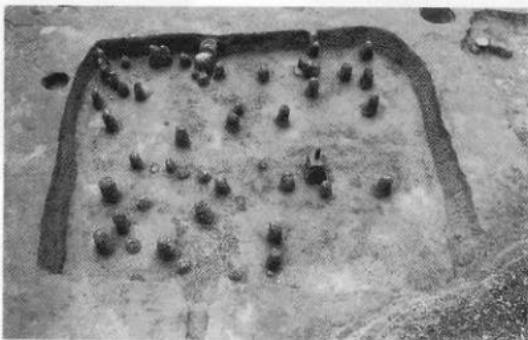


40号住居跡カマド

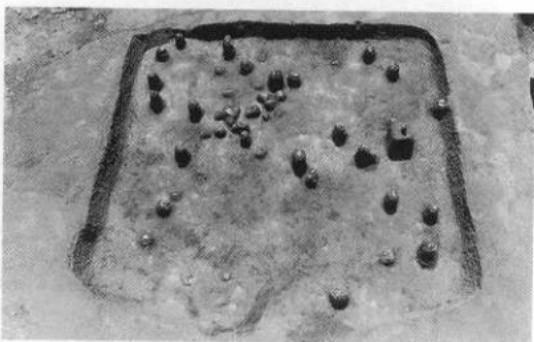
図版24



41号住居跡



42号住居跡



43号住居跡



44号住居跡



44号住居跡カマド



44号住居跡出土土器瓶

図版26



45号住居跡



45号住居跡出土遺物



45号住居跡出土遺物



47号住居跡



46号住居跡

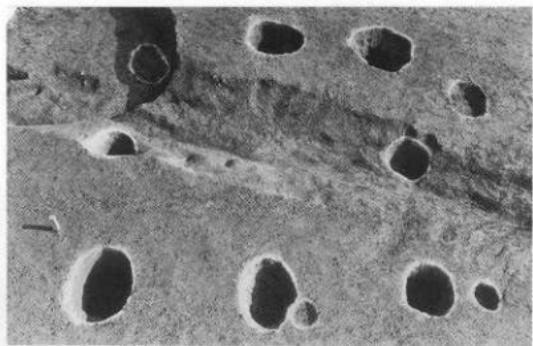


45号住居跡43号住居跡カマド

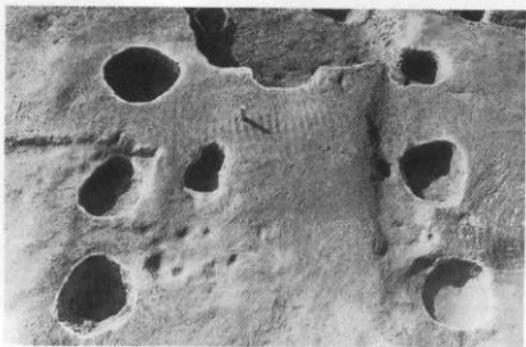
図版28



1号堀立柱建物跡

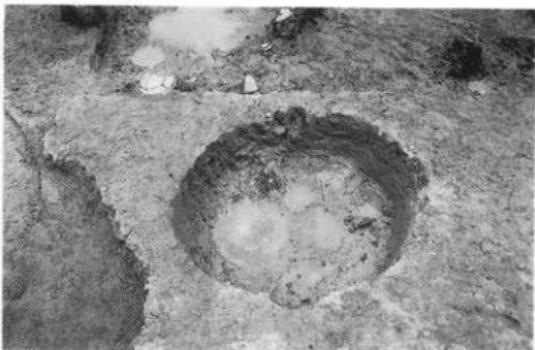


2号堀立柱建物跡



3号堀立柱建物跡

図版29



1号土坑



8号土坑



36号土坑

図版30



2号溝状遺構



16・21号住居跡、4・6号溝状遺構

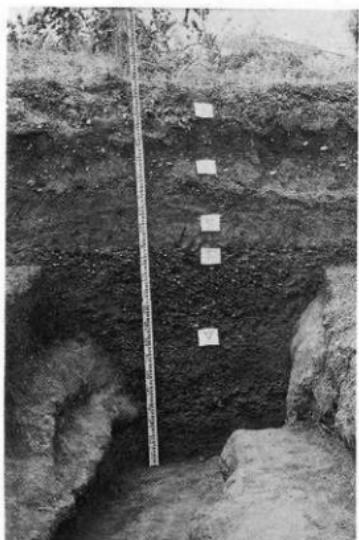


7・8・9号溝状遺構、24・25号住居跡



14号溝状遺構から西

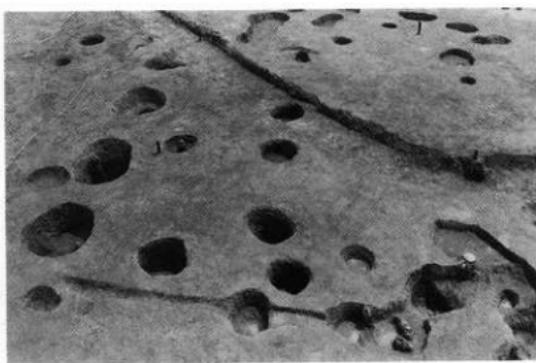
図版31



15号溝状造構エレベーション



15号溝状造構から東

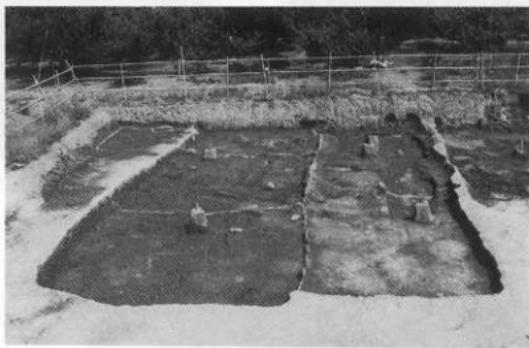


12号溝状造構より土坑群

図版32



3号粘土探掘坑



1・2・3号粘土探掘坑



粘土探掘坑ジョレン



76号土坑

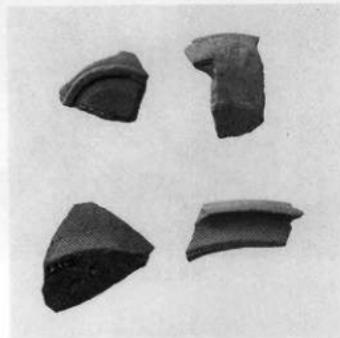


土器集中区

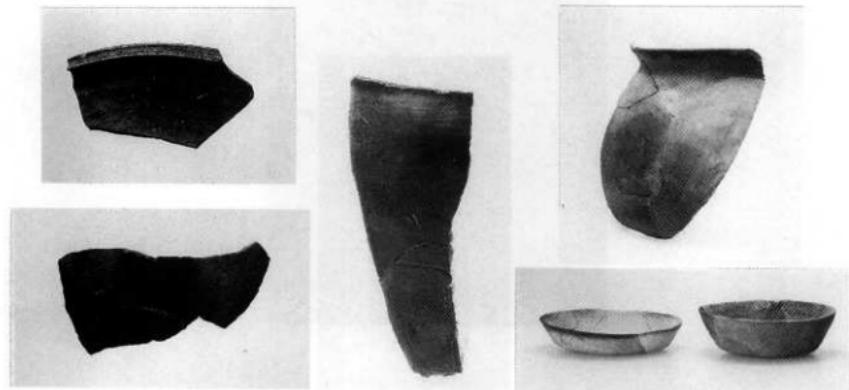


土器集中区

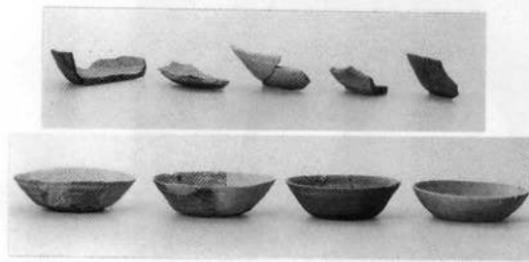
図版34



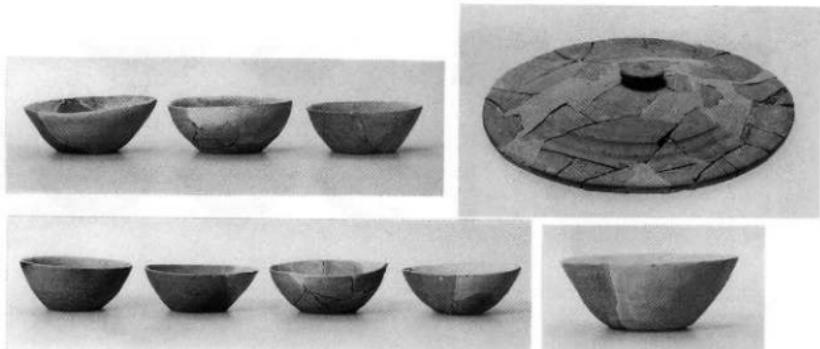
1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



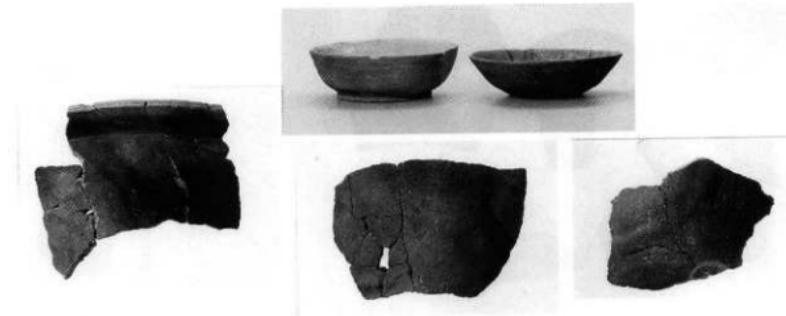
3号住居跡出土遺物



4号住居跡出土遺物

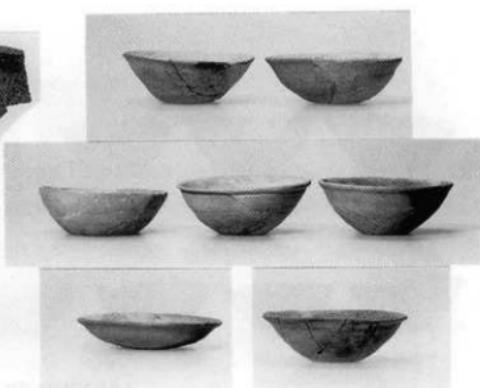
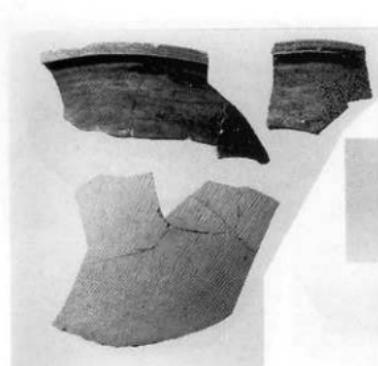


5号住居跡出土遺物

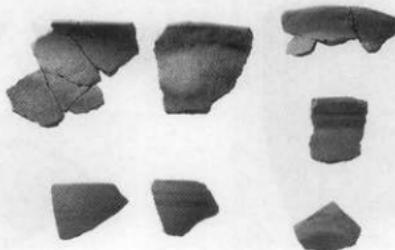


6号住居跡出土遺物

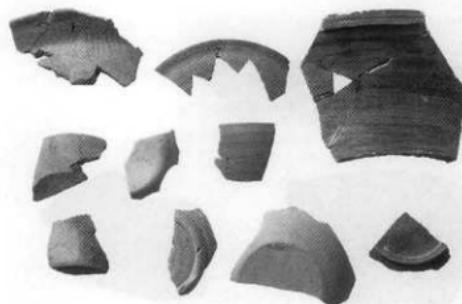
図版36



7号住居跡出土遺物



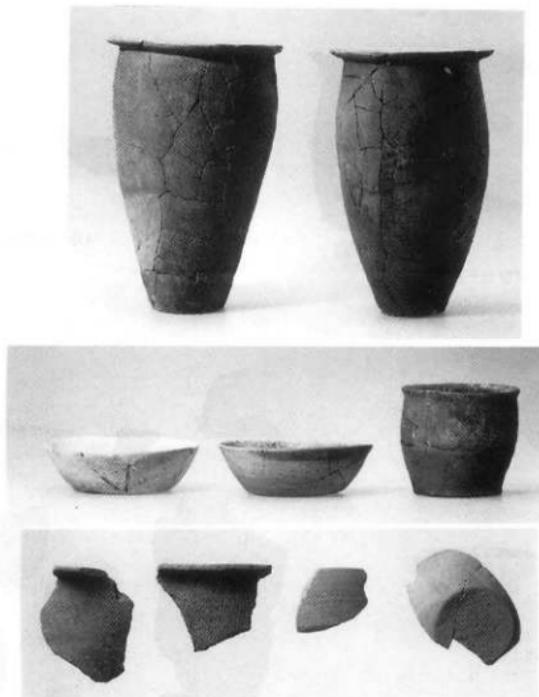
8号住居跡出土遺物



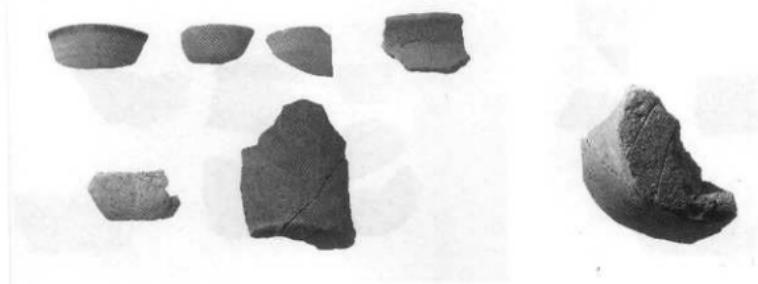
9号住居跡出土遺物



10号住居跡出土遺物

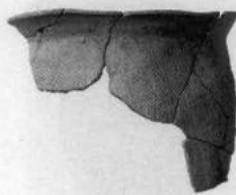


11号住居跡出土遺物



12号住居跡出土遺物

図版38



13号住居跡出土遺物



14号住居跡出土遺物



16号住居跡出土遺物



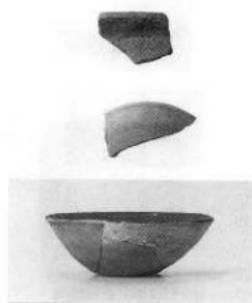
15号住居跡出土遺物



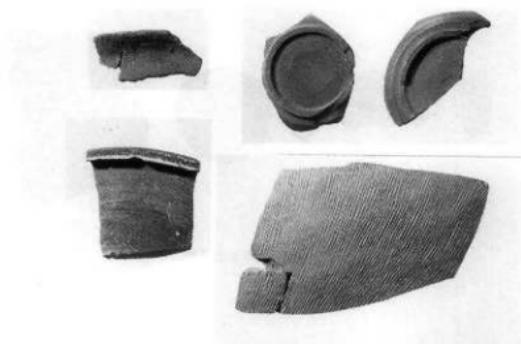
17号住居跡出土遺物



18号住居跡出土遺物



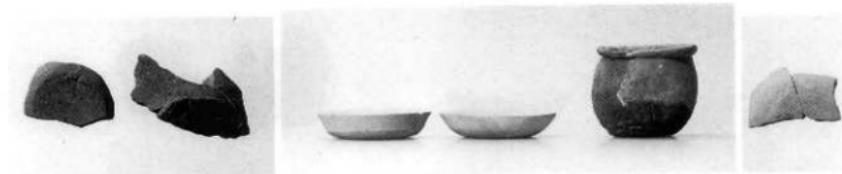
19号住居跡出土遺物



20号住居跡出土遺物

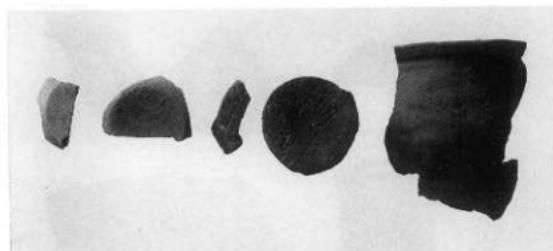


21号住居跡出土遺物



22号住居跡出土遺物

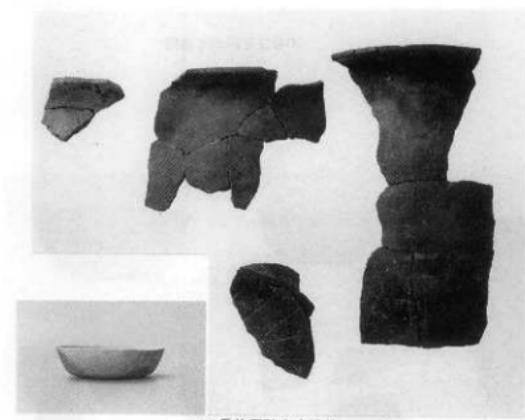
図版40



23号住居跡出土遺物



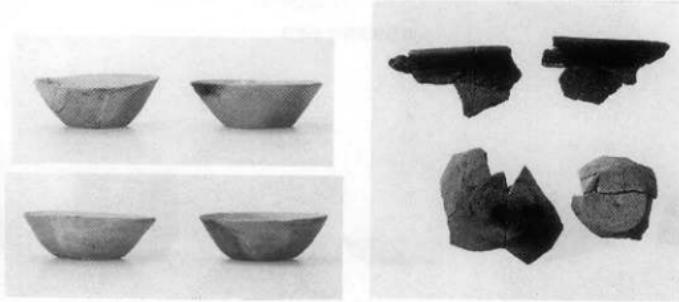
24号住居跡出土遺物



25号住居跡出土遺物



26号住居跡出土遺物

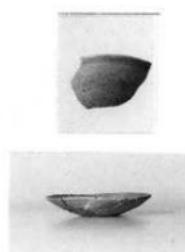


27号住居跡出土遺物

図版41



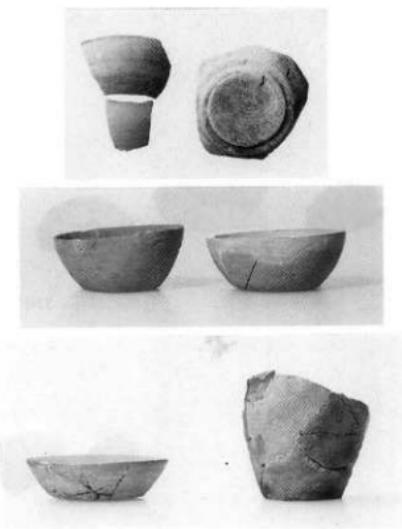
28号住居跡出土遺物



29号住居跡出土遺物



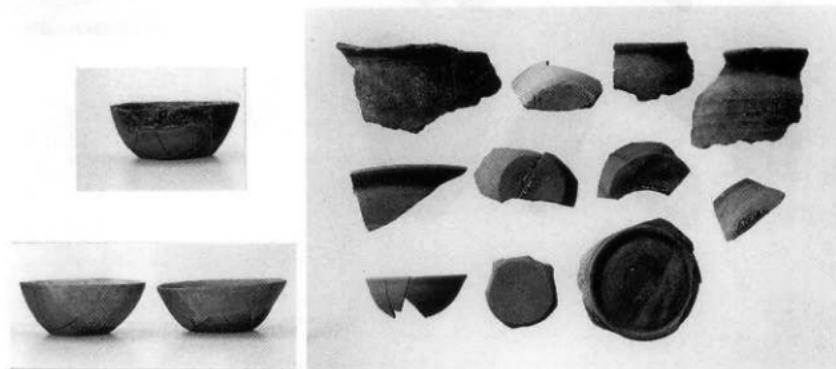
30号住居跡出土遺物



図版42



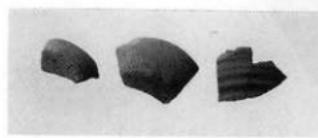
31号住居跡出土遺物



32号住居跡出土遺物



33号住居跡出土遺物

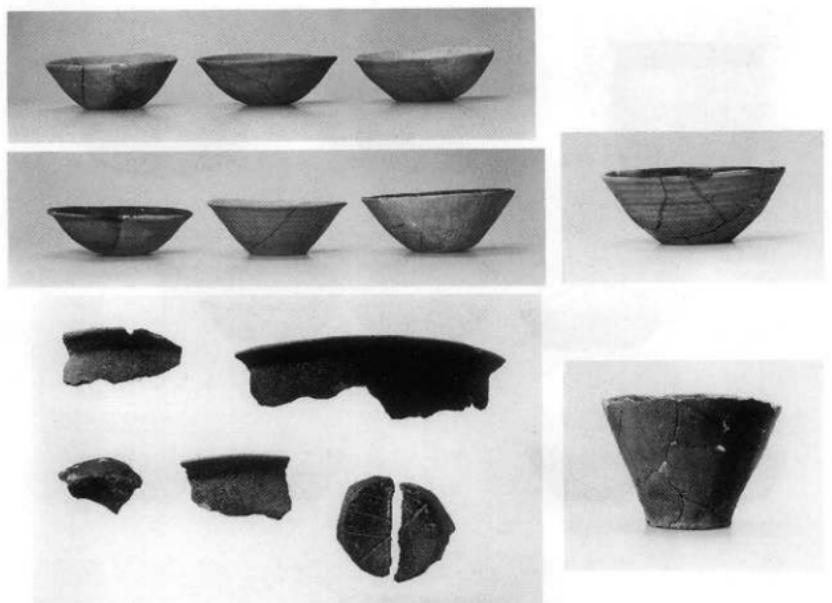


34号住居跡出土遺物

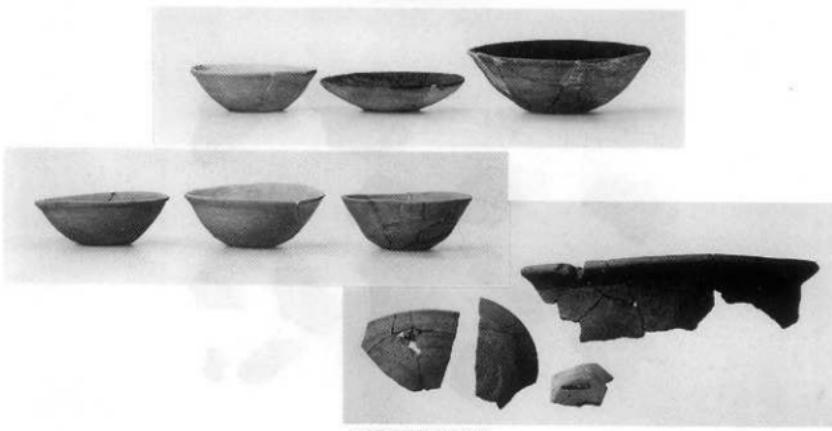


35号住居跡出土遺物

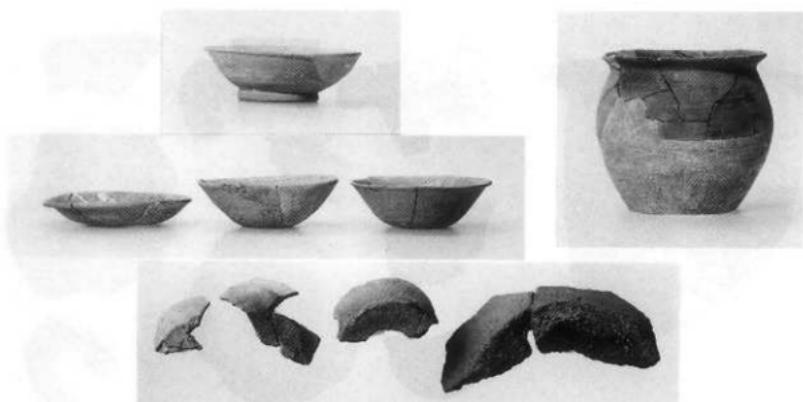
図版44



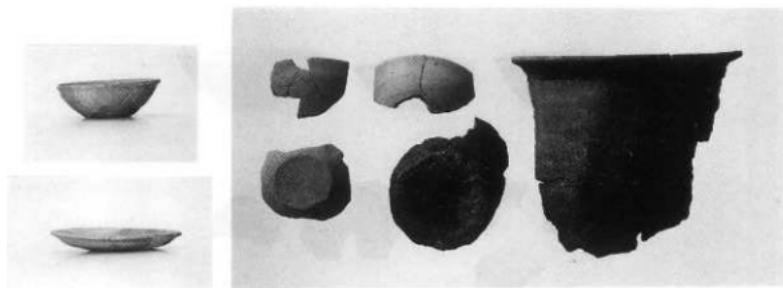
36号住居跡出土遺物



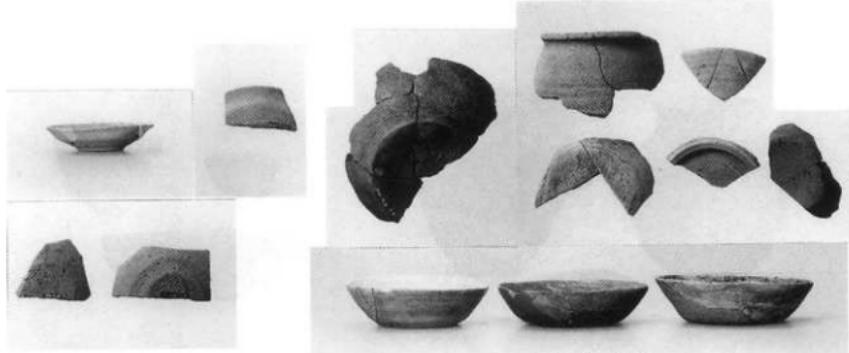
37号住居跡出土遺物



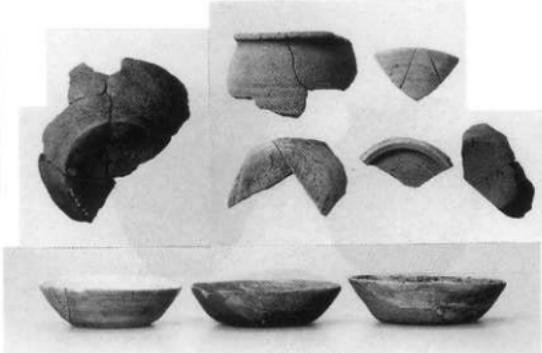
38号住居跡出土遺物



39号住居跡出土遺物

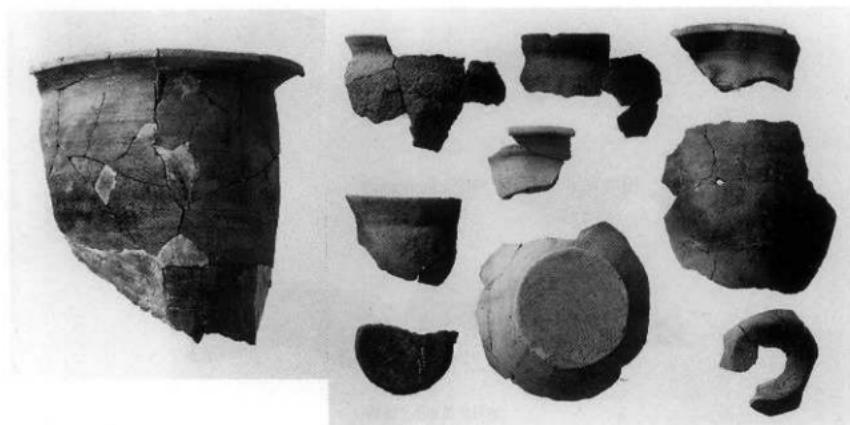


41号住居跡出土遺物



42号住居跡出土遺物

図版46



40号住居跡出土遺物



43号住居跡出土遺物



44号住居跡出土遺物



44号住居跡出土遺物



45号住居跡出土遺物

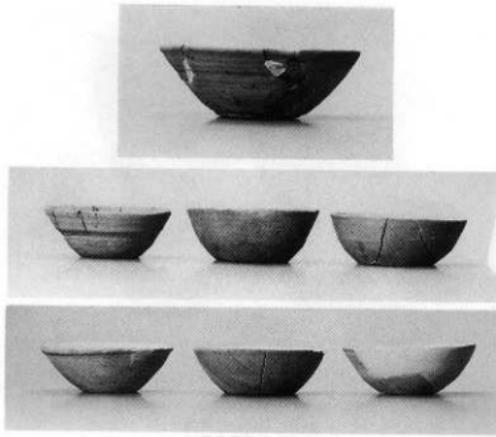


46号住居跡出土遺物

図版48



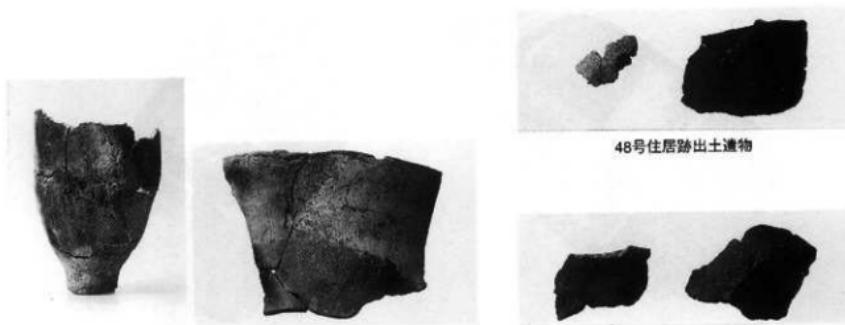
45号住居跡出土遺物



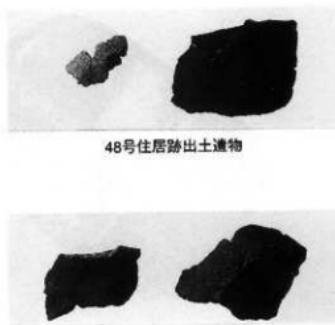
50号住居跡出土遺物



46号住居跡出土遺物



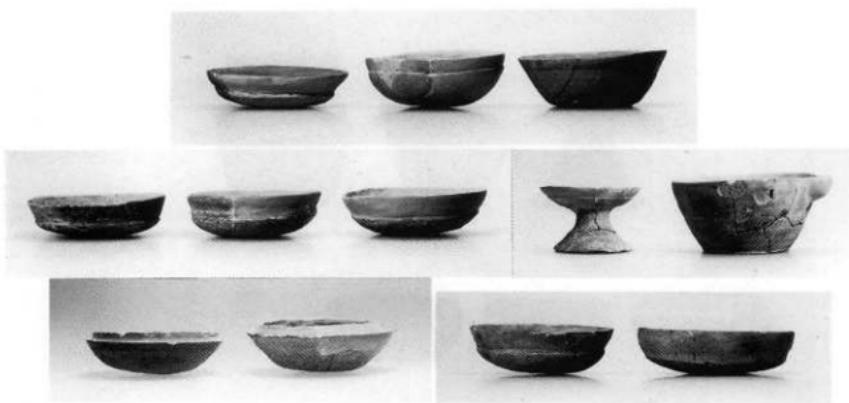
47号住居跡出土遺物



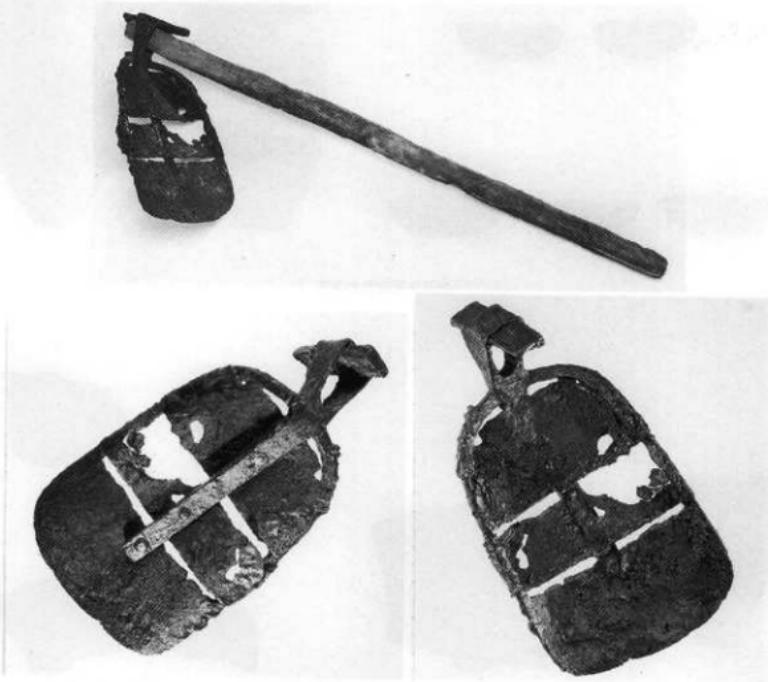
48号住居跡出土遺物

49号住居跡出土遺物

図版50



土器集中区出土遺物



2号粘土探掘出土遺物

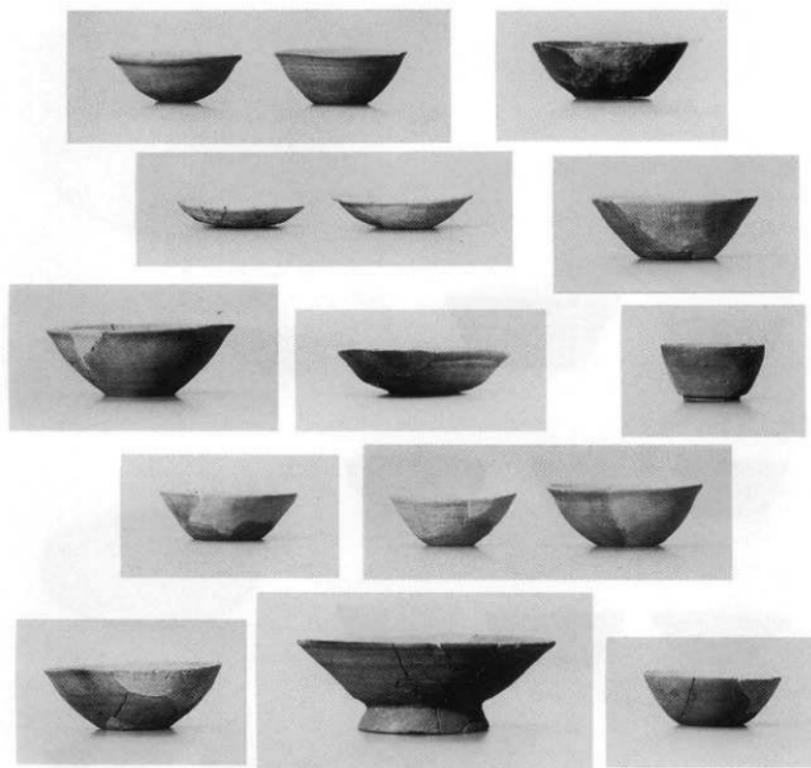


溝状邊縁出土遺物

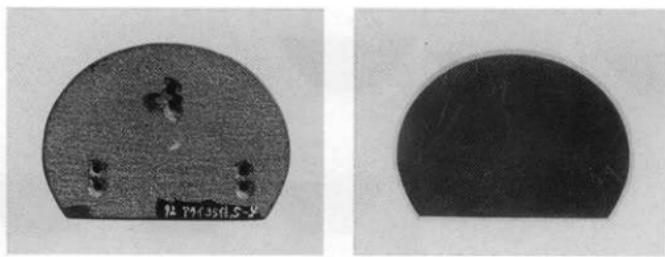


グリッド出土遺物

図版52



土坑出土遺物



35号住居跡出土遺物

報告書概要

フリガナ	アライミチシタイセキ	
書名	新居道下遺跡	
副題	一般国道 52 号改築工事および中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第 147 集	
著者名	米田明訓	
発行者	山梨県教育委員会 建設省甲府工事事務所 日本道路公団東京第二建設局	
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター	
住所・電話	〒 400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根 923 TEL 0552-66-3016	
印刷所	株式会社 少国民社	
印刷日・発行日	平成 10 年 3 月 20 日・平成 10 年 3 月 31 日	
概要 新居道下遺跡	所在地	山梨県中巨摩郡若草町十日市場
	25000 分の 1 地名・位置・標高	小笠原 北緯 35°36'27" 東経 138°29'02" 標高 270m
主な時代	弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	
主な遺構	住居跡、溝跡、掘立柱建物跡、土坑	
主な遺物	土師器、弥生土器	
特殊遺物	なし	
特殊遺構	なし	
調査期間	平成 3 年 7 月 22 日～平成 5 年 12 月 27 日	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 147 集

1998 年 3 月 20 日 印刷

1998 年 3 月 31 日 発行

新居道下遺跡

編集 山梨県埋蔵文化財センター
 山梨県東八代郡中道町下曾根 923
 TEL 0552-66-3016
 発行 山梨県教育委員会
 建設省甲府工事事務所
 日本道路公団東京第二建設局
 印刷 株式会社 少国民社

